

平成四年三月

史料館所蔵史料目録 第五十七集

# 日本実業史博物館旧蔵古紙幣目録

史 料 館

史料館所藏史料目録 第五十七集

## 日本実業史博物館旧蔵古紙幣目録

## 凡 例

一本目録は史料館所蔵史料目録第五十七集として、日本実業史博物館旧蔵古紙幣目録を収めた。

一目録の編成は紙札の発行主体に基づき、大名札（準藩札・明治以後の藩札を含む）・府県札・旗本札・寺社札・宮家札・町村札・宿駅札・鉾山札に類別し、その他のものを便宜私人札とし、畿内・八道（北海道を含む）に大別し、国別順に配列した。なお発行主体の識別に疑問のある紙札は複数箇所に出たことがある。

一大名札・旗本札のうち、いわゆる飛地札は発行地に参照項目を設け、本領に一括して掲出した。なお御三卿の一、一橋家領の紙札は、本領と見做すべき所がないため、便宜武蔵国の大名札の末尾に掲出した。

一旗本札のうち、明治以後に立藩したものについては原則として旗本札に配し、明治以後の発行にかかる藩札もこれに付属させたが、紙札の発行が立藩後に限る場合のみ、大名札に配した。

一寺社札の他国における発行も飛地札同様、該地に参照項目を設け、本寺に一括した。

一摂津国の末尾に配した幕府札・府県札は編者の不手際により、初校以後に挿入したため、他の配列順序と異同を来した不体裁を了承されたい。

一目録の体裁は(1)発行・地名、(2)札名称、(3)発行所・引換所、(4)発行年次、(5)額面（色）、(6)サイズ、(7)数量（枚数）、(8)整理番号、(9)備考欄を設けた。

一発行・地名は、大名札・旗本札の場合は城地若しくは陣屋所在地の名称と、領主名・領知高を示した。領知高は紙札発行当時の石高を示したが、発行年次が不明な場合や領知高に増減がある場合は備考欄に注記した。町村札以下の地名は札表示に基づき、国・郡名は江戸期に統一した。

一札名称はできるだけ札面表示を忠実に採用するよう努めた。また私人札のうち、従来「両替手形」と呼称されている紙札については「振出手形」の仮称を用いた。

一発行所・引換所は紙札によって記載方式が一定しないが、表面、裏面の順に記載した。

一発行年次は大名札・旗本札の場合、札面の印刷年次と実際の発行年次とは乖離している場合が多いと思われるが、考証には限界があるため、札面表示の年次をそのまま記載し、後年の改印は備考欄に注記した。

一サイズは縦×横をミリ単位で示したが、同種の紙札でも若干の大小があり、大概を示すに過ぎない。

一図柄の表示は、同一額面の紙札で異なった図柄をもつものに限って備考欄に注記した。また透かし入りの紙札は軟X線撮影により確認できたものに限り注記した。

一本目録の作成に当っては、日本銀行調査局編『図録日本の貨幣』第6巻（1975年）・第11巻（1976年）に収載の「古紙幣一覧」を基本的に参考とさせて頂いた。同書の存在がなければ、本目録の作成は不可能であったといって過言ではない。その他荒木三郎兵衛『お札』（改訂版1968年）、同『藩札』上・下（第三版1969・1971年）、大鎌淳正『大和紙幣図史』（1981年）、紀州古泉会『紀州紙幣史の研究』（1985年）を初めとする既刊の貨幣史・図録類や地方史誌類を参考とさせて頂いた。付記して謝意を表したい。

# 目次

## 凡例

### 日本実業史博物館旧蔵古紙幣目録

## 解題

## 目次

## 目録



# 日本実業史博物館旧蔵古紙幣目録

# 日本実業史博物館旧蔵古紙幣目録目次

畿内 .....	1	伊勢羽書 .....	24
山城国 .....	1	志摩国 .....	24
大名札 .....	1	大名札 .....	24
寺社札 .....	1	町村札 .....	25
宮家札 .....	4	尾張国 .....	25
私人札 .....	4	大名札 (含準藩札) .....	25
大和国 .....	4	寺社札 .....	26
大名札 .....	4	町村札 .....	26
役所札 .....	7	私人札 .....	26
府県札 .....	7	三河国 .....	27
旗本札 .....	7	大名札 .....	27
寺社札 .....	9	旗本札 .....	28
宮家札 .....	12	町村札 .....	29
町村札 .....	12	宿駅札 .....	30
私人札 .....	13	私人札 .....	30
河内国 .....	13	遠江国 .....	31
大名札 .....	13	大名札 .....	31
旗本札 .....	14	町村札 .....	31
寺社札 .....	14	宿駅札 .....	31
町村札 .....	14	駿河国 .....	32
和泉国 .....	14	宿駅札 .....	32
大名札 .....	14	私人札 .....	32
府県札 .....	15	甲斐国 .....	32
旗本札 .....	15	宿駅札 .....	32
寺社札 .....	15	伊豆国 .....	32
町村札 .....	15	町村札 .....	32
摂津国 .....	15	相模国 .....	32
大名札 .....	15	大名札 .....	32
旗本札 .....	18	府県札 .....	33
寺社札 .....	18	武蔵国 .....	33
宮家札 .....	19	大名札 (含御三卿) .....	33
町村札 .....	19	宿駅札 .....	34
宿駅札 .....	19	安房国 .....	34
私人札 .....	20	大名札 .....	34
幕府札 .....	22	上総国 .....	34
府県札 .....	22	大名札 .....	34
東海道 .....	23	下総国 .....	34
伊勢国 .....	23	大名札 .....	34
大名札 .....	23	常陸国 .....	35

大名札	35
東山道	36
近江国	36
大名札	36
旗本札	37
寺社札	38
町村札	38
美濃国	38
大名札	38
旗本札	39
町村札	39
信濃国	39
大名札	39
府県札	40
町村札	40
私人札	40
上野国	41
大名札	41
府県札	42
町村札	42
下野国	42
大名札	42
陸奥国	43
大名札	43
鉾山札	45
出羽国	45
大名札	45
町村札	46
私人札	46
北陸道	47
若狭国	47
大名札	47
越前国	47
大名札	47
町村札	48
私人札	48
加賀国	48
大名札 (含準藩札)	48
越中国	49
大名札	49
私人札	51
越後国	52

大名札	52
山陰道	53
丹波国	53
大名札	53
旗本札	54
寺社札	55
私人札	55
丹後国	56
大名札	56
府県札	57
私人札	57
但馬国	57
大名札	57
旗本札	58
寺社札	59
町村札	59
宿駅札	60
鉾山札	60
私人札	61
因幡国	62
大名札	62
出雲国	63
大名札	63
鉾山札	64
私人札	64
隱岐国	65
町村札	65
石見国	65
大名札	65
鉾山札	66
私人札	66
山陽道	67
播磨国	67
大名札	67
旗本札	70
寺社札	72
町村札	73
宿駅札	75
鉾山札	76
私人札	76
美作国	83
大名札	83

町村札	83	大名札（含準藩札）	106
宿駅札	83	町村札	107
鉾山札	84	鉾山札	108
私人札	84	私人札	108
備前国	85	西海道	109
大名札	85	筑前国	109
町村札	86	大名札	109
私人札	86	私人札	109
備中国	86	筑後国	109
大名札	86	大名札	109
府県札	90	豊前国	110
旗本札	90	大名札	110
寺社札	92	寺社札	110
町村札	92	私人札	111
鉾山札	92	豊後国	111
私人札	93	大名札	111
備後国	95	旗本札	112
大名札（含準藩札）	95	私人札	112
町村札	96	肥前国	112
鉾山札	96	大名札	112
私人札	96	長崎札	113
安芸国	97	府県札	113
大名札	97	肥後国	114
周防国	97	大名札	114
大名札	97	日向国	114
長門国	98	大名札	114
大名札	98	私人札	115
南海道	99	薩摩国	115
紀伊国	99	大名札	115
大名札	99	対馬国	116
寺社札	101	大名札	116
町村札	102	北海道	116
阿波国	103	大名札	116
大名札	103		
讃岐国	103		
大名札	103		
私人札	103		
伊豫国	103		
大名札	103		
町村札	106		
私人札	106		
土佐国	106		

# 畿 内

## 山 城 国

発行・地名	札 名 称	発行所・引替所	発行年次	額面 (色)	サイズ	数量	番号	備 考
<b>大 名 札</b>								
淀 稲葉氏 10万2000石		澁造幣局	(明治)	銭600文	148×50	1	1	「淀領内限」「四銭八厘大蔵省改」の朱印押捺。
<b>寺 社 札</b>								
粟 田 御 殿 (青蓮院) 1332石	和州粟田領 米手形	菅田村粟田御殿御 藏元, 引替所田中 宗右エ門	慶応2 丙 寅歳	銀5分	152×31	1	3	「粟田領御領内限」, 菅田村は和 州平群郡のうち(現天理市)。 天台宗(門跡寺)。
	同 上	同 上	同 上	銀2分	145×30	1	4	
円 通 寺 (愛宕郡岩 倉村) 10石	材木買入手 形	大悲山円通寺役所 播州曾根引替所 出張鳥町小替所 大坂受負加嶋屋	安政5 戊 午11月	銭1 匁	153×43	1	34	御幸御殿朝音堂御普請用, 播州 曾根村は印南郡のうち(現高砂 市), 鳥町村は播州美養郡のう ち(現三木市)。臨済宗。
小 野 御 殿 (随心院) 612石	御修覆銀御 手形	小野御殿御役所, 洛巽小野広田為次 郎, 大坂御引替所 洛巽小野御殿御役 所, 引替所	万延元庚 申11月	銀1 匁	150×40	2	5	現京都市山科区小野御霊町。眞 言宗(門跡寺)。
	同 上	同 上		銀1 匁	167×43	4	6	
	同 上	同 上		銀5分	138×36	2	7	
	同 上	同 上		銀3分	141×36	1	8	
	小野万人講 米札	小野出張, 高野末 護国寺役堂		米1 舂	163×30	4	9	
御 室 御 所 (仁和寺) 1502石	御朱下融通 手形	御室御用所, 宅原 村引替所嶋屋五兵 衛	文久3 癸 亥改	銀10匁	170×53	1	10	宅原(えいばら)村は摂州有馬 郡のうち(現神戸市)。裏面上 欄に「摂州」の押印あり。眞言 宗(門跡寺)。
	同 上	同 上	同 上	銀1 匁	150×40	1	11	
	同 上	御室御用所, 摂州 宅原馬場五兵衛改	同 上	銀5 匁(赤)	165×50	1	12	
	同 上	同 上	同 上	銀2 匁(赤)	150×40	2	13	
	同 上	御室御用所, 摂州 宅原会所取次平山 忠左衛門, 播州引 請鳥町引替所	同 上	銀1 匁(赤)	152×42	1	14	播州鳥町村は美養郡のうち(現 三木市), 下野国古河藩領。
	同 上	御室御用所, 摂州 宅原会所取次平山 忠左衛門, 播州引 請上松源十郎	同 上	銀1 匁(赤)	150×42	5	15	
	同 上	御室御用所, 河泉 岡国引替所請負方	慶応2 丙 寅改	銀2 匁	157×40 147×41	5	16	うち6枚「堺組」の押印あり。
	同 上	同 上	同 上	銀1 匁	143×31	11	17	
	同 上	御室御用所, 泉陽 引替所	同 上	銀1 匁	154×40	1	18	
	融通手形	南都中辻町御用所 森本清左衛門		銀5分	155×30	1	19	
華 頂 御 殿 (知恩院) 1000石	当分爲替手 形	華頂出張会所		1 匁預	161×30	1	20	「以此手形六拾四枚, 換金壹両 可相渡候」。浄土宗総本山(門 跡寺)。

発行・地名	札 名 称	発行所・引替所	発行年次	額面（色）	サイズ	数量	番号	備 考
嵯峨御所 (大覚寺) 1016石余	材木買入手形	嵯峨御用御役所, 大坂両替海部屋安兵衛	安政6未	銀1匁	157×43	1	23	嵯峨御所諸堂殿御再建御用, 眞言宗大本山（門跡寺）。
	同 上	同 上	同 上	銀1匁	157×43	1	24	同上。裏面に「住吉村」「引替吉田屋善左衛門」の押印あり。
	同 上	嵯峨御所御役所, 大坂引替御用所	同 上	銀1匁	151×42	1	25	同上「油屋伊三郎」の押印あり。
	同 上	嵯峨御所御役所, 小引替兵庫縮社林屋	同 上	銀1匁	146×45	3	26	同 上
	同 上	嵯峨御所御役所, 大坂引替御用所	同 上	銀5匁	146×41	1	27	同上。「請所五竜貞造」の押印あり。
	諸品買入手形	嵯峨御役所, 大坂引替御用所, 引請吉尾五竜貞造・灘五竜酒場	同 上	銀1匁	150×42	1	28	同上。吉尾は摂州有馬郡のうち（現神戸市）。
	材木買入切手	嵯峨御殿勘定所, 引替所柴屋彦三郎	文久元辛酉	銀1匁	165×40	13	29	心経殿御再建御用
	同 上	同 上	同 上	銀5分	145×40	52	30	同 上
	河泉両国御用材買入手形	嵯峨御用所, 引替所請負方河添野大喜多楠三郎	慶応2丙寅改	銀1匁	157×36	1	31	
	御台所融通仕法銀手形	嵯峨御所役所, 千年屋与一兵衛		銀1匁	160×43	2	32	
	同 上	嵯峨御所御用所, 摂州都賀庄組合		銀1匁	170×45	3	33	「引請所角屋源藏」の押印あり。
地藏院 (相樂郡)	御祈願所御寄附銀手形	地藏院賄方	丙寅（慶応2）	銀1匁	120×35	2	35	うち1枚, 「出張引替所山城吐師角清」とあり。吐師（はぜ）村は現木津町。
実相院 (愛宕郡岩倉村) 612石余	銀 札	実相院宮御用所木材取締方南都城戸町安田甚左衛門, 両替木津・桜井・今井・高田・御所・五条・宇陀・吉野		銀1匁	148×32	5	36	「出張坊城引替所」の添印あり。天台宗（門跡寺）。
	同 上	同 上		銀3分(青)	144×28	4	37	
泉涌寺 (京都) 601石余	材木買入切手	泉涌寺役所, 大阪引替所茨木屋庄兵衛・紀伊国屋源藏, 播州鳥町出張, 但馬美含郡香住村	万延元庚申	銀10匁(赤)	155×45	2	38	山城国泉涌寺山内円通山戎光寺辨財天社普請用。眞言宗大本山
	同 上	同 上	同 上	銀5匁	155×42	4	39	同 上
	銭 札	播州加西郡繁昌野出張引替会所, 東山泉涌寺請負岸村茂一郎		銭1匁(茶)	146×43	2	40	表面上部に「石源改」, 裏面請負人の箇所に「上村源十郎」の押掛印あり。繁昌村は現加西市。
竹内御殿 (曼殊院) 727石	御用材代銀手形	竹内御殿御用所, 引替所河州平尾酢屋徳兵衛	慶応2丙寅冬10月	銀1匁	153×40	10	41	平尾村は丹南郡のうち（現美原町）天台宗（門跡寺）。
	同 上	竹内御殿御用所, 河州引替所	同 上	銀1匁	153×37	1	42	裏面に「新堂坂井文」の添印あり。和州新堂村ヵ
谷御殿 (靈鑑寺)	摂津国二階堂手形	引替備中下庄, 大坂長門屋請・三田		10匁	145×42	1	43	「谷御殿御用所手形」の押掛変造印あり。二階堂村は島下郡

発行・地名	札 名 称	発行所・引替所	発行年次	額面 (色)	サイズ	数量	番号	備 考
120石	同 上	屋請 同 上		10匁	144×43	4	44	のうち (現茨木市)。臨濟宗。 同上並びに「引替出張所豊前宇佐」の押掛変造印あり。
	谷御殿御畳 講手形	備中笠岡出張両替, 引請人堺屋五郎右 エ門・石橋屋善三 郎		1 匁	167×40	1	45	
	同 上	同 上		5 分預	152×36	1	46	
	同 上	同 上		3 分預	122×31	1	47	
	同 上	備中笠岡出張両替, 引請人□□*		3 分預	143×36	1	48	* 篆書判読できず。
	摂津国二階 堂手形	引替備中玉嶋新屋・ 中屋・大西屋		1 匁	165×43	7	49	うち「引替玉嶋関屋紙店」「引 替住吉屋」等の添印あり。
仏 御 殿 (妙法院) 1633石余	御祠堂銀手 形	京仏御殿御台所御 賄方、講中惣代和 州御用所	慶応2丙寅改	銀1匁	150×33	9	54	「郡山伏七」「宇陀郡芳野酒屋三 右エ門」などの添印あり。天台 宗 (門跡寺)。
南 殿 (順興寺)	御堂御備米 手伝三季日 掛銭上納借 (預)切手	国恩講肝煎引請方, 西京越中屋利兵衛・ 大阪天満屋惣助		銭5貫文 (赤)	150×60	6	55	浄土真宗
	同 上	同 上		銭2貫文 金物代	156×55	6	56	
	南殿勅免地並 諸向修造中作 事渡切手	修造掛元締方, 国 恩講引替所大阪近 江屋新三郎		銭1貫文	130×45	3	57	
	同 上	同 上		同銭500文	125×42	4	58	
	同 上	同 上		同銭100文	106×38	5	59	
	同 上	修造掛元締方, 引 替所大阪初久々知 屋利三郎・伏見油 掛小間物屋半治郎		飯料 銭300文 (淡紅)	115×35	3	60	
	同 上	同 上		草鞋代(淡紅) 銭100文	100×32	2	61	
	作事払手形	南殿国恩講修造掛 →大坂講中肝煎衆 中, 大坂引請越後 屋幸次郎		銭1貫文	110×40	2	62	作事払毎晦日渡シ
	作事諸払手 形	修造諸掛取締方, 国恩講左海灰屋林 七, 引替所大阪和 泉屋茂十郎, 河内 講内中		銭100文(茶)	98×31	1	392	表面に「毎月晦日渡シ」, 裏面 に「表書日限ニ不抱臨時入用之 節は此手形を以引替可申候」と あり。表面上部に「名塩弓七」 の押印あり。
南山科御殿 (勸修寺) 312石	御産物手形	南山科御殿, 御貸 附御用達	慶応4戊辰3月	銀1匁	154×37	1	63	真言宗大本山 (門跡寺)。
桃 御 用 所 (宝鏡寺) 387石	御貸附手形	引替所大阪桃御用 所・引請所木屋清 助	安政7庚申	銀1匁(茶)	150×45	3	64	裏面上部に「住」の黒角印あり。 臨濟宗
安 井 宮 (蓮華光院)	銀 札	引替御用所, 安井 宮出張御貸附役所 安井宮会所	慶応2丙寅	銀1匁	166×35	3	65	「綿屋善六」の添印あり。真言 宗仁和寺支院カ。
	羽書 (伊勢 国通用札カ)			1 匁預	161×30	2	66	「此羽書以六拾四匁金壹両相渡 可申候」

発行・地名	札 名 称	発行所・引替所	発行年次	額面(色)	サイズ	数量	番号	備 考
六 條 御 殿 (西本願寺) 314石	式派融通手形	和州総門徒請負、 六條御殿御用達御 手形検証南都松屋 平右衛門	丙寅夏 (慶応2)	銀1匁	152×36	2	67	浄土真宗本山
	御蠟燭講納 金為替手形	出張引替備中片塚 会所		1匁預	167×43	2	68	表面上部に「百目金」の押印あり。 片塚村は後月郡のうち（現 芳井町）。
	同 上	出張引替備中片塚 会所、講元		1匁預	163×43	8	69	うち3枚、裏面に「開運」の朱 印あり。
	同 上	出張引替備中片塚 会所、欣□		1匁預	165×41	1	70	表面上部に「百目金」の押印あり。
	同 上	出張引替備中片塚 会所		1匁預	163×43	12	71	同上。裏面に「竜谷末葉改革流 通」の篆書印刷あり。
	同 上	同 上		1匁預	165×42	34	72	「百目金」、裏面に「二ヶ村前」 の押印あり。
	同 上	同 上		1匁預	164×42	12	73	「竜谷末葉改革流通」の篆書印 刷の上に押掛印あるも判読不能。
	同 上	同 上		5分預	145×37	2	74	
修 南 院 (雙松御殿)	→ 大和国寺社札							
河 原 御 殿 (輪王寺)*	御備金御手形	日光河原御殿御役 所、泉州組引替所 堺車之町山城屋作 兵衛	安政5戊 午改	銀1匁	162×40	1	262	*「河原御殿」の場所は特定で きないが、黒川古文化研究所 『収蔵品目録』第17に拠る。
宮 家 札								
有 御 殿 (有栖川宮) 1000石	御貸附御手形	御出張御貸附所、 大坂請負国分屋平 兵衛	慶応2丙 寅	銀1匁 2厘引	153×36	5	2	
閑 院 宮 1000石*	家領融通勘 定所手形	大阪蔵屋舗引替所		銭500文	110×40	1	21	* 家領は摂州西成・島下郡のう ち。
	同 上	同 上		銭100文	85×32	1	22	
伏 見 御 所 (伏見宮) 1000石	御貸附御手形	和州南都引替御用 所	慶応丙寅 (2)	銀1匁	155×33	6	50	「南都改」「綿長請」などの朱印 押捺しあり。
	御納戸金銀 御貸附手形	同 上	慶応丙寅	銀5分	148×29	9	51	「南都改」(朱印)
	同 上	同 上	同 上	銀3分(青)	153×30	7	52	
	同 上	同 上	同 上	銀2分(桃)	147×30	6	53	
私 人 札								
京 都	御薬種切手 (御買上薬 価預)	京都御用達石田清 輔、出張詰所和州 三組引替所	慶応2丙 寅	銀1匁	150×35	8	75	泉涌寺より薬の製造販売を行なっ た典薬寮長官小森氏と関係あり という（『大和紙幣図史』）
	同 上	同 上	同 上	銀5分	144×31	3	76	
	同 上	同 上	同 上	銀3分(青)	143×25	6	77	
	同 上	同 上	同 上	銀3分(青)	143×29	2	78	裏面下部に「銀元改」の押掛印 あり。
	同 上	同 上	同 上	銀2分(茶)	142×23	8	79	同 上

大 和 国

大 名 札								
郡 山	銀 札	札所太田又右衛門		銀5匁	153×40	1	89	



発行・地名	札名称	発行所・引替所	発行年次	額面(色)	サイズ	数量	番号	備考
柳沢氏 15万1200名	同 上	・八尾村屋権三郎 ・永原屋八右衛門	(明治)	銀 1 匁	147×40	9	90	表面下部, 麒麟の図(松なし)
	同 上	同 上		銀 3 分	149×40	6	91	
	同 上	同 上		銀 2 分	155×40	6	92	
	銭 札	札所駒井清九郎・ 宇野源四郎・森村 平助		銭 1 貫文	150×50	1	93	
	同 上	同 上		銭100文	152×40	1	94	同 上
	同 上	同 上		銭500文	150×40	2	95	表面下部, 麒麟に松の図
	同 上	同 上		銭100文	150×40	6	96	同 上
	同 上	郡山引替会所		銭12文	97×33	2	97	
高 取 植村氏 2万5000石	銀 札	和州土佐町銀替所 升屋忠九郎, 札改 同町鑰屋八郎兵衛	享保16辛 亥 5 月	銀 1 匁 内 2 厘引	173×41	4	108	土佐町は高取城下の一部で, 現 高取町。
	銀 札	高取領分惣百姓請 負惣代兵庫村油屋 嘉重郎・四条新町 縄手屋五兵衛・高 殿村富士屋弥兵衛, 和劔土佐引替所鑰 屋八郎兵衛	安永 3 甲 午春 2 月	銀札 5 匁 * (茶)	157×41	1	109	* 就壹文目式厘引
	同 上	同 上	同 上	銀札 1 匁 *	160×35	6	110	* 同 上
	同 上	同 上	同 上	銀札 5 分 *	155×36	1	111	* 同 上
	銭 札	高取領分惣百姓請 負之惣代大庄屋	明治元戊 辰秋	銭100文	150×34	1	112	裏面手すれにて判読不能
小 泉 片桐氏 1万1129石  (小 泉)	銀 札	小泉領八箇村庄屋 年寄・奈良屋忠太 同 上	宝暦10庚 辰改	銀 1 匁	151×44	13	83	陣屋村添下郡小泉は現大和郡山 市。
	同 上	同 上	同 上	銀 3 分	147×44	1	84	
	同 上	同 上	同 上	銀 2 分	150×43	1	85	
	同 上	札所小泉領庄屋年 寄, 引替所寺内新 右衛門	同 上 *	銀 1 匁(茶)	157×45	2	86	*『大和紙幣図史』によれば, 実際は天保 6 年頃とされる。
	米代銀札 (飛地札)	引替所泉州肥子小 西八左衛門	天保壬辰 (3)	銀 1 匁 (米 2 升価)	155×39	4	87	肥子村は泉郡のうち(現和泉市)。
	銭 札	小泉引替所	(明治)	銭500文	148×40	2	88	
柳 生 柳生氏 1 万石	銀 札	銀札引替所南都毘 沙門町車屋宗七・ 札所麴屋半助・菊 屋忠八郎・墨屋小 右衛門・米屋利兵 衛・車屋宗七	文化12乙 亥改	銀 1 匁	170×41	10	113	うち 8 枚, 札所人名の箇所に大 形方形押掛印あるも判読不能。
	銀 札	札所和州竜田柏屋 吉左衛門		銀 1 匁	150×40	1	114	柿洪塗布。平群郡竜田村は幕領 で, 現斑鳩町。
	銀 札	引替所南都寺林町 柳生藏屋敷		銀 1 匁	162×40	2	115	裏面に「引替会所」の朱印押捺。
	同 上	引替会所南都柳生 藏屋舗		銀 3 分(青)	150×40	1	116	
	銭 札	南都藏屋舗		銭 1 貫200文	130×40	1	117	
柳 本 織田氏 1 万石	銀 札	引替所	享保15庚 戌初春	銀 3 分	137×30	1	118	陣屋村式上郡柳本は現天理市。
	銀 札	札引替所山田甚藏・ 味波儀右衛門・林 三十郎	寛政 8 丙 辰 5 月	銀 1 匁 内 2 リン引	155×40	2	119	うち 1 枚, 札引替所人名の箇所に「南都小太郎町米屋久藏」の 押掛印あり。

[illegible]

発行・地名	札 名 称	発行所・引替所	発行年次	額面(色)	サイズ	数量	番号	備 考
津 藤堂氏	→ 伊勢国大名札							
壬 生 鳥居氏	→ 下野国大名札							
和 歌 山 徳川氏	(五ヶ国通用札) → 紀伊国大名札							
鹿 児 島 島津氏	(国産会所札) → 薩摩国大名札							
役 所 札								
奈良奉行所	銀 札	南都御役所御掛所 米屋半兵衛	文久3 癸亥春	銀札 1 匁	151×31	7	228	
	同 上	同 上	同 上	銀札 5 分	150×30	4	229	
	同 上	同 上	同 上	銀札 3 分 (青)	147×30	3	230	
	同 上	同 上	同 上	銀札 2 分 (茶)	150×30	1	231	
府 県 札								
奈 良 府	銭 札	奈良府会計局	明治元戊辰	銭 1 貫文	123×37	1	232	
	同 上	同 上	同 上	銭100文	108×33	1	233	
旗 本 札								
田 原 本 平野氏 5000石 * * 明治元年 高直しにより 1万石余の 大名に昇格、 立藩すると 雖も、札の 発行時に基 づき旗本札 とする (他にも類 例あり)。	銀 札	札所和州田原本大 網屋弥市郎、銀替 所縮屋吉右衛門・ 鍵屋平蔵	寛保2 壬戌 9 月	銀 1 匁 内 2 リン引	167×42	4	143	陣屋村田原本は十市郡のうち。 現田原本町。表面上部に「午改」 の朱印あり。寛延3 年改印 カ。
	銀 札	札所和州田原本大 網屋弥市郎、銀替 所引請材木屋善右 衛門	明和4 丁亥 2 月改	銀 1 匁 内 2 リン引	150×40 *	1	144	* 下部切断しあり
	同 上	同 上	同 上	銀 3 分(桃)*	160×40	1	145	* 「壹匁ニ付二リン引」
	同 上	同 上	同 上	銀 2 分(黄)	156×40	1	146	(同上)
	同 上	札所和州田原本大 網屋弥市郎、銀札 替所二階堂吹屋佐 兵衛 *	文化5 戊辰11月改	銀 1 匁	164×40	1	147	(同上) * 裏面「二階堂吹屋 佐兵衛」は墨書。
	同 上	札所和州田原本大 網屋弥市郎、銀札 替所立野村米屋伝 兵衛	文化5 戊辰11月改	銀 1 匁	168×40	1	148	(同上)
	同 上	札所和州田原本大 網屋弥市郎、銀札 替所栗岡清三郎・ 荒井新七・坂手屋 伊六	同 上	銀 1 匁 (黄・白)	168×40	9	149	(同上)
	同 上	和州田原本引替会 所	文政丁亥 (10)	銀 1 匁	160×34	3	150	うち 1 枚は表面剥離。
西 辻 水野氏 5000石	(米代銀札)	元メ中川他八・堀 内忠右衛門・辻本 与治兵衛		銀 1 匁	156×38	12	157	陣屋村西辻は忍海郡のうち。現 新庄町。
高 山 堀田氏	預 切 手	堀田方、和州高山 引替所中谷吉兵衛	慶応元丑	銀 1 匁	151×40	1	2687	高山村は添下郡のうち(現生駒 市)。表面額面の左脇に「智行

発行・地名	札 名 称	発行所・引替所	発行年次	額面 (色)	サイズ	数量	番号	備 考
4200石	同 上 同 上	同 上 同 上	同 上 同 上	銀 3 分(青) 銀 2 分(桃)	146×33 145×29	4 4	152 153	所嘉限」とあり。
丹 原 組 根来氏 3450石	(米代銀札)  根来正札	和州丹原組引替会 所、惣百姓請負・ 拾箇村庄屋年寄  辻本惣兵衛・小泉 市兵衛・米下治左 衛門、吉岡欣十郎 ・遠山亀之輔・大 野森本儀右衛門・ 大深小田伝之助	文政己丑 (12)  文政12丑	銀 1 匁 * (米 1 升代)**  銀 1 匁 (米 1 升 5 合代) *	158×34  160×38	1 2	151 2259	裏面中央に「替銭佐・久藤・喜 多」の丸型朱印あり。丹原村は 宇智郡のうち。現五条市。* 「内式厘引」、**「米代時相場」 *「米代時相場」。辻本以下、遠 山までの五名は紀州根来の人、 大野・大深村は根来氏の和州知 行村で、宇智郡のうち（現五条 市）。
豊 田 佐藤氏 3200石	銀 札  同 上	和州市十郡豊田村 札改樋上孫左衛門、 奈良東向中町銀 札引替所支配人林 喜七郎・滝勇吉・ 大原平兵衛・上田 平六 和州市十郡新木村 札改松井藤兵衛、 和州市十郡中村引 替所大西甚太郎	寛延 4 辛 未 8 月  同 上	銀 1 匁(桃)  銀 1 匁(茶)	170×46  155×38	6 5	138 139	豊田村は現橿原市。表面下部に 「大坂亀井・辻田・楠本」の円 形添朱印あり。  新木村は現田原本町、中村は現 橿原市。
豊 浦 片桐氏 3000石	銭 札	和州豊浦庄屋年寄 百姓請負引替会所	明治元辰	銭100文	147×40	1	136	陣屋村豊浦は添下郡のうち、現 大和郡山市。
福 地 織田氏 2700石	銀 札 同 上 同 上 同 上 同 上 同 上	和州宇陀福智百地 佐左衛門・木原藤 右衛門 福地銀札引替所 銀札元ノ和州宇田 吉野屋八右衛門・ 大坂上難波町支配 人明石屋治兵衛 同 上 同 上 銀札引替所南都角 振町宮西信吾	宝暦元辛 未仲冬 天明壬寅 (2) 同 上 同 上 同 上 同 上	銀 1 匁 銀 1 匁 銀 1 匁 銀 1 匁 銀 1 匁 銀 1 匁	170×40 162×36 174×35 170×36 171×33 158×35	2 4 1 4 4 1	129 130 131 132 133 134	うち 1 枚、裏面に「宇陀松山町 北組」の黒印、「寛政二戊改」 の朱印あり。 裏面「福地役所」の方形朱印あ り。 他に未完成札 1 枚あり。  裏面中央に「銀方組合改」、下 段「明石屋治兵衛」の人名の上 に「銀方引請改」の押掛印あり。 裏面中央に「銀方組合改」、下 段「明石屋治兵衛」の人名の上 に「引替所」の押掛印あり。 表面下段に「花園町舶屋藤五郎」 の添印あり。
平 等 坊 山口氏 2500石	銀 札	和州平等坊米会所、 九ヶ村庄屋年寄総 百姓請負	元治元秋	銀 2 分	147×38	2	158	陣屋村平等坊は山辺郡のうち。 現天理市。
曾我・大福 多賀氏 2000石	銀 札 米 手 形	和州曾我村舶屋九 兵衛 曾我大福両村惣百 姓請負、引替所平 野屋竜之助	宝暦 9 己 卯 8 月 天保丙申 (7)	銀 1 匁 銀 1 匁 2 厘引	172×40 163×36	3 9	140 141	表面に「明和四丁亥歳十一月改」 「曾我組今井改」の朱印あり。 陣屋村曾我は高市郡のうち（現 橿原市）、大福は十市郡のうち （現桜井市）。「三葉」模様透し

発行・地名	札 名 称	発行所・引替所	発行年次	額面(色)	サイズ	数量	番号	備 考
	同 上	曾我大福村庄屋年寄惣百姓中、引替会所	慶応3丁卯正月改	銀1匁	155×32	2	142	
松塚・有井桑山氏 1200石	米 手 形	和州松塚有井岡村惣百姓之請負、松塚組米会所	文政8酉5月	銀1匁預 (米2升価) 内2厘引	160×40	10	137	陣屋村松塚は葛下郡のうち。現大和高田市。有井村も同じ。
伊豆七条片桐氏 1000石	米 手 形	米会所、伊豆七條村庄屋年寄総百姓請負	慶応2寅	銀3分(青)	145×35	1	135	伊豆七條村は添下郡のうち。現大和郡山市。
丹後庄・守目堂 三好氏 700石	銀 札	丹後庄守目堂村庄屋年寄惣百姓請負米会所	慶応2丙寅	銀1匁	150×40	7	154	丹後庄村は添下郡のうち（現大和郡山市）、守目堂村は山辺郡のうち（現天理市）。
	同 上	同 上	同 上	銀3分(青)	148×28	2	155	
	同 上	同 上	同 上	銀2分	144×28	3	156	
池 尻 組 赤井氏 700石	出米手形価預	米納会所、十市郡池尻組三箇村庄屋年寄惣百姓請負	辛酉秋 (文久元)	銀1匁	157×37	1	126	池尻組は現橿原市。裏面中央に「知行所限」の朱印あり。
	同 上	同 上	同 上	銀3分	155×35	8	127	(同上)
	同 上	同 上	同 上	銀2分	155×35	1	128	(同上)
長 沢 松平氏	→ 三河国旗本札							
金春米会所 (300石)	米 手 形	米請負中ノ川村坊城村坂原村庄屋年寄惣百姓、南都引替所		銀1匁	150×40	20	159	幕府能役者金春家の所領中ノ川村・坊城村は添上郡、坂原村は高市郡のうち。現奈良市。用紙は「コン」の透し入り。
	同 上	同 上		銀3分(青)	150×32	3	160	
	同 上	同 上		銀2分(桃)	148×32	3	161	
寺 社 札								
山 村 御 殿 (円照寺) 300石	御寺領際融通手形	和州山村米会所、村庄屋年寄総百姓請負	慶応元乙丑	銀1匁	155×35	1	171	添上郡山村（現奈良市）。臨済宗。
安 明 寺	銀 札	山村御殿御師範地安明寺賄所、引替所奈良花芝町用達韃屋儀三郎	慶応丙寅 (2)	銀1匁	150×31	7	167	添上郡高樋村（現奈良市）。臨済宗。
	同 上	山村御殿御師範地安明寺賄所	同 上	銀1匁	151×30	1	168	裏面「引替請負」の箇所は空欄。
喜 多 院 (興福寺院家)	喜多院殿御賄手形	引替所御台所御賄方（御本殿改）		銀2匁	158×35	4	179	「貳百貳拾四匁ヲ以金壹両可引替也」とあり。
	同 上	引替所御台所御賄方（南都改）		銀5匁	158×43	7	180	
	同 上	同 上		銀2匁	149×35	4	181	
	同 上	同 上		銀1匁	152×35	17	182	
	同 上	同 上		銀3分 銀2分	140×28 143×38	5 5	183 184	

発行・地名	札名称	発行所・引替所	発行年次	額面(色)	サイズ	数量	番号	備考
雙松御殿 (修南院＝ 興福寺院家)	雙松御殿御 賄手形	引替所手形取締方 米会所	慶応2丙寅霜月	銀1匁(米切手価預)	161×42	3	188	「御勝請」の添印あり。「南都改」の朱印あり。 「野原御勝請」「南都改」の押印あり。 「南都改」の青印あり。 「安佐請」の添印あり。 「石忠請」の添印あり。 「南都改」(小型札)
	同上	同上	同上	銀1匁(同)	145×37 146×37	2	189	
	同上	木津本郷, 引替所	同上	銀2匁(米切手価預)	155×34	5	190	
	同上	手形取締方米会所 南都修南院殿役所,	同上	銀1匁	150×37	13	191	
	同上	引替所御台所賄方 雙松御殿御貸附所, 御台所御賄所, 引 替所用所詰役中	同上	銀1匁	155×30	13	192	
	同上	引替所手形取締方	慶応2丙寅	銀2匁	135×28	5	193	
松林院 (興福寺院家) 295石余	米手形	松林院領庄屋年寄 惣百姓取締, 米会 所, 引替所請負和 州大岩杉本屋治郎 兵衛	慶応2丙寅9月	銀1匁	146×34	3	194	寺領は添上郡今市村(現奈良市)
氷室御所 (法華寺) 220名	振手形	法華寺御所御台所 御賄所, 引替所奈 良内侍原町用所詰 役中え	丑7月 (慶応元)	銀1匁	143×32	5	198	南都改, 裏面上部に「未十二月切, 若切月幾日相過候共引替可申候事」と篆書印刷しあり。添上郡法華寺村(現奈良市)真言宗門跡寺。 同上 同上
	同上	同上	同上	銀3分	130×26	1	199	
	同上	同上	同上	銀2分5厘 (青)	127×36	1	200	
興福院 200石	米手形	興福院殿米納会所 十市郡新堂村庄 屋年寄惣百姓	丙寅改 (慶応2)	銀1匁	153×37	6	185	南都改, 添上郡法蓮村(現奈良市)。寺領は新堂村(現橿原市)のうち。 表面上部に「寅改」の朱印あり。
	同上	同上	同上	銀1匁	153×37	14	186	
	同上	同上	同上	銀2分(茶)	139×25	1	187	
佐保山 (眉間寺) 100石	修理御手当 御賄銀手形	引替米会所 佐保 山賄方, 出張引替 請負三輪之内馬場 越善左衛門	慶応乙丑 (元)	銀1匁	152×35	12	202	添上郡法蓮村(現奈良市)。律宗(現在廃寺), 三輪村は式上郡のうち(現桜井市)。南都改
	同上	出張引替請負三輪 之内馬場越善左衛 門, 新村大吉請, 佐保山賄方引替米 会所	慶応乙丑	銀1匁	151×35	1	203	
	佐保山賄手 形	同上	慶応元乙丑	銀3分	141×28	1	204	
	佐保山寺領 内融通出米 手形	出張引替請負平群 郡立野村山上五郎 兵衛, 佐保山賄方 引替米会所	慶応元乙丑	銀1匁	150×35	1	205	
	同上	出張引替請負御所 町米屋善兵衛, 佐 保山賄方引替米会 所	同上	銀1匁	151×36	1	206	
	佐保山賄手 形	出張引替所御所町 米屋善兵衛, 米会 所	慶応元丑 12月	銀1分	122×12	1	207	

発行・地名	札名称	発行所・引替所	発行年次	額面(色)	サイズ	数量	番号	備考
斑鳩御所 (中宮寺) 46石余	銀札	斑鳩御所御貸附役所御掛屋佐伯安之助	乙丑7月 (慶応元)	銀1匁	153×42	2	169	平群郡法隆寺村(現斑鳩町)。真言宗門跡寺。
当麻寺 300石	米手形	年預竹之坊、大塚村庄屋年寄惣百姓請負	慶応乙丑 (元)	銀1匁	152×39	2	195	葛下郡当麻村(現当麻町)。寺領大塚村は広瀬郡のうち(現広陵町)。裏面に「真言方」の押印あり。真言・浄土宗。
三輪大宮社・若宮社 60石	社領通宝 (賄手形)	請負引替所米会所、社領村々惣百姓	慶応2丙寅初夏	銀1匁	154×32	1	162	式上郡三輪村(現桜井市)。社領は広瀬郡大塚村のうち42石、同郡池尻村のうち18石。  「今井木太請」の添印あり。  池尻村は現大和高田市。
	大宮社領限融通賄手形	社領村々惣百姓、請負引替所賄方池米清	慶応2丙寅初夏	銀1匁	154×32	5	163	
	同上	社領村々惣百姓、引替所	慶応2丙寅11月	銀1匁	151×33	9	164	
	三輪社若宮領限融通米手形	賄所、引替請負広瀬郡池尻村中尾幸右衛門	慶応2寅	銀1匁	150×35	4	165	
法貴寺 17石余	銀札	藤原山法貴寺台所引替所式下郡法貴寺村松田甚治郎	(慶応2ヵ)*	銀1匁	150×32	2	196	式下郡法貴寺村(現田原本町)。真言宗。* 末卯12月20日限、「庄屋年寄」の押掛印あり。 * 來巳12月20日限
	同上	藤原山法貴寺台所引替所法貴寺村庄屋年寄惣百姓請	(明治元ヵ)*	銀3分(青)	140×27	1	197	
大宿坊 (金剛山) 30石	米切手	引替請賄方脇崎弥十郎、寺領村庄屋年寄惣百姓取締	慶応元乙丑冬	銀1匁	159×33	3	172	寺領は宇智郡小和村のうち(現五条市)。
八咫烏神社	御寄附銀賄手形	講中請、出張引替所山辺郡吐山村油屋喜七郎・酒屋文五郎	慶応2丙寅	銀1匁	149×34	2	166	宇陀郡高塚村(現榛原町)。吐山村は現都祁村。
南法華寺 (壺坂寺) 50石	米手形価預	南法華寺領請負惣百姓、引替所米納会所	慶応2丙寅	銀3分(青)	138×26	1	201	高市郡四条村(現高取町)。寺領は四条村と十市郡膳夫村(両村共現橿原市)のうち。真言宗。
満願寺 (安倍山)* 5石	寺領融通米手形	満願寺台所賄方、掛所植田儀兵衛	慶応2丙寅	銀1匁	151×37	16	208	* 十市郡阿部村(現桜井市)の崇敬寺(文殊院)とされる(『大和紙幣図史』)。真言宗。表面頭判の狛犬の図柄、前出より簡略。「南都改」の印刷あり。裏面上部図柄、米俵のみ(前出札は「鼠と米俵」)。 「南都改」 「南都改」  * 「御普請銀融通手形」の朱印ある由(『大和紙幣図史』)であるが不鮮明にて判読不能。
	同上	同上	同上	銀1匁	151×35	3	209	
	同上	同上	同上	銀1匁	154×36	1	210	
	同上	同上	同上	銀5分(黄)	140×30	1	211	
	同上	同上	同上	銀3分(青)	139×28	10	212	
	同上	同上	同上	銀2分(茶)	139×28	6	213	
	寺領融通手形	満願寺米会所、西組出張掛所綿屋惣右衛門	慶応2丙寅	銀3分(青)	135×31	1	214	
	(御普請銀融通手形)*	賄所、出張請負米会所		銀1匁	158×35	1	215	

発行・地名	札 名 称	発行所・引替所	発行年次	額面（色）	サイズ	数量	番号	備 考
永 久 寺 （内山寺） 971石	寺領際融通 米手形	<sup>（イチキ）</sup> 式本請負手形引替 所＊	慶応元丑	銀 3 分（青）	140×28	1	170	*「野村源七」の押掛印あり。 山辺郡内山村（現天理市）。 （現在は廃寺）。真言宗。
大 峯 当 山 （金峯山寺） 1013石	銀 札	大峯当山貸附役所、 引替所山村忠八	慶応 2 丙 寅冬	銀 2 匁	148×35	3	173	吉野郡吉野村。天台宗・真言宗。 「帯解吉野屋請」の添印あり。
	同 上	大峯当山貸附所、 大和方先達所詰役 野田数馬	寅12月 （慶応 2）	銀 1 匁	150×31	2	174	「森弥」の添印あり。
	同 上	大峯当山御貸附役 所、貸附詰役野田 数馬・今井本町出 張用所	慶応丙寅	銀 5 分	148×26	1	175	「松尾改」「今井坊伊請」の添印 あり。
	同 上	同 上	同 上	銀 3 分	145×27	1	176	同 上
	同 上	大峯当山貸附所・ 大和方先達所詰役 野田数馬、引替出 張下市森弥	寅12月 （慶応 2）	銀 1 匁	150×33	2	177	
	同 上	大峯当山貸附役所、 引替和州重坂油清 請	慶応丙寅	銀 1 匁	152×33	1	178	「桜本坊先達改」
粟 田 御 殿 （青蓮院）	→ 山城国寺社札							
御 室 御 所 （仁和寺）	→ 山城国寺社札							
実 相 院	→ 山城国寺社札							
仏 御 殿 （妙法院）	→ 山城国寺社札							
六 條 御 殿 （西本願寺）	→ 山城国寺社札							
高野山大徳 院	→ 紀伊国寺社札							
鑑 蓮 社 （増上寺）	→ 紀伊国寺社札							
円 満 院 （園城寺）	→ 近江国寺社札							
宮 家 札								
伏 見 御 所	→ 山城国宮家札							
町 村 札								
奈良廻御料 所八ヶ村＊	御年貢米手 形	（八ヶ村）庄屋年 寄総百姓請負、取 締惣代城戸村吉左 衛門・芝辻村久五 郎・法蓮村彦兵衛、 引替所奈良南新町 詰所	慶応元年	銀 1 匁	160×38	9	216	* 京終・城戸・杉ヶ町・油坂・ 芝辻・法蓮・半田開・奈良坂村



[illegible]

河 内 国

大 名 札								
狭 山 北条氏 1万1000石	狭 山 札 (預切手)	河州狭山引替役所	天保6乙未3月	銀1匁	138×36	6	234	丹南郡池尻村（現狭山町）に陣屋を置く。（『大日本貨幣史』附録、藩札の部には狭山札のことみえず）。
	同 上	同 上	天保7丙申霜月	銭200文(茶)	150×42	6	235	
	同 上	同 上	同 上	銭100文	145×36	3	236	
丹 南 高木氏 1万石	池浚賃米預手形	丹南役所	文政4辛巳	銀5分(茶) 米1升代*	157×43	1	237	*「米ハ時之相場」とあり。
	同 上	河州丹南引替会所	明治2己巳革行	銭24文(黄)	100×40	1	238	
山 形 秋元氏	→ 出羽国大名札							

発行・地名	札 名 称	発行所・引替所	発行年次	額面(色)	サイズ	数量	番号	備 考
神 戸 本多氏	→ 伊勢国大名札							
和 歌 山 徳川氏	(五ヶ国通用札) → 紀伊国大名札							
旗 本 札								
錦 郡 甲斐荘氏 4000石	米代銀札	(堺)戎中浜甲斐荘 蔵屋舗, 大松三郎 右衛門	文政11戊 子	銀 1 匁 (米 2 升代)	163×40	4	256	甲斐 <sup>ミヅノリ</sup> 庄氏の陣屋錦郡は錦部郡の うち(現富田林市)。
長 沢 松平氏	→ 三河国旗本札							
寺 社 札								
眞 蓮 寺 *	御寄附御祠 堂金御貸附 手形	御菩提所眞蓮寺, 勘定方引替所碓井 松屋請	慶応 3 丁 卯改	銀 3 匁(黄)	155×40	2	239	* 古市郡古市村(現羽曳野市)。 眞言宗。「式百二拾目ニ付金壹 両相渡シ, 錢ハ時之相場」の押 印あり。 「錢百文」の押掛改造印あり。 「改百文」の押掛改造印あり。
	同 上	同 上	同 上	銀 1 匁	148×35	2	240	
	九條殿御寄 附御祠堂金 御貸附手形	御菩提所眞蓮寺, 勘定方引替所大塚 酢屋辰蔵	同 上	銀 2 匁(茶)	163×35	3	241	
	同 上	同 上	同 上	銀 1 匁	155×38	1	242	
	同 上	同 上	同 上	銀 1 匁	154×38	4	243	
壺井八幡宮 80石	領内融通人 足手形	壺井社領役場, 引 替所請負方*		銀 1 匁	154×36	2	244	* 古市郡壺井村(現羽曳野市)。 うち 1 枚「綿屋太右衛門」の添 印あり。
御 室 御 所 (仁和寺)	→ 山城国寺社札							
嵯 峨 御 所 (大覚寺)	→ 山城国寺社札							
竹 内 御 殿 (曼殊院)	→ 山城国寺社札							
南 殿 (順興寺)	→ 山城国寺社札							
鑑 蓮 社 (増上寺)	→ 紀伊国寺社札							
町 村 札								
下 田 原 村 讃良郡	銀 札	河州下田原庄屋年 寄		銀 1 分 5 厘	150×47	1	245	現四条畷市。「寅」の朱印押捺。 「村限り」と墨書。
	同 上	同 上		銀 1 分	155×47	3	246	

和 泉 国

大 名 札								
岸 和 田 岡部氏 5万3000石	銀 札	食野次郎左衛門	享保15	銀 1 匁	188×45	2	247	「四厘大蔵省改」朱印あり。
	同 上	同 上	同 上	銀 1 匁	185×44	1	248	
	同 上	食野吉左衛門	同 上	銀 1 匁	186×45	2	249	
	同 上	同 上	同 上	銀 1 匁	192×44	3	250	

発行・地名	札 名 称	発行所・引替所	発行年次	額面（色）	サイズ	数量	番号	備 考
	銭 札	岸和田引替所	明治紀元 戊辰	当500文	154×44	2	251	「領内通用」
伯 太 渡辺氏 1万3500石	銀 札	大植清左衛門	宝暦 5 乙 亥	銀 1 匁	190×48	7	252	
	銭 札	泉州伯太引替所	明治己巳 (2)	銭200文	170×50	1	253	
小 泉 片桐氏	—————→ 大和国大名札							
和 歌 山 徳川氏	(五ヶ国通用札) —————→ 紀伊国大名札							
府 県 札								
堺 県	金 札	堺県会計方	明治己巳 (2)	銭代 金 2 朱	116×40	4	2625	
	金 札	同 上	同 上	銭代 金 1 朱	95×36	1	2626	
旗 本 札								
堺 今井氏 1300石	今井極米札	堺今井役所	文政10丁 亥	銀 1 匁(茶)	154×40	17	254	裏面に「米時以相場引替可申也」とあり。今井役所は堺宿院町。
	同 上	同 上	同 上	銀 5 分(赤)	148×36	1	255	
堺 (宿院役所) *	米 切 手	宿院役所、堀内九郎右衛門・沢地伊平治	文政10丁 亥	銀 1 匁(青)	162×45	3	261	*「宿院役所」特定できず。不明。
錦 部 甲斐庄氏	—————→ 河内国旗本札							
長 沢 松平氏	—————→ 三河国旗本札							
寺 社 札								
御 室 御 所 (仁和寺)	—————→ 山城国寺社札							
嵯 峨 御 所 (大覚寺)	—————→ 山城国寺社札							
南 殿 (順興寺)	—————→ 山城国寺社札							
河 原 御 殿 (日光輪王寺)	—————→ 山城国寺社札							
町 村 札								
堺 郷	銀 札	郷銀勘定掛、引替所北組惣会所	天保10亥 5 月	銀 1 匁	150×35	1	263	表面に「元メ役」その他の押印あり。

摂 津 国

大 名 札								
尼 崎 松平(桜井)氏	摂州尼崎札	尼崎引替役所	安永6丁 酉	銀10匁	194×82	5	264	屏風札。表面に「含章」の朱印あり。

発行・地名	札名称	発行所・引替所	発行年次	額面（色）	サイズ	数量	番号	備考
4万石	同上	尼崎引替役所、加役	同上	銀10匁	192×81	14	265	同上。
	同上	尼崎引替役所	同上*	銀10匁	187×80	1	266	屏風札。表面に「含章」*「子」「千里必究」の朱印あり。
	同上	同上	同上	銀1匁(茶)	190×46	11	267	
	同上	尼崎引替役所、加役	同上	銀1匁(茶)	194×47	1	268	
	同上	尼崎引替役所加島屋富三郎*	同上	銀1匁(茶)	176×46	1	269	*「引替茶屋利三郎」の添印あり。
	同上	尼崎引替役所泉屋利兵衛	同上	銀1匁(茶)	190×47	2	270	
	同上	尼崎引替役所平野順次	同上	銀1匁(茶)	165×47	1	271	裏面に「名塩」「尼崎泉屋」の押印あり。
	同上	尼崎引替役所平野順次	同上	銀1匁(茶)*	194×46	2	272	*「銭100文」の押掛改印あり。うち1枚「大灘組」の押印あり。
	同上	尼崎引替役所	同上	銀1匁(茶)	191×47	3	273	裏面に「名塩」の押印あり。
	同上	尼崎引替所加嶋屋富三郎*	同上	銀5分	125×35	2	274	*「引替茶屋利三郎」の添印あり。
	同上	尼崎引替所平野順次	同上	銀5分*	126×35	1	275	*銭48文の押掛改造印あり
	同上	播州上郡引替会所	嘉永辛亥(4)	銀1匁	183×42	3	276	<sup>カミゴオリ</sup> 上郡村は赤穂郡のうち。明和6年以降尼崎領となり、陣屋が置かれた。
	同上	同上	同上	銀2分(茶)	182×40	3	277	
	同上	同上	嘉永6癸丑	銀1分	117×32	4	278	うち2枚は漆を塗布。
	同上	播州中安田引替会所、津田喜兵衛	丙子(文化13ヵ)	銭1匁(赤)	152×42	1	279	中安田村は多可郡のうち。同村の津田嘉兵衛は赤穂、多可2郡の尼崎領大庄屋。
	(預り札)	山本屋卯兵衛・瓦林屋茂兵衛→御屋鋪様	安政5年	銀2分(赤)	121×35	1	284	「此手形を以御渡可申候、以上」とあり。
	(預り手形)	泉屋利兵衛	卯2月(慶応3ヵ)	札50目	150×108	1	280	準藩札ヵ。再検討を要す。
	(同上)	同上	卯3月(慶応3ヵ)	札50目	151×109	1	281	同上
	(同上)	同上	辰7月(慶応4ヵ)	札50目	152×108	1	282	同上
	銭札	尼崎紙幣局*	13日 明治紀戊辰発	銭100文	143×35	3	283	*うち1枚「生瀬磯屋治左エ門」の添印あり。
	金札	尼崎藩紙幣局*→山本屋卯兵衛殿	巳9月(明治2)	金1朱	100×34	1	285	*「表書之通可相渡候、以上」とあり。表面に「勘定済」の押印あり。
三田 九鬼氏 3万6000石	銀札	引替所	元文5庚申元鈔*	銀5匁(赤)	158×48	3	301	*後年の発行とされる。
	同上	摂州三田引替所	元文5庚申	銀3分	100×38	1	302	同上
	同上	摂津国三田鋸屋次郎兵衛、替所飴屋忠兵衛、役所	天明7丁未改	銀1匁(青)	133×41	11	303	
	同上	同上	同上	銀5分	125×40	1	304	表面中央に「貸布」の朱印あり。
	同上	摂津国三田引替所	嘉永7甲寅改	銀2匁(赤)	150×44	1	305	
	同上	摂津国三田引請所嘉納作之助	同上	銀1匁(茶)*	146×45	1	306	*漆塗布ヵ
	同上	摂津国三田引請辻兵七	同上	銀1匁(赤)	155×41	1	307	表面上部に「引替小沢村」の押印あり。
	同上	摂津国三田、丹州	同上	銀1匁(赤)	151×42	1	308	丹波国三田領は氷上郡のうち

発行・地名	札 名 称	発行所・引替所	発行年次	額面 (色)	サイズ	数量	番号	備 考
	同 上	引替所 摂津国三田, 引請 所土佐屋源兵衛	同 上	銀 1 匁(白)	150×45	1	309	6000石 (寛文朱印留)。 表面上部に「神戸組」の押印あり。
	摂津国三田札	*	同 上	銀 1 匁(白)	150×45	1	310	* 裏面下部篆書は「山七」カ。
	同 上	引請所久木酒屋弥 兵衛	同 上	銀 1 匁(白)	142×44	1	311	
	同 上	*	同 上	銀 1 匁(白)	148×45	7	312	未通用札カ。* 裏面引請所の 印刷なし。
	銀 札	摂津国三田引替所	同 上	銀 5 分	125×38	1	313	裏面に「大石村引請小池屋又四 郎」の押掛印あり。
	同 上	摂津国三田引受所 松尾勘左衛門	同 上	銀 5 分	128×39	1	314	
	同 上	摂津国三田引替所	同 上	銀 1 匁 (銭100文)	150×44	6	315	表面額面の上に「通用銭老百文」 の押掛改造印あり。
	同 上 (振出手形)	三田引替所 三田福昌善兵衛→ 御引替所	(年次なし) 丙寅12月 (慶応2)	銀3分 銀札100目	128×36 180×82	1 1	316 317	墨書。 準藩札カ。墨書。「右此手形ヲ 以御渡可被下候, 以上」とあり。
	(同 上)	同 上	丙寅12月	銀札50目	177×73	2	318	墨書。「下郷へ」とあり。
	(同 上)	同 上	丙寅12月	銀札30目	178×64	1	319	同 上
	(同 上)	同 上	丙寅12月	銀札20目	180×65	4	320	同 上
高 槻 永井氏 3万6000石	高槻会計社 金札	米金扱方 *→大津 屋庄三郎	明治元辰	金 1 朱	111×36	3	321	*「諸商取締」の篆刻印印刷。
	高槻会計社 銭札	引替方	明治 2 巳	銭500文	97×35	1	322	
	同 上	勝田忠操・鎰屋栄 重郎・京屋利三郎	同 上	銭100文	92×30	7	323	
麻 田 青木氏 1 万石	摂州麻田札	引替麻田札役所 *	**	銀10匁(赤)	195×107	1	286	屏風札。表面一面刷で, 裏面には「亀甚」「池田麴屋小兵衛」「鍋屋」「賀儀屋」など十数種の押印あり。* 引替の欄は後年の貼紙。
	摂脇麻田札	引替所北村清兵衛・ 銀主油屋小兵衛		銀 5 匁(灰)	175×46	1	287	
	摂州麻田札	札役所, 引替所麻 田忠左衛門		銀 1 匁(茶)	151×42	7	288	
	同 上	札役所, 引替所麻 田忠左衛門 *		銀 1 分(灰)	124×34	1	289	*「松本吉兵衛」の添印あり。 **「丑」の押印あり。
	摂脇麻田札	引替所麻田嘉平・ 銀主多田屋彦右衛 門		銀 1 匁(灰)	147×42	2	290	
	摂州麻田札	札役所, 引替所麻 田忠左衛門 *		銀 1 匁	154×41	1	291	*「畑奥右衛門」の添印と「丙 申」の押印あり。天保 7 年カ。
	同 上	同 上 *		銀 1 匁(茶)	150×42	2	292	*「角倉弥平次」の添印あり。
	同 上	同 上 *		銀 1 匁(茶)	150×42	4	293	*「引請生嶋五郎三郎」の添印 あり。
	同 上	札役所, 和泉屋仙 助, 引替所麻田忠 左衛門		銀 1 匁(赤)	145×42	1	294	
	同 上	引替所鍋屋喜右衛 門, 銀主松屋金左 衛門 *		銀 1 匁	148×44	1	295	* 裏面に貼紙して「引替麻田札 役所」と印刷しあり。
	同 上	札役所, 引請豊嶋 郷・高平郷, 引替 所両郷大庄屋		銀 1 匁	146×42	3	296	
	同 上	同 上		銀 1 分(赤)	123×33 116×32	3	297	
	同 上	札役所, 和泉屋仙		銀 1 分(青)	103×30	1	298	

[illegible]

発行・地名	札 名 称	発行所・引替所	発行年次	額面 (色)	サイズ	数量	番号	備 考
野山貸附所 (高野山)	→	紀伊国寺社札						
大 徳 院 (高野山)	→	紀伊国寺社札						
<b>宮 家 札</b>								
有 御 殿 (有栖川宮)	→	山城国宮家札						
閑 院 宮	→	山城国宮家札						
<b>町 村 札</b>								
東喜連村 住吉郡	(人足切手)	東喜連村 (裏面印判)	亥年改	1 人札	102×50	3	332	正徳3年以降, 下総古河藩領。現大阪市。墨書。
	(人足切手)	同 上	亥年改	人足札 *	100×50	2	333	* 人数付なし。墨書。
平 野 郷 町 住吉郡	丁銀手形	奥野清順, 末吉次郎兵衛・奥野清順	(享保16ヵ)	1 匁	220×48	2	334	裏面上部に「野堂町與」の印刷あり。うち1枚は未完成札。
	同 上	同 上		5 分(黄)	220×48	1	335	「野堂町與」
	同 上	同 上		3 分(青)	220×48	1	336	「野堂町與」
高 槻 町 島上郡	(振出手形)	高槻町融通会所→布屋忠兵衛殿	癸亥6月 (文久3)	銀1匁	165×50	4	352	町村札・私人札の区別不分明。
西 宮 武庫郡	(振出手形)	惣会所→難波屋太吉殿, 取次引替所福嶋屋利兵衛	庚申6月 (万延元)	銀1匁	160×47	4	345	表面に「本両替金並」の押印。「右以此手形引替御渡可被下候, 以上」とあり。
	(同 上)	惣会所→難波屋太兵衛殿, 取次引替所覚心屋平十郎	同 上	銀1匁	158×47	1	346	同 上
	(同 上)	同 上	同 上	銀5分	132×36	1	347	同 上
	(同 上)	惣会所→難波屋太兵衛殿, 取次引替所播磨屋平八郎	同 上	銭100文	137×40	1	348	同 上。表面中央に「不用」の黒印押捺。
	(同 上)	浜方惣会所→木津屋太兵衛殿	庚午9月 (明治3ヵ)	銭100文	96×40	1	349	表面に「築洲人足賃ノ内」とあり。
名 塩 村 有馬郡	日役札	名塩村役人		日役1人	163×42	1	337	現西宮市。未完成札ヵ。裏面印刷, 印判などなし。
山 口 有馬郡	紙漉人足駄賃切手	山口引請, 引替芝伝蔵		銀5匁(赤)	165×55	1	387	現西宮市。表面に「通用貳百五拾文」の押掛印あり。
	同 上	同 上		銀3分(茶)	120×33	1	388	
<b>宿 駅 札</b>								
郡 山 島下郡	人馬賃銭手形	御伝馬所→池田屋半七殿, 郡山人馬方	明治2己巳7月	賃銭1貫文 *	132×42	1	338	郡山宿は現茨木市。* 額面のみ墨書。
	同 上	同 上	同 上	賃銭500文	100×39	1	339	額面墨書。
	同 上	御伝馬所→酒屋與蔵殿, 郡山人馬方	同 上	賃銭100文	92×34	2	340	同 上
	同 上	御伝馬所→米屋四郎右エ門殿, 郡山人馬方	同 上	賃銭100文	93×34	1	341	同 上

発行・地名	札名称	発行所・引替所	発行年次	額面(色)	サイズ	数量	番号	備考
兵庫津 八部郡	銀札	兵庫津駅方年寄→ 岩間屋兵右衛門殿	安政6未 正月	銀1匁	161×45	5	343	裏面に岩間屋兵右衛門の請負文 言・署名印あり。 同 上
	同 上	同 上	甲子正月 (文久4)	銭100文	165×45	1	344	
ドウジョウカワラ 道場川原駅 有馬郡*	人足牛馬駄 賃切手	駅所引請, 道場川 原	丙寅11月 (慶応2)	銀10匁**	166×53	2	342	* 現神戸市北区。**「貳拾三 枚にて金壹両渡ス」とあり。
私 人 札								
大坂 西成郡	諸荷物運送 切手	鴻池伊助殿*	卯11月	銭500文(青) (通用5匁)	167×45	1	350	* 裏面に「引替所□(安カ) 治 □□」の印判あるも判読できず。 裏面に「此以切手正紙引替可申 候」とあり。
	紙切手	大坂引替所久満屋 潤治郎		銭1貫文 (茶)	157×39	1	351	
灘 兎原郡	(振出手形)	大塚権右衛門*→ 池田油孫殿(本両 替)	戊辰5月 慶応4カ)	銀5匁	160×55	2	353	* 裏面に「播美横大権」の篆書 印刷あり。播州美囊郡横村(現 三木市)大塚権右衛門の意カ。 「金並本両替」の印刷あり。
	(振出手形)	米屋久助→米屋久 太郎殿(本両替)	卯9月	銀10匁	151×42	1	354	
	同 上	同 上	同 上	銀5匁(灰)	150×42	2	355	
	同 上	同 上	同 上	銀1匁	151×42	2	356	
	銭札	灘青木桝屋伊三郎 (本両替) 笹屋勝 治郎殿, 引請吉川 奥子儀	巳11月	銭500文	161×38	1	358	
	銀札			銀1匁(青)	160×42	2	359	
	酒価預手形	井上八郎兵衛・米 屋太吉, 福田屋酒 造所	戊辰11月 (明治元カ)	価5匁	156×46	1	360	
	酒価預り手 形	田中店→多田新造 殿	戊辰6月 (慶応4カ)	酒価100文 預り(灰)	137×40	1	361	
	同 上	田中出店→細井重 右衛門殿	甲子8月 (元治元カ)	酒価5分	131×36	2	362	
	銀札	布治, 伊勢屋謙治 郎*		銀5匁(青)	172×50	1	363	
ヤハハチ 八幡村 兎原郡	(振出手形)	木綿屋仁兵衛→魚 屋甚四郎殿	丙辰12月 15日(安 政3カ)	銀1匁	150×44	1	364	年紀のみ墨書。灘札とする決手 はないが, 先人の整理に従う。
西宮 武庫郡	酒価手形	吉田喜之助	文久4子 正月	酒3合価 銀1匁(茶)	160×40	1	365	裏面に「摂州兎原郡都賀庄八幡 村吉田氏之印」の篆書印刷あり。
	同 上	同 上	同 上	酒1合価 銀3分(青)	142×34	1	366	
西宮 武庫郡	(振出手形)	神成屋儀左衛門→ 鋤屋儀兵衛殿	卯2月	銭100文(赤)	175×48	3	369	墨書。引替文言は「御渡可被下 候」とあり。 裏面に「極規則調所」の方形黒 印。
	銭札	西之宮淡路屋久左 衛門	巳9月	銭2貫500 文	175×61	6	370	
鳴尾 武庫郡	(振出手形)	蔵屋平兵衛→銭屋 弥七殿	壬戌11月 (文久2)	銀1匁	150×40	3	371	裏面に「表書通時之以相場無相 違相渡可申候」とあり(現西宮 市)。同 上
	(振出手形)	大黒屋半兵衛→銭 屋弥七殿	同 上	銀1匁	153×41	1	372	
小松村 武庫郡	(振出手形)	戎屋重助→梶吉右 衛門殿	辛酉11月 (文久元)	銀1匁	154×46	2	357	裏面に「小松恵比須屋」の店印 あり。尼崎藩領で現西宮市。



発行・地名	札名称	発行所・引替所	発行年次	額面(色)	サイズ	数量	番号	備考
伊丹川辺郡	(振出手形)	伊丹酒造取締方→津国屋庄兵衛殿	庚申(万延元)	銀1匁定	152×43	1	373	
小浜川辺郡	(振出手形)	米屋鶴三郎→銭屋助七殿	丁卯9月(慶応3)	銀5匁(茶)	176×45	4	374	文政10年以降一橋家領で、現宝塚市。
	同上	米屋鶴三郎→安堂寺町二丁目銭屋助七殿	卯9月	銀1匁	148×39	3	375	安堂寺町は大坂三郷南組のうち、現大阪市南区。
	同上	米屋与三右衛門→安堂寺町二丁目銭屋助七殿	卯9月	銀1匁	148×40	1	376	
	同上	茶木屋太十郎→伊賀屋庄二郎殿(本両替)	丁卯6月(慶応3)	銭100文(赤)	143×40	2	377	
ナカヤマ 寺宿川辺郡	御泊切手	柳屋九兵衛	嘉永2酉	御泊切手1人(茶)	137×37	5	378	表面に「中山御宿門前5半丁東」、裏面に「右切手御持参之御方様何時ニても傘灯ちん差上可申候」とあり。現宝塚市。
大川瀬村有馬郡	(預り手形)	大川瀬車屋磯右衛門→本庄池田丈右エ門殿	寅5月	銭100文	163×46	3	386	現三田市。
タノシ 田尾寺村有馬郡	(預り手形)	田中重郎兵衛→大西浅右衛門殿	甲寅6月(嘉永7)	銀1匁	143×41	3	379	武蔵国岡部藩領で、現神戸市北区。
	同上	田中重郎兵衛→武田儀兵衛殿	同上	銀1匁	140×41	2	380	
	同上	田中重郎兵衛→福浪与左衛門殿	同上	銀1匁	140×41	2	381	
	同上	同上	同上	銀5分(灰)	131×39	1	382	
	同上	福浪与左衛門→武田儀兵衛殿	同上	銀1匁	141×41	1	383	
	同上	福浪与左衛門→大西浅右衛門殿	同上	銀1匁	145×41	1	384	
	同上	福浪与左衛門→田中重郎兵衛殿	同上	銀1匁	142×41	1	385	
名塩村	(振出手形)	米屋孫助→弓場五郎兵衛殿	辰正月	銀5匁(茶)	152×48	1	389	文政11年以降尼崎藩領で、現西宮市。
	(預り手形)	名塩弓場五郎兵衛→上山伊兵衛殿	子12月	銭32文	149×37	1	390	
	銀札	弓場五郎兵衛	未9月	銀札2分(青)	131×33	1	391	墨書。
	天雇札	名塩弓七	戊子6月(文政11)	1人前	173×50	1	393	墨書。「天雇老人前ニ用之」とあり。
	(柴荷札)*	同上	同上	1荷カ(茶)	150×42	2	394	* 手すれのため判読困難。墨書。
	草札	弓儀		草1つ	177×50	1	395	墨書。
	日雇札	名塩馬場儀三郎	巾3月改	1人(茶)	145×38	3	396	墨書。
	膺皮札	馬儀	午年	3貫目	129×38	1	397	墨書。裏面に「三拾三枚内」とあり。
	同上	摂州名塩東木新		1貫目	115×40	2	398	額面墨書。
	日用札	名塩野所五郎左エ門	文化13閏8月	1工	160×34	1	399	墨書。裏面に「五拾枚之内」とあり。
	同上	同上	文政9戊	1工(赤)	145×39	1	400	墨書。
	同上	同上	正月 文政10亥6月	1工(赤)	162×40	1	401	墨書。

発行・地名	札 名 称	発行所・引替所	発行年次	額面(色)	サイズ	数量	番号	備 考
	同 上 土 荷 札	同 上 同 上	天保 7 弘化 3 午 正月	1 工(赤) 1 荷(赤)	145×39 165×43	1 1	402 403	墨書。 墨書。
	東久保土札 日ぢん札	同 上 同 上	安政 3 辰 安政 2 卯 12月 3 日	1 荷(赤) 1 工(赤)	153×40 152×40	1 1	404 405	墨書。 墨書。
	前坂土荷札	同 上	文久 3 癸 亥 8 月	1 荷(茶)	151×37	4	406	墨書。
	女日用札	同 上	文久 3 亥 8 月	1 人(赤)	147×37	2	407	墨書。
	日 用 札	同 上	万延元申 6 月 <sup>カ</sup>	1 人(茶)	154×36	1	408	墨書。
	同 上	同 上	万延元申 8 月	1 人(茶)	152×37	1	409	墨書。
	踏 草 札	同 上	丑ノとし	1 □*(赤)	103×27	1	410	墨書。* 額面の単位判読できず。
	ナマ 生 瀬 有馬郡	銭 札  (銀 札)  (振出手形)  (振出手形)  同 上	生瀬井筒屋(井権) 井筒屋権右衛門 井筒屋権右衛門→ 泉屋八郎兵衛殿 坪屋五郎左衛門→ 土屋利兵衛殿 鍵屋忠助→綿屋義 三郎(本両替)	子10月(元 治元 <sup>カ</sup> ) 乙丑(慶応 元) 11月 丁卯(慶応 3) 11月 同 上 乙丑(慶応 元) 5 月	銭12文 銀 1 匁(赤) 銀 1 匁(赤) 銀 1 匁(赤) 銀 1 匁	135×35 145×43 150×42 148×42 150×42	1 1 1 2 1	411 412 413 414 415
幕 府 札								
	金 札  同 上 同 上	(兵庫商社)  同 上 同 上	慶応丁卯 (3) 同 上 同 上	金 1 両 金 2 分 金 1 分	130×43 130×43 130×43	1 2 3	2611 2612 2613	上部の割印なし。
府 県 札 付商法会所札								
兵 庫 県	銭 札  同 上 同 上 同 上		明治紀元 12月 同 上 同 上 同 上	銭 1 貫200文 銭600文 銭300文 銭100文	132×44 124×41 116×38 108×35	3 3 3 4	2627 2628 2629 2630	「以二枚換壹分」 「当換壹朱」 「以二枚換壹朱」 「以六枚換壹朱」
	室 津 揖西郡	銭 札	室津商法会所	銭48文	151×39	1	2666	現御津町

# 東 海 道

## 伊 勢 国

発行・地名	札 名 称	発行所・引替所	発行年次	額面（色）	サイズ	数量	番号	備 考
大 名 札 津 藤堂氏 27万950石	銀札（和州 飛地札）	大和古市銀札会所	安永乙未 (4)	銀 1 匁	169×30	7	416	「以此札六拾匁金壹両可相渡也」とあり。
	同 上	同 上	安永乙未 *	銀 1 匁	167×33	4	417	* 後年の発行札とされる。表面 図柄は寿老人と鶴、亀と笠竹。
	同 上	同 上	安永乙未 *	銀 1 匁	170×35	2	418	* 後年発行札。表面図柄は弁財 天、牡丹に唐獅子。
	同 上	同 上	文化甲戌 (11)	銀 1 匁 *	163×30	7	419a	* 六拾四匁金壹両。表面頭判は 福祿寿。
	同 上	同 上	同 上	銀 1 匁 *	160×28	7	419b	* 同上、表面頭判は大黒天。
	同 上	同 上	同 上	銀 1 匁 *	159×29	3	419c	* 同上、表面頭判は恵比須。
	同 上	同 上	同 上	銀 1 匁 *	162×29	6	419d	* 同上、表面頭判は毘沙門天。
	同 上	同 上	同 上	銀 1 匁 *	161×28	13	419e	* 同上、表面頭判は布袋。
	同 上	同 上	同 上	銀 1 匁 *	162×29	6	419f	* 同上、表面頭判は寿老人。
	同 上	同 上	同 上	銀 1 匁 *	160×28	6	420	* 同上、「壹錢五厘大藏省改」 朱印あり。
	同 上	同 上	同 上	銀 2 分(茶)	160×29	3	421	六拾四匁金壹両
	同 上	古市産物会所		銀 2 匁預	169×34	1	428	
	同 上	同 上		銀 2 匁預	170×35	1	422	「錢貳百文」の押掛改造印あり。
	同 上	大和古市銀札会所	(安永乙 未)	銀 1 匁	172×36	5	423	「錢百貳拾四文立」の押掛改造 印あり。
	同 上	古市錢札会所		錢 1 貫200 文	155×34	5	424	「以此札時之相場引替可申也」 とあり。
	同 上	同 上		錢600文	145×34	2	425	同 上
	同 上	同 上		錢600文	142×35	1	426	「以此札十六枚金壹両可相渡也」 とあり。
	同 上	同 上		錢100文	135×35	7	427	時之相場引替。
	金 札	津産物常会所惣元 締上田平次郎・松 本宗十郎・内田豊 吉		金10両	135×50	1	429	墨書。「つ産」のすかし入。表 面に「焼失流失ハ番附ヲ以可被 巾出候、調ノ上相規書受取元金 可相渡事」の文言押印。「金札 渡」の朱印あり。
	同 上	同 上		金 1 両	134×50	8	430	墨書。すかし入。「焼失・流失」 文言同上。「銀札渡」の朱印あ り。
桑 名 松平(久松)氏 11万石	米 手 形	桑名蔵元、米札会 所		銀 1 匁	164×30	10	431	「以此札六拾四枚金壹両可相渡 也」とあり。
	同 上	伊勢国桑名米札会 所、奉行		銀 1 匁 (米 1 升)	138×39	1	432	表面・裏面とも印刷不鮮明。通 称奉行札 <sup>カ</sup> 。
	同 上	引替所、桑名御蔵 役所	庚寅(天 保元)	米 6 斗 (金 1 両分)	163×59	1	433	「引替時刻差支無之」とあり。
	同 上	同 上	同 上	米 1 斗 5 升 (金 1 歩分)	163×50	1	434	同 上
	同 上	同 上	同 上	(茶) 米 3 升 7 合 5 勺 (金 1 朱 分) (黄茶)	155×45	3	435	同 上
	同 上	同 上	同 上	米 1 升 (銀 1 匁分) (青)	155×43	2	436	同 上
	同 上	同 上	同 上	米 5 合 (銀 5 分分)	139×40	4	437	同 上
	錢 札	御□□掛□□詰所		錢12文預	131×25	2	438	「以此札八枚換当百一錢」とあ り。

発行・地名	札 名 称	発行所・引替所	発行年次	額面（色）	サイズ	数量	番号	備 考	
亀 山 石川氏 6万石	諸産物代銀 預手形（飛 地札）＊	備中中津井産物会 所、大阪近江屋	甲子（元 治元） （元治元々）	銀 1 匁	168×48	2	439	＊ 延享元年以降伊勢亀山飛地領 は備中国上房・阿賀郡のうち 1 万石。中津井村は現北房町。 裏面に「戊辰改ノ永銭札」の押 掛印あり。 他に 1 分札と覚しき茶札 1 枚あ り。 「此手形以六拾四枚金壹両相渡 可申候」とあり。 手すれのため判読困難。 「此手形百枚ヲ以、金壹両引換 可申候」とあり。その上に押掛 印あるも判読できず。	
	同 上	同 上		銀 2 分（茶）	129×33	1	440		
	同 上	同 上		銀 1 分（茶）	116×30	1	441		
	同上（属領 内融通手形）	亀山残領備中国中 津井産物会所		銀 1 匁	161×30	4	442		
	同 上	同 上		銀 1 分（茶）	112×28	1	443		
	産物為替金 手形	備中国中津井為替 会所		永銭10文預 り	162×40	4	444		
神 戸 本多氏 1万5000石	神戸米手形 （飛地札）	河州長野引替役所	享保辛亥 （16）＊	銀 1 匁	155×37	7	445	＊ 後年の発行とされる。飛地領 長野村は錦部郡のうち。現河内 長野市。 ＊ 同上。「以此札六拾四匁金壹 両可相渡也」	
	同 上	河州長野引替会所	享保辛亥＊	銀 1 匁	155×29	6	446		
菰 野 土方氏 1万1000石	米 札	菰野藩主税局、国 産会所		米 1 升	150×29	1	447	「以此札六十四枚金壹両可渡也」 とあり。 「壹銭六厘大蔵省改」朱印。	
	同 上	同 上		米 1 升	150×29	1	448		
忍 松平氏	—————→ 武蔵国大名札								
和 歌 山 徳川氏	（勢州松坂通用札） —————→ 紀伊国大名札								
伊 勢 羽 書									
山 田 度会郡	（山田羽書）	高柳組＊ 山本玄蕃		1 匁 預	160×28	1	451	＊ 幸田源内・喜多大膳・春木庄 兵衛・辻村□大夫・山本玄蕃・ 桑原長兵衛・羽根彦大夫・山口 角大夫 ＊ 慶徳主馬・高向左衛門・二見 舍人・小倉主殿（以下判読でき ず） ＊ 実は明治 2 年々 「壹銭四厘大蔵省改」朱印あり。	
		富貴上組 ＊		5 分 預（青）	162×29	1	452		
	（度會府札）	勢州山田羽書引替 所		明治紀元 戊辰 ＊	1 匁 預	163×29	10		449
		同 上		同 上	同 上	1 匁 預	161×30		1
四 日 市 三重郡	伊勢国通用 四日市羽書	四日市羽書総中、 銀札会所		1 匁 預	163×30	2	453		

志摩国

大名札								
鳥羽 稲垣氏 3万石	参州長沢産物手形	鳥羽引替所		銀1匁	163×28	6	565	表面頭判図柄は「高砂」。該札は従来鳥羽藩札とされているが、裏面に「長沢産物手形」の印刻あり。再検討を要す。以下同。 同上。「壹銭三厘大蔵省改」朱印押捺。 表面頭判図柄「田植の図」。
	同上	同上		銀1匁	160×29	2	566	
	同上	同上		1匁預	160×30	1	567	

発行・地名	札名称	発行所・引替所	発行年次	額面(色)	サイズ	数量	番号	備考
町 村 札 船越村 英虞郡	(銀札)			1 匁	166×30	1	455	印刷不鮮明で確認できないが、 先人の整理に従う。現大王町。

尾 張 国

大 名 札								
名 古 屋 徳川氏 61万9500石	米代金札	尾張府司倉, 引替 所平田	(寛政4)	米6斗(金 1両分)	136×57	1	456	表面図柄は双竜。中央に「商」 の丸形朱印。裏面中央に「御用 達」の長形黒印あり。
	同 上	同 上	同 上	米7升5合 (金2朱分)	112×40	1	457	商印切手。
	同 上	同 上	同 上	米6斗(金 1両分)	136×57	1	458	表面図柄は双竜。中央に「農」 の朱印。裏面「辰改」の朱印。
	同 上	同 上	同 上	米1斗5升 (金1分)	123×48	1	459	農印切手。
	同 上	同 上	同 上	米7升5合 (金2朱分)	112×40	3	460	農印切手。
	米代銀札	御蔵役所(尾府司 倉印)	(享和2)	米5升(銀 5匁分)(茶)	137×33	3	461	表面中央に長円形朱印押捺。裏 面に「もし表背米代銀入用の時 ハ(中略)時之相場ヲ以錢にて 相渡すへき事」とあり。
	同 上	同 上	同 上	同上(黄)	135×32	1	462	表面中央, 長円形朱印。
	同 上	同 上	同 上	同上(黄)	135×33	3	463	表面中央, 長方形朱印。
	同 上	同 上	同 上	米3升(銀 3匁分)(赤)	136×33	3	464	同 上
	同 上	同 上	同 上	同上(茶)	137×33	5	465	表面中央, 長円形朱印。
	同 上	同 上	同 上	米1升(銀 1匁分)(青)	138×33	1	466	表面中央, 長方形朱印。
	同 上	御蔵役所, 引受人 石橋栄蔵・伊藤忠 左衛門・熊谷治太 郎		米3升(銀 3匁分)(茶)	136×33	3	467	表面中央, 長円形朱印。
	同 上	同 上		米1升(銀 1匁分)(黄)	136×32	2	468	表面中央, 長方形朱印。
	同 上	同 上		同上(黄)	137×33	2	469	表面中央, 長円形朱印。
	同 上	同 上		同上(黄)	136×32	1	470	表面中央, 分銅形朱印。
	同 上	同 上		米5合(銀 5分)(桃)	120×22	3	471	
	御払錢代銀 札	御勘定所, 引受人 石橋栄蔵・伊藤忠 左衛門・熊谷理三 郎	(天保14)	銀2匁分	131×33	2	472	裏面引替文言に「但錢相場高下 有之節ハ時之相場を以相渡すへ き事」とあり。
	同 上	同 上	同 上	銀1匁分	129×33	1	473	
	同 上	同 上	(弘化元)	銀5分	123×31	1	474	
	農政方銀札	莊内邑宰方・北方・ 清須方・小牧方・ 鵜多須方・佐屋方 用達世話方, 引替 所農方会所*	明治2己 巳11月	銀1匁預	121×35	1	475	* 裏面「農方会所」の両脇に長 良三郷・一ノ宮村・木田村・竹 ヶ鼻村・土器野新田・稲葉宿・ 小牧宿・船付村・起宿・小折村・ 宮路村・佐屋宿の宿村名を印刷。 * 岡谷惣助・伊藤忠左衛門・長 尾四郎右衛門・長尾治右衛門・ 前野小平治・武山勘七・中村次 郎太・岡田徳右衛門
(以下準藩 札)	(御収納米 代金先納預 り判書)	関戸哲太郎・伊藤 次郎左衛門, 農商 会所懸り惣代*	午3月 (明治3)	正金1両 (墨書)	152×62	4	476	* 米穀屋・焚味噌屋・酒造屋・ 塩屋・油屋・薪屋引請(商方会 所札)
	米味噌酒塩 油新代銀預 切手	引替所伝馬町商方 会所	己9月 (明治2), 来午2月	代銀3匁7 分5厘分	123×45	3	479	

発行・地名	札名称	発行所・引替所	発行年次	額面（色）	サイズ	数量	番号	備考
	同 上 同 上 同 上*	同 上 同 上 名古屋米穀屋・焚 味噌屋・酒造屋・ 塩屋・油屋・薪屋	限り 同 上 同 上 午 3 月 (明治 3)	代銀 2 匁分 代銀 1 匁分 代銀 3 匁 7 分 5 厘	116×41 128×49 130×41	1 2 2	480 481 482	同 上 うち 1 枚「偽」の墨書あり。 *「此配符御当地限他御支配地 之御進物之儀ハ御断申候、引替 之儀ハ商方会所ニテ取扱申候」
	同 上 同 上 米味噌酒塩 油肥物代銀 預切手 同 上	同 上 同 上 佐屋方御管下井沢 左助（十二名取締 カ）* 同 上	同 上 同 上 午 7 月 (明治 3) 同 上	代銀 1 匁分 代銀 5 分分 代銀 1 匁分 代銀 5 分分	145×40 119×33 122×37 110×34	5 1 3 1	483 484 485 486	同 上 同 上 *「此配符他御支配え御差贈之 儀ハ御断申候、引替之儀は名古 屋農方会所ニテ取扱申候」 同 上
犬 山 成瀬氏 3 万石	銭 札  同 上	引替方取扱亀崎村 間瀬半一郎・間瀬 兵左衛門 引替方取扱成岩村 市野忠兵衛・沢田 清兵衛	明治	銭48文  銭48文	122×35  125×36	1  1	477  478	「支配所限通用」とあり。犬山 藩は明治元年立藩、明治 4 年犬 山県。亀崎村は現半田市。 成岩村は現半田市
寺 社 札								
熱 田 神 宮 4956石	預り米代銭 切手	引請惣代岡本儀兵 衛・深田清左衛門	已 9 月 (明治 2 カ)	預り米代 200文	116×39	1	494	裏面「表書預り米代銭何時ニて も此切手を以引替会所において金 札と引替可申事」
町 村 札								
瀬 戸 村 春日井郡	瀬戸物代銀 切手	締方加藤清助・加 藤吉右エ門・伊藤 茂三郎・小野平右 エ門・高嶋孫十郎・ 加藤紋右エ門・加 藤健十・加藤勇治	(午 7 月 限)	瀬戸物代 銀 3 匁	116×40	2	501	現瀬戸市
藤 波 村 海東郡	証 拠 札	引請人井沢左助		額面なし	135×47	4	495	表裏面とも大小多様の押印ある も表面中央に「藤波里正」の角 印あり。従来「津島札」とも云 われる由。墨書。
大 野 村 知多郡	鈞銭預切手  同 上	大野地下  同 上	(11月限)  同 上	鈞銭24文預 (当百) 鈞銭16文預 (当百)	130×35 119×30	1 1	498 499	現常滑市。
常 滑 村 知多郡	鈞銭預切手  同 上	常滑地下  同 上	(11月限)  同 上	鈞銭24文預 (当百) 鈞銭16文預 (当百)	132×35 135×30	4 7	496 497	現常滑市。額面墨書。 額面墨書。
大 里 村 知多郡	預り銭札	大里会所預り		銭200文	140×51	2	500	現東海市。
常 石 村 郡名未詳	ツリ銭預切 手	常石地下	(11月限)	ツリ銭12文 預り(当百)	132×31	2	502	裏面に「保□浦方庄官」の押印。 時志村（知多郡）カ。
私 人 札								
長 者 町 名古屋	米穀会所札  代銀預切手	米穀会所  長者町米会所	甲寅（安 政元）	1 匁（薄茶）  1 匁預	132×36 132×36	6 1	487 488	額面・干支は墨書。「米穀会所 外不用」の押印あり。 「会所外不用」。「勘定所遣」

発行・地名	札名称	発行所・引替所	発行年次	額面（色）	サイズ	数量	番号	備考
	同上	同上		5分預	125×33	1	489	の朱印押捺。額面墨書。 同上
赤塚町 名古屋	肴切手 (魚会所切手 <sup>カ</sup> )	魚世話方肝煎	巳7月	御肴1折 代300文	142×44	1	490	墨書。引替文言の印判は判読で きず。商品切手 <sup>カ</sup> 。額面は裏面。
	同上	同上	同上	御肴1折 代200文	142×42	1	491	同上
	同上	同上	同上	御肴1折 代100文	140×43	1	492	同上
	同上	同上	同上	御肴代48文	110×37	2	493	同上
大久手 愛知郡	溜り代銭札	大久手村兼子弥太郎	亥11月限 り	溜り1合 代24文	129×30	4	503	旧古井村のうち（現名古屋市千 種区）
鳴海・大久 伝村 愛知郡	米代預銀札	鳴海下郷善右衛門・ 大久伝中嶋金右衛 門	己巳（明 治2）	1匁	140×32	3	504	大久伝は沓掛新田の枝郷で鳴海 宿の定助郷村（現豊明市）。
大野組 知多郡	農商切手 (諸物品代 銀預)	大野組萩原宗平・ 平野助三郎・杉山 利兵衛・橋本弥七	明治己巳 (2)	銀3匁分	135×39	3	508	現常滑市。
	同上	同上	同上	銀1匁分	120×33	2	509	
	同上	同上	同上	銀5分(黄)	114×23	2	510	
岡田組 知多郡	為替銀札	岡田組竹内源助・ 新海三郎兵衛・小 嶋茂兵衛	庚午（明 治3）	1匁預	135×31	3	506	表面上部に「万物引換」とあり。 現知多市。
野間組 知多郡	銀札	小野浦村樋口九右 衛門	己9月 (明治2)	1匁預	149×34	2	511	「午三月改正」の茶押印、⊕の すかしあり。現美浜町。
横須賀村 知多郡	米代預銀札	横須賀村瀬彦助・ 野畑孫兵衛・坂丈 右衛門	己巳（明 治2）	1匁	128×33	1	505	現東海市。
某村 知多郡 <sup>カ</sup>	米代預銀札	取締小島源助・竹 内孫右エ門・日高 理兵衛	己巳（明 治2）	5分	126×28	1	507	村名未詳。図柄は表裏面とも横 須賀札に酷似するも連名の姓は 岡田組札に共通性がある。
亀井組 (知多郡 <sup>カ</sup> )	銀札	(亀菊?) 引替所	天保9戊 改	価5分	139×34	4	512	従来知多郡とされているが、特 定できず。
	同上	亀菊・亀井組	同上	価2分	120×29	4	513	裏面「邨利」の長方形黒印あり。

### 三河国

大名札								
豊橋 大河内氏 7万石	銭札	生産方	(明治)	100文 <sup>カ</sup> *	103×30	1	523	旧吉田領。明治2年改称。「豊 橋藩支配所限通用」のほかは、 手すれのため判読不能。
岡崎 本多氏 6万石	米価銭札	引替所	明治2巳	米価300文	135×34	3	514	「ちがい輪」透かし入り。
	端米代銭札	引替融通方、蔵米 量渡方	(午5月 限 <sup>カ</sup> )	端米代 銭24文	90×30	1	515	
刈谷 土井氏 2万3000石	米代銭札	米札扱方	(明治元 <sup>カ</sup> )*	米4合 代48文	139×45	5	516	*「辰ヨリ午迄三ヶ年限」

発行・地名	札 名 称	発行所・引替所	発行年次	額面 (色)	サイズ	数量	番号	備 考
挙 母 内藤氏 2万石	銭 札	挙母藩勘定所	(明治)	銭500文預 (茶)	160×58	1	517	「支配所限」
	同 上	同 上		銭200文預 (紫)	155×52	1	518	同 上
	同 上	同 上		銭48文	126×33	1	519	同 上
田 原 三宅氏 1万2000石	銭 札 (塩増代預) 永銭札	引替会所	(中12月 限)	銭48文 (薄 茶)	90×32	1	520	「田原藩限融通」
		引替所米礼会所	庚午正月 (明治3)	永250文	113×34	4	521	「田原藩限融通, 以米価換此永」 とあり。*「壬申十二月限」
	同 上	同 上	同 上	永62文 5 分	99×32	4	522	同 上
野 村 戸田氏	(旧大垣新田藩) → 美濃国大名札							
旗 本 札								
長 沢 松平氏 300石	(近江通用 長沢銀札)	参州長沢役所, 引 替所江州産物請負 方	享保15庚 戌穂初銀 *	銀 1 匁	160×32	1	524	* 長沢松平氏札は全部幕末の発 行と推測される。表面に「応楮 数換国産品」, 裏面「以此札六 十四匁金壹両可相渡者也」
	(河州通用) 長沢産物手形	長沢用所, 引替所 長沢産物会所 (河 内組)	同 上	銀 3 匁 (黄)	160×40	12	525	「塔分」「錦組」「浅川請」な どの添印あり。
	同 上	同 上	同 上	銀 1 匁	161×38	4	526	同 上
	同 上	長沢用所, 引替所 産物会所 (河内組)	同 上	銀 3 分 (茶)	135×34	3	527	
	同 上	同 上	同 上	銀 2 分	133×35	3	528	うち 2 枚は未使用札 (印判なし)
	同 上	長沢用所, 河州引 替所	同 上	銭300文	161×40	1	529	額面の上に「長沢通宝」の丸形 朱印あるも未完成札。
	同 上	同 上	同 上	銭100文	161×38	2	530	同 上
	(泉州通用) 長沢用所銀札	泉堺長沢用所, 引 替所和泉屋勘三郎	同 上	銀 3 匁 (黄)	164×44	3	531	裏面に「泉堺組」の印刷あり。
	同 上	同 上	同 上	銀 1 匁	163×45	6	532	「泉堺組」
	同 上	泉州長沢用所, 引 替所山川弥太郎・ 南作左衛門	同 上	銀 1 匁	172×44	7	533	「和泉組」
	同 上	長沢用所, 引替所 堺出張	同 上	銀 1 匁	159×36	1	534	
	同 上	長沢用所, 引替所 泉州産物請負方	同 上	銀 1 匁	160×36	1	535	
	(泉州通用) 長沢手形札	長沢用所, 引替所 産物引請方	同 上	銀 1 匁	143×37	1	537	「泉州堺組」
	(和州通用) 三州長沢産 物手形	引替所椿井町帯屋 久七	同 上	銀 1 匁	160×33	8	536	「南都改」, 椿井町は奈良町の 一町。
	同 上	同 上	同 上	銀 3 分 (青)	143×27	10	538	「南都改」
	同 上	同 上	同 上	銀 2 分 (赤)	143×28	14	539	「南都改」
	同 上	引替所法貴寺村松 本音次郎	同 上	銀 3 分 (青)	142×29	7	540	「南都改」, 法貴寺村は式下郡 のうち, 現田原本町。
	同 上	同 上	同 上	銀 2 分 (赤)	137×29	3	541	「南都改」
	同 上	引替所帯屋久七, 繰屋房五郎請	同 上	銀 3 分 (青)	145×27	1	542	「南都改」
	長沢用所札	引替所 (空欄)	同 上	銀 1 匁	160×37	5	543	「大灘組」の朱印あり。
	長沢産物手 形	札請瓜破全田覚太 郎・全田俊太郎	同 上	銭500文	128×44	3	544	うち 1 枚, 札請の欄空白。瓜破 は河州丹北郡のうち。現大阪市 平野区。
	同 上	同 上	同 上	銭300文	123×40	3	545	
	同 上	同 上	同 上	銭100文	115×38	4	546	



発行・地名	札 名 称	発行所・引替所	発行年次	額面 (色)	サイズ	数量	番号	備 考
	同 上	札請綿伊	同 上	銭500文	135×42	1	547	
	同 上	札請大堀瓦伊	同 上	銭500文	131×44	1	548	
	同 上	同 上	同 上	銭100文	110×39	2	549	
	同 上	札請阿嶋作	同 上	銭100文	112×39	1	550	
	同 上	札請太田米伊	同 上	銭100文	109×39	1	551	
	享保年中拜領銀子貸附手形	三州長沢貸附所, 備中出張引替大和屋・越後屋*		銀 1 匁 (青)	159×43	1	552	*「惣社」の押掛印あり。
	同 上	三州長沢貸附所, 備中出張引替大坂越後屋・大和屋		銀 1 匁 (白)	170×44	8	553	裏面上部に「走古請」の印刷あり。うち 1 枚額面の上に「備中松山本町立長」の押掛印あり。
	同 上	同 上		銀 5 分	143×46	4	554	「走古請」
	同 上	同 上		銀 3 分 (黄)	145×37	2	555	同上。うち 1 枚「備中松山立長」の押掛印。
	同 上	同 上		1 匁	164×43	12	556	「本亭請」の印刷, 「吉田仁」の添印あり。
	参州長沢楮宝	備中横嶋長沢役所, 大坂加嶋屋	享保15庚戌秋初鑄	銀 1 匁	150×38	25	557	横島村は小田郡のうち, 幕領。現笠岡市。
	享保年中拜領銀子貸附手形	大阪加賀屋, 備中横島参州長沢貸附所		銀 3 分 (灰)	136×39	1	558	
	同 上	参州長沢貸附所, 備中出張引替甲怒多摩屋		2 分	140×34 } 154×36 }	2	559	甲怒 (弩) 村は小田郡のうち, 幕領。文政10年から一橋家領で現笠岡市。
	同 上	参州長沢貸附所, 引替元請大坂播磨屋・備中甲怒多摩屋		銀 1 匁	165×44	10	560	
	同 上	参州長沢貸附所, 引替元請大坂播磨屋・備中日畑出張所		銀 5 分	159×40	3	561	日畑村は都宇郡のうち。幕領と撫川戸川氏の相給で現倉敷市。「綿屋平兵衛」「甲州屋源右エ門」の添印あり。
	同 上	参州長沢役所, 備中入江新田出張引替大坂加嶋屋・日羽車請		1 匁	153×43	1	562	入江新田は横島村地先の干拓新田で幕領。現笠岡市。
	同 上	同 上		3 分	147×38	1	563	表裏面とも下部に押掛印あるも判読不能。
	同 上	参州長沢役所		1 匁	151×43	1	564	表裏面とも同一。後人による貼合札カ。
	参州長沢産物手形	鳥羽引替所		銀 1 匁	163×28	6	565	裏面中段に「志州鳥羽役所改」の黒印あり。長沢札を鳥羽藩札として通用せしめたものか。疑問のあるところ, 両所に重出。表面頭判は「高砂」の図柄。
	同 上	同 上		銀 1 匁	160×29	2	566	同上。「壹銭三厘大蔵省改」の朱印押捺。
	同 上	同 上		1 匁 預	160×30	1	567	裏面頭判図柄は「田植の図」。
不 明 札								
	三河国音羽手形		享保15庚戌	1 分 (茶)	134×35	1	2711	音羽は宝飯郡長沢村の旧郷名という。長沢札カ
町 村 札								
刈 谷 碧海郡	米代銭札	刈谷地下	(戌正月限)	米 4 合代50文	140×48	2	568	裏面に「以二枚替百文, 刈谷町限」とあり。文久元年カ。
	同 上	同 上	同 上	米 2 合代24文	133×38	1	569	「以四枚替百文」
	同 上		(亥 9 月限)	米 2 合代24文	124×32	1	570	同上, 文久 2 年カ

発行・地名	札名称	発行所・引替所	発行年次	額面(色)	サイズ	数量	番号	備考
	同 上 同 上 同 上 同 上		(子4月限) (寅4月限)	米2合代24文 米2合代24文 米4合代50文 米2合代24文	136×37 130×36 134×45 135×38	1 2 1 1	571 572 573 574	同上, 文久3年カ 同上, 慶応2年カ 「以式枚替百文」。押印なし, 未使用札カ 裏面押印なし。未使用札カ。
大浜村 碧海郡	米価銭札 同 上			米価24文 米価16文	127×36 115×35	1 4	575 576	手すれで印刷不鮮明。安永6年 駿州沼津領。明治元年より上総 菊間藩領。現碧南市。 「此札六枚を以当百ニ引替之事」 とあり。
大浜・棚尾 平七・伏見 屋・鷺塚 碧海郡	五ヶ村融通 米札 同 上	(五ヶ村)取締・ 肝煎中 同 上	(来午7月 限) 同 上	米4升* 米2升*	137×42 120×39	4 3	577 578	*「以八員換壹両」。明治2年カ。 現碧南市。 *「以十六員換壹両」。
この他, 野村藩札か若しくは渥美郡畠村の町村札か判別し難いものあり。仮に野村藩札として美濃国 大名札に配す。								
<b>宿 駅 札</b>								
岡崎宿 額田郡	人馬賃預銭札 同 上 賃銭預切手	岡崎宿 同 上 岡崎御伝馬所, 勘 定役	(丑12月限) (午12月限) 明治2己 巳	銭16文 銭16文 賃銭400文 預	105×27 112×27 137×30	1 1 1	580 581 582	「御用駅融通」の黒印あり。 「午5月限」の朱印押捺。
藤川宿 額田郡	銭札 同 上	藤川宿問屋 同 上	(寅3月限) 同 上	銭24文 銭12文	97×28 81×27	5 3	583 584	
赤坂宿 宝飯郡	銭札 同 上	赤坂宿 同 上		銭24文 銭12文	113×29 87×22	3 3	585 586	現音羽町
御油宿 宝飯郡	人馬賃銭預 切手 同 上 人馬賃銭引 換切手	駅問屋・年寄, 東 海道御油宿人馬継 所 同 上 御油駅御伝馬所		48文預 24文預 銭100文預	130×29 94×26 110×34	8 1 8	587 588 589	現豊川市。「以此札式枚換当百 壹銭」 「以此札四枚換当百壹銭」 「此札以百枚換金壹両」。未使 用札カ。印判の押捺なし。
吉田宿 渥美郡	人馬賃銭預 切手 (銭札)	吉田宿問屋・年寄 吉田問屋	元治2年 丑8月限 (3月限)	24文預 24文	89×27 100×27	6 5	590 591	現豊橋市。
二川宿 渥美郡	東西融通切 手	三河国式川人馬継 立所			79×26	2	592	現豊橋市。うち1枚「辰」の押 印あり。額面の記載なし。未完 成札カ。
<b>私 人 札</b>								
西尾 幡豆郡	味噌切手 (表示なし)* 同 上 春米切手 同 上 同 上	三州西尾横町松阪 屋吉助 長嶋平埜 同 上 同 上 同 上 同 上	文政4辛 巳改 文化14丁 丑改 文政4辛 巳改 天保8丁 酉改 同 上 同 上	1人 1人 2分5厘 1人 半人 2分半	135×45 135×44 116×36 140×45 126×37 120×30	2 2 1 1 1 1	593 594 595 596 597 598	* 春米切手カ。後出の〔596〕 に酷似。

遠 江 国

発行・地名	札 名 称	発行所・引替所	発行年次	額面(色)	サイズ	数量	番号	備 考
大 名 札								
浜 松 井上氏 6万石	浜松領肥シ 預切手(播 州飛地札)	天神町郷引替所		銀 1 匁(赤)	145×42	4	599	天神町は播州加東郡のうち(現 東条町)。弘化2年から遠州浜 松領。裏面に「Voordeelig」 (有益な)の和蘭文字を印刷。 * 新定村(加東郡)・東村(美 囊郡)の添印あり。
	同 上	同 上*		銀 3 分(黄)	140×36	2	600	
	同 上	同 上		銀 2 分(赤)	127×33	3	601	
堀 江 大沢氏 1万石*	金 札	堀江藩会計役所	(末未ノ12 月引換)	金 1 分	130×39	2	602	* 明治元年旧旗本大沢氏が立藩。 「通用藩内限」, 明治3年々。 現浜松市。
町 村 札								
金谷河原町 榛原郡	銭 札	河原町会所	(丑4月 引上ケ)	銭24文預り (茶)	111×31	20	620	(遠州嶋村山田家文書)他に銭 百文の普請中の預切手1枚あり。
大 日 村 周智郡	村方通用米札	大日村方	午7月限	米 1 舁	160×48	1	603	現袋井市。 実業史「米の切手」の題箋付の 貼込帳(2035), 同1080/3 うち4枚は実業史2035。
	同 上	同 上	同 上	米 5 合	121×39	8	604	
	同 上	同 上	同 上	米 1 合	91×38	6	605	
鷺 津 村 敷知郡	土普請用米 札	鷺津村	(明治)	米 5 升	132×43	2	606	現湖西市。実業史1521
宿 駅 札								
金 谷 宿 榛原郡	米 札	金谷宿御伝馬所	寅 2 月引 上ケ	預り米 5 合	125×45	10	615	(遠州嶋村山田家文書) * 10枚 1束で帯封に「五貫文」とあり。 * 漆塗布々。  「宿内限り」とあり。  銭20貫文* 1束宛の帯封に記 された銭額。それ らの束を更に一括 したコヨリの先端 に「55貫文」とあ るが、実際の集計 額は50貫文である。
	同 上	同 上		米 2 合半預 り(茶)*	94×45	1	616	
	同 上	同 上		預り米 1 合	95×34	11	617	
	銭 札	金谷宿		銭24文預 (茶)	95×34	2	618	
	(米札・銭 札の束)*	金谷宿御伝馬所		米 5 合	124×44	40	619	
				米 2 合半	95×44	40		
				米 1 合	95×44	100		
				米 1 合	95×44	45		
				銭48文	107×35	10		
				米 2 合半	95×45	17		
				銭100文	105×44	4		
大井川金谷 方会所	米 札	金谷方川会所	巳秋*	米 3 合	104×45	1	613	*「巳」は朱印。 同 上
	同 上	同 上	同 上	米 1 合	99×35	3	614	
掛 川 宿 佐野郡	預 銭 札	掛川宿	子12月引 上ケ, 改 丑7月限	銭24文預 (茶)	125×33	4	611	うち4枚は実業史帖込帳(2035)
日 坂 宿 佐野郡	預 銭 札	日坂宿	丑11月引 上ケ	銭24文預 (茶)	130×33	4	612	(遠州嶋村山田家文書)。表面に 「東海道日坂宿問屋」の丸形印 と「処限用之」の方形印あり。
浜 松 宿 敷知郡	預 銭 札	浜松宿助	丑2月限	24文預	115×29	1	609	表面下部の印判, 手すれで判読 できず。
	同 上	浜松宿助々*	丑7月限	24文預	116×30	1	610	

発行・地名	札 名 称	発行所・引替所	発行年次	額面（色）	サイズ	数量	番号	備 考
新 居 宿 敷地郡	米価銭札	新居宿御伝馬所 同 上		米銭200文 米価100文	133×34 109×30	2	607	「あらゐ」の透かし入り。
	同 上					6	608	

駿 河 国

宿 駅 札								
島 田 駅 志太郡	質 米 札	駅 方 同 上	已秋 同 上	質米5合	156×50	2	622	「島田限」 同上。うち1枚は遠州嶋村山田 家文書。 うち3枚、嶋村山田家文書「此 札他所 <sup>5</sup> 持参候共引替不申候」 とあり。
	同 上			質米2合5 勺	115×37	3	623	
	同 上			質米1合	88×38	4	624	
	同 上			質米2合5 勺	100×38	1	626	
(大井川) 島田川方	質 米 札	川 方	已秋	質米1合	86×37	1	625	嶋村山田家文書。「島田限」
藤 枝 宿 志太郎	助 郷 札	藤枝宿	来午3月 引上ケ	人足2人	150×36	1	621	表面下部の印判に「藤枝宿助郷 限」とあり。
私 人 札								
都 知 山 志太郡	銭 札	都知山金本		100文札	161×28	3	627	都知山は栃山とされ（荒木三郎 兵衛『お札』），現島田市阿知 ヶ谷に栃山の小字あり。

甲 斐 国

宿 駅 札								
勝 沼 駅 山梨郡	取引切手 (甲銀札)	勝沼駅、引替方若 尾所右衛門・池田 屋清蔵 同 上	従巳12月 当分用  同 上	甲銀5匁1 分	132×52	1	628	
	取引切手 (銭札)			銭500文	109×42	1	629	

伊 豆 国

町 村 札								
川 津 賀茂郡	川津通用切 手	足柄県下才五大区 才五小区会所	明治7戊 8月発	100文	88×39	3	630	現静岡県賀茂郡河津町。

相 模 国

大 名 札								
小 田 原 大久保氏 11万3100石	銀札（美作 飛地札）	御銀札座作州西川 大黒屋山崎	宝暦5乙 亥歳2月	銀10匁(茶)	170×52	1	631	西川は久米北条郡のうち。小田 原領（延享4～文化10年）の時 陣屋が設けられた。現旭町。
	同 上	同 上	同 上	銀1匁(茶)	178×43	21	632	「備中松山本町立長」の押印あり。
	同 上	同 上	同 上	銀1匁(茶)	176×43	3	633	
	同 上	同 上	同 上	銀3分(茶)	164×41	1	634	
	同 上	同 上	同 上	銀2分(茶)	167×41	1	635	
	同 上	作州西川御銀札座	同 上	銀1匁(茶)	172×40	1	636	「引替所桑村富沢屋」の添印あ り。桑上村・桑下村は久米北条 郡のうち。現久米町。
	同 上	同 上	同 上	銀3分(灰)	169×41	2	637	「引替所桑村富沢屋」 同 上
	同 上	同 上	同 上	銀2分(赤)	170×41	2	638	

発行・地名	札 名 称	発行所・引替所	発行年次	額面（色）	サイズ	数量	番号	備 考
府 県 札 神 奈 川 県	金 札	正金引換所神奈川 裁判所・東京府銭 炮洲役所	(明治元)	金 1 両	105×61	1	2624	表面額面の下部に神奈川県裁判 所の写真貼付、また「為替」の 朱印、裏面に「鉄炮洲横浜三井 取扱」の青印押捺。

武 蔵 国

大 名 札								
川 越 松井氏 6 万石	御切手米札 (江州飛地 札)	御引替江州武作御 役所、引替御用達 鈴木忠右衛門・高 井作右衛門・岡忠 兵衛・藤崎政太郎 福本一良右エ門		銀 2 分 (御 切手米 2 合)	168×39	2	639	松井松平氏の奥州棚倉から川越 への入封は慶応 2 年10月。同氏 の近江飛地領の拜領は弘化頃と 思われ、該札の発行年次が不明 なため、念のため奥州棚倉藩と 重出。
忍 奥平氏 10万石	米預切手 (播州飛地 札)	引替所大坂堂嶋忍 蔵屋舗・播磨二見 干鯛屋与三太夫	安政 4 改	銀 1 匁 (茶)	138×36	1	640	二見 (東二見・西二見) は加古 郡のうち。文化13年以降忍藩領。 現明石市。  表面「播州飛領札」、裏面「勢 州通用」「以此札六拾四匁金壹 両可相渡也」とあり。
	同 上	同 上	同 上	銀 2 分	109×30	1	641	
	同 上	同 上	同 上	銭 1 匁	140×36	2	642	
岡 部 安部氏 2 万石	米預切手 (播州・勢 州飛地札)	忍米札引替会所	慶応元改	銀 1 匁	159×30	7	643	
	同 上	同 上	同 上	同 上	同 上	同 上	同 上	
	(摂州飛地 札)	サクライ谷米奉行 金融方	安政 4 巳	銭200文	113×36	1	2688	摂津国豊島郡野畑村 (現豊中市) に桜井谷陣屋あり。
	同 上	同 上	同 上	銭100文	108×33	1	2689	
(御 三 卿) 一 橋 家 賄料10万石	銀 札	備中荏原産物会所	安政 4 丁 巳11月	1 匁預	165×41	6	2653	後月郡東・西荏原村 (現井原市) は文政10年から一橋家領。翌11 年西荏原村に備中一円の同家所 領管理のための役所を置く。  * 少額紙幣の故か年次の印刷な し。
	同 上	同 上	同 上	5 分預	150×37	1	2654	
	同 上	同 上	同 上	3 分預	145×35	2	2655	
	同 上	同 上	同 上	2 分預	138×35	2	2656	
	同 上	同 上	*	5 厘預	89×25	2	2657	
	同 上	同 上	慶応 3 丁 卯 8 月	10匁預	159×51	1	2658	印南郡今市村 (現高砂市) は延 享 4 年以降一橋家領。洪沢栄一 が一橋家財政再建のため、木綿 を専売品とする産物会所を今市 に設けたという。
	御産物木綿 預手形	引替所播州今市・ 大坂川口御産物会 所	慶応元乙 丑	目方 1 文目 (青)	156×53	4	2659	
	同 上	同 上	同 上	目方 5 文目 (青)	160×48	6	2660	
	同 上	同 上	同 上	目方 1 文目 (茶)	155×42	13	2661	
	同 上	同 上	同 上	目方 5 分	125×35	3	2662	
	同 上	同 上 *	同 上	同 上	126×36	1	2663	*「摂州組」「泉州組」の添印 あり。
	同 上	同 上	同 上	目方 2 分 (黄)	112×30	2	2664	
	同 上	同 上	同 上	目方 1 分 (赤)	105×27	1	2665	

発行・地名	札 名 称	発行所・引替所	発行年次	額面（色）	サイズ	数量	番号	備 考
宿 駅 札 草 加 宿 足立郡	助 郷 札	草加宿助郷会所	11月2日,	馬 1 疋	150×41	2	645	墨書。「辰馬」の六角形印あり。
	同 上	同 上	11月12日	人足 1 人	150×52	2	646	墨書。「辰人」の楕円形印あり。
			9月22日, 10月22日		150×51			
石 原 宿 大里郡	預り銭札	石原宿御伝馬会所 勘定方		銭 9 文	160×30 162×42	4	644	裏面に「此手形御切手以割符引 替相渡中候」とあり。現熊谷市。

安 房 国

大 名 札								
花 房 西尾氏 3万5000石	米代銭札	花房藩会計局	明治	米代銭624 文（10貫定 相場）	93×35	3	647	明治元年7月駿河藩の成立により、遠州横須賀西尾氏が同年9月入封して花房藩が成立。藩庁は長狭郡横渚村（現鴨川市）。

上 総 国

大 名 札								
飯 野 保科氏 2万石	摂州浜村預り切手（飛地札）	摂州豊嶋郡浜屋鋪引替会所		銀 5 匁（赤）	160×42	1	648	表面下部に「上方領内限，他領不要」とあり。浜村は現豊中市。
	同 上	同 上		銭200文（茶）	158×44	4	649	同上。裏面「此手形持参次才何者ニ而も正銀引替相渡可申候」
	同 上	道場川原引替会所		銀 1 匁（赤）	145×42	3	650	道場川原村は有馬郡のうち。慶安元年より飯野領。現神戸市北区。
	同 上	摂州豊嶋郡浜屋鋪引替会所，引請引替所能勢郡		銀 5 匁 *	154×42	1	651	*「此銭二百四十八文」の押印あり。
	預切手	摂州豊嶋郡浜屋鋪引替会所	安政 3 丙辰	銀 1 匁	159×42	2	652	
	同 上	摂州浜屋鋪引替会所	同 上	銀 5 分	130×35	1	653	
	同 上	同 上	同 上	銀 2 分	114×35	1	654	
	同 上	摂州豊嶋郡浜屋鋪引替会所	同 上	銭100文（灰）	152×42	1	655	
	同 上	摂州豊嶋郡浜屋鋪引替会所，引請引替所能勢郡	同 上	銀 1 匁（赤）	160×42	1	656	

下 総 国

大 名 札								
古 河 土井氏 8万石	作州古河領融通預切手	駅場，弓削引替会所		銀 1 匁（赤）	146×43	1	657	弓削村は久米南条郡のうち。宝暦13年より古河飛地領。現久米南町。
	同 上	同 上		銀 3 分（赤）	126×36	2	658	
	同 上	同 上		銀 2 分（赤）	116×30	1	659	
関 宿 久世氏 5万8000石 *	泉州伏尾銀札（飛地札）	関宿領，中辻吉兵衛	文政丁亥（10）	銀 1 匁 （米 2 升価）	163×42	7	660	* 文久 2 年美濃 1 万石減封，残 4 万8000石。伏尾村は大鳥郡のうち。現堺市。「菱形判」タテ 2 箇の透かし入り。

発行・地名	札 名 称	発行所・引替所	発行年次	額面（色）	サイズ	数量	番号	備 考
結 城 水野氏 1万7000石	(物成札)	東水沼村	戊10月20 日	金 1 朱	135×43	1	661	東水沼村（墨書）は下野国芳賀郡のうち。現芳賀町。町村札とも思われるが、荒木氏は物成とみ札とする（『藩札』上）。

常 陸 国

大 名 札								
水 戸 徳川氏 35万石	(水府国産用所札)	水府国産用所，引替所泉州中之庄湊村里井忠左衛門	安政 3 丙辰	銀 1 匁	155×43	3	665	中之庄湊村は日根郡のうち。現泉佐野市。
	水戸殿直仕入御切手	播州亀山引替役所，水府国産用所	安政 6 己未夏	銀 1 匁	155×37	5	662	表面に「以此手形国産諸品暨金銀任刻引替可申也」とあり。亀山は飾西郡のうち。本徳寺領で現姫路市。
	同 上	同 上	同 上	銀 5 分(青)	148×37	9	664	「以此券四枚換一兩」「支配地通用辛未 5 月限」とあり。「八月御蔵払」とあり，先納切手。裏面に「期月後不用」「裏印無之分不取用」とあり。
	同 上	同 上	同 上	銭 1 匁	155×37	2	663	
	金穀切手	水戸藩会計局		永250文	110×40	2	666	
	(御蔵払米証撫金預り手形)	水戸御囲米取扱役所→久保屋清七	辰 5 月 9 日	南郷米200俵(金10両)	167×115	1	667	
土 浦 土屋氏 9万5000石	米手形（泉州飛地札）	大坂平野屋孫兵衛・平野屋安兵衛，泉州土浦領淡輪引替役所	文久癸亥(3)	銀 1 匁	160×37	2	2670	淡輪村は日根郡のうち。貞享元年より土浦領。文久 2 年土浦藩の陣屋が置かれたという。現泉南郡阪南町。「土」の透かし入り。
下 館 石川氏 2万石	河州白木札（飛地札）	松倉伴吾・松尾九左衛門・岡山八十右衛門・長沢佐右衛門，谷七左衛門・松倉庄兵衛・尾花兵五郎	文政戊子(1)改正	銀 1 匁	159×37	1	668	白木村は石川郡のうち。享保17年から下館石川氏領で陣屋が置かれていた。現南河内郡河南町。
	同 上	河州白木引替役所	同 上	銭100文	155×37	1	669	表面に「支配所限」，裏面に「上下為融通相渡置候，任望正札引替可申者也」とあり。
	銭 札	下館会計局		銭 1 貫文	113×43	1	670	
	同 上	同 上		銭500文	109×39	1	671	
	同 上	同 上		銭100文	100×39	3	672	

東 山 道

近 江 国

発行・地名	札 名 称	発行所・引替所	発行年次	額面（色）	サイズ	数量	番号	備 考
大 名 札 彦 根 井伊氏 35万石	米代銀札	江弼彦根引替所	寛保2壬戌	米2舛 代2匁預	157×39	1	673	汚れ甚しく、文字不鮮明。
	同 上	同 上	同 上	米3斗 代30匁預	165×40	1	674	「寛政11己未年改」の朱印あり。
	同 上	同 上	同 上	米1斗 代10匁預	163×40	2	675	同 上
	同 上	同 上	同 上	米5舛 代5匁預	164×40	2	676	同 上
	同 上	同 上	同 上	米3舛 代3匁預	162×40	2	677	同 上
	同 上	同 上	同 上	米2舛 代2匁預	157×38	1	678	同 上
	同 上	同 上	同 上	同 上	157×39	1	679	「壹錢五厘大蔵省改」朱印押捺
	同 上	同 上	同 上	米1舛 代1匁預	158×39	1	680	「寛政11己未改」
	同 上	同 上	同 上	米5合 代5分預	161×38	3	681	同 上
	同 上	同 上	同 上	米3合 代3分預	164×42	4	682	同 上
	同 上	同 上	同 上	米2合 代2分預	162×40	3	683	同上。裏面図柄「恵比須」
	同 上	同 上	同 上	同 上	160×40	1	684	同上。裏面図柄「鶴亀」
	同 上	同 上	同 上	米5升 代5匁預	162×39	2	685	「三錢八厘大蔵省改」朱印押捺
	同 上	同 上	同 上	米1升 代1匁預	155×38	2	686	「八厘大蔵省改」朱印押捺
	同 上	同 上	同 上	米3合 代3分預	162×40	1	687	「貳厘大蔵省改」朱印押捺
膳 所 本多氏 6万石	錢 札	膳所藩	(明治)	錢1貫200文	136×43	1	688	表面に「右樋ニ預リ置候也」， 裏面に「茶品不用ニ候半・代料 返済可致事」とあり。
	同 上	同 上	同 上	錢600文(青)	125×37	3	692	
	同 上	同 上	同 上	錢300文(黄)	123×36	2	689	
	同 上	同 上	同 上	錢100文(赤)	124×36	2	690	
	同 上	同 上	同 上	錢48文	111×33	4	691	
	煎茶代錢札	膳所産物売捌所， 郡産方御用聞馬杉 庄兵衛・真田武左 衛門・中井次左衛 門		煎茶1袋 代錢100文	103×34	1	693	
水 口 加藤氏 2万5000石	切米代錢札	地方御役所→御勘 定所，御勘定所→ 水口用達引替所	安政丙辰 (3)	米2升 価200銅	165×36	2	697	裏面中央に「稻稔り」の図柄あり。
	同 上	同 上	同 上	米1升 価100銅	164×32	4	698	同 上
	同 上	同 上	同 上	米2合 価24銅	166×31	2	700	同 上
	同 上	同 上	同 上	米1升 価100銅	163×32	1	699a	同上。「八厘大蔵省改」朱印押捺。
	同 上	同 上	同 上	米1升 価100銅(茶)	159×35	1	699b	裏面中央図柄なし。「八厘大蔵 省改」朱印押捺。
大 溝	米代錢札	大溝手形役所，会	(明治)	米2升代錢	160×43	4	694	



発行・地名	札 名 称	発行所・引替所	発行年次	額面（色）	サイズ	数量	番号	備 考
分部氏 2万石	同 上	計方 同 上		1 貫文(茶) 米 1 升代銭 500文(黄)	136×38	2	695	
	同 上	同 上		米 2 合代銭 100文(黄)	94×35	4	696	
西 大 路 市橋氏 1万7000石	米 手 形	西大路御引替所	(明治)	銭100文	159×30	3	701	旧仁正寺藩。文久 2 年改称。 「以六拾八枚金壹両可渡也」 「以六拾四枚金壹両可渡也」の 上に「改六八立」の押掛朱印あり。 「以八枚換金壹両」 「以拾六枚換金壹両」
	同 上	同 上		銭100文	160×30	3	702	
	同 上	西大路会計所 同 上		銭850文	138×41	2	703	
	同 上			銭424文	135×33	1	704	
武佐御役所 札	陸奥国大名札（棚倉松井松平氏）							
旗 本 札								
伊 庭 三枝氏 6500石	種 切 手	江州伊庭種会所		銀 1 匁 預	152×36	1	705	陣屋は神崎郡伊庭村で現能登川町。「以此切手金子引替可相渡也」とあり。
大 森 最上氏 5000石	茶 切 手	江州大森茶会所	弘化丁未 (4)	銀 2 匁	167×32	2	706a	陣屋は蒲生郡下大森村で現八日市市。「以時相場金子引替可相渡也」とあり。また「湖東江頭切手通用」の押印あり。
	同 上 同 上 同 上	同 上 同 上 同 上	同 上 同 上 同 上	銀 2 匁	168×33	2	706b	「文久元酉八月改」の朱印押捺。 引替文言同上。
				銀 1 匁(茶)	167×32	3	707	
				銀 1 匁(茶)	169×33	4	708	
	同 上 同 上	同 上 江州大森茶会所、 引請郷惣代大森村・ 尻無村・上大森村	同 上 同 上	銀 5 分(赤)	168×33	3	709	「文久元酉八月改」 「文久元酉八月改」
				銀 2 匁	161×38	4	710	
	同 上 同 上 (茶会所切手)	同 上 同 上 同 上	同 上 同 上 文久壬戌 (2)	銀 1 匁	160×38	2	711	同 上 同 上 同上。「茶切手」の表示なし。
				銀 5 分(茶)	163×38	3	712	
				銀 3 分(黄)	163×39	2	713	
	同 上 茶 切 手	同 上 江州大森茶会所、 引請郷惣代石原宿・ 小御門村・野口村	万延元申 弘化丁未	銀 2 分(青) 銭100文(茶)	163×39 167×33	2 1	714 715	「慶応三改」「六八立」の押掛押印。
	中 山 関 氏 5000石	豆 切 手	江州中山豆会所	安政丙辰 (3)	銀 1 匁	157×30	5	
(豆会所切手) 同 上		同 上 同 上	文久 3 癸亥 同 上	銀 3 分	160×30	8	717	「豆切手」の表示なし。
				銀 2 分	160×30	1	718	
豆 切 手		同 上	安政丙辰	銀 1 匁	161×30	6	719	「改以六十八匁金壹両可渡也」の押掛朱印押捺。 「慶応元乙丑改」朱印,「価百銅」「以六貫八百文金壹両可相渡」の押掛押印。 「慶応元乙丑改」「価三拾二銅」「六貫八百文金壹両」の押掛押印あり。
同 上		同 上	同 上	銀 3 分				
朽 木	炭代銭札	狛屋仁右衛門・木	文久 3 癸	炭 2 斗	120×37	2	722	朽木の地名は高島郡市場村の別

発行・地名	札 名 称	発行所・引替所	発行年次	額面（色）	サイズ	数量	番号	備 考
朽木氏 4770石	同 上	屋助右衛門・狛屋 伊右衛門，目附中 朽木炭商社，熊勢 仁右衛門・松宮助 右衛門・熊勢伊右 衛門 同 上	亥	代銭48文(茶)	145×45	5	723	称とされる。
	同 上			炭 1 俵 代銭500文				裏面上欄に「まつ」とあり， 「表書之代銭値ニ請取候，此切 手引替無相違相渡可申候」とあ り。
				炭 2 斗 代銭200文	126×39	1	724	裏面上欄に「むめ」，引換文言 は同上。
老 蕪 根末氏 3400石	豆 手 形	江州老蕪引替所， 根末郷蔵	嘉永己酉 (2)	銀 1 匁 預	164×41	2	721	老蕪村は蒲生郡のうち。現安土 町。
長 沢 松平氏	→ 三河国旗本札							
寺 社 札								
拜 戸 御 殿 (禪智院) 122石余	銭 札	手形会所		銭 1 貫 文	148×44	3	725	高島郡上拜戸村。現高島町。 「開拓方掛屋」の添印あり。 裏面の篆刻不鮮明，判読できず。
	預 手 形	開拓方		1 貫 文	124×46	1	726	
三 井 御 殿 (園城寺円 満院) 200石	三井御殿御 代官所上納 米預手形	請負和州服部庄屋 年寄・惣百姓，引 替所喜多左衛門	慶応 2 丙 寅	銀 3 分	142×35	1	727	表面に「御領内融通」とあり。 寺領平群郡服部村は幕領との相 給で現斑鳩町。
	同 上	同 上	同 上	銀 2 分	139×33	1	728	
町 村 札								
大 窪 町 蒲生郡	為替手形	大窪町庄屋	文久 2 壬 戌 2 月	預銭12銅	134×35	1	729	「此手形八枚ニ而価百銅之御切 手壹枚相渡候，取引之儀ハ当町 三組ニ限り候事」とあり。水口 加藤氏領で現日野町。

美 濃 国

大 名 札								
大 垣 戸田氏 10万石	銀 札	大垣銀札所	享保15庚 戌12月	銀 5 匁	167×41	1	730	裏面剥離カ，印刷なし。 「老銭四厘大蔵省改」朱印押捺 「四厘大蔵省改」朱印押捺。
	同 上	同 上	同 上	銀 1 匁(青)	170×41	1	731	
	同 上	同 上	元文 2 丁 巳12月	銀 1 匁(青)	170×43	4	732	
	同 上	同 上	同 上	銀 5 分(黄)	168×41	1	733	
	同 上	同 上	同 上	銀 3 分	170×44	2	734	
	同 上	同 上	同 上	銀 2 分(茶)	164×41	2	735	
	同 上	同 上	同 上	銀 1 分(茶)	135×40	1	736	
	同 上	同 上	同 上	銀 1 匁(青)	164×41	1	737	
野 上 青山氏 4万8000石	米代銀札	畠邑山口銀右エ門・ 山本儀左衛門	(壬申 5 月限)	米代銀 3 匁 7 分 5 厘 預	132×39	8	579	旧大垣新田藩。明治 2 年改称。 畠村は三河国渥美郡のうち。現 渥美町。廃藩置県前後の発行と 思われ，町村札の疑いもあり。 「組合邑限融通」
	同 上	同 上	同 上	米代 2 匁	149×43	1	739	
	同 上	同 上	同 上	米代 1 匁	145×41	1	740	
	同 上	同 上	同 上	米代 5 分	135×36	1	741	
郡 上 青山氏 4万8000石	同 上	同 上	同 上	米代 3 分	114×34	2	742	
	同 上	同 上	同 上					

発行・地名	札名称	発行所・引替所	発行年次	額面（色）	サイズ	数量	番号	備 考
	同 上	同 上	(同上ヵ)	銀 1 分	90×27	1	743	裏面印刷なし（年次の表示なし）
	同 上	同 上	(同 上)	銀 5 りん	85×24	1	744	同 上
今 尾 竹腰氏 3 万石	銭 札	今尾役所，京都大 坂蔵屋舗・大坂館 入出張会所		銭24文預	110×30	1	747	尾張藩家老竹腰氏の所領。明治 元年立藩。今尾村は濃州安八郡 のうち。現海津郡平田町。
高 富 本庄氏 1 万石	羽書(銀札)	引替会所，小引替 石谷村野々村又左 衛門・同芥見村篠 田精兵衛	慶応 2 寅	銀 2 匁預 (青)	158×40	2	745	陣屋村高富は山県郡のうち。石 谷村は方県郡，芥見村は各務郡 のうち。両村とも現岐阜市。 「此羽書以六十四匁金壹両相渡 可申候」
	同 上	同 上	同 上	銀 1 匁預	155×40	3	746	
<b>旗 本 札</b>								
岩 手 竹中氏 5000石	炭代銀札	岩手炭会所	従天保 4 癸巳11月	代銀 1 匁 (灰)	161×40	1	752	陣屋は不破郡岩手中村。現垂井 町。「以六十四枚換小判一両」 「堅炭貫目以時之相場引替渡」
	同 上	同 上		代銀 3 分 (黄)	161×40	1	753	裏面押印のみ，年次の印刷なし
	同 上	同 上		代銀 2 分	150×39	1	754	同 上
多 良 高木氏 2300石	多良領分炭 代用札	京都近江屋，多良 引替所	天保14癸 卯11月	銀 1 匁	157×42	2	748	陣屋は石津郡多良村。現養老郡 上石津村。
	同 上	同 上	同 上	銀 3 分(灰)	160×42	2	749	
	同 上	同 上	同 上	銀 2 分(青)	157×42	1	750	
	同 上	多良西炭会所	嘉永 4	代銀 1 匁	172×43	2	751	「堅炭貫目以時之相場引替相渡」 「以六拾四枚換金壹両」
<b>町 村 札</b>								
領 下 村 厚見郡	釣銀切手	領下村吉屋平左衛 門	明治(2) 初冬	銀 3 匁 7 分 5 厘預り	120×40	1	758	「拾六枚ヲ以金札壹両換」「当 村之外取遣相断」とあり。領下 村は磐城国平藩領で，同藩飛地 札とされているが，濃州平藩領 は明治 2 年 4 月 20 日笠松県下と なる。現岐阜市。
今 尾 村 安八郡	釣銭切手	今尾高持中預切手 締方		釣銭48文預 り(黄)	126×33	5	755	尾張藩家老竹腰氏の陣屋村で， 現海津郡平田町。
	同 上	同 上		釣銭16文預 り(黄)	126×31	4	756	
	同 上	同 上		同 上	127×32	1	757	額面の上部に「寛永通宝」の朱 印押捺。

信 濃 国

<b>大 名 札</b>								
松 代 眞田氏 10万石	金 手 形	松代藩計政局	(午 3 月 限)	金 1 分	105×37	6	770	「支配所済急」とあり。
	信濃国全国 通用札	藩県引換所，松代 藩会計方証印		100文	111×36	1	771	
松 本 戸田氏 6 万石	銭 札	松本会計局	明治 2	600文	114×37	1	772	裏面「藩県引換所印」ほか朱印 (松本藩会計方証印ヵ)
上 田	銀 札	上田商法社	午正月	銀 3 匁 7 分	96×63	2	763	墨書。「当二月限」

発行・地名	札 名 称	発行所・引替所	発行年次	額面（色）	サイズ	数量	番号	備 考
松平氏 5万3000石	同 上	同 上	(明治3) 明治庚午 3月	5厘 銀60匁	121×48	5	764	銅版印刷，裏面番附は墨書。
	同 上	同 上	同 上	銀30匁	111×45	2	765	同 上
	同 上	同 上	同 上	銀15匁	102×42	2	766	同 上
	同 上	同 上	同 上	銀7分5厘	95×40	2	767	同 上
	同 上	同 上	同 上	銀3匁7分 5厘	85×35	4	768	同 上
	信濃全国通 用札	藩県引換所，上田 藩会計方		100文	112×36	1	769	
高 速 内藤氏 3万3000石	高遠限通用 銭札	惣町丁代改		銭500文預	103×41	1	779	裏面に「味噌・塩」の朱印あり。 (町村札ヵ)
	同 上	同 上	(午3月迄)	銭500文預	95×44	1	780	
飯 田 堀氏 1万7000石	金 札		己巳7月 (明治2)	金1分	160×50	1	759	裏面に「権救済窮急」の長印あり。 「信州飯田領限」
飯 山 本多氏 1万5000石	為 替 札	飯山町預人米屋宇 左衛門・嶋田屋大 助・嶋田屋助三郎・ 古服屋十右衛門・ 野田屋重右衛門・ 藤屋銀助・和泉屋 庄右衛門・佐渡屋 宇右衛門	(子正月 限)	32文	97×40	2	760	「三枚ニ而当百引換相渡可申候」
	同 上	同 上	(丑正月 限)	銭32文	109×41	5	761	同 上
	同 上	同 上	同 上	銭16文	97×41	2	762	「六枚ニ而当百引替相渡可申候」
府 県 札								
伊 那 県	信濃全国通 用札	藩県引換所，伊那 県会計方		100文	111×36	1	774	同種の藩札は上田藩・松代藩参 照。
中之条局 埴科郡	同 上	藩県引換所，中之 条局会計方		100文	112×36	2	773	
御 影 局 佐久郡	同 上	藩県引換所，御影 局会計方		100文	111×37	1	775	
塩 尻 局 筑摩郡	同 上	藩県引換所，塩尻 局会計方		100文	111×37	1	776	
町 村 札								
上 田 小県郡	上田市中通 用釣銭切手	町役場		釣銭32文	85×34	1	777	上田藩城下町。「以三枚換当百」
	同 上	同 上		釣銭24文	81×30	1	778	「以四枚換当百」「町方何の見 世ニ而も引替可申候」
ナガ ツキ 長 畝 村 筑摩郡	金預切手	長畝村役元 *		金1両預**	113×50	2	782	* 裏面に「塩尻局下商法会所」 の朱印。**「渡し済」の書入 れあり。墨書。現塩尻市。
飯 沼 村 伊那郡	飯沼通用切 手		明治2己 巳	7匁5分	100×40	2	781	現下伊那郡上郷町。
私 人 札								
奈 良 井 宿 筑摩郡	(組合札ヵ) *	木曾奈良井柗屋		換2朱	106×39	1	783	額面墨書（以下同）。* 発行人 は異なるが，札表面・裏面に押捺 されている数種の印判は全部共
	同 上	同 上		100文	75×33	1	784	
	同 上	木曾奈良井一力屋		換2朱	105×40	1	785	

発行・地名	札 名 称	発行所・引替所	発行年次	額面 (色)	サイズ	数量	番号	備 考
	同 上	木曾奈良井大津屋		換 1 朱	94×38	1	786	通。中仙道の宿場村で現木曾郡 猶川村。

上 野 国

大 名 札								
前 橋 松平氏* 17万石	銭 札	前橋藩会計局	(明治)	銭200文	84×30	1	789	小型札
	同 上	同 上		銭100文	83×27	2	790	同 上
	同 上	同 上		銭 2 貫500 文	110×38	1	791	「上下為融通相渡置候得共、正 銭引替可被下者也」
	同 上	同 上		銭200文	110×38	1	792	同上。* 松平氏の武州川越より 前橋帰城は慶応3年。
高 崎 松平 (大河 内) 氏 9 万石	銭 札	高崎生産局	(明治)	銭200文	93×36	4	787	裏面「於同局引替」
	同 上	同 上		銭100文	85×32	3	788	同 上
館 林 秋元氏 6 万石	館林札 (領 内人足賃融 通銭札) 〈飛地札〉	河州黒土引替会所	明治元戊 辰11月	銭100文	109×40	4	804	黒土町は現堺市。秋元氏は弘化 2 年出羽山形より入封。他に山 形領時の天保12年河州高松札あ り。→出羽国大名札
沼 田 土岐氏 3 万5000石	沼田領通用 河州飛地札	八尾安尾旧三郎・ 沢田松村平兵衛・ 八尾嶋野五兵衛、 沼田屋舗、八尾西 尾三右衛門	天保乙未 (6)	銀 1 匁 (米 2 升価) *	153×39	7	793	河州若江郡八尾木村 (現八尾市)・ 志紀郡沢田村 (現藤井寺市) は 土岐氏領。* 「米式升価時の相 場此証札を以引替可申」
	同 上	同 上	同 上	銀 5 分 (赤) (米 1 升価)	150×38	6	794	
	同 上	同 上	同 上	銀 3 分 (茶) (米 6 合価)	148×37	5	795	
	河州沼田領 通用人足賃 銭札	八尾引替会所 *	明治戊辰 (元)	銭100文	116×40	6	796	* 表面札請の箇所に印判あるも 判読できず。
	銭預券	沼田会替所		銭100文預 券 (灰)	77×25	6	797	小型札
	銭 札	沼田会計局		銭 1 貫文	130×41	5	798	表面下部「大黒」の図柄
	同 上	同 上		銭500文	113×36	2	799	同 上
安 中 板倉氏 3 万石	銭 札	安中会計局 *	(明治)	銭 2 貫500 文	130×43	1	800	* 裏面「為融通差出置候、於産 物会所正銭引替可遣者也」
	同 上	同 上		銭500文	115×43	2	801	同 上
	同 上	同 上		銭100文	81×31	1	802	銅版印刷。表面「双竜」絵柄枠。
	支配所融通 銭札	同 上	明治己巳 (2)	銭100文	67×27	2	803	札面に銀粉塗布。
伊 勢 崎 酒井氏 2 万石	銭 札	伊勢崎会計所	(明治)	銭 5 貫文 (薄茶)	125×35	2	805	未使用札。押印なし。
	同 上	同 上		銭 2 貫500 文 (薄茶)	120×35	1	806	同 上
	同 上	同 上		銭 1 貫文 (薄茶)	118×37	2	807	うち 1 枚、額面の箇所に押印あ り。
	同 上	同 上		銭 5 貫文	356×157 (薄茶)	3	808	伊勢崎会計所銭札 4 種 1 枚刷 (未截断。押印なし)
				銭 2 貫500 文		2		
				銭 1 貫文		2		
				銭500文		2		

発行・地名	札 名 称	発行所・引替所	発行年次	額面（色）	サイズ	数量	番号	備 考
府 県 札 岩 鼻 県 群馬郡	銭預手券	岩鼻県		銭 1 貫248	109×41	3	809	「此券八枚換金札壹両者也」
	同 上	同 上		文預				
	同 上	同 上		銭624文預	90×37	1	810	「此券十六枚換金札壹両者也」
町 村 札								
下 仁 田 町 甘楽郡	為 替 札	下仁田町		銭48文	109×35	1	811	天明 6 年から幕領と旗本小笠原氏の相給町。裏面印刷消滅して干支年判読できず。

下 野 国

大 名 札								
宇 都 宮 戸田氏 7 万850石	銭 札 (釣銭手形)	宇都宮藩会計局	己巳（明治 2）限	1 片換 1 貫	□×44	3	831	* 上部断裁しあり。裏面「宇都宮藩管内限通用」
	同 上	同 上	同上	文 1 片換500文	* □×40	3	832	同 上
壬 生 鳥居氏 3 万石	播州壬生領飛地札（御米価預融通切手）	播州壬生領米会所，引請郷中・加西繁昌村紋治郎・加西中野村才治郎 *	安政 5 午改	銀 5 匁	164×47	3	812	播州壬生領は美濃郡内23ヵ村，加東郡内 4 ヲ村で計8,145 石余。加西郡繁昌村・同中野村（共に現加西市）は他領村。*「引請郷中」の下に「美農加東」印あり。
	同 上	同 上	同 上	銀 1 匁(赤)	150×43	3	813	うち 2 枚「文久三改」印あり。
	同 上	同 上	同 上	銀 1 匁(白)	145×43	9	814	
	同 上	同 上	同 上	銀 5 分	133×40	4	815	
	同 上	同 上	同 上	銀 3 分	126×34	3	816	
	同 上	同 上	同 上	銀 2 分	128×34	1	817	
	同 上	播州壬生領米会所，引請郷中 *	同 上	銀 1 匁(赤)	149×45	1	818	*「美農加東」印刻。
	同 上	同 上	同 上	銀 1 匁(白)	145×44	3	819	
	同 上	同 上	同 上	銀 5 分	128×40	5	820	うち 3 枚「安場」の添印あり。美濃郡安場村は現吉川町。
	同 上	同 上	同 上	銀 3 分	135×35	2	821	
	同 上	同 上	同 上	銀 2 分	128×35	2	822	
	同 上	播州壬生領米会所，引請郷中，加西中野邑三宅弥太夫	同 上 *	銀 1 匁	147×44	5	823	*「癸亥」（文久 3）の改印あり。
	同 上	同 上	同 上	銀 5 分	130×40	7	824	
	同 上	同 上	同 上	銀 5 分	130×40	1	825	「米会所」に「安場」の添印あり。
	同 上	播州国美濃郡米会所，引請郷中，加西朝妻村政之助・同佐兵衛・田原村八五郎	同 上	銀 1 匁(青)	145×45	7	826	朝妻村・田原村とも他領村で，現加西市。
融通切手 和州壬生領飛地札（米切手価預）	融通切手	米会所，引請郷中，引替水車小太夫和州葛下郡鎌田村・野口村米会所 *	同 上	銀 5 分(黄)	112×36	1	827	水車小太夫は加西郡中西村（現加西市）
	同 上	同 上	安政戊午(5)	銀 1 匁	154×38	4	828	*「右之外領内惣百性請負」とあり。壬生領野口村は現大和高田市，鎌田村は現香芝町。
	同 上	同 上	同 上	銀 3 分	146×38	1	829	
	同 上	同 上	同 上	銀 2 分	148×40	2	830	

陸奥国

発行・地名	札名称	発行所・引替所	発行年次	額面(色)	サイズ	数量	番号	備考
<b>大 名 札</b>								
湯長谷 内藤氏 1万5000石	丹波湯長谷 領銀札(飛 地札)	丹州私市蔵元懸屋		銀5匁	156×42	1	887	何鹿郡私市村は天和2年から湯 長谷藩領(旗本武田氏・杉浦氏 の相給)で現綾部・福知山市。
棚倉 松井氏 (松平) 8万石	御切手米 札(江州飛 地札)	御引替江劔武佐御 役所、引替御用達 鈴木忠右衛門・高 井作右衛門・岡忠 兵衛・藤崎政太郎・ 福本一良右エ門		御切手米2 合(銀2分)*	168×39	2	639	*「御蔵米切手定立之相場兩代 七拾式匁」とあり。松井氏の棚 倉在封は天保7年から慶応2年 まで。札の発行年次不明なるも 表面下部に「奥棚隸領江国武駅 官□」の朱印押捺しあり。
磐城平 安藤氏 2万石	釣銀切手 (濃州飛地 札)?	(美濃国厚見郡) 領下村吉屋平左衛 門	明治已(2) 初冬(午 12月限)	銀3匁7分 5厘預り	120×40	1	758	「拾六枚ヲ以金札壹両換」「当 村之外取遣相断」とあり。従来 磐城平藩の飛地札とされている が、安藤氏的美濃領分は明治2 年4月20日笠松県下となってい るので「町村札」かと思われる。
会津 松平氏 23万石	産物会所札	会津産物会所、引 替所播州加東郡小 沢村辻兵七		銀10匁(赤)	185×48	1	833	小沢村(現東条町)は元和3年 幕領、天保14年以降陸奥棚倉藩 領。
二本松 丹羽氏 5万石*	米代銭札	二本松藩会計局生 産方	(明治)	米代1貫 250文	93×39	2	835	*江戸期10万石、慶応4年戊辰 戦争後5万石に減封。
	同上	同上		米代625文	94×39	2	836	
福島 板倉氏 3万石	預り手形	福島中町小嶋屋善 兵衛・上町和泉屋 幸四郎・柳町光白 屋清次郎		銭50文	115×37	3	834	裏面に「此節小銭払底ニ付此手 形差出□□□□当百銭文ケ御持 参被成候へハ何時成共正銭ニ切 替可申候」とあり。
仙台 伊達氏 62万石	銀札		(天保*)	30匁(薄茶)	116×43	1	838	俗称「天明飢饉札」とされるが 天明の銀札は30匁額面なし。表 面上部に「天保定爾」の朱印。
	同上		同上	15匁(黄)	110×38	5	839	同上
	同上		同上	7匁5分(黄)	97×32	6	840	表面上部「降福孔皆」丸型朱印。
	同上		同上	3匁7分5 厘(黄)	85×21	1	2680	
	両替所預り 金札	両替所→為替組中		金1切	157×51	2	841	裏面上部「正金銀え引替可相渡 候事」と印刷した西陣織布を貼付。
	両替所改正 預り金札	同上		金1切	158×52	1	842	裏面上部西陣織布引替文言の前 に「改正」の二字を加う。
	両替所預り 金札	同上		金1朱	151×45	6	843	西陣織布引替文言貼付。うち3 枚は未完成札。
	銭預り切手	仙台御蔵元	己未(安 政6)	銭50文(青)	135×31	1	844	『仙台貨幣志』には「米札」と あり。
	同上	同上	同上	銭30文(赤)	136×30	3	845	
	同上	同上	同上	銭20文(茶)	136×31	4	846	
	両替所預り 銭札 (文久山日払 手形)*	両替所→為替組中	7月朔日*	代1貫文	193×65	1	847	*『仙台貨幣志』は明治戊辰ノ 発行ナランとあり。墨書。
	(米札)	制市局(黒印)	(明治*)	(額面なし)	95×41	1	2681	*『同上書』には藩営鉾山とし て藩札に収録するも、鉾山札に 配す。 裏面印判のみの未完成札。表面 には「百十番」の後筆墨書あり。

発行・地名	札名称	発行所・引替所	発行年次	額面(色)	サイズ	数量	番号	備考
	網糸札	制市局産業開カ (青印)	同上	網糸100目	123×46	1	2682	
盛岡 南部氏 20万石  (以下、準藩 札)	盛岡切手 (米代銭札)	引替会所	天保6	銭2貫文 (米4斗代)	164×42	1	851	俗称「七福神札」とされ、表面 頭判は「寿老人」
	同上	同上	同上	銭1貫文 (米2斗代)	162×41	1	852	表面頭判は「毘沙門」
	同上	同上	同上	銭200文 (米4升代)	164×40	4	853	表面頭判「大黒」
	同上	同上	同上	銭100文 (米2升代)	162×41	3	854	表面頭判「恵比須」
	同上	同上	同上	銭32文 (米7合代)	160×40	2	855	表面頭判「布袋」
	同上	同上	同上	銭24文 (米5合代)	163×41	4	856	表面頭判「福祿寿」
	盛岡通用銭 札	盛岡国中産物仕入 方、大坂蔵元出店 鴻池伊助	弘化4丁 未	銭12文預 (赤)	72×29	1	857	
	預り切手	常陸屋伝右衛門	極月	銭1貫500 文預り	173×75	1	858	墨書。*「己亥改」朱印あり。 天保10カ。
	同上	ひたちや伝右衛門		銭300文	155×38	1	859	墨書。裏面に「切手引替相渡可 申候」の印判あり。
	同上	盛岡呉服町壺丁目 井筒屋善助→井筒 屋権右衛門殿	天保13寅 7月	銭5貫文	174×160	2	860	墨書。
	同上	井筒屋権右衛門	乙巳(弘化 2)12月	金2歩	170×76	1	861	墨書。
	同上	同上	同上	金2朱	165×75	1	862	墨書。
	同上	同上	丙午(弘化 3)12月	金2歩	172×79	1	863	墨書。
	同上	井筒屋善助	弘化3午 12月	金1歩	168×77	1	864	墨書。
	同上	鍵屋茂兵衛	午9月 (弘化3カ)	金2朱	158×70	1	865	墨書。
	同上	同上	丁未(弘化 4)6月	金2朱	167×86	3	866	墨書。
	同上	同上	午極月	銭2貫文	163×77	1	867	墨書。
	同上	同上	巳10月	銭1貫文	166×81	1	868	墨書。
	同上	同上	午極月	銭500文	164×77	1	869	墨書。
	同上	盛岡城下近江屋清 八	酉12月20 日	銭500文	190×86	1	870	墨書。
	同上	同上	戌10月26 日	銭1貫文	190×87	1	871	墨書。
	同上	盛岡葺手丁五十集 問屋市助	寅4月27 日	340貫文	157×146	1	872	墨書。
	同上	五十集問屋市助→ 近江屋八右衛門殿	酉閏4月 30日(嘉 永2カ)	金15両	154×176	1	873	墨書。
	同上	盛岡呉服丁式丁目 洪屋善兵衛→洪屋 又六殿	明治3午 5月	銭5貫文	161×78	2	874	墨書。
	同上	盛岡福岡通一戸町 西側田村屋茂吉	弘化4未 5月	銭1貫文	167×45	1	875	墨書。(以下は私人札カ)
	同上	同上	同上	銭500文	166×74	1	876	墨書。
	同上	同上	同上	銭300文	166×75	1	877	墨書。
	同上	同上	同上	銭200文	168×75	1	878	墨書。
	同上	同上	同上	銭100文	167×75	1	879	墨書。



発行・地名	札名称	発行所・引替所	発行年次	額面(色)	サイズ	数量	番号	備考
	同 上	同 上	同 上	金 2 朱	165×74	1	880	墨書。
	同 上	同 上	弘化 4 未 8 月	金 1 歩	167×74	1	881	墨書。
	同 上	館屋伊助→花輪伊勢屋小兵衛殿	慶応 4 辰 12 月	銭 2 貫文	163×101	4	882	墨書。
	同 上	同 上	明治元辰 12 月	銭 1 貫文	161×90	1	883	墨書。
	同 上	同 上	慶応 4 辰 12 月	銭500文	156×104	1	884	墨書。
	同 上	同 上	明治元辰 12 月	銭300文	150×65	1	885	墨書。
弘 前 津軽氏 10万石	銭 札	宮崎八十吉	西 9 月	銭20目預	151×53	3	888	墨書。
	同 上	同 上	同 上	銭 7 匁預	155×53	3	889	墨書。
	同 上	同 上	同 上	銭 5 匁預	153×53	2	890	墨書。
	同 上	同 上	同 上	銭 1 匁預	151×52	3	891	墨書。
	同 上	同 上	同 上	銭 5 分預	152×54	3	892	墨書。
	同 上	同 上	同 上	銭28文目預	157×60	6	893	墨書。「ツカル」透かし文字入り。
	同 上	同 上	同 上	銭15文目預	155×54	2	894	墨書。
	同 上	同 上	同 上	銭10文目預	155×54	2	895	墨書。
	同 上	同 上	同 上	銭 7 文目預	155×53	5	896	墨書。
	同 上	同 上	同 上	銭 5 文目預	156×53	6	897	墨書。
	同 上	同 上	同 上	銭 3 文目預	154×53	2	898	墨書。
	同 上	同 上	同 上	銭 2 文目預	153×54	3	899	墨書。
	同 上	同 上	同 上	銭 1 文目預	154×54	5	900	墨書。
	金 札	今村九左衛門・武田熊七・野村常三郎・一戸卯三郎	巳 8 月 (明治 2 年)	金 1 両預	166×66	2	901	額面のみ墨書。額面の右脇に㊥朱印押捺。
	同 上	同 上	同 上	金 2 分預	168×65	1	902	額面墨書。額面の右脇に㊥朱印押捺。
鉾 山 札								
文 久 山 磐井郡鳥海村*	日払手形	文久山日払所	4 月 17 日 6 月朔日	代400文	157×51	3	848	表面墨書。裏面「金代到着次第此手形え引替相渡可申候事」と印刷。* 鳥海村は仙台領で現大東町。
	同 上	同 上	9 月 2 日	代200文	150×42	1	849	表面墨書
	同 上	同 上	3 月 28 日 5 月朔日 7 月 16 日	代100文	150×42	3	850	同 上
仙人鉄鉾山 和賀郡*	日払手形	仙人鉄鉾山日払所 →藤実屋七之助殿	午 7 月	銭500文	185×88	2	886	墨書。* 現和賀町。盛岡藩領。

出 羽 国

大 名 札								
山 形 秋元氏 6 万石	河州山形領 米札(飛地 札)	鷹野与三郎・楠本 与三兵衛, 引替所 河州高松	天保12辛 丑 2 月	銀 2 匁(青)	145×37	1	903	秋元氏は武州川越より明和 4 年 出羽山形入封, 弘化 2 年上州館 林へ転封。丹南郡高松(現堺市) は川越時代より秋元氏飛地領。
	同 上	同 上	同 上	銀 1 匁	148×38	2	904	
米 沢 上杉氏 14万7000石	金 札	御引替所	(未午 2 月限)	金 2 朱(灰)	95×41	2	905	「米沢通用以四枚換二分」
	同 上	同 上	同 上	金 1 朱(黄)	82×36	2	906	「米沢通用以八枚換二分」

発行・地名	札 名 称	発行所・引替所	発行年次	額面 (色)	サイズ	数量	番号	備 考
	預 銭 札	米藩商法会所	午 3 月 (明治 3)	預銭200文 (灰)	91×35	2	907	裏面に「御金蔵」「改所」などの押印あり。
	米沢通用銭札	商法局		銭200文	90×35	3	908	
久 保 田 佐竹氏 20万5800石	羽州秋田銀札	札元能登屋髯兵衛・栗林八郎兵衛・京野与四郎	宝暦 4 甲戌	銀10匁	152×43	2	909	* 発行年次は佐藤清一郎『秋田貨幣史』に拠る。  * 年次の印刷なし。  墨書。前掲『秋田貨幣史』は準藩札とされる。 墨書。「換正銭」の朱印及び「戊辰」の黒印押捺。
	同 上	札元福田七兵衛・斎藤勘左衛門・戸嶋長兵衛	同 上	銀 5 匁	153×40	1	910	
	同 上	札元見上新右衛門・高橋太右衛門・富岡八左衛門	同 上	銀 2 匁	152×42	1	911	
	同 上	札元大野小八郎・小西久兵衛・高橋六郎兵衛	同 上	銀 1 匁	156×43	1	912	
	預り銭札	久保田会所, 大阪引換取扱堂嶋久々知屋吉兵衛	(天保11. 3) *	10もん(茶)	110×28	1	913	
	銭 札	久保田会所, 大阪引替取扱加嶋屋弥十郎・辰巳屋欣助	慶応元乙丑	銭100文 (薄赤)	122×31	1	914	
	同 上	同 上	同 上	銭50文(青)	120×30	4	915	
	同 上	同 上	*	銭10文預 (薄茶)	75×24	1	916	
	預り札	諸上納役所	甲辰(天保15ヵ)	銭10貫文	242×58	2	917	
	同 上	同 上	戊辰(慶応 4)	銭500文	173×54	77	2705	
<b>町 村 札</b>								
横 手 町 平鹿郡	平鹿御百姓通用札	横手町	午 2 月 25 日 *	銭100文	175×60	3	918	「預置中候, 横手町」「拾メ文ヲ以壹両ニ換」, 「従一分以上引替可申候」.* 「当三月晦日引替其後捨」等の押印あり。
<b>私 人 札</b>								
前 田 村 秋田郡	預り札	庄司兵藏	壬辰(天保 3 ヵ) 11月16日	銭100文預	249×59	2	919	墨書。「持参主不覚引受御無用」。前田村は阿仁前田村を経て現森吉町。庄司家は大正 ~ 昭和の小作争議で著名な大地主。

# 北 陸 道

## 若 狭 国

発行・地名	札 名 称	発行所・引替所	発行年次	額面（色）	サイズ	数量	番号	備 考
小 浜 酒井氏 10万3500石	大 名 札 米 手 形	米手形役所，用人 中	寛政10戊 午	米 4 斗 代銀20匁	159×58	4	920	表面頭判「鶴」
	同 上	同 上	同 上	米 1 斗 代銀 5 匁	160×58	4	921	表面頭判「亀」
	同 上	同 上	同 上	米 2 升 代銀 1 匁	157×57	5	922	表面頭判「松」
	同 上	同 上	同 上	米 1 升 代銀 5 分	159×60	5	923	表面頭判「竹」
	同 上	同 上		銀 2 分	126×40	2	924	「表書之通当分錢払底ニ付通用 可被致者也，用人中」とあり。
	同 上	同 上		銀 1 分	123×39	2	925	同 上

## 越 前 国

福 井 松平氏 32万石	大 名 札 銀 札	駒屋・荒木	文化（14 ヵ）	銀10匁（茶）	174×50	1	932	裏面頭判「大黒」，下判「馬 （午）」。額面墨書。
	同 上	荒木・駒屋	天保	銀10匁	175×80	2	933	裏面頭判「毘沙門」，下判は 「馬」。額面墨書。
	同 上	駒屋・荒木	安政	銀10匁	172×50	1	934	裏面頭判「布袋」，下判は「馬」。 額面墨書。
	同 上	同 上	同 上	銀 5 分	145×37	1	935	裏面頭判「布袋」，下判は「兎 （子）」。額面墨書。
	同 上	荒木・駒屋（籠字）	万延	銀20目	171×51	1	936	額面（墨書）の下部に「大目」 の青印。裏面頭判「恵美須」， 下判は「竜（辰）」ヵ。
	同 上	同 上	万延ヵ	銀10匁	170×50	1	937	裏面頭判恵美須，下判は「馬」。 額面墨書。
	同 上	同 上	万延	銀 5 匁	159×45	2	938	額面墨書。中目札。
	同 上	同 上	万延	銀 2 匁	164×46	3	939	額面墨書。中目札。裏面頭判 「恵美須」，下判は「犬（戌）」
	同 上	同 上	万延	銀 1 匁	161×46	3	940	額面墨書。中目札。裏面頭判は 「恵美須」下判は「猪（亥）」。
	同 上	同 上	元治	銀100匁 （茶）	173×53	1	941	額面墨書。大目札。裏面頭判 「恵美須」下判は「宝亀」
	同 上	同 上	慶応	銀50匁	175×53	1	942	額面墨書。大目札。裏面頭判 「恵美須」下判は「虎」（寅）。
	銭 札	駒屋・荒木	慶応	銭500文	124×39	3	943	裏面の図柄，「大黒」と「馬」。
	同 上	同 上	慶応	銭100文ヵ	124×38	1	944	裏面頭判「大黒天」，下判「犬」。 「八厘大蔵省改」朱印押捺。
	同 上	同 上	同 上	銭50文	115×36	1	945	裏面頭判「大黒天」，下判「亥」 （猪）。「四厘大蔵省改」朱印。
	同 上	同 上	明治	銭 2 貫文 （黄）	147×47	1	946	額面墨書。裏面頭判「大黒天」， 下判「麒麟」ヵ。
	同 上	同 上	同 上	銭 1 貫文	145×47	1	947	額面墨書 裏面頭判「大黒天」， 下判「宝亀」ヵ。
丸 岡 有 馬 氏 5 万石	銀 札	両替札座	宝暦通宝	銀10匁	175×50	3	948	額面墨書。
	同 上	同 上	同 上	銀 3 匁	163×46	1	949	額面墨書。
	同 上	同 上	文政通宝	銀10匁	174×52	2	950	額面墨書。白宝珠札。
	同 上	同 上	同 上	銀 5 匁	171×48	2	951	額面墨書。黒宝珠札。
	同 上	札座	天保通宝	銀10匁	173×52	7	952	額面墨書。

発行・地名	札名称	発行所・引替所	発行年次	額面(色)	サイズ	数量	番号	備考
鯖江 間部氏 4万石	絹糸代切手	産物会所	文久	銀5匁	155×45	1	931	額面墨書。汚れ甚しく判読困難。
大野 土井氏 4万石	銀札	両替札座	嘉永戊(3)	銀3匁	160×45	1	926	額面墨書。「三銭五厘大蔵省改」朱印押捺。
	同上	同上	同上	銀3分	143×38	1	927	額面墨書。
勝山 小笠原氏 2万2777石	銀札	両替札座	宝暦	銀1匁(桃)	151×44	1	928	額面墨書。
	同上	同上	同上	銀4分	142×38	2	929	額面墨書。
	同上	同上	同上	銀3分	142×38	2	930	額面墨書。
<b>町 村 札</b>								
敦賀町 敦賀郡	預り切手	敦賀町中、敦賀融 通方	慶応4戊辰	5匁	158×55	1	953	額面墨書。「以六十四文目楮幣 壹両換」「仍都合預之」の印判 あり。若州小浜藩領。
	同上	同上	同上	銀1匁	113×39	5	954	同上
	同上	同上	同上	銀5分	95×38	1	955	額面墨書。
<b>私 人 札</b>								
岩本村 今立郡		岳本村小林		荷1箇	148×38	2	956	岩本村は越前和紙の産地として 著名な五箇村のうち。福井藩領 で現今立町。越前奉書工賃切手 とする説もあるが、荷札の可能 性もある。墨書。
		同上		並1人	138×36	2	957	墨書。

## 加 賀 国

<b>大 名 札</b>								
金沢 前田氏 102万5000石	銀札	加陽銀仲	(嘉永4ヵ)	銀3匁預り	168×58	1	959	墨書。表面上部に丸形割印あり。
	同上	同上	同上	銀1匁預り	139×58	1	960	同上
	同上	同上	(安政5ヵ)	銀5匁預り	183×59	1	958	墨書。表面上部に八角形割印あり。
	同上	同上	同上	銀5分預り	123×56	1	961	同上
	同上	銀仲	(元治元ヵ)	銀3匁預り	145×61	1	963	墨書。表面中央の大絵判内額面入り。
	同上	同上	同上	銀1匁預り	145×61	1	964	同上
	同上	同上	同上	銀1匁預り	141×59	1	965	同上。「五厘大蔵省改」朱印押捺。
	同上	同上	同上	銀5分預り	128×60	1	962	墨書。表面中央の大絵判内額面入り。
	同上		(慶応4ヵ)	銭100文	120×52	1	979	墨書。
	銭札		(明治3ヵ)	銭10貫文	221×86	4	966	墨書。表面に「鑑定」の角印押捺。
	同上		同上	銭3貫文	201×67	2	967	同上
	同上		同上	銭1貫文	191×59	4	968	同上
	同上		同上	銭500文	175×57	2	969	同上
	同上		同上	銭500文	175×60	3	970	同上「式銭五厘大蔵省改」朱印押捺。
	同上		同上	銭300文	160×59	1	971	墨書。
	同上		同上	銭300文	162×59	4	972	墨書。「壹銭五厘大蔵省改」朱印押捺。
	同上		同上	銭200文	147×58	4	973	墨書。
	同上		同上	銭200文	147×58	4	974	墨書。「壹銭大蔵省改」朱印押捺。
	同上		同上	銭100文	135×59	2	975	墨書。

発行・地名	札名称	発行所・引替所	発行年次	額面（色）	サイズ	数量	番号	備考
	同上		同上	銭100文	130×57	8	976	墨書。「五厘大蔵省改」朱印押捺。
	同上		同上	銭50文	120×60	7	977	墨書。
	同上		同上	銭50文	122×60	4	978	墨書。「貳厘大蔵省改」朱印押捺。
(以下三町準藩札)								
鶴来町 石川郡	銀預り札	<sup>(ツルギ)</sup> 鶴来寄所			145×59 (黄)	1	980	未完成札。裏面に四種の押印あるのみで、額面の記載なし。
本吉町 石川郡	銭札	銭方才許九兵衛・勘兵衛		銭30文預り (赤)	103×44	2	982	現美川町。墨書。
小松町 能美郡		勘定方		銭100文 (黄)	109×46	1	981	墨書。
大聖寺 前田氏 10万石	銭札	銭預所		1貫文	157×45	2	983	額面墨書。
	同上	?		100文預り	145×43	1	984	額面墨書。裏面三味線胴型判。
	同上	?		50文預り	126×44	1	985	手すれで印刷不鮮明。

## 越中国

大名札								
富山 前田氏 10万石	銭札預り手形	御福屋和兵衛→町御吟味所、引替所両替屋	巳8月	5貫文銭札	185×75	1	986	表面墨書。御福屋和兵衛の署名の箇所の茶色の角印は「越富覚中町御福屋伝右衛門」。
	同上	同上	同上	200文銭札	162×70	2	987	同上。裏面「官署符信」の押印。
	同上	富山二番町吉川屋八十助→町御吟味所、引替所両替屋	同上	1貫文銭札	165×70	2	988	表面墨書。裏面同上。
	同上	中屋清次郎→町御吟味所、引替所両替屋	同上	1貫文銭札	168×67	1	989	同上
	同上	佐々川屋忠蔵→町御吟味所、引替所両替屋	同上	1貫文銭札	168×70	1	990	同上
	同上	鳥羽屋平兵衛→町御吟味所、引替所両替屋	同上	1貫文銭札	167×68	1	991	同上
	同上	播磨屋宗十郎→町御吟味所、引替所両替屋	同上	1貫文銭札	173×76	1	992	同上
	同上	越中富山中町山室屋茂兵衛→町御吟味所、引替所両替屋	同上	1貫文銭札	165×70	1	993	同上
	同上	同上	同上	200文銭札	158×65	1	994	同上
	同上	安田屋治兵衛→町御吟味所、引替所両替屋	同上	500文銭札	165×71	1	995	同上
	同上	洪屋長兵衛→町御吟味所、引替所両替屋	同上	200文銭札	162×67	1	996	同上
	同上	河上屋清右衛門→町御吟味所、引替所両替屋	同上	200文銭札	158×68	1	997	同上
	同上	寅屋久右衛門→町	同上	200文銭札	160×67	1	998	同上

発行・地名	札名称	発行所・引替所	発行年次	額面(色)	サイズ	数量	番号	備考
	同 上	御吟味所, 引替所 両替屋 中屋健吉→町御吟 味所, 引替所両替 屋	同 上	200文銭札	160×68	1	999	同 上
	同 上	福居屋徳右衛門→ 御郡御役所, 引替 所両替屋	同 上	2 貫文銭札	168×70	1	1000	表面墨書。
	同 上	越中八尾大久保屋 角兵衛→御郡御役 所, 引替所両替屋	已 8 月 15 日	1 貫文銭札	172×72	1	1001	同 上
	同 上	田中屋与治兵衛→ 御郡御役所, 引替 所両替屋	同 上	1 貫文銭札	171×71	1	1002	同 上
	同 上	同 上	同 上	500文銭札	178×70	1	1003	同 上
	同 上	同 上	同 上	300文銭札	173×71	1	1004	同 上
	同 上	吉友屋甚右衛門→ 御郡御役所, 引替 所両替屋	同 上	1 貫文銭札	171×73	1	1005	同 上
	同 上	四方浦屋徳右衛門 →御郡御役所, 引 替所両替屋	已 8 月	1 貫文銭札	175×61	1	1006	同上。 <sup>ヨコカタ</sup> 四方村は婦負郡のうち。 現富山市。
	同 上	飛騨屋久四郎→御 郡御役所, 引替所 両替屋	已 8 月 15 日	1 貫文銭札	163×74	1	1007	表面墨書。
	同 上	同 上	同 上	300文銭札	165×70	1	1008	同 上
	同 上	紺屋徳右衛門→御 郡御役所, 引替所 両替屋	同 上	300文銭札	171×71	1	1009	同 上
	同 上	八尾桐谷屋与右衛 門→御郡御役所, 引替所両替屋	同 上	300文銭札	165×69	2	1010	同上。 <sup>ヤツオ</sup> 八尾町は婦負郡のうち。
	同 上	同 上	同 上	200文銭札	166×69	1	1011	同 上
	同 上	同 上	同 上	100文銭札	166×69	1	1012	同 上
	預り手形	岩瀬屋嘉右衛門→ 御屋敷様	亥 8 月 15 日	1 貫文預り	167×58	1	1013	墨書。
	同 上	越富尾山屋善助→ 御屋敷様	亥 10 月	1 貫文銭	172×71	1	1014	墨書。
	同 上	富山大沢屋平七→ 町御吟味所	未 2 月 10 日	金 1 歩預り	170×68	1	1015	同 上
	同 上	稻荷町和泉屋久治 郎→町御吟味所	午 年	金 2 朱(青)	158×68	1	1016	表面墨書。稻荷町は富山城下。
	同 上	八幡屋長治郎→町 御吟味所	寅 8 月	金 1 歩	168×74	1	1017	墨書。
	同 上	井沢屋和兵衛→町 御吟味所	同上	金 1 歩	165×72	1	1018	同上。裏面に「拾老枚之内」と あり。
	同 上	文珠寺屋忠右衛門 →町御吟味所	寅 5 月	金 1 歩	164×60	1	1019	墨書。
	正金手形	杉山屋儀三郎→町 御吟味所	子 9 月 29 日	1 歩	188×69	1	1020	同 上
	預り手形	仏生寺屋与兵衛→ 町御吟味所		金 1 歩	165×83	1	1021	同 上
	同 上	見角屋文次郎→御 吟味所	申 5 月	金 2 朱	168×70	1	1022	同 上
	同 上	草島屋平右衛門→ 町御吟味所	未 5 月 3 日	金 2 朱預り	175×61	1	1023	印刷
	同 上	岩瀬屋庄兵衛→町 御吟味所	午 年	金 1 朱預り	171×59	1	1024	同上。裏面に「富山砂町ぬり箸 店」の店商標印あり。

発行・地名	札名称	発行所・引替所	発行年次	額面(色)	サイズ	数量	番号	備考
	同上	洪屋今右衛門→頼母子御役所		金1両預り	165×78	2	1025	墨書。
<b>私人札</b>								
富山 新川郡 婦負郡	預り手形	川上屋治助→小西屋□二郎様	亥8月9日	500文預り	168×66	1	1026	墨書。
	預り切手	橘屋太七	戊9月	銭100文預	164×48	1	1027	墨書。
	同上	同上	丑年	銭50文預	145×45	1	1028	墨書。
	同上	洪屋長兵衛	巳年	銭300文預	145×52	1	1029	印刷
	同上	富山西町福沢屋甚蔵	未11月	1歩	170×72	1	1030	墨書。
	預り手形	南田町長江屋三郎 右エ門→室屋和兵衛様	(丑年渡り)	金1両預り	170×68	1	1031	墨書。
	預り切手	竹屋伊助	戊正月	2朱預り	168×54	1	1032	墨書。
	同上	大田口町野口屋久五郎	丑年	銭100文預	155×50	1	1033	印刷 「印紙ニ而渡シ」の朱印押捺。
	同上	日俣屋安太郎	酉11月	銀1匁預り	165×44	1	1034	印刷、裏面に「富山大田口町日俣屋安太郎御菓子所」の店印あり。商品切手カ
東岩瀬浦町 新川郡	預り切手	経堂屋与五郎	巾年	銭100文預	160×55	1	1035	墨書。加賀藩領で、現富山市。
東水橋村 新川郡	預り切手	米屋宇吉	明治元年	1貫文預	166×51	3	1036	印刷。加賀藩領で、現富山市。
	同上	同上	同上	500文預	161×52	1	1037	
上市村 新川郡	預り切手	種屋助吉	慶応3卯	1貫文預	163×53	1	1038	表面に「上市役所」の紫印と、「種与様」の書入れあり。加賀藩領で現上市町。虫喰いあり。表面に「肝煎改所」の茶角印と「種与様」の書入れあり。同上。(虫喰いあり)裏面に「商人当座差引残」の印刷あり。前出札も同様なれど判読困難。「上市役所」の紫印と「多与様」の書入れあり。札の印刷は種屋助吉と共通。「上市役所」の紫印と「多根助」の墨書宛書あり。「右二枚ヲ以引替可申候、以上」とあり。「邨内限融通」の押印あり。但し上市村とする根拠はないが、帯封に従う。町村札カ。同上
	同上	同上	同上	500文預	165×49	2	1039	
	同上	同上	同上	300文預	165×51	2	1040	
	同上	同上	同上	200文預	153×50	1	1041	
	同上	同上	同上	100文預	152×46	1	1042	
	同上	種屋與助	同上	500文預	165×49	1	2678	
	預り切手	森屋平三		50文預り	111×53	1	1043	
	(融通切手)			銭200文預	156×54	2	1044	
	同上			銭100文預	103×40	2	1045	
高岡 射水郡	預り切手	鍋屋仁右衛門	寅年	銭200文預 (茶)	177×49	1	1046	表面墨書。裏面に「越高岡坂下町、中ノわたや・糸綿本綿仕入店、渡方暮限・紛失不存」と印刷しあり。加賀藩領。墨書。
	預り札	福田屋小左衛門	丑3月	500文預り	185×61	1	2707	
福野村 砺波郡	預り切手	塩屋五兵衛	寅年	銭200文 (茶)	167×56	1	1047	表面墨書。加賀藩領で現福野町。

越 後 国

発行・地名	札 名 称	発行所・引替所	発行年次	額面（色）	サイズ	数量	番号	備 考
大 名 札								
新 発 田 溝口氏 10万石	銭 札	新発田銭札所		銭500文	106×42	4	1048	表面「領内通用」の朱印押捺。
	同 上	同 上		銭300文	100×38	2	1049	同 上
	同 上	同 上		銭100文	90×36	3	1050	同 上
	同 上	同 上		銭50文	75×36	2	1051	同 上
村 上 内藤氏 5万石	金 札		(末庚午7月限)	金 1 朱	90×33	2	1052	表面下部に「村上通用」、裏面の「末庚午7月限」は明治3年。辛未7月は明治4年。
	同 上	会計局	(末辛未7月限)	金 2 朱	86×36	1	1053	
村 松 堀 氏 3万石	銭 札	村松会計	(明治)	銭 1 貫文	121×45	1	1054	表面中央に「村松藩府」の朱印押捺。



# 山 陰 道

丹 波 国

発行・地名	札 名 称	発行所・引替所	発行年次	額面（色）	サイズ	数量	番号	備 考
大 名 札 篠 山 青山氏 6万石	銀 札	平野恒之進・斉藤藻一郎	亥 8月13日	銀 2 匁	227×77	1	1086	墨書。
	同 上	平野恒之進・河合与八郎	寅 8月15日	銀 1 匁	225×76	1	1087	墨書。
	同 上	平野佐十郎・園田仁左衛門	酉 2月 8日	銀 1 匁	227×77	1	1088	墨書。
	同 上	園田仁左衛門・平野佐十郎	寅 2月 8日	銀 1 匁	230×78	1	1089	墨書。
	同 上	平野恒之進・河合与八郎	丑正月 8日	銀 5 分	208×70	1	1090	墨書。
	同 上	園田仁左衛門・平野佐十郎	午正月23日	銀 3 分	229×81	1	1091	墨書。
	同 上	平野恒之進・河合与八郎	子12月11日	銀 2 分	211×67	1	1092	墨書。
	同 上	平野恒之進・河合与八郎	丁卯	銀 1 匁(赤)	145×44	1	1093	墨書。額面の箇所に「銭四拾八文換」の押印あり。
	同 上	同 上	戊辰	銀 5 匁(赤)	147×44	1	1094	墨書。「銭貳百四拾八文換」の押印あり。
	同 上	同 上	戊辰	銀 5 分(灰)	148×44	1	1095	墨書。「銭廿四文換」の押印あり。
	同 上	同 上	己巳	銀10匁	148×45	1	1096	墨書。「銭五百文換」の押印あり。
	同 上	同 上	己巳	銀 3 匁(赤)	147×44	1	1097	墨書。「銭百四拾八文換」の押印あり。
	銭 札	丹州篠山商社用場	(明治)	銭 1 貫文	107×36	1	1098	
	同 上	同 上		銭100文(青)	86×33	2	1099	
亀 山 松平氏 5万石	丹州亀山札	引替所喜多町	(寛延通用)	10匁(灰)	163×47	4	1055	亀山藩は明治 2 年亀岡藩と改称。表面下部に「如岡如陵」の押印あり。
	同 上	同 上	同 上	10匁(灰)	162×47	1	1056	「如岡如陵」の押印と「四銭四厘大蔵省改」の朱印押捺。
	同 上	同 上	同 上	5 匁(赤)	165×44	3	1058	「如岡如陵」の押印あり。
	同 上	同 上	同 上	1 匁(青)	155×43	4	1060	裏面中段に「如岡如陵」の押印あり。
	同 上	同 上	同 上	1 分(茶)	150×42	3	1062	同 上
	同 上	同 上	同 上	10匁(灰)	150×49	2	1057	「如岡如陵」の押印なし。
	同 上	同 上	同 上	5 匁(茶)	150×45	3	1059	同 上
	同 上	同 上	同 上	1 匁(青)	141×43	1	1061	同 上
	丹波国亀山札（備中飛地札）	備中領分引替所本篠屋・柳屋・藤野屋・柳屋・繁屋・番屋・油屋・津根屋	同 上	1 匁(青)	189×43	6	1063	亀山藩の備中飛地領は浅口郡のうち。
	同 上	備中玉嶋引替所他 *	同 上	1 匁(青)	150×40	20	1064	* 他に「備中上成正木屋」「備中又串房屋」などの押掛印が辛うじて判読されるが、汚れ甚し。
福 知 山 朽木氏 3万2000石	銭 札	福知山引替所	明治 2 *	銭48文	99×30	1	1076	* 裏面に「安永三甲午歳九月発行改」の添印あり。
	同 上	?	?	2 分(青)	136×32	1	1065	汚れ甚しく印刷不鮮明。

発行・地名	札 名 称	発行所・引替所	発行年次	額面(色)	サイズ	数量	番号	備 考
園 部 小出氏 2万6711石	丹州園部札	宮町掛屋・本町新屋	(享保通宝)	5 匁 (赤・茶)	152×50	2	1066	
	同 上		同 上	1 匁(赤)	150×45	4	1067	
	同 上		同 上	5 分(青)	131×42	1	1068	
	同 上		同 上	1 分	136×43	2	1069	
柏 原 織田氏 2万石	丹波栢原札	丹波氷上郡栢原札所土田文七郎・亀屋次郎兵衛、笹川弥左衛門 *	享保16辛亥 3 月	銀10匁(茶)	231×45	1	1080	* 裏面「笹川弥左衛門」は墨書。
	同 上	丹波氷上郡栢原札所土田文七郎・亀屋次郎兵衛	同 上	銀 5 匁	221×45	1	1081	* 「笹川弥左衛門」の署名なし。
	同 上	丹波国栢原土田文七郎・亀屋次郎兵衛	同 上	銀 5 匁(茶)	170×49	1	1082	
	同 上	同 上	同 上	銀 1 匁(青)	150×40	8	1083	額面の両脇に「此手形ニ弍厘多ク渡、札請ニ三厘引」とあり。
	同 上	栢原札所 同 上	同 上	銀 7 厘	116×31	1	1084	札上端部青色。 札上端部薄茶色。
	同 上			銀 5 厘	101×29	3	1085	
綾 部 九鬼氏 1万9500石	銀 札	札 所 同 上	? * 嘉永甲寅 7 カ	銀 2 分	129×39	1	1077	* 汚れのため印刷不鮮明。 墨書。表面中央朱印不鮮明なれど、微かに「嘉永」の文字が判読される。 墨書。
	同 上			銀 2 分	135×40	1	1078	
	同 上			同 上	嘉永甲寅 7	銀 1 分	140×40	
山 家 谷 氏 1万石	銀 札	丹波国山家役所、引替所平田綿屋徳太郎	安永元壬辰 8 月	銀 1 匁 (薄茶)	154×41	3	1070	「石埜小引替」の添印あり。引替所平田と共に播州美囊郡のうち (現三木市)
	同 上 米代銀札	丹波国山家役所山家米切手役所、元方 同 上 同 上 同 上 同 上	同 上 同 上 同 上 同 上 同 上	銀 2 分	137×36	3	1071	「文化十三改」朱印あり。  同 上 同 上 同 上
				米 2 斗	140×45	5	1072	
				代銀10匁	142×43	6	1073	
				米 1 斗	142×43	6	1073	
				代銀 5 匁	134×43	2	1074	
米 2 升	134×43	2	1074					
代銀 1 匁	141×43	2	1075					
米 1 升	141×43	2	1075					
代銀 5 分	141×43	2	1075					
三 田 九鬼氏	→ 摂津国大名札							
湯 長 谷 内藤氏	→ 陸奥国大名札							
旗 本 札								
多 田 本多氏 7000石	銀 札	多田邑懸屋田原新兵衛・上月六右衛門	午 8 月	銀 1 匁	143×88 *	1	1103	墨書で屏風札 (*サイズは見開き) 多田村は氷上郡のうち。現春日町。 屏風札。額面のみ墨書。未使用札カ。押印などなし。
	同 上			銀 1 匁	140×86	1	1104	
川 原 尻 武田氏 5318石	預 切 手	丹羽川原尻十六ヶ村役人中、蔵元		銀 2 分(灰)	141×42	1	1114	河原尻村は桑田郡のうち。現亀岡市。

発行・地名	札 名 称	発行所・引替所	発行年次	額面(色)	サイズ	数量	番号	備 考
十倉 谷氏 2000石	銀 札	丹州十倉勘定所、 懸屋、郷中役人中	嘉永6 癸 丑11月	銀2分(赤)	128×35	1	1101	山家藩谷氏分家。陣屋村十倉は 何鹿郡のうち。現綾部市。
	同 上	同 上	同 上	銀1分	136×36	1	1102	
梅迫 谷氏 1500石	納紙代銀札	丹州梅迫割元、紙 会所		銀1分(茶)	138×38	1	1100	額面墨書。山家藩谷氏分家。陣 屋村梅迫は何鹿郡のうち。現綾 部市。
小倉 牧氏 1200石	米 預 券	引替所佐治・小倉 庄屋	安政元ヵ	銀5匁 (裏面茶)	161×45	1	1105	表面下部に「知行所融通切手」 とあり。佐治・小倉村ともに氷 上郡のうち。現青垣町。 「知行所融通切手」 表面印刷ずれ。エラー札ヵ。押 印などなし。 *「佐治会所」の押掛印あり。 なお牧氏の代官所は小倉村に あり。 汚れ甚しく、額面判読できず。
	同 上	同 上		銀1匁	160×40	4	1106	
	銀 札	佐治・小倉庄屋		銀2分	120×33	1	1107	
	米預券	引替所佐治・小倉 庄屋*		銭1貫文 (赤)	143×45	1	1108	
	同 上	同 上			135×36	1	1109	
杉谷 某氏* ?	預 切 手	丹波杉谷米会所		銀5匁(赤)	144×41	3	1129	* 丹後国中郡に杉谷村(峰山領) の地名あるも、丹波国内に杉谷 村の地名特定できず。 未完成札。
	同 上	同 上		銀1匁(茶)	144×42	6	1110	
	同 上	同 上		銀1匁	144×42	1	1111	
	同 上	同 上		銀5分(青)	143×42	2	1112	
	同 上	同 上		銀5分(赤)	140×42	1	1113	
寺 社 札								
法常寺 桑田郡 千ヶ畑	御祠堂手形	丹州千ヶ畑法常寺 引替所撰植村重 左衛門・丹中西重 五郎代福井	慶応3 丁 卯9月	銀1匁	150×40	2	1115	法常寺は後水尾天皇勅願寺で、 千ヶ畑村内に寺領50石。現亀岡 市。
私 人 札								
和田村 船井郡	釣 札	和田酒場預	元治2 乙 丑	5 厘	106×29	1	1128	墨書。丹波国船井郡の和田村と する根拠は知られないが、先人 の整理に従う。現瑞穂町。
朝坂村 氷上郡	酒造切手	丹州氷上郡朝坂村 酒造所、切手引替 所山下亀造		銀1匁	145×47	1	1116	現氷上町。貞享元年から旗本柴 田氏5,500石の知行村。 「掛屋」とあるのが、私人札と することに、疑念が残る。旗本 札ヵ。
	預 切 手	丹州氷上郡朝坂酒 造所、引替所掛屋 山下亀造	嘉永7 甲 寅8月、 安政3 丙 辰9月改	銀1匁	147×47	1	1117	
上田 氷見郡吉見	融通切手	丹波国上田本綿岡 屋古川屋卯兵衛		10匁預(灰)	160×44	2	1118	「和田会所改」の押印あり。上 総鶴牧藩の会所ヵ。現市島町。 「和田会所改」押印。
	同 上	同 上		5匁預(黄)	160×45	2	1119	
	同 上	同 上		1匁預(青)	140×38	1	1120	
	同 上	同 上		5分預	137×38	1	1121	
成松中町 氷上郡	預 り 札	丹州成松中町菱屋 嘉吉万小間物所		200匁金 正ミ札5匁	160×53	1	1122	墨書。現氷上町。 墨書。「右柴代樋ニ預り申候」 とあり。 墨書。 墨書。「右此手形ヲ以御渡可被 下候」とあり。裏面に「丹州成 松中町菱屋嘉吉万小間物所」の
	同 上	同 上		正ミ5匁	160×53	1	1123	
	同 上	同 上		2匁	106×52	1	1124	
	(振出手形)	和久嘉右衛門→荻 野善七殿		正ミ札10匁	150×53	2	1125	

発行・地名	札名称	発行所・引替所	発行年次	額面(色)	サイズ	数量	番号	備考
	同 上	同 上		正ミ札3匁	160×53	1	1126	店印押捺。
	同 上	同 上		正ミ札2匁	159×53	1	1127	同 上

## 丹 後 国

大 名 札								
宮 津 松平氏 7万石	銭 札	丹後宮津米会所預		銭10貫文	161×50	1	1135	小型札。 小型札。 うち1枚、「銭百文」の押掛朱印あり。
	同 上	同 上		銭5貫文	162×50	2	1136	
	同 上	同 上		銭2貫500文	162×50	1	1137	
	同 上	同 上		銭1貫文(赤)	155×45	1	1138	
	同 上	同 上		銭500文(茶)	154×45	2	1139	
	同 上	同 上		銭100文(青)	155×43	3	1140	
	同 上	同 上		銭12文	153×42	1	1141	
	同 上	米会所元方		銭4文	104×36	1	1142	
	同 上	同 上		銭2文(赤)	105×35	2	1143	
	同 上	丹後宮津米会所預		銭1匁(青)	154×43	4	1144	
	同 上	同 上		銭5分(赤)	155×44	4	1145	
	同 上	同 上		銭3分(青)	153×42	4	1146	
	同 上	同 上		銭1分	153×42	6	1147	
	同 上	米会所元方		銭5厘	105×31	1	1148	
	同 上	同 上		銭3厘(赤)	104×36	3	1149	
田 辺 牧野氏* 3万5000石	銀 札	札所	寛保2壬戌5月	銀2分(灰)	125×40	1	1130	* 明治2年舞鶴藩と改称。表面下部に「勘定所」の朱印押捺。
	同 上	同 上	同 上	銀1分(桃)	125×40	5	1131	表面「勘定所」、裏面「札所」の上に八角形「豊」朱印。 表面八角形「豊」、裏面「勘定所」朱印押捺。 大型札。うち1枚は裏面大型押印なし。
	同 上	同 上	元治元甲子4月	銀5分	135×40	2	1132	
	同 上	同 上		銀1分	122×40	2	1133	
	同 上	同 上	慶応4戊辰5月	銀100匁	170×83	2	1134	
峯 山 京極氏 1万1000石	預切手	丹後峯山糸会所		銭1貫文	157×43	1	1150	朱印札。
	同 上	同 上		銭1貫文	162×44	1	1151	黒印札。「糸会所」の上に押掛黒印あるも判読できず。
	同 上	同 上		銭200文(赤)	152×44	1	1152	朱印札。
	同 上	同 上		銭200文(赤)	155×43	1	1153	黒印札。「糸会所」の上に押掛印あり。
	同 上	同 上		銭2匁(赤)	155×43	1	1154	うち2枚、表面上部に「通商改」の朱印押捺。
	同 上	同 上		銭1匁(青)	158×44	3	1155	
	銭 札	同 上		銭5厘(灰)	105×31	1	1156	小型札。
	同 上	同 上		銭5厘(白)	112×32	1	1157	同 上
	同 上	同 上		銭3厘	110×30	1	1158	同 上
	預切手	同 上		銭50文(灰)	142×40	1	1159	但し銭五分札の押掛改造札で、額面は漆判。
	銭 札	同 上	明治紀元戊辰仲冬	銭5貫文	135×42	1	1160	裏面上部に「四枚金壹両引替」と印刷しあり。
	同 上	同 上	同 上	銭2貫500文	141×42	2	1161	
	同 上	同 上	同 上	銭2貫500文	134×43	1	1162	
	同 上	同 上	同 上	銭1貫250文	138×43	1	1163	
	同 上	同 上	同 上	銭100文	135×42	3	1164	

発行・地名	札 名 称	発行所・引替所	発行年次	額面（色）	サイズ	数量	番号	備 考
<b>府 県 札（商法会所）</b>								
久 美 浜 県	銭 札	久美浜県商法会所	明治紀元	銭 1 貫文	146×42	4	2631	「通用五年限」
	同 上	同 上	同 上	銭500文	145×42	3	2632	同 上
	同 上	同 上	同 上	銭200文	145×42	4	2633	同 上
	同 上	同 上	同 上	銭100文	145×40	3	2634	同 上
	同 上	同 上	同 上	銭50文	120×35	1	2635	同 上
	同 上	同 上	同 上	銭32文	125×36	1	2636	同 上
	同 上	同 上		銭 8 文	95×28	3	2637	小型札。
	同 上	同 上		銭 4 文	96×28	2	2638	同 上
<b>私 人 札</b>								
塩 江 竹野郡	肴 切 手	丹后塩江能登藤二郎		20目	134×41	1	1166	額面・番付墨書。塩江は竹野郡浜詰村のうち。現網野町。
	同 上	同 上		5 匁（青）	138×41	1	1167	額面墨書。
	同 上	同 上		1 匁	133×40	1	1168	額面墨書。
河 守 町 加佐郡	*	永美氏カ		5 合（墨書）	110×30	1	1165	札面には河守町と断定する根拠皆無。表面に「南由里」の朱印、裏面に「永美氏」の黒印あり。 * 『お札』は酒切手、先人整理の封筒には米切手とす。

但馬国

大 名 札									
出 石 仙石氏 5万8000石 のち 3万2500石 *	但州出石銀 札		(享保通 宝)	銀10匁(灰)	147×44	1	1169	* 仙石氏は宝永3年入封。天保9年3万石に減知。嘉永3年替地の際2,500石増封。額面の左脇に「文」の朱印あり。	
	同 上		同 上	銀10匁(白)	138×44	1	1170	「文」の朱印。	
	同 上		同 上	銀5匁(緑青)	146×44	2	1171	同 上	
	同 上		同 上	銀5匁(青)	137×44	2	1172	同 上	
	同 上		同 上	銀1匁(青)	140×44	3	1173	同 上	
	同 上		同 上	銀1匁(茶)	140×44	3	1174	同 上	
	同 上		同 上	銀5分(赤)	140×44	1	1175	同 上	
	同 上		同 上	銀5分(茶)	131×43	1	1176	同 上	
	同 上		同 上	銀5分(白)	148×45	1	1177	同 上	
	銀 札	出石産物会所		銀5厘(茶)	124×33	1	1178	小型札。	
	同 上	同 上		銀3厘(青)	124×32	1	1179	小型札。	
	錢 札	引換所但州出石義 倉会所	(天保15ヵ)*	錢1匁(茶)	127×37	3	1180	* 『西宮市史』に拠る。サイズは上下切断の形跡あり。	
	銀 札	勘定所	(来3月限)	銀札70匁	132×45	1	1181	墨書。	
	同 上	同 上	同 上	銀札50匁	132×45	1	1182	墨書。	
豊 岡 京極氏 1万5000石	但州豊岡銀 札		(明和通宝)	銀5匁(茶)	140×41	1	1183		
	同 上		同 上	銀5匁(赤)	138×41	1	1184		
	同 上		同 上	銀1匁(赤)	141×40	1	1185	表面頭判の両脇に「庚寅融通」の漆入り朱印押捺しあり。	
	同 上		同 上	銀3分(青)	135×40	1	1186	同 上	
	銀 札	豊岡銀札場		銀7厘	91×26	2	1187	小型札。	
	同 上	同 上		銀5厘	92×27	1	1188	小型札。	
村 岡 山名氏 1万1000石	→ 旗本札								

発行・地名	札 名 称	発行所・引替所	発行年次	額面 (色)	サイズ	数量	番号	備 考
<b>旗 本 札</b>								
村岡 山名氏 6700石*	預り銀切手	田中庄左衛門、大坂引請堺屋・加嶋屋・木屋	丑3月朔日、午4月16日、亥7月18日他	銀1匁	156×46	5	1189	* 村岡は七美郡のうち。明治元年4,300石の加増を得て1万1000石で立藩。表面墨書。
	同 上	同 上	午7月4日	銀1分(灰)	148×43	1	1190	表面墨書。
	同 上	同 上	卯4月21日	銀1匁	154×45	1	1191	表面墨書。裏面に「銭百文」の押印あり。
	銭 札	邨岡藩会計局	明治2年7月	銭5貫文	140×44	1	1192	
	同 上	同 上	同 上	銭3貫文	132×40	1	1193	
	同 上	同 上	同 上	銭500文	140×45	1	1194	裏面中央に「国産局」の朱印押捺。
	同 上	同 上	同 上	銭100文	135×42	3	1195	同 上
糸井 京極氏 3000石	銀 札	但馬糸井引替会所		銀1匁(茶)	140×40	2	1196	裏面上部に「糸井陣屋」の朱印あり(宝字札)。
	同 上	同 上		銀5分(茶)	135×40	2	1197	同 上
	同 上	引請大阪和泉屋重助		銀1匁	147×41	2	1198	裏面上部に「糸井陣屋」の朱印押捺。
	同 上	同 上		銀5分(青)	147×40	3	1199	同 上
倉見 小出氏 2000石	但州倉見米札	引替所		銀5匁(赤)(米1斗)	147×41	1	1204	「金銀米穀以時之相場村ニ融通」とあり。倉見は出石郡のうち。現豊岡市。
	同 上	同 上		銀1匁(青)(米2升)	145×41	8	1205	
	同 上	同 上		銀5分(茶)(米1升)	143×42	2	1206	
	同 上	同 上		銀3分(茶)(米6合ヵ)*	144×41	1	1207	* 米額は汚れのため、印刷の有無不明。
	但劔倉見米納預券	大阪引請綿屋莊兵衛・和泉屋佐七*	嘉永6丑5月	銀1匁	140×43	5	1208	* 「大阪引請酢屋金三郎」の押掛朱印あり。
	銀 札	但州倉見引替所、引請大阪加嶋屋・平野屋		銀1匁	140×40	2	1209	
	同 上	同 上*	同 上	銀1匁	141×41	1	1210	* 「大阪引請海老屋清七・伊丹屋太七・河内屋宗兵衛」の押掛朱印あり。
	同 上	但馬国倉見引替	慶応4	銀5匁(赤)	143×42	1	1211	
	同 上	倉見引替		銀9厘	122×32	1	1212	
	同 上			銀7厘	121×32	1	1213	裏面に印刷なし。
	同 上			銀5厘	122×31	1	1214	同 上
大戴 小出氏 1500石	米納預切手	但州大戴引替	(元禄通宝)	銀1匁	142×41	3	1200	陣屋村大戴は養父郡のうち。現養父町。「知行所融通」とあり。
	銀 札	但州大戴引替		銀3分	122×35	1	1201	表面頭判「米俵ニ単」、下判「鯛と鯉ヵ」
	同 上	引替大戴		銀3分	140×35	1	1202	表面絵柄なし。
	同 上	但州大戴引替		銀1分ヵ	115×33	1	1203	汚れ甚しく額面判読困難。
	同 上			銀7厘	108×26	1	2709	裏面の印刷判読できず。
山本 小出氏 1000石	米 切 手	引替会所手廻		銀10匁	(下部断截)	1	1215	小出氏、気多郡山本村に陣屋を置き、水上村に代官所を置く(『日高町史』)。「但気郡通用」
	同 上	同 上		銀5匁(灰)	同 上	1	1216	
	米納切手	但州水上引替会所		銀5匁(青)	140×42	1	1217	

発行・地名	札 名 称	発行所・引替所	発行年次	額面 (色)	サイズ	数量	番号	備 考
	同 上 同 上 銀 札	同 上 同 上 但州水上引替		銀 1 匁 銀 5 分(赤) 銀 5 厘	135×42 135×42 102×26	1 2 2	1218 1219 1220	汚れのため、茶札か白札か不明。
猪 爪 杉原氏 300石	但州猪爪杉 原米切手	引替羽尻会所 *		銀 1 匁(青)	134×40	2	1236	猪爪村は気多郡のうち。現日高町。「羽尻」の上に「道場」「会所」の脇に「伊原」の添印あり。裏面上部に「杉原」の丸形朱印、下部に「高津屋善□門・平野屋安松」の押掛印あり。
奥 八 代 杉原氏 200石	但州杉原米 納方預切手	引替千賀		銀 5 匁	136×45	2	1221	気多郡奥八代村(現日高町)は幕領との相給。宝船札。 裏面に「杉原役場」の朱印、「引替矢根組」の押掛朱印あり。うち1枚は裏面に「杉原役場」の朱印押捺。 「杉原役場」の朱印と、「引替茂木邑」の押掛印あり。 「杉原役場」の朱印押捺。 同 上 同 上 表面額面の箇所に「杉原役場」の朱印・黒印あり。  * 上部紫色。表面に「可致弘通」の印刷、「米宝」の朱印あり。裏面に「上気多通用」の印刷あり。 表面下部に「伊福清水屋」、裏面下部に「阿瀬銀山本場賃銭切手」の押掛印あり。 同 上
	同 上	同 上		銀 5 匁	140×45	1	1222	
	同 上	同 上		銀 1 匁(茶)	145×45	2	1223	
	同 上	同 上		銀 1 匁(茶)	140×45	1	1224	
	同 上	同 上		銀 5 分(青)	141×45	1	1225	
	同 上	同 上		銀 3 分(赤)	140×45	1	1226	
	同 上	同 上		銀 1 分(灰)	140×45	1	1227	
	銀 札	引請千賀		銀 5 厘	115×28	4	1228	
	但州杉原銀 札・米納預 切手	湯村札坐引替	文久改判	銀10匁(青)	138×38	1	1229	
	同 上	同 上	同 上	銀 3 匁(黄)	137×39	5	1230	
	同 上	同 上	同 上	銀 5 分	131×36	3	1231	
	但州杉原米 納預切手		同 上	銀 3 分 *	133×37	2	1232	
	但州杉原米 納方預切手	引替会所		銀 1 匁(茶)	140×44	1	1233	
	但州八代杉 原米納預切 手		安政 3 丙 辰臘月	銀 1 匁(赤)	139×40	1	1234	
	同 上		同 上	銀 1 分(青)	136×40	1	1235	
寺 社 札								
泉 涌 寺 京都	→ 山城国寺社札							
町 村 札								
建 屋 上 組 養父郡	日雇賃銭切 手 *	長野村・町村・能 座村・持河内村 **		銭 1 貫500文 (青)	142×41	1	1241	* 表面下部に「建屋上組夫銭融通」とあり。** は何れも幕領で、現養父町。 「松仁」の添印あり。 同 上
	同 上	同 上		銭 1 貫文	146×44	2	1242	
	同 上	同 上		銭100文	147×46	5	1243	
持河内村 * 養父郡	上組夫銭融 通金札	養父郡持河内庄屋 (朱印)	辰 7 月 10 日	金札 1 歩預 り	162×43	1	1244	墨書。「八月晦日限り引替」とあり。* 現養父町餅耕地。
横 尾 村 郡名未詳 *	預 り 札	横尾村会所	(来ル正 月晦日限 り)	銀札10匁	172×40	1	1268	* 但馬国に横尾村の地名見当たらず。二方郡松尾村(現温泉町)か。墨書。
時郡村々 * 二方郡	融通切手 (寿船札)	伊角 (イスミ)		銭500文	146×41	1	1253	「辛未改正」の朱印押捺。裏面に「時郡通以引換可申候」とあ

発行・地名	札名称	発行所・引替所	発行年次	額面(色)	サイズ	数量	番号	備考
	同 上	井土		銭3貫文(黄)	142×40	2	1254	り。時郡は刀岐郷カ。いずれも豊岡藩領。伊角村は現温泉町。井土村は現温泉町。
	同 上	同上		銭1貫文(茶)	147×41	1	1255	
	同 上	熊谷(クマダニ)		銭2貫文(黄)	143×41	1	1256	現温泉町。
	同 上	同上		銭1貫文(茶)	145×42	1	1257	
	同 上	堺村		銭1貫文(茶)	146×41	2	1258	現浜坂町。
	同 上	同上		銭500文	145×40	3	1259	「辛未改正」の朱印押捺。
	同 上	指杭(サシクイ)		銭500文	146×41	1	1260	現浜坂町。
	同 上	田井		銭3貫文(黄)	148×41	1	1261	現浜坂町。
	同 上	対田(タイタ)		銭3貫文(黄)	145×40	1	1262	現浜坂町。
	同 上	対田		銭500文	145×41	3	1263	「辛未改正」の朱印押捺。
	同 上	古市(フルイチ)		銭500文	143×40	3	1264	同上。現浜坂町。
	同 上	辺地(ヘッチ)		銭3貫文(黄)	143×40	1	1265	現浜坂町。
	同 上	同上		銭500文	147×41	3	1266	「辛未改正」の朱印押捺。
	同 上	用土		銭3貫文(黄)	145×40	2	1267	現浜坂町。以上村々は所謂「寿船札」なる共通デザインの切手の裏面に村名を押印し通用す。
谷 村 気多郡	谷融通米切手	引替会所水口村*	慶応4 辰正月	銭3貫文(赤)	145×42	3	1245	<sup>ミノケチ</sup> * 水口村は押掛朱印で、その下に本来の引替所の篆書印刻あるも判読できず。現日高町。
	同 上	同 上	同 上	銭2貫文(黄)	146×42	2	1246	同上。うち1枚額面の上に「宮、半日切手」の後筆書入れあり。
	同 上	同 上	同 上	銭1貫文(灰)	147×43	1	1247	
	同 上	同 上	同 上	銭500文	146×42	5	1248	うち1枚に「半日切手、新井」の墨書と「栗栖野村惣代之印」の朱印押捺あり。
	同 上	同 上	同 上	銭100文(黄)	117×36	6	1249	うち1枚に「壹日新井」の墨書、「栗栖野村」の押印あり。
	同 上	引替会所水口村*		銭50文	117×36	1	1250	* 押掛印に非ず。以下同。
	同 上	同 上		銭30文	109×31	1	1251	
	同 上	同 上		銭10文	101×27	1	1252	
猪子垣村 気多郡	日雇賃銭預切手(村融通)	気多郡猪子垣村方		銀10匁(茶)	140×45	2	1269	幕領で、現日高町。
森山村 気多郡	銀札	引替森山村役人	戊辰7月(慶応4)	銀10匁	150×45	2	1270	墨書。うち1枚「已冬他所出無用」の書入れあり。現日高町。
<b>宿 駅 札</b>								
伊福 <sup>フ</sup> 駅 気多郡	但州伊福駅人馬継立賃銭小切手	村役引請		銭500文(青)	149×43	2	1271	伊府村とも。現日高町。表面に「人足方融通」、「正銭払底附老朱下切手」とあり。
<b>鉾 山 札</b>								
阿瀬銀山	阿瀬銀山本場賃銭切手*	伊福清水屋		銀1匁(赤)	139×40	1	1234	* 安政3丙辰臘月「但州八代杉原米納預切手」に押掛印を以て流用したもの。
	同 上	同 上		銀1分(青)	136×40	1	1235	同 上
	酒預り切手	預り主栗山村上酒屋与左衛門		銀1匁	139×42	1	1305	該切手の台紙に「阿瀬銀山上酒屋」とあり。先人の整理に従う。
宝永山 大谷村*	山内通用銀札			銀3分(茶)	150×45	1	1272	* 大谷村の地名は特定できない。また宝永山が鉾山でないとする説もあるが、美含郡大谷村(現



発行・地名	札 名 称	発行所・引替所	発行年次	額面 (色)	サイズ	数量	番号	備 考
								竹野町」とすれば、該村には鉾山の神社という日御前神社が存在する。備考に俟ちたい。
<b>私 人 札</b>								
円山・八代・山口組 朝来郡	組合融通日傭手形	円山組・八代組・山口組、九郎兵衛・五郎右衛門・丈右衛門 *		貨銭 2 匁預り	156×45	2	1237	* 裏面に「表書之手形正銭払底ニ付老朱迄之分」とあり。九郎兵衛以下の名前印刷しあり。三組合村は何れも幕領。
	同 上	同 上		貨銭 1 匁預	160×45	4	1238	裏面「表書之手形正銭払底ニ付老朱迄之分」とあり。 同 上
	同 上	九郎兵衛		貨銭 3 分預り	118×35	2	1239	
	同 上	同 上		貨銭 1 分(茶)	119×32	2	1240	
八 代 村 郡名未詳*	但州八代融通切手	長栄		銀 5 厘	99×26	2	1273	* 八代の地名は現朝来郡朝来町と現気多郡日高町の両地にあり。特定できず。
高 柳 村 養父郡	銭切手	但州養父郡高柳村東屋店		銭 5 匁	151×45 167×46	} 2	1274	「正月晦日引替」「八朔引替」の押印二種あり。現八鹿町。
	同 上	同 上		銭 1 匁	150×44		1275	同 上
	同 上	但馬高柳本家福田福田		銭 1 匁	151×46		1276	同 上
	(日雇切手カ)			半日切手	140×40		2685	墨書。
青 下 組 二方郡	青下牛銀融通切手	但二方郡市郎左衛門	(来 3 月限)	銭 2 貫文(茶)	158×46	2	1277	額面墨書。裏面に「時郡通以引替可申候」とあり。
	同 上	同 上	同 上	銭 1 貫文(薄茶)	149×45	5	1278	同 上
	同 上	同 上	同 上	銭500文	152×46	3	1279	同 上
	同 上	同 上	同 上	銭200文 *	151×44	2	1280	* 切手上部黄着色。同上。
	米融通切手	但二 青下組合	同 上	銭 3 貫文(黄)	163×48	2	1281	「時郡通以引替可申候」。額面墨書。
	同 上	同 上	同 上	銭500文	150×44	1	1282	同 上
	同 上	同 上	同 上	銭200文	155×43	1	1283	同 上
	銭 札 *	同 上	同 上	銭 3 貫文(黄)	164×49	2	1284	同上。*「米融通」の押印なし。
	同 上	同 上	同 上	銭500文	152×43	3	1285	同 上
	同 上	同 上	同 上	銭400文	137×44	4	1286	同 上
	同 上	同 上	同 上	銭200文	155×45	5	1287	同 上
奥 商 組 合 二方郡	融通手形	但二 奥商組合	(来 9 月限)	銭 3 貫文(黄)	148×44	7	1288	裏面預り文言は墨書。24種の押印あり。
	同 上	同 上	同 上	銭 2 貫文(黄)	147×45	5	1289	裏面24種の押印はあるが、裏書文言なし。額面墨書。
奥 組 合 二方郡	米融通手形	二方郡米融通奥組合	(来 2 月限)	銭 2 貫文(桃)	150×44	1	1290	額面・裏書墨書。慶応 3 年浜坂地方の奥口 7 カ村の二方郡開田融通切手カ(『兵庫県史』第 5 巻 P.629)。
浜 坂 二方郡	銭 札	小五郎	宝暦 6	500文	155×50	1	1291	墨書。「来丑正月 8 日限」
	同 上	同 上	同 上	200文	155×52	2	1292	同 上
	同 上	浜坂仲屋小五郎	(正月限)	銭200文	150×40	2	1293	墨書。
	同 上	同 上	同 上	銭100文(黄)	149×46	2	1294	同 上
	浜坂通用銭札	仲屋加右衛門	(2月限)	銭100文	164×45	1	1295	額面・署名墨書。表面中央の絵柄印の下部に「浜坂通用」の印刻あり。
	同 上	同 上	(已 2 月限)	銭100文	156×40	1	1296	額面・署名墨書。裏面上部に「浜坂通用」の黒印押捺。

発行・地名	札 名 称	発行所・引替所	発行年次	額面（色）	サイズ	数量	番号	備 考
	銭 札	但馬浜坂藤田屋丈七		銭50文	165×43	1	1297	墨書。
	同 上	同 上		30文	156×42	1	1298	墨書。
	同 上	同 上		20文	156×42	1	1299	墨書。
	同 上	同 上		10文	145×42	1	1300	墨書。
居 組 村 二方郡	銭 札	イクミ仲買中，居組鳥和	（来3月 限）	銭200文	150×43	3	1301	墨書。幕領で現浜坂町。
	銭 札			銭2貫文（茶）	148×45	1	1302	未完成札。額面の記載のみ。
千 谷 村カ 二方郡	融通切手カ			足銭2貫文 （黄）	□×44	1	1303	墨書。下部断截しあり。発行人 特定できず。現温泉町。
湯 村 二方郡	銭 札	坂本屋初次郎		銭100文（茶）	155×43	4	1304	墨書。裏面に「久斗山取引」 「他所取引無用」の印判あり。 現温泉町。
栗 山 村 気多郡	酒預り切手	預り主栗山村上酒屋 与左衛門		銀1匁	139×42	1	1305	裏面に「右之通槌ニ預り候上は 正七月晦日限り急度返済可仕候， 酒ニては限月ニ不限何時ニても 相渡可申候」とあり。従来、阿 瀬銀山札とされる。現日高町。
江 原 村 気多郡	酒切手カ		（正月晦 日引替）*	銭5匁	135×41	1	1306	墨書。* 従前知られているのは 「八朔切手」（『日高町史』上巻 P.729）。

因 幡 国

大 名 札								
鳥 取 池田氏 32万5000石	銀 札	札座忠次郎・鶴屋 善兵衛	丙辰10月 15日（延 宝4）	銀200目	151×78	1	1307	墨書。俗称「鶴屋札」
	同 上	同 上	同 上	銀100目	154×78	1	1308	墨書。
	同 上	同 上	丙辰（延 宝4）	銀2匁	152×39	1	1309	
	同 上	同 上	同 上	銀1匁	153×39	1	1310	
	同 上	同 上	同 上	9分	153×39	1	1311	
	同 上	同 上	同 上	7分	153×39	1	1312	
	同 上	同 上	同 上	5分	153×39	1	1313	表面下部に「丙寅」とあり。
	同 上	同 上	同 上	2分	153×38	1	1314	
	因伯通鈔		享保16辛 亥（文化 3）	1匁	160×42	2	1315	
	同 上		享保16辛 亥（天保 2）	銀10匁	161×50	3	1316	表面上部に「辛卯」とあり。
	同 上		同 上	1匁	159×42	1	1317	同 上
	同 上		享保16辛 亥（安政 3）	銀10匁	166×50	4	1318	
	同 上		同 上	銀5匁	157×44	1	1319	同 上 同上。「四銭式厘大蔵省改」朱 印押捺。 「丙辰」 同 上 同 上
	同 上		同 上	銀5匁	162×45	2	1320	
	同 上		同 上	1匁	164×42	6	1321	
	同 上		同 上	3分	164×37	3	1322	
	同 上		同 上	2分	163×37	6	1323	

発行・地名	札 名 称	発行所・引替所	発行年次	額面 (色)	サイズ	数量	番号	備 考
	同 上 同 上		同 上 享保16辛 亥 (明治 元)	1 分 銀50匁	165×37 167×57	2 1	1324 1325	同 上

出 雲 国

大 名 札								
松 江 松平氏 18万6000石	雲州銀札	札座新屋	(享保15カ)*	銀 1 匁 (茶)	165×46	3	1326	* 年紀の印刷はないが、中村清美『山陰古札図録』に拠る。
	銀 札	同 上	同 上	銀 3 分 (薄茶)	162×48	2	1327	
	同 上	同 上	同 上	銀 2 分	160×47	1	1328	
	同 上	札座	*	銀 3 分 (薄茶)	142×35	3	1329	* 上掲書には「元文以降」とあり。表面上部図柄「木槌」
	同 上	同 上		銀 3 分 (薄茶)	140×35	1	1330	「式厘大蔵省改」朱印押捺。
	同 上	同 上		銀 2 分	146×37	2	1331	表面上部図柄「巾着」
	同 上	同 上		銀 2 分	145×35	1	1332	同上。「壱厘大蔵省改」朱印。
	同 上	雲州通用札座	(文政 7)*	銀 1 匁 (灰)	164×42	6	1333	* 上掲書に拠る。透し入り。
	同 上	同 上	同 上	銀 1 匁 (灰)	165×43	7	1334	「五厘大蔵省改」朱印押捺。
	銭 札	楮幣方	(文政 7)*	銭 1 貫文 (灰)	181×52	3	1335	* 上掲書に拠る。透し入り。
	同 上	同 上	同 上	銭 500 文 (灰)	165×45	2	1336	
	同 上	同 上	同 上	銭 1 貫文 (灰)	179×52	4	1337	「三銭大蔵省改」朱印押捺。
	預手形 (連判札)	質地預上野屋市郎右衛門・板屋市郎兵衛	子11月	銭 1 貫文	188×126	1	1338	墨書。裏面に「壱」と墨書。「雲州宇竜□谷屋」の押印あり。
	同 上	同 上	同 上	銭 500 文	186×126	1	1339	
	預 銭 札	御掛屋佐藤金之助	明治 2 己巳 6 月*	銭 3 貫文**	146×145	1	1340	墨書。*「午五月限」、**「式貫文」の分銅形朱印押捺。
	同 上	同 上	明治 2 己巳 4 月	銭 2 貫文*	147×142	1	1341	墨書。*「参貫文」の軍配形朱印押捺。
	同 上	佐藤金之助 (「松江藩掛所」の押印)	明治 3 庚午 2 月 (未5月限)	銭 3 貫文	143×142	1	1342	墨書。「参貫文」の朱印と「御支配地限通用」の押印あり。
	預手形 (連判札)	頭取質地改山本権市・大庄屋為右衛門・大庄屋谷右衛門、山田益左衛門	明治 3 庚午 3 月 (未5月限)	銭 2 貫文	132×180	3	1343	墨書。「十郡切取遣」の押印あり。裏面に「雲州今市遠藤」「中富」「大村」「石橋屋」等14種の押印あり。
	預 手 形	松江小豆沢浅右衛門→森脇甚右衛門殿	明治 3 庚午 5 月 (未5月限)	銭 2 貫文	142×139	1	1344	墨書。「御支配地限通用」の押印あり。
	同 上	同 上	同 上	銭 1 貫文	143×139	1	1345	同 上
	同 上	同 上	明治 4 辛未 5 月 (中5月限)	銭 5 貫文	142×141	1	1346	同 上
	同 上	桑原太助→永井金兵衛殿	明治 4 辛未 5 月	銭 5 貫文	144×140	1	1347	同 上
	壊 (コヤシ) 荷切手	雲州宇龍浦役所	安政 4 丁巳11月	壊 1 荷	125×42	1	1359	宇竜浦は神門郡のうち。現大社町。壊は松前物の鯨肥のこと (『山陰古札図録』) とある。
広 瀬 松平氏 3 万石	銭 札	雲陽広瀬会所, 新出屋孫右衛門・灰吹屋瀬兵衛・原屋太平	庚辰 (文政 3)	銭 500 文預 (黄)	168×50	3	1348	
	同 上	同 上	同 上	銭 500 文預 (黄)	168×49	2	1349	「壱銭四厘大蔵省改」朱印押捺

発行・地名	札 名 称	発行所・引替所	発行年次	額面（色）	サイズ	数量	番号	備 考
	同 上	同 上	同 上	銭100文預 （黄）	165×50	8	1350	裏面に「銅鉄之幣齋持苦重、爰造関子以利民用」と印刷。
	同 上	同 上	同 上	銭30文預(桃)	153×37	1	1351	
	同 上	同 上	同 上	銭10文預	134×33	1	2686	
母 里 松平氏 1万石	銭 札	大和屋由之助・宇山屋眞太郎・富田屋團藏	甲申（文政7）	銭500文預	165×50	2	1352	亀甲の透し入り。
	同 上	同 上	同 上	銭100文預	161×42	1	1353	新貨三厘の押掛朱印あり。
	同 上	同 上	同 上	銭30文預(青)	158×40	1	1354	
	同 上	同 上	同 上	銭20文預(茶)	152×39	2	1355	* 表面手すれのため額面判読できず。 裏面に「表書之通飭預申候」とあり。裏面に「楮鈔銘」を印刷した前出の銭札とは別種。
	同 上	同 上	同 上	*（青）カ	148×37	1	1356	
	同 上	引替所 同上	甲申（文政7）	銭100文預 （薄茶）	160×41	1	1357	
	同 上	同 上	同 上	銭30文預(青)	166×40	1	1358	同 上
鉾 山 札								
可部山鉄山 仁多郡	内谷山内通用銭札	可部屋内谷弘		銭30文	132×45	1	1360	可部山鉄山は仁多郡上阿井町（現仁多町）桜井氏経営の鉾
	鍛冶屋通用銭札	同 上		銭55文	133×46	2	1361	
私 人 札								
松 江 意宇郡	(振出手形)	岡谷万左衛門→小豆沢浅右衛門殿	亥正月21日	銭 3 貫225文	132×124	1	2690	墨書。引替文言は「右可被相渡候」（以下同）。「日用賃」と注書。「小渡済」の押印あり。
	同 上	同 上	亥 4 月29日	銭 1 貫700文	132×123	1	1362	
	同 上	同 上	亥 6 月11日	銭980文	132×126	1	2691	
	同 上	同 上	巳12月12日	銭650文	131×120	1	2692	「ほふき代」「八百屋渡し」の注書と「引替改」の押印あり。
	同 上	岡谷万左衛門→塗屋文十郎殿	巳12月28日	銭22貫540文	191×80	1	2693	
	同 上	同 上	巳12月28日	銭 1 貫41文	128×161	1	2694	
	同 上	同 上	巳12月29日	銭 1 貫400文	131×167	1	2695	「御紙方□納」の注書と「引替相済」の押印あり。「種油代」。「引替改」の押印あり。
	同 上	同 上	同 上	銭 3 貫600文	133×168	1	2696	
	同 上	同 上	同 上	銭 2 貫400文	130×165	1	2697	
	同 上	岡谷万左衛門→佐田屋善三郎殿	午12月晦日	銭 3 貫298文	134×127	1	2698	「富岡印」の注書あり。「八百屋印」
	同 上	同 上	同 上	銭134文	132×126	1	2699	「佐藤屋印」「めか代」。
	同 上	岡谷佐平次→新屋覚三郎	亥 9 月29日	銭 3 貫960文	126×113	1	2700	
以上、岡谷の振出手形は準藩札か私札が不明。後日の検討を要す。								
宍 道 本 町 意宇郡	釣 銭 札	□屋		釣銭15文預	120×34	1	1363	墨書。店印手すれのため判読困難。
	同 上	同 上		釣銭10文預	122×32	1	1364	墨書。同上
	同 上	同 上		釣銭 5 文預	85×19	1	1365	墨書。同上
	同 上	同 上		銭20文	121×41	1	1366	裏面に「釣銭預り置候」と墨書され、前出の釣銭札と体裁を異にするが、五種の小型印は同一。

発行・地名	札 名 称	発行所・引替所	発行年次	額面 (色)	サイズ	数量	番号	備 考
今 市 町 神門郡	酒代釣銭札	和泉屋		酒代釣銭 5 文預	105×30	1	1371	札面に今市町の町名はないが、 『山陰古札図録』に拠る。現出 雲市。墨書。 墨書。
	同 上	同 上		酒代釣銭 3 文預	90×25	1	1372	
大 塚 村 能義郡	酒代銭札	三嶋佐左衛門	明治 4 未 11月	酒1升5合預 代銭 3 貫文	173×51	3	1373	墨書。現安来市。
	同 上	同 上	同 上	酒 1 升預 代銭 2 貫文	172×59	2	1374	墨書。
	同 上	同 上	同 上	酒 5 合預 代銭 1 貫文	161×55	3	1375	墨書。
母 里 能義郡	酒代銭札	億野波蔵	明治 4 未 12月	上酒 1 升預 代銭 2 貫 500文	150×64	1	1367	墨書。本札の裏面に「出雲母里 奈良屋」とペン書の貼紙あり。 先人の整理に従う。 墨書。同上。 墨書。 墨書。
	銭 札	長良屋		100文預	153×43	1	1368	
	同 上	同 上		30文預	150×40	1	1369	
	同 上	同 上		20文預	146×40	1	1370	

隠 岐 国

町 村 札								
蛸 <sup>タコ</sup> 木 <sup>ギ</sup> 村 周吉郡	薪 札	蛸木村地下	安政 3 辰 12月 (来 巳10月限)	薪 1 分半	146×49	2	1376	墨書。「他村不用六拾文引」と あり。松江藩預り地で、現隠岐 郡都万村。

石 見 国

大 名 札								
浜 田 松平(松井)氏 5万石	石州浜田銀 札	八百屋次郎兵衛・ 紀伊国屋小三郎・ 木屋幾右衛門	明和 8 辛 卯	5 分	175×47	1	1381	松井松平氏、明和 6 年再入封、 天明元年 1 万石加封、天保 7 年 奥州棚倉に移封。
浜 田 松平(越智)氏 6万1000石	銀 札	銀札浜田会所	(天保 8 ヵ)	銀 1 匁(赤)	163×44	4	1382	大阪改印札。天保 7 年上野館林 より入封。慶応 2 年第二次長州 戦争に敗れ、美作久米北条へ移 り、鶴田藩を立藩。
	同 上	同 上	同 上	銀 3 分(赤)	150×41	1	1383	大阪改印札。 同 上
	同 上	同 上	同 上	銀 2 分(赤)	146×40	4	1384	
	同 上	同 上	同 上	銀 1 分(赤)	132×33	1	1385	
津 和 野 亀井氏 4万3000石	米 札	米銀元、齊藤十右 衛門・永見平五郎・ 三浦新五郎	明和 6 己 丑	納米 2 斗 代10匁預 (800文)*	174×52	1	1377	*「八百文」は表面中央に墨書。
	同 上	同 上	同 上	納米 6 合 代 3 分預 (24文)*	166×48	1	1378	* 同 上
	同 上	米銀元、齊藤十右 衛門・弥重勘右衛 門・水津孫兵衛	同 上	納米 6 合 代 3 分預 (24文)*	169×50	1	1379	* 同 上
	品物料札	米札役所、齊藤十 右衛門・永見平五 郎・三浦新五郎	文久 3 亥	銭12文預	166×41	3	1380	裏面に「品物料」と印刷。

発行・地名	札 名 称	発行所・引替所	発行年次	額面（色）	サイズ	数量	番号	備 考
鉾 山 札 (石州鉄山) **	御料所石州 銑鉄為替銀 融通手形	こうの池，手形引 替所たきや三左衛 門	午10月＊	銀 1 匁	151×40	8	1386	＊『山陰古札図録』は安政 5 年 10月としている。＊＊ 同上書は 石見銀山とする。
私 人 札 大 浦 湊 邇摩郡	丁持銭手形	大浦湊蔵宿文左衛 門→早平殿	弘化 3 丙 午 3 月	丁持銭20文	133×35	1	2708	磯竹村の枝郷（現大田市）。幕 領大森代官所支配。当地には蔵 宿が置かれ，廻米の積出港とし て繁栄したという。

# 山陽道

## 播磨国

発行・地名	札名称	発行所・引替所	発行年次	額面（色）	サイズ	数量	番号	備考
<b>大名札</b>								
姫路 酒井氏 15万石	姫路預切手	姫路引替所掛屋用 達会所綿町	(文政3ヵ)*	銀10匁(茶)	150×53	1	1387	* 発行年次は『兵庫県史』に拠る。 表面印刷不鮮明。  裏面に「掛屋・用達」の朱印押捺。
	同 上	同 上	同 上	銀1匁ヵ(青)	152×40	1	1388	
	同 上	同 上	同 上	銀1分	110×30	1	1389	
	同 上	引替所姫路掛屋用 達会所綿町	同 上	銭100文(茶)	157×40	1	1390	
	同 上	同 上	同 上	銭48文(茶)	115×40	1	1391	
	同 上	同 上	同 上	銭24文(茶)	120×34	3	1392	
	預切手	播州姫路引替所・ 会所綿町	(文政4ヵ)	木綿100文目 (薄青)	152×65	4	1393	
	同 上	同 上	同 上	木綿50文目 (茶)	145×58	9	1394	
	姫路木綿切手	引替所姫路綿町国 産会所	同 上	目方10文目 (赤)	150×58	1	1395	
	同 上	同 上	同 上	目方1文目 (薄青)	155×48	2	1396	
	姫路実綿切手	同 上	同 上	目方1分	106×33	1	1397	
	預切手	播州姫路引替所・ 会所綿町	同 上	銭5貫文	150×60	1	1398	
	同 上	同 上	同 上	銭2貫500文	147×57	1	1399	
	姫路木綿切手	引替所姫路綿町・ 大坂中嶋蔵屋敷国 産会所	(天保8)	目方10文目 (赤)	150×53	11	1400	
	同 上	同 上	同 上	目方1文目 (青)	157×40	11	1401	
明石 松平氏 初6万石 のち8万石*	銀札	銀会所	寛延3庚 午11月	銀50匁(茶)	185×76	1	1404	* 天和2年越前大野より入封6 万石、天保10年2万石加封。 表面額面の上部に角形黒印押捺。 表面額面上部は丸形朱印。 同 上 灰色札は丸形、白札は角形朱印。 丸形朱印。 裏面に「郡」「町方」の押印あり。 表面上部に茶色の絵具塗付しあり。(虫喰)  未完成札若しくはエラー札ヵ。 表面下部の楮銘なし。  表面・裏面とも、手すれにて判 読困難。美作国飛地領は天保10 年以後、吉野郡のうちにおいて 約1万石弱。 手すれ甚しく詳細不明。宿駅札 ヵ。
	同 上	同 上	同 上	銀10匁(赤)	196×66	3	1405	
	同 上	同 上	同 上	銀10匁(白)	190×69	13	1406	
	同 上	同 上	同 上	銀1匁(茶)	155×43	9	1407	
	同 上	同 上	同 上	3分(灰・白)	155×40	3	1408	
	同 上	同 上	同 上	2分(青)	148×43	5	1409	
	郡・町方札		同 上	銀50匁	190×46	1	1410	
	同 上			銀10匁	191×47	7	1411	
	同 上			銀1匁(青)	155×28	1	1412	
	預切手 (作州飛地 札)	播州明石元締 (作州小原引替会 所ヵ)		銀1匁(茶)	150×40	1	1413	
				銀1匁ヵ	145×40	1	1414	
	同 上	小原駅引替会所		(額面不明)	103×29	1	1415	
竜野 脇坂氏 5万1000石	銭札	竜野掛屋茂右衛門・ 掛屋丈左衛門	文化15寅 正月	銭1匁	139×43	1	1416	墨書。
	同 上	同 上、引替所	同 上	銭1匁	142×42	1	1417	

発行・地名	札名称	発行所・引替所	発行年次	額面(色)	サイズ	数量	番号	備考
	同 上	立町 竜野掛屋, 引替所 立町	同 上ヵ	銭3分(赤)	143×40	1	1418	裏面手すれにて不鮮明。
	竜野融通切手	依屋正九郎・大川 屋源助	安政3丙辰8月	銭50目	170×53	1	1419	
	同 上	同 上	同 上	銭10文目(青)	174×50	2	1420	
	同 上	同 上	同 上	銭5匁	167×48	2	1421	
	同 上	同 上	同 上	銭1匁(赤)	148×43	4	1422	
	同 上	同 上	同 上	銭1匁(薄茶)	148×43	8	1423	
	同 上	竜野依屋・大川屋	同 上	銭3分(黄)	145×42	6	1424	
	同 上	同 上	同 上	銭2分	145×42	6	1425	
	同 上	同 上	丙辰(安政3)8月	銭5厘	107×26	2	1426	
赤穂 森氏 2万石	播磨国赤穂 銀札	柳屋・菊屋	享保15庚戌8月	銀10匁	173×43	9	1427	裏面に「宝暦」の青色改印押捺。
	同 上	同 上	同 上	銀10匁	179×50	1	1428	「老銭大蔵省改」朱印あり。
	同 上	同 上	同 上	1匁	191×47	21	1429	「宝暦」の改印あり。
	同 上	同 上	同 上	1匁	187×41	1	1430	「元文」の改印押捺。
	同 上	同 上	同 上	1匁	185×48	1	1431	「宝暦」改印, 「老厘大蔵省改」朱印押捺。
	同 上	同 上	同 上	1匁	188×41	3	1432	「宝暦」「明治」の改印あり。
	同 上	同 上	同 上	5分	193×41	8	1433	「元文」改印あり。
	同 上	同 上	同 上	3分	194×41	3	1434	同 上
	同 上	同 上	同 上	3分	188×42	1	1435	「明治」改印あり。
	同 上	同 上	同 上	3分	160×39	4	1436	「元文」の改印あり。
	同 上	同 上	同 上	2分	193×41	1	1437	同 上
	銀札 (銭札)	赤穂銀札座	(明治)	銀札100目預 銭60文*	178×74 188×41	2 1	1438 1439	* 享保15年紀の銀1匁札の押掛改造札。
	川下物諸品 融通幣	切手引替・川下ケ 物惣取締所赤穂加 里屋	慶応丁卯 (3)新製	銀100目	154×60	1	1440	
	同 上	同 上	同 上	銀50目	155×51	1	1441	
	同 上	同 上	同 上	銀10匁	155×46	1	1442	
	同 上	同 上	同 上	銀10匁	156×46	3	1443	「明治改」朱印押捺。
	同 上	同 上	慶応3丁卯冬 慶応丁卯 新製?	銀1匁	150×39 140×42 133×38	1 1 1	1444 1445 2679	「明治改」朱印押捺。 [1444]の札と図柄異なる。表面印刷完全に消滅。
三日月 森氏 1万5000石	播州三ヶ月 預切手	引替所掛屋, 融通 惣引請大坂長谷川 孫兵衛	文政5壬午正月	銭1匁	151×38	1	1446	
	山方諸入用 駄賃手形	安栗郡山方元小屋 三ヶ月出張所→三 ヶ月乃井野屋七兵 衛殿	申正月	銭1匁(茶)	144×32	1	1447	「右之通此手形ニ引替御渡可被成候」とあり。
	人馬駄賃預 切手	播州三日月間屋, 引替所町会所	安政4巳3月	銭20目(赤)	179×62	1	1448	
	同 上	同 上	同 上	銭10匁(青)	171×50	2	1449	
	同 上	同 上	同 上	銭5匁(茶)	175×48	1	1450	
	同 上	同 上	同 上	銭1匁(茶)	150×40	1	1451	
	同 上	同 上	同 上	銭1匁(白)	157×40	9	1452	
	同 上	同 上	同 上	同 上	155×41	1	1453	「老厘大蔵省改」朱印押捺。
	同 上	同 上	同 上	銭1分(赤)	118×33	1	1454	
	同 上	同 上	同 上	銭5厘(赤)	95×30	1	1455	



発行・地名	札名称	発行所・引替所	発行年次	額面(色)	サイズ	数量	番号	備考
	産物会所預切手 同 上 同 上  同 上 生産所預切手 (銭 札)	播州三日月勘定所、 大阪堂島蔵屋舗 同 上 同 上  引替所勘定所 三日月生産所 天護家山勘定所	文久2壬戌 同 上 同 上  同 上	銀1匁(赤) 銀3分(赤) 銀2分(赤)  銀5厘(赤) 銭30目 銭3分預り	151×38 125×36 130×37 121×35 94×30 164×53 121×34	1 1 4 2 1 1	1456 1457 1458 2667 1459 1460	手すれのため印刷不鮮明
林 田 建部氏 1万5000石	預切手  同 上 同 上 同 上 同 上  同 上 (銭 札)	切手引替所・林田 姫路屋忠左衛門・ 中屋重右衛門* 同 上 同 上 同 上 同 上 引替所林田姫路屋 ・中屋 同 上 林田姫路屋・中屋	文政2己卯11月 同 上 同 上 同 上 同 上  同 上 (文政2ヵ)*	銀1匁預  銭10匁預(茶) 銭10匁預 銭1匁預 銭5分預  銭2分預 5厘	167×43  165×50 165×48 162×43 154×42  150×43 115×22	3  1 1 5 3  2 1	1489  1490 1491 1492 1493  1494 1495	*裏面墨書。「式厘大蔵省改」朱印押捺。  表面上部、紫色に着色。 裏面墨書。  *小紙片のため、印刷省略ヵ。
三 草 丹羽氏 1万石	預切手 (領内融通切手) 同 上	播州三草引替会所  同 上	安政4丁巳  同 上	銀1匁(青)  銭1匁(茶)	149×42  156×42	1  1	1461  1462	
山 崎 本多氏 1万石	銭 札  駄賃手形  同 上 宍粟山崎融 通切手 宍粟辨用銭 札 同 上 同 上 同 上 同 上 市場商用融 通銀手形 同 上 (町会所札)  同 上 同 上	油屋善左衛門・糠 屋伝七・門前屋善 太夫 山崎町引替所  同 上 年番年寄、引替町 会所 引替所宍粟本町会 所 同 上 同 上 同 上 同 上 宍粟郡山崎町銀会 所 同 上 町方年番→竹田屋 安兵衛殿 同 上 町方年番→辰巳屋 次兵衛殿	文政元寅5月  文政元寅5月 同 上 天保4癸巳6月 天保7年*  同 上 同 上 同 上 同 上 弘化4丁未正月 同 上 巳3月  同 上 同 上	銭1匁  銀1匁 銭1匁 銭1匁預 銭1匁(青)  銭5分(青) 銭2分(青) 銭1分(青) 銭5厘(灰) 銀1匁  銭1匁 銭50目  銭10匁 銭20目	155×47  180×48 150×48 150×40 161×43  156×38 130×33 108×28 101×25 155×42  147×38 169×66  167×54 170×57	2  2 13 2  1 1 1 3 1  1 3  1 2	1463  1464 1465 1466 1467  1468 1469 1470 1471 1472  1473 1474  1475 1476	墨書。   汚れ甚し。  *『山崎町史』に拠る。     墨書。「右は引替相渡可申候」とあり。以下準藩札ヵ。 墨書。 墨書。
安 志 小笠原氏 1万石	播州安志預切手 同 上 同 上 同 上  播州安志預切手 同 上 同 上	引替所安志会所  同 上 同 上 同 上 同 上 切手引替所横尾蔵 元 同 上 同 上	文政5午正月 同 上 同 上 同 上 同 上 (文政5ヵ) 文政5午正月 同 上 同 上	銭50目  銭10匁 銭5匁 銭1匁 銭1分 銭1匁(茶)  銀3分 銀2分	169×52  177×49 168×48 161×42 115×34 155×42  144×40 145×39	1  1 1 3 1 1  1 1	1477  1478 1479 1480 1481 1482  1483 1484	陣屋村安志は現宍粟郡安富町。    表面に額面と引替所のみ印刷。 横尾村は赤穂郡のうち。現赤穂市。享保元年から安志領。

発行・地名	札 名 称	発行所・引替所	発行年次	額面（色）	サイズ	数量	番号	備 考
	(札預り手形)	安志銀方・札座	辰12月	札100目預	166×97	1	1485	墨書。「上納両替勝手次第」とあり。
	郷人足賃銭切手	賃銭渡所・安志会所		郷人足1人	160×42	2	1486	藩札か町村札か不明。
	銭 札	安志用達		銭1分	113×34	1	1487	汚れ著しく印刷不鮮明。
	同 上	同 上		銭5厘	112×23	1	1488	同 上
小 野 一柳氏 1万石	領内融通切手	小野中町引替会所	安政3辰10月	銀5文目(赤)	176×51	1	1496	陣屋村小野は加東郡のうち。現小野市。
	同 上	同 上	同 上	銀1文目(赤)	150×41	1	1497	酉12月限
	同 上	同 上	同 上	銀2分(赤)	116×32	2	1498	
	同 上	同 上	(安政3ヵ)	銀1分ヵ(赤)	104×29	1	1499	手すれで額面不明。
福 本 池田氏	(明治元年立藩) → 播磨国旗本札							
尼 崎 松平氏	→ 摂津国大名札							
浜 松 井上氏	→ 遠江国大名札							
忍 松平氏	→ 武蔵国大名札							
壬 生 鳥居氏	→ 下野国大名札							
会 津 松平氏	→ 陸奥国大名札							
和 歌 山 徳川氏	(五ヶ国通用札) → 紀伊国大名札							
一 橋 家	→ 武蔵国大名札							
室 津 揖西郡	銭 札	室津商法会所	明治2	銭48文	151×39	1	2666	旧姫路藩領。(現御津町) 会所の性格は不明。
<b>旗 本 札</b>								
福 本 池田氏 * 7000石	播州粟賀預切手	川口屋太右衛門・備前屋金兵衛、切手引替所福本(粟賀勘定所印)	文政5午8月	銀5匁預	168×45	7	1500	* 明治元年3500石を加増され、大名に列す。陣屋村粟賀は神東郡のうち。現神崎町。
	同 上	同 上 *	同 上	銀1匁預	160×39	8	1501	* 但し「粟賀勘定所」の印なし。
	同 上	同 上	同 上	銀5分預	137×39	2	1502	
	同 上	同 上	同 上	(灰)				
	同 上	同 上	同 上	銀1分預	115×30	2	1503	
	同 上	同 上	同 上	(茶)				
	同 上	同 上	同 上	銭50匁預	172×61	1	1504	
	同 上	同 上	同 上	銭5匁預	165×44	1	1505	
	同 上	同 上	同 上	(青)				
福本藩銭札	同 上	同 上	同 上	銭1匁預	160×39	2	1506	
	同 上	同 上	同 上	(赤)				
	同 上	同 上	同 上	銭5分預	135×39	2	1507	
	福本藩銭札	切手引替所福本	文政5壬午8月(明治ヵ)*	銭100匁	150×53	1	1508	* 表面下部に「福本藩印」の篆書体印刷あり。明治以後の発行ヵ。

発行・地名	札名称	発行所・引替所	発行年次	額面(色)	サイズ	数量	番号	備考
	同上		同上	銭10匁	133×42	1	1509	
高木 一柳氏 5000石	播州高木木綿預切手	引替会所*	安政2卯改	銀5匁(茶)	162×53	1	1577	陣屋村美養郡高木は現三木市。 * 従来町村札・私札とされているが、裏面に「播磨柳印」の印刻あるにより旗本札とす。
	同上	同上	同上	銀1匁	153×42	1	1578	同上。汚れ甚しい。
	(同上)	高木毛綿引替会所	同上	銀3分(赤)	131×37	1	1579	
	(同上)	高木木綿引替会所	同上カ*	銀2分	116×32	4	1580	* 汚れ甚しく判読できず。
穂積 八木氏 4000石	播磨加東郡穂積預り切手	引替穂積会所		銀1匁(赤)	158×43	2	1510	陣屋村穂積は現滝野町。裏面に「封内融通」と印刷しあり。
	同上	同上		銀1匁(青)	160×41	3	1511	
	同上	同上		銀3分(黄)	128×37	8	1512	
	同上	同上		銀2分(黄)	116×34	4	1513	
	同上	引替蓬萊清兵衛		銭1匁(茶)	155×44	1	1514	
	同上	同上		銭3分(茶)	125×37	1	1515	未使用札カ。押印なし。
家原 浅野氏 3500石	播州加東郡家原預切手	引替家原会所		銀5匁(赤)	181×60	5	1516	陣屋村家原は現社町。
	同上	同上		銀1匁(赤)	158×41	18	1517	
	同上	同上		銀1匁(白)	155×42	4	1518	汚れのため、一見茶色札の如し。
	(農商賣易切手)	引替大庄屋出張所・家原郷中		銀1匁(桃)	140×38	1	1519	
若狭野 浅野氏 3000石	赤穂郡若狭野領内融通切手	切手引替会所、引請大阪天王寺屋	文政5壬午11月	銀1匁(茶)	158×42	1	1520	陣屋村若狭野は現相生市。
	同上	同上	同上	銀5分(赤)	140×35	3	1521	
	同上	同上	同上	銀3分	133×35	2	1522	
	同上	同上	同上	銭1匁	151×41	7	1523	「辰年」の改印押捺。
	同上	切手引替場会所、後明村甚右衛門・寺田村平太夫・若狭野甚五郎*	同上	銭1匁	160×41	1	1524	* 東・西後明(ゴミョウ)村、寺田村とも浅野氏知行村で、現相生市。
	領内融通切手	赤穂郡若狭野切手引替所		銭1分	119×34 113×33	8	1525	「辰年」の改印押捺。
	同上	同上		銭5厘	112×26		2	1526
	銀札預切手	若狭野引替所	明治元辰12月	銀札500目預	166×48	1	1527	墨書。表面上部割印は丸形印。
新宮 池田氏 3000石	銭札	新宮松屋丈三郎・阿波屋宗兵衛	文化13子11月	銭5匁	171×48	2	1555	陣屋村新宮は揖東郡のうち。現新宮町。
	同上	同上	同上	銭1匁	175×45	2	1556	
	同上	同上	同上	銭1匁	164×43	2	1557	墨書。
	炭薪融通切手	天満拾壺丁目播磨屋永治郎・同伊丹屋三治郎、大坂引請平野屋*	慶応3丁卯5月	銀5匁	165×45	2	1558	* 「大坂引請平野屋」の上欄に「出張所新宮」とあるを、絵具で塗布抹消。私人札カ。宍粟郡曲りに同種の切手あり。
	同上	天満拾壺丁目播磨屋永治郎・同伊丹屋庄助、出張所新宮、大坂引請平野屋	同上	銭5匁	165×45	1	1559	
	銭札		文化13子11月	銭2分	165×39	4	1560	墨書。但し額面と年紀のみ(未完成札)。
平福 松平(松井)氏	播州平福預切手	姫路屋・神吉屋	文政4巳8月	銭100文(茶)	162×40	1	1531	裏面の番附・引替文言は墨書。陣屋村平福は佐用郡のうち。現

発行・地名	札名称	発行所・引替所	発行年次	額面(色)	サイズ	数量	番号	備考
5000石	預切手	引替所平福神吉屋	(戊申12月 <sup>カ</sup> )*	銀1匁預	141×43	1	1532	佐用町。 墨書。* 手すれのため判読できず。嘉永元年 <sup>カ</sup> 。宿駅札 <sup>カ</sup> 。
	駅内永久通 銭札	引替平福神吉屋	戊申12月 (嘉永元 <sup>カ</sup> )	銭1分預	113×30	1	1533	宿駅札 <sup>カ</sup> 。
	同上	同上	同上	銭5厘預	100×35	2	1534	同上
ナガ 長谷 松平(松井)氏 3000石	預り切手	長谷会所(長谷銀 納所の印)	丙午9月 (天明6 <sup>カ</sup> )	銀3分預	133×36	2	1528	墨書。手すれのため印刷不鮮明。 口長谷・奥長谷村は佐用郡のうち。現佐用町。
	同上	同上	同上	銀2分預	124×37	2	1529	墨書。
	播州長谷銭 預り切手	引替所橋屋政治・ 林田屋忠平	文政6未 5月	銭1匁	162×43	4	1530	
佐用 松平(松井)氏 2203石	銭預切手	大市屋・中嶋屋・ 赤穂屋	文政6癸 未正月	1匁(茶)	170×39	14	1535	
	同上	同上	同上	3分(桃)	145×32	2	1536	
	同上	同上	同上	2分(薄茶)	124×30	9	1537	
	同上	同上	同上	1分(薄茶)	110×28	5	1538	
	金預切手	佐用会所	辰12月	金1両預(赤)	135×43	2	1539	墨書。「金札ヲ以引替可申候」とあり。
	金札預切手	佐用会所	辰12月	金札1両預 (赤)	137×44	4	1540	墨書。
	同上	同上	同上	金札1分預 (赤)	122×39	4	1550	墨書。
	同上	同上	同上	金札1朱預 (赤)	94×30	4	1551	墨書。
	銀預切手	同上	巳12月	銀100目預 (青)	180×64	12	1541	墨書。
	同上	同上	同上	銀50匁預(茶)	187×62	4	1542	墨書。
	(同上)	(同上)	(同上)	(同上)(茶)	185×62	1	1552	前出「銀50匁預札」の未完成札。 表面下部押印のみあり。
	同上	同上	巳12月	銀20匁預 (赤)	186×60	8	1543	墨書。うち1枚「駅方融通」の 丸形押印あり。
	同上	同上	同上	銀10匁預 (薄茶)	173×43	6	1544	墨書。「駅方融通」の丸形印と 「給賃金」の長方形印押捺。
	同上	同上	同上	銀5匁預 (薄茶)	172×42	6	1545	同上
	知行所救民 勸農切手	引替所播州佐用会 所	巳12月日	銀1匁(茶)	160×40	5	1546	「駅方融通」の押印あり。汚れ 甚しい。
	同上	同上	同上	銀3分	136×35	5	1547	「駅方融通」の押印あり。以上 五種の切手は旗本札を宿駅札に 流用した押掛改造札 <sup>カ</sup> 。
	同上	同上	同上	銀2分(青)	123×33	1	1548	「駅方融通」の押印なし。
	銀預切手	佐用会所	同上(年次なし)	5匁預り	163×48	7	1553	墨書。町村札 <sup>カ</sup> 。
	同上	同上	同上	1匁預り	162×38	15	1554	同上
寺 社 札								
伽耶院 大谷山 大谿寺 118石余	境内修覆人 足切手	大谷山引替所	嘉永7甲 寅12月	銀10匁預 (青)	170×57	1	1561	美濃郡大谷山村(現三木市)に あり。天台宗。
	境内修覆人 足融通方諸 払銀預手形	同上	同上	銀1匁預	148×43	1	1562	
酒見寺 泉生山 60石	普請中融通 手形	引替所寺領→檀家 世話方、檀中引請		銭1匁	133×36	1	1575	裏面に檀家世話方宛「表書之通 以此手形引替御渡可被下候」と あり。加西郡寺内村(現加西市) にあり。真言宗。

発行・地名	札 名 称	発行所・引替所	発行年次	額面（色）	サイズ	数量	番号	備 考
西 岸 寺 酒相山	修覆中融通切手	北條西岸寺，引請檀家世話方添印		250文 此価銀 5 匁 （赤）	153×43	5	1570	加西郡寺内村（現加西市）。浄土真宗。
	同 上	同 上		銭48文（青） 此価銀 1 匁	136×37	8	1571	
	同 上	同 上		銭48文（白） 此価銀 1 匁	132×37	1	1572	
	同 上	同 上		銭20文 此価 5 分	107×33	7	1573	
	同 上	同 上		銭12文 此価 3 分	94×33	5	1574	
樂 法 寺 安永山	諸職人飯代切手	引替所檀家世話方＊		銭300文 此価銀 6 匁	158×43	2	1567	加西郡横尾村（現加西市）にあり。＊ 「横尾村坂ノ口小東」の添印あり。曹洞宗。
	飯代切手	同 上		銭30文（青） 此価 6 分	115×33	1	1568	
	同 上	同 上		銭20文（青） 此価 4 分	100×29	1	1569	
亀山本徳寺 飾西郡 439石余	亀山預切手	亀山肝煎，勘定所		銭丁100文 （赤）	162×43	9	1563	亀山本徳寺は蓮如上人の開創で，現姫路市。裏面に「表書之通引替定日月並四九」とあり。浄土真宗。
船場本徳寺 飾東郡	ヒメチ船場預切手	船場肝煎，勘定会所		銭100文（黄）	160×43	9	1564	亀山本徳寺の姫路別院。現姫路市。表面に「末寺三季融通」，裏面に「表書之通引替月並三六九定」とあり。 同 上
	船場預切手	勘定所		銭12文	123×34	13	1565	
日 飼 薬 師 揖東郡	薬湯札	播吉改		3 文 ＊	100×25	2	1576	＊ 額面墨書。先人の整理した台紙には竜野町如来寺末寺とあり。現竜野市。
明 福 寺 赤穂郡	賽銭切手	引替山之里惣会所	文政 8 酉 9 月	銀 1 匁	164×42	4	1566	山野里村（現上郡町）にあり。表面下部に「門業融通」とあり。浄土真宗。
円 通 寺 京 都	→ 山城国寺社札							
御 室 御 所 京 都	→ 山城国寺社札							
泉 涌 寺 京 都	→ 山城国寺社札							
高野山大源寺	→ 紀伊国寺社札							
町 村 札								
三 木 町 美郷郡	播州三木預り切手	引替会所		銀 5 匁（薄茶）	170×58	1	1581	裏面に「臣有臣之威儀，其下是天為之」の楮銘あり。以下四種の札を町村札とするのに疑問がある。大名飛地札カ。
	同 上	同 上		銀 1 匁	162×43	1	1582	
	同 上	引替三木会所 ＊		銀 1 匁	170×42	1	1583	

発行・地名	札 名 称	発行所・引替所	発行年次	額面（色）	サイズ	数量	番号	備 考
	同 上 預り手形 同 上	同 上 三木町役人中→福 田屋太兵衛殿 同 上	明治元戊 辰12月 同 上	銀 3 分 銀50匁 銀10匁	169×41 158×69 157×57	1 8 1	1584 1585 1586	手方改」の青印押捺。 墨書。 墨書。
東志方九ヶ 村組合 印南郡	川溝道橋普 請用切手  (同 上)*  (普請人足 切手)	東志方九ヶ村組合  同 上  同 上		人足 1 人 (此賃銀 1 匁) (灰) 人足 3 歩 (賃銀 3 分) 人足 1 人 (灰)	154×40  122×34 152×36	6  2 1	1616  1617 1618	裏面に「此賃銀壹匁引替相渡」 と墨書しあり。現加古川市。  * 「普請用」とあり。裏面に 「賃銀三分引替渡」 墨書。此賃銀 1 匁。
社 町 加東郡	人足切手	引替社庄屋処		銭 1 分	90×30	1	1587	表面下部に「社村内融通」の印 刻あり。文政 7 年清水家領、安 政 2 年以後幕領。現社町。
久 保 木 村 加東郡	播州加東郡 六ヶ村普請 融通人足切 手 同 上 同 上 同 上 同 上	引替所久保木村  引替播州加東久保 木村 同 上 同 上 同 上	文久 3 癸 亥 7 月  同 上 同 上 同 上 同 上	銀 1 匁 (赤)  銀 3 分 (赤) 銀 2 分 銀 1 分 (赤) 銀 5 厘 (薄 茶)	149×42  122×35 111×34 100×30 93×28	10  10 10 10 7	1588  1589 1590 1591 1592	表面上部に「久保木村」の添印 あり。延享 3 年以降一橋家領。 現小野市。    以上五種の札は未使用札と思わ れる程、汚れなし。
オオ フシ 大 伏 村 多可郡	村内融通用 水日当券 同 上 同 上 同 上  同 上 同 上	大伏村 (多可郡大 伏村人民総代印) 同 上 人民惣代土木掛 同 上  同 上 同 上	(本年12 月引替) (明治) 同 上 明治19年度 同 上  (本年12 月引替) 同 上	金30銭  金10銭 金 8 銭 金 4 銭  金 1 銭 金 5 厘	156×51  155×56 159×52 160×51  158×50 158×28	1  1 1  1 1	1610  1611 1612 1613  1614 1615	現黒田庄町。墨書。  墨書。 墨書。裏面に「本年引替」 墨書。表面に「通券」、また朱 書で「右は大伏村用普請日当券 也」とあり。明治19年度引替。
シモ ヒメ 下 比 延 村 多可郡	普請用村内 融通切手	引替会所	文久 3 亥 3 月	1 匁 (赤)	150×40	1	1609	延享 3 年以降一橋家領。現西脇 市。
加西郡三拾 六箇村組	郡中融通人 足賃手形 同 上 同 上 同 上 同 上 同 上	組内引替所 * 同 上 * 同 上 * 同 上 * 同 上 * 同 上 *	明治元辰 同 上 同 上 同 上 同 上 同 上	銭500文 此銀10匁 (青) 銭250文 此銀 5 匁 (黄) 銭250文 此銀 5 匁 (黄) 銭50文 此銀 1 匁 (青) 銭50文 此銀 1 匁 (青) 銭50文 此銀 1 匁 (青)	153×54  152×47 152×47 158×41 158×41 158×41	7 7 2 5 2 1	1593 1594 1595 1596 1597 1598	* 「小西組」「山下村」の添印 あり。山下村は延享 4 年以降田 安家領で、現加西市。 * 「小西組」「山下村」の添印 あり。 * 「北条組」「古坂」の添印あ り。 * 「小西組」「山下村」の添印 あり。 * 「北條組」「古坂」の添印あ り。 * 「西組」「谷村」の添印あり。 谷村は延享 4 年以降田安家領で 現加西市。

発行・地名	札 名 称	発行所・引替所	発行年次	額面 (色)	サイズ	数量	番号	備 考
	同 上	同 上 *	同 上	銭50文 此銀1匁 (青)	158×41	2	1599	* 「坂裏組」「上野上村」の添印あり。延享4年以降田安家領。現加西市。
フル 古 坂 村 加西郡	人足切手	引替所古坂村	明治2己巳穀旦	銭500文 (銀10印)	152×48	1	1600	延享4年以降、田安家領で現加西市。
	同 上	同 上	同 上	銭250文 (銀5印)	150×41	3	1601	
	同 上	同 上	同 上	銭48文 (銀1印) (青)	142×41	6	1602	
東 高 室 村 加西郡	池普請人足 手形	播州加西東高室村	明治2己巳正月	銭500文 此銀10匁	162×58	2	1603	延享4年以降田安家領で、現加西市。
コ 小 谷 村 加西郡	池普請人足 手形	播州加西小谷村	明治2己巳正月	銭25文 此銀5分	115×35	1	1604	延享4年以降田安家領で、現加西市。
キタ 北 吸 谷 村 加西郡	村内融通人 足手形	引替所播州加西北 吸谷村	明治2己巳	銭500文 価銀10匁	167×56	1	1605	延享4年以降田安家領で、現加西市。
	同 上	同 上	同 上	銭250文 価銀5匁	159×50	2	1606	
ゲン 段 下 村	邑内融通人 足手形	引替所加西段下村	明治元辰 12月	銀2匁	135×40	1	1607	文政7年以降清水家領。分郷段下新田は延享3年以後田安家領。現加西市。
	人足手形	同 上		銭30文 (銀6分)	113×36	1	1608	
久 保 村 揖東郡 *	久保村人足 切手	銀預会所、切手引 替所	辰2月晦 日限	銀1匁	150×40	2	1619	* 江戸期には久保村の地名見当たらず。揖東郡横村(現姫路市)のうっか。表面中央に「久保村」の方形朱印押捺。墨書。 同 上 同 上
	人足切手	銀預り、引替所利 兵衛・寿一郎	辰2月晦 日切	銀10匁(青)	155×44	2	1620	
	同 上	同 上	同 上	銀5匁(青)	154×44	2	1621	
	同 上	同 上	同 上	銀1匁	155×38	4	1622	
網干苅屋村 揖西郡	銭 札	網干苅屋村月行司		銭2匁	104×25	1	1623	万治元年以降、讃州丸亀藩領。現御津町。
仁 方 村 佐用郡	仁方村普請 所人足手形	会所	(安政4ヵ)*	銀1分	112×34	2	1625	* 『お札』に拠る。天保7年以後幕領(弘化元年竜野藩預地)で現佐用町。
山 崎 町 宍粟郡	預 切 手	山崎年寄、引替所? *		銭2分	123×35	1	1624	* 表裏面とも手すれで印刷不鮮明。山崎藩札か町村札か不明。
船 越 山 宍粟郡	職人賃銭切 手	播州船越山勘定会 所	文政8乙 酉12月	銭1匁(茶)	165×40	1	1647	現南光町。町村札か私人札或いは鉾山札か判明せず。
<b>宿 駅 札</b>								
ヒガシ 東 薔 崎 駅 揖東郡	人馬賃銭切 手	切手引替所、東薔 崎駅会所	明治元戊 辰11月	銭10匁預	170×46	4	1626	表面上部に「人馬通宝」と印刷しあり。現竜野市。 「人馬通宝」 同 上
	同 上	同 上	同 上	銭5匁預	155×49	1	1627	
	同 上	同 上	同 上	銭1匁預	150×40	2	1628	
シホ 飾 西 駅 飾西郡	人馬駄賃正 銭融通切手	人馬問屋、播州飾 西切手引替駅会所	元治元甲 子	銀1匁(桃)	155×43	1	1629	現姫路市。 手すれのため印刷不鮮明。
	同 上ヵ	播州飾西駅組合引	同 上ヵ	銀2分預	116×30	1	1630	

発行・地名	札名称	発行所・引替所	発行年次	額面(色)	サイズ	数量	番号	備考
		請役人中、引替駅 会所						
平福駅 佐用郡	駄賃預切手	平福駅日野屋茂八 郎	壬寅12月 (天保13 <sup>㍿</sup> )	銭1匁預 (赤)	155×43	5	1631	裏面の日野屋の引替文言は「人 足馬士中」宛。現佐用町。
	同上	同上	同上	銭3分預	132×30	4	1632	
	同上	同上	同上	銭2分預	124×31	1	1633	
	播州平福駄 賃切手	引替駅会所	安政2乙 卯10月	銭100文	161×42	1	1634	
	同上	平福引替会所	元治元甲 子3月	銀5匁(茶)	156×44	2	1635	
	同上	同上	同上	銀1匁	154×39	5	1636	
	同上	同上	同上	銀3分	124×33	1	1637	
	同上	同上	同上	銀2分	111×33	1	1638	
佐用駅 佐用郡	銀預切手	佐用会所	已12月	銀20匁預 (赤)	186×60	8	1543	うち1枚「駅方融通」の押印あ り。佐用町の地頭旗本松井松平 氏の旗本札の押掛改印札と推測 し、宿駅札に重出。
	同上	同上	已12月	銀10匁預 (薄茶)	173×48	6	1544	「駅方融通」「給賃金」の押印 あり。旗本札の押掛改造札 <sup>カ</sup> 。
	同上	同上	已12月	銀5匁預 (薄茶)	172×42	6	1545	同上
	知行所救民 勸農切手	引替所播州佐用会 所	已12月	銀1匁	160×40	5	1546	「駅方融通」の押印あり。旗本 札の押掛改造札 <sup>カ</sup> 。
	駅方融通切手	佐用駅会所	辰5月	1分	107×26	6	1549	
鉱山札								
高羅鉄山 宍粟郡	山内稼方賃 銭手形	鉄山勘定場→井筒 屋七兵衛殿		銭1匁(赤)	141×36	12	1639	裏面は「表書之通御渡可被成候」 とあり。該鉄山は東河内村(現 千種町)にあり。幕末は大坂泉 屋(住友)の経営。
	同上	同上		銭3分(茶)	130×33	5	1640	
	同上	同上		銭2分	115×30	2	1641	
	(同上)*	同上		銭1分	114×25	2	1642	
泉屋鉄山 宍粟郡	山内稼方賃 銭手形	鉄山勘定場		銭5匁(赤)	161×49	6	1643	天保以降泉屋の経営する鉄山は 高羅・天児屋・荒屋などとある (『千種町史』)。 『山崎町史』は高羅鉄山札とす るも、天児屋山の可能性もある (『千種町史』)。
	鉄山内稼人 賃銭預手形	鉄山元場、堀作次・ 三嶋眞七→井筒屋 七兵衛殿		銭3分 (薄茶)	140×33	2	1644	
釜掛山 宍粟郡	鉄山駄賃銭 手形	鉄山元場	天保11辛 丑11月	銭3分(青)	143×41	1	1645	原村(現波賀町)。
小泉銅山	(山内稼人 賃銭手形)	小泉銅鉛山元方・ 勘定場手代中	午9月	取引3分 (永銭3文)	124×33	1	1646	表面小型朱印は「鉋代料」 <sup>カ</sup> 。 手すれのため判読できず。銅山 場所特定できず。
私人札								
上松村 美嚢郡	(振出手形)	石田源十郎→本阿 替鴻池与三吉殿	丁卯11月 (慶応3)	銀50目	185×69	7	1648	宝暦12年以降下総古河藩領で、 石田源十郎は大庄屋。現吉川町。  * うち1枚「此銭四拾八文」の 朱印押捺。
	同上	同上	同上	銀10匁	185×66	13	1649	
	同上	同上	同上	銀1匁*	170×44	13	1650	
	同上	同上	戊辰5月	銀5分	140×37	4	1651	



発行・地名	札 名 称	発行所・引替所	発行年次	額面（色）	サイズ	数量	番号	備 考
	牛馬駄賃切手	吉川上松引請木綿店 同 上	(慶応4) 戊辰9月 (明治元々) 同 上	銀10匁* 銀5匁* (黄々)	165×63 164×53	2 2	1652 1653	*「銭四百文」の朱印押捺しあり。 *「銭二百文」の朱印押捺。
吉川村 美囊郡	油価切手  (摂州灘銀札)*	引替所播州吉川、 吉川・三木谷油屋中 本両替笹屋勝治郎殿、 引請吉川奥子儀	明治2己6月	銭500文(黄)  銀1匁(青)	165×54  160×42	1 2	1654 359	「金銭相場時之高下ニ從ヒ相渡可申候」とあり。現吉川町。 * 摂州灘札と重出。
上中村 美囊郡	(銀札)	引請所吉川上中村 谷郷重右衛門		銀1匁々	144×43	1	1655	正徳2年以降下野国壬生領で谷郷氏は肝煎庄屋。現吉川町。手すれと汚れ甚しく印刷は殆んど消滅。
市之瀬村 美囊郡	油価預手形	市之瀬村油屋儀右衛門	戊辰11月 (明治元々)	銀1匁	150×42	1	1656	正徳2年以降下野国壬生領。現吉川町。裏面に「年々菜種高下油価不同有之候ニ付其時之以相場割合相渡可申候」とあり。
沖村 美囊郡	酒価預手形	沖引替所酒屋源右衛門	明治元戊辰6月	銀1匁	148×40	2	1657	延享3年以降三草藩領で現吉川町。
渡瀬村 美囊郡	醬油代銀切手 同 上  酒価預手形	渡瀬村尾崎店 同 上  石田小左衛門	  戊辰10月 (明治元々)	極上醬油1升代* 極上醬油1合代銀5分(赤) 極上酒□ 価1匁	175×46 119×34 151×40	5 4 1	1658 1659 1660	* 価格の表示なし。未使用札カ。 明石藩領で現吉川町。  裏面に「年々随米高下酒価不同有之候ニ付其時之以相場割合相渡可申候」とあり。
槇村 美囊郡	(摂州灘振出手形)*	大塚権右衛門→本 両替油孫殿	戊辰5月 (慶応4々)	銀5匁	160×55	2	353	* 裏面に「播美槇大権」の篆書体印刻あり。播州美囊郡槇村(現三木市)大塚権右衛門の意と解釈(摂州灘札と重出)。
二見 加古郡	(振出手形)  同 上	米屋嘉兵衛→干鰯 屋忠兵衛殿(但シ干吉殿へ)  同 上	乙卯12月6日(安政2)  同 上	銀5匁  銀1匁	160×54  158×43	5 7	1769 1770	差出書・宛書・年次は墨書。二見村は東西両村あり(現明石市)。文化13年から武州忍領。裏面に「嘉永講」の黒印押捺。 裏面同上。
三草村 加東郡	銭 札	亀屋文四郎		銭5匁(青)	117×35	1	1661	墨書。表面に「米預り」、裏面に「表書之通其時之相場ニ応引かへ相渡可申候、村内限り」とあり。三草藩の陣屋町で現社町。
社村 加東郡	(酒切手)  同 上  同 上	東播佐保社広野屋磯七  同 上  同 上	万延元(庚申年 從十ヶ年限) 同 上 同 上	1升(銭1匁定)(黄)  5合(銭5分定)(薄茶) 2合(銭2	152×43  130×36 116×36	9 1 1	1662 1663 1664	裏面に「酒之義八年々米価ニ応し直段高下有之、此切手銭壹匁と相定、其時々以割合相渡し可申候」とあり。現社町。 同 上

発行・地名	札名称	発行所・引替所	発行年次	額面(色)	サイズ	数量	番号	備考
				分定(茶)				
上田村 加東郡	醤油価切手	醤油屋浜二		醤油1升	155×42	1	1665	裏面に時相場引替の文言あり。 現社町。 同上
	酒価切手	酒屋文兵衛		価銀1匁(茶)	141×39	3	1666	
	同上	同上		酒1升(銭1匁)(赤)	109×30	1	1667	
	同上	同上		酒2合(銭2分)(赤)	96×28	1	1668	
西古瀬村 加東郡	西古瀬融通切手	村仲, 引替友藤新右衛門	文久4ヵ	米1升(銭1匁)(青)	146×39	3	1669	裏面に時相場引替文言あり。幕領で現社町。町村札か私人札か不明。 * 表面上部に「米切手」の表示あり。
	同上(米切手)*	引替友藤新右衛門	慶応丁卯(3)正月	銀1匁(黄)	145×40	1	1670	
東古瀬村 加東郡	預手形	引替所播州加東東古瀬質屋*	戊辰11月(明治元ヵ)	醤油1升	152×48	2	1671	文政11年以降下総国古河藩領で現社町。* 「引請小西店」ほかの添印あり。
	同上	同上	同上	価銀10匁(灰)	150×36	4	1672	
古瀬村 加東郡	(姫シ並合切手)	引請古瀬源次郎		姫シ並合5匁(青)	119×35	3	1673	墨書。裏面に「右は小札私底ニ付五拾目ニ相嵩候ハ、引替可申」とあり。東西中の3ヵ村の古瀬村のうち何れか不明。
大門村 加東郡	駄賃預切手	吉井店→伊藤栄次郎殿	丙辰(安政3)	銭1匁(赤)	154×43	9	1674	元禄16年以降旗本八木氏の知行村で現社町。
	同上	吉井店権重郎	安政3辰	銭1匁(赤)	136×42	1	1675	
新畑村 加東郡	綿切手	加東新畑宗兵衛・新右衛門	文久4子2月	銭1匁(桃)	148×41	3	1676	幕領で現小野市。
	同上	加東新畑新右衛門・宗兵衛	同上	銭1匁(赤)	147×40	1	1677	
	同上	加東郡新畑村新右衛門	同上	銭1匁(赤)	147×40	1	1678	
	同上	加東新畑新右衛門・宗兵衛	同上	銀1匁(青)	147×42	3	1679	
	同上	加東新畑宗兵衛・新右衛門	同上	銀1匁(青)	151×42	4	1680	
	同上	加東新畑新右衛門・宗兵衛	同上	銀5分(桃)	122×35	1	1681	
	同上	同上	同上	銭5厘(茶)	117×30	1	1682	
	同上	加東新畑宗兵衛・新右衛門	戊辰(慶応4)2月	銀5匁	146×47	1	1683	
栗生村 加東郡	融通切手	東播加東栗生寅吉		銭500文(青)	155×47	1	1684	宝暦12年以降下総国古河藩領で現小野市。裏面中央の篆書体は「米代預」ヵ。
下曾我井村 加東郡	(銭札)	加東郡下曾我井村若原猪兵衛		銭500文*	150×50	10	1685	寛延以降幕領で、現小野市。* 「壹両ニ付十一メ三百文」とあり。裏面に「子福改」の押印あり。
新部村	米綿代銀手	桑村永作→北屋二	庚申5月	1匁(青)	150×40	2	1686	宝暦12年以降、下総国古河藩領。

発行・地名	札 名 称	発行所・引替所	発行年次	額面 (色)	サイズ	数量	番号	備 考
加東郡	形	平殿	(万延元カ)					現小野市。
	同 上	同 上	亥 8 月	銀 1 匁(赤)	145×40	1	1687	
	(米綿代銀札カ)	桑村→北屋二平殿		5 厘(青)	100×27	1	1693	
	米綿代銭手形	同 上		銭500文(青)	156×57	9	1690	
	同 上	同 上	戊辰改 (明治元カ)	銭100文* (茶)	140×40	1	1692	*「一両ニ付十一メ三百文」とあり。
	(同 上カ)	同 上		銭100文	146×47	1	1691	裏面印刷なし。未完成札カ。
	融通手形	粟津兵右衛門→牛居村前田兵右衛門殿	明治元戊辰11月	銭500文* (黄)	155×48	5	1688	*「銀札拾匁替」。牛居村は加西郡のうち(現加西市)。
	同 上	同 上	同 上	銭500文* (黄)	155×48	5	1689	* 同上。「引請河内長左衛門」の添印あり。
ナガ 長 町 村 加東郡	米価手形	加東郡長町村忠左衛門	巳 3 月	金 1 歩	120×40	2	1694	「表書之通有合金札を以引替御渡シ可中候」とあり。宝暦12年以降下総国古河藩領で現小野市。
	同 上	同 上	同 上	金 2 朱	118×40	3	1695	
	同 上	同 上	同 上	金 1 朱	106×39	4	1696	
小 野 加東郡	油価預手形	加東小野水車辨之助	辰11月	価500文	168×54	3	1697	裏面に「年々随実種高下油価不同有之ニ付時之以相場割合相渡可中候」・「金引替改世上任並合」とあり。現小野市。
	同 上	同 上	同 上	価250文(青)	158×46	4	1698	
太郎太夫村 加東郡	米価金札	加東郡市場近藤文蔵	(未巳12月切)	米価金 1 朱	121×41	1	1699	墨書。「此手形有合金札を以相渡可中候」とあり。小野藩と幕領の相給村で、現小野市。
滝 野 村 加東郡	荷物駄賃仮預切手	滝野船座阿江小太郎		銭50文(青)	141×40	1	1700	加古川舟運の要地で姫路藩領。現滝野町。裏面に、金壹両と銭拾壹貫貳百文換の印刻あり。
北 野 村 加東郡	醤油切手	引替油屋新十郎	文久 4 甲子	醤油 1 升* (黄)	148×42	1	1701	*「銭 1 匁」の定。宝暦12年以降下総国古河藩領で、現滝野町。
キヨ 清 水 村 多可郡	山稼人足駄賃切手	引替田中又左衛門・高山平右衛門・古手屋新五郎、請負多可郡清水村田中吉五郎	(文久 3 カ)	銭 1 匁(赤)	145×38	1	1727	幕領で現加美町。
ヒ 比 延 町 多可郡	繰賃切手	引替ヒエ別所千年屋清兵衛	元治元	銭 3 分(青)	100×28	1	1728	手すれで印刷不鮮明。延享 3 年以降一橋家領で現西脇市。
野 間 谷 多可郡	邑内融通切手	酒利	明治辛未(4)冬	1 文目(青)	119×34	1	1729	墨書。現八千代町。
石 原 村 多可郡	普請切手	村上九郎左エ門・藤田吉右エ門・藤田忠左エ門	明治元戊辰	銭 1 匁(灰)	127×37	1	1730	延享 3 年以降一橋家領で現黒田庄町。町村札カ。
中 野 村 加西郡	酒 切 手	引替播州中野酒屋才治郎	文久 3 亥正月	銀10匁	161×55	2	1702	文政 7 年清水家領、文久 2 年から会津藩領で、現加西市。才治郎は下野壬生藩の安政 5 年銀札の札請人にその名が見える。
	同 上	同 上	同 上	銀 5 匁(赤)	166×53	1	1703	
	米切手	引替所加西郡中野	文久 3 亥	銭 1 匁(青)	148×43	97	1704	三宅弥太夫も安政 5 年の壬生藩

発行・地名	札名称	発行所・引替所	発行年次	額面(色)	サイズ	数量	番号	備考
	同上	村三宅弥太夫	6月	銭3分(青)	125×33	3	1705	銀札の札請人。
	同上	同上	同上	銭2分(青)	116×32	3	1706	
フル 古坂村 加西郡	預り切手	古坂醤油屋	明治4未 9月	3文目(黄)	130×37	2	1707	墨書。延享4年以降田安家領で 現加西市。 墨書。
	同上	同上	同上	1文目(青)	118×34	3	708	
西谷村 加西郡	(人足切手 <sup>カ</sup> )			1人札	160×43	1	1709	墨書。延享4年以降田安家領で 現加西市。 墨書。 墨書。
	同上			半人札	104×39	1	1710	
	同上			賃増札	107×33	1	1711	
下埜新田 加西郡	焼酎之切手	播州加西下埜新田 万屋小左衛門	明治2己 5月	銀10匁代 銭500文(赤)	158×52	2	1712	「旧高旧領」に下埜新田の村名 見当たらず。下野上村(現加西 市) <sup>カ</sup> 。
溝口 加西郡	融通切手	引替所加西溝口大 野	元治元子 5月始、 戊3月限	銭1文目 (赤)	154×42	4	1713	「旧高旧領」に溝口の村名見当 たらず。
豊倉村 加西郡	油切手	播州豊倉油屋重兵 衛	明治2己 己3月	銭500文(黄)	155×48	2	1714	宝暦13年から清水家領で、現加 西市。
	同上	同上	同上	銭500文(青)	150×48	1	1715	
ニシ 西長村 加西郡	木綿代手形	播州加西西長利兵 衛	明治元戊 辰10月	銭48文*	154×43	1	1716	文久2年から会津藩領で、現加 西市。*裏面に「ギン壱匁」と あり。
ツネ 常吉村 加西郡	駄賃切手	引替所常吉村丈助	明治元辰 12月*	銀5分(灰)	112×33	1	1717	元治元年から会津藩領で、現加 西市。*裏面年紀は墨書。 裏面年紀のみ墨書。
	同上	同上	明治2己年	銀5分(灰)	111×33	1	1718	
ベ 別府村 加西郡	米手形	加西郡別府甚兵衛 ・太七郎		銭1匁(茶)	148×43	1	1719	安永年間清水家領。元治元年か ら会津藩領で、現加西市。
	同上	同上		銭1分(赤)	83×30	1	1720	
繁昌村 加西郡	酒預切手	引替所繁昌西繁昌 紋治郎	文久3亥 正月	銭500文(青)	168×49	8	1721	宝暦13年清水家領。文久2年か ら会津藩領で現加西市。裏面引 替文言の下に「増田」の印刻あ り。紋治郎は安政5年の下野壬 生藩銀札の札元の一人。
	駄賃切手	引替所繁昌村指物 屋茂十郎		銀5分	125×33	6	1722	
	(増銭札 <sup>カ</sup> )	引替所繁昌徳左衛 門	卯3月	銭5分	126×35	1	1723	
ヒガシ 東南村 加西郡	人足手形	加西郡東南村引替 林兵衛、喜代助・ 多兵衛	元治2丑 3月	価銭1匁 (人足1人)	153×41	1	1724	墨書。幕末は会津藩領 <sup>カ</sup> 。現加 西市。
桑原田村 加西郡	(振出手形)	桑原田村高田弥兵 衛→八幡屋市兵衛 殿	甲子5月 (元治元)	銭5厘	103×32	2	1725	文久2年以降会津藩領で、現加 西市。
野条村 加西郡	木綿代手形	引替播州野条木綿 屋徳三郎・木綿屋 又兵衛		銭250文* (灰)	150×42	2	1726	文政7年清水家領。文久2年以 降会津藩領で、現加西市。* 「ギン五印」とあり。

発行・地名	札 名 称	発行所・引替所	発行年次	額面（色）	サイズ	数量	番号	備 考
林 田 揖東郡	諸荷物運送切手	（油治力）＊→ 本両替鴻池伊助殿	卯11月	銭500文** （青）	165×45	1	1731	＊裏面発行元の欄空白。未完成札カ。＊ ＊ 「通用五匁」。 『古紙幣一覽』には、従来林田藩札として扱われていたものを否定、私人札とす。＊ 「寛涼社」の印刻あり。現姫路市。
	金札預切手	林田姫路屋・材木屋・本元屋・北新屋＊	明治元辰11月	金札1分預	122×41	1	1732	
吉 美 村 揖東郡	開地利用印券＊	播州吉美開発会所	慶応4 戊辰5月	銀10匁	160×51	1	1733	林田藩領で『旧高旧領』には紀美村とあり。現姫路市。＊表面下部に「盡民力開地利用印券便交接」とあり。
	同 上	同 上	同 上	銭10匁（茶）	160×49	3	1734	
	同 上	同 上	同 上	銀5文目（青）	150×50	1	1735	
	同 上	同 上	同 上	銀1匁	147×39	1	1736	
大 江 嶋 村 揖東郡	築提傭賃日	引替所大江嶋御新	慶応3 丁卯12月	銀10匁	163×48	6	1737	天明8年以降幕領で、現姫路市。
	日融通切手	開発会所	同 上	銀1匁	154×49	5	1738	
	同 上	同 上	同 上	銭10匁（青）	163×48	5	1739	
	同 上	同 上	同 上	銭5匁（赤）	165×49	5	1740	
興 浜 村 揖東郡	総糸績賃木綿織賃手形	網干興浜総会所	安政4 丁巳5月	銭1匁	144×39	5	1741	讃岐国丸亀藩領。現姫路市。
	同 上	同 上	同 上	銭1分	115×30	2	1742	
	普請中趣法融通切手	引替所網干興浜新開会所	同 上	10文目（青）	150×50	2	1743	
	同 上	同 上	同 上	1文目	143×39	4	1744	
新 在 家 村 揖東郡	開発賃銭切手	切手引替所網干新在家年行司	安政3 丙辰8月	銭1匁（黄）	150×40	4	1745	寛文12年以降竜野藩領。現姫路市。汚れ甚しい。町村札カ。
網 干 揖東郡	堤土方着到切手	御新開普請会所、引替所新開願主会所		雇夫1人（銭1文目）	145×38	2	1746	網干村は万治年間に新在家・余子浜・興浜の3カ村に分村とあるが、該切手は特定できず。墨書。裏面に「右は此切手参り候得は銭ニ引替相渡し可申候、正月ハ四日切七月ハ十六日切不延候」とあり。墨書。＊ 「網干黒仁」の店印あり。墨書。
	浜 切 手	嘉兵衛	文化2 丑12月	20目	203×47	1	1747	
	銭預り切手	嘉兵衛＊	文化11戊12月	銭10匁預り	158×43	1	1748	
	同 上	同 上		銭10匁	182×52	2	1749	
黒 崎 村 揖西郡	（堀吉切手）	網干黒崎堀吉	文化10酉	6分	142×33	3	1750	年次は墨書。万治元年から讃州丸亀藩領。現御津町。
伊 津 浦 揖西郡	魚代預り切手	伊津浦問屋、引替所枳屋利左衛門	弘化2 巳11月	銭10文目	170×47	3	1751	讃州丸亀藩領で、現御津町。
（揖保川筋）＊	海川運賃預切手	引替所播磨国因州運送用達	明治2 巳3月	銀10文目	157×47	2	1754	＊地名特定できず。表面上部に「運送辨市」、下部に「因幡両国海川運送□□融通」の印刻あり。
福野・余子浜 宍粟・揖東郡	山稼駄賃船稼運賃切手	宍粟福野本屋・網干余子浜亀屋		銭1文目	150×40	8	1752	福野村（現一宮町）は幕領、余子浜村（現姫路市）は天保11年より竜野藩預り地。
	駄賃運賃切手	宍粟本屋・網干亀屋		銭1分	115×30	1	1753	

発行・地名	札 名 称	発行所・引替所	発行年次	額面 (色)	サイズ	数量	番号	備 考
佐 用 佐用郡	銭預り手形	佐用川口屋	丁未12月 (弘化4ヵ)	銭2分預り (薄茶)	120×30	1	2651	墨書。裏面「佐用川藤」の押印あり。従来佐用松平氏の旗本札とされているが疑問。
山 崎 町 宍粟郡	預り札	三木屋宇平	未12月	1匁預り (灰)	124×36	2	1755	山崎藩の陣屋町で現山崎町。墨書。
	酒切手	山崎町東壺屋	乙卯(安政2ヵ)	酒1升預り	168×53	1	1756	裏面墨書で「表書之通酒老升預り中候、御入用之節入物御持参可被成下候」とあり。商品切手ヵ。なお『山崎町史』は鉄山札とす。
岸 田 村 宍粟郡	駄賃銭預手形	宍粟郡岸田村太郎左衛門	天保7申12月	銀1匁預 (黄)	165×40	1	1757	裏面に「三方融通」「産物駄賃」の押印あり。幕領で現一宮町と推定(宍粟郡内には現山崎町の岸田村もあり)。
	同 上	同 上	同 上	同上(青)	161×40	1	1758	裏面に「公文村源七」の墨書加筆あり。公文村は幕領で現一宮町。
	同 上	同 上	同 上	同上(青)	161×40	1	1759	裏面に「引替所坂山弥四郎」の墨書加筆あり。
	同 上	同 上	同 上	銭3分預(茶)	128×35	1	1760	
イカバ 五十波村 宍粟郡	銭 札	五十波(万屋)伝之助	文化12亥10月	銭1匁	164×55	2	1761	墨書。元禄10年以降三日月藩で現山崎町。
肥 餘 谷 宍粟郡	村内融通切手	播宍千草西山村文兵衛	元治2丑3月	銭札1匁	162×38	2	1762	肥余谷の地名特定できず。西山村は幕領で現千草町。
原 村 宍粟郡	座方三ヶ邑 駄賃銭預手形	宍粟郡原邑西谷屋宇平	天保12丑10月	駄賃銭1匁 預	165×40	1	1763	裏面に「本座融通」とあり。幕領で現波賀町。
イギ 生 栖 村 宍粟郡	駄賃切手	生栖村常次郎→倉床村嘉平次殿	辰12月	銭5匁預り	151×51	1	1764	墨書。幕領で現一宮町。
東 安 積 村 宍粟郡	駄賃切手	サガ山伴左衛門		銭1分預り		3	1765	裏面に「村方融通」の黒印押捺。町村札か私人札か不明。享保元年から幕領と安志藩の相給。現一宮町。
(須賀村ヵ) 宍粟郡*	産物駄賃諸 払手形	宍粟郡御料所産物会所	安政3丙辰3月	銭1分	99×23	1	2652	* 須賀村(現山崎町)とする根拠は薄弱であるが、宍粟郡内の幕領陣屋がある。該札は従来山崎藩札とされているが疑問。
曲 り 宍粟郡*	銭 札	宍粟郡曲り出張引替所、引請大阪加島屋	丙寅3月(慶応2ヵ)	銭3分預り	127×33	1	1766	* 「曲り」の地名、宍粟郡において特定できず。
	炭薪業切手	天満十一丁目播磨屋永治郎・天満拾老丁目伊丹屋三治郎、出張所宍粟曲り大阪引請平野屋	慶応3丁卯5月	銀1匁(赤)	155×39	2	1767	該切手の発行所・引請人・発行年次が同一の札、播州新宮池田氏の旗本札あり。検討を要す。
	宍粟通用札	宍粟曲り会所	(慶応4ヵ)	2分(桃)	116×30	1	1768	「引請姫路米屋仲次郎・出張中嶋屋周兵衛札」ヵ(『古紙幣一覽』に拠る)。

美 作 国

発行・地名	札 名 称	発行所・引替所	発行年次	額面 (色)	サイズ	数量	番号	備 考
大 名 札								
津 山 松平氏 10万石	作州津山銀札	山本・茂渡・川口	享保15庚戌10月*	10匁	180×53	2	1777	* 宝暦10年札カ。札面享保札に新旧2種ある由。 前出の10匁札より紙質厚目。  「六厘大蔵省改」朱印押捺。 「貳厘大蔵省改」朱印押捺。 墨書。 墨書。* 子2月限。印刷不鮮明。
	同 上	同 上	同 上	10匁	181×55	4	1778	
	同 上	同 上	同 上	1 匁	183×47	4	1779	
	同 上	同 上	同 上	3 分	169×35	3	1780	
	同 上	同 上	同 上	2 分	170×36	7	1781	
	同 上	同 上	同 上	1 匁	180×38	2	1782	
	同 上	同 上	同 上	3 分	157×32	1	1783	
	銀札預り札	銀札場	未8月	銀札100目預	179×73	1	1784	
	同 上	札元	文久3カ*	銀札1分預	97×30	1	1785	
	同 上	作州津山札元	慶応元乙丑5月	銀札1分預	105×30	1	1786	
	作州鉾山通用銭札	津山商法方	己巳(明治2)	銭1貫文預	174×47	2	1787	
	同 上	同 上	同 上	銭500文預	164×42	1	1788	
	同 上	同 上	同 上	銭100文預	149×38	3	1789	
鶴 田 松平氏 6万1000石	作州浜田領預切手札	銀札会所*		銀5匁	160×43	1	1771	* 「公文」の添印あり。汚れ甚し。 同 上 同 上 同 上 * 「福渡駅場」の添印あり。宿駅札に流用か。
	同 上	同 上		銀2匁	151×38	3	1772	
	同 上	同 上		銀1匁	140×37	2	1773	
	同 上	同 上		銀3分	118×37	2	1774	
	同 上	同 上*		銀2分	115×35	3	1775	
	同 上	鶴田引替会所		銀1匁	152×40	3	1776	
勝 山 三浦氏 2万3000石	(勝山領銀札)	替所・詰役金田		銀10匁預り	170×49	1	1790	裏面の印刷殆んど消滅。  「壹厘大蔵省改」朱印押捺。
	同 上	同 上		銀1匁預り	165×40	3	1791	
	同 上	同 上		銀3分預り	153×36	1	1792	
	同 上	同 上		銀2分預り	150×35	2	1793	
	同 上	同 上		同 上	145×35	1	1794	
	同 上	引替所		銭5文	90×25	7	1795	
古 河 土井氏	→ 下総国大名札							
小 田 原 大久保氏	→ 相模国大名札							
明 石 松平氏	→ 播磨国大名札							
町 村 札								
馬 形 南* 吉野郡	醬油代預札	引替作州馬形南**	安政6己未10月	銀札3分	153×40	1	1796	* 『旧高旧領』には「馬形村下分、津山藩領分」とあり、現勝田町。** 「封内融通」とあり、町村札とするに疑念が残る。
行 延 村 勝南郡	御銀札預切手	庄屋矢吹	安政6己未12月	御銀札1分預(赤)	130×32	1	1797	墨書。表面に「御銀納方」「村内融通」の押印あり。寛政11年から幕領(竜野藩預地)。現柵原村。
宿 駅 札								
小 原 駅	(駅内融通	小原駅引替会所	?	(額面不明)	103×29	1	1415	小原駅の地名特定できず。また

発行・地名	札名称	発行所・引替所	発行年次	額面(色)	サイズ	数量	番号	備考
吉野郡カ	賃銭切手カ)							明石藩の飛地札か否か判別できず、重出。
辻堂駅 吉野郡	(銭札)	引替所作州辻堂駅 会所	(明治元 辰カ)*	(額面不明) (銭100文カ)	145×44	1	1800	* 已3月限カ。天保13年以降明 石藩領で現大原町。印刷不鮮明
土居駅 英田郡	人馬賃銭預 札 人馬賃銭切 手	土居駅、引替会所 土居駅、切手引替 所亀屋	安政7庚 申6月 文久4甲 子	銀2匁(黄) 銭1匁	160×40 160×39	1 5	1798 1799	寛政6年以降竜野藩領地。現作 東町。
福渡駅 久米南条郡	作州浜田領 預切手札	銀札会所*		銀1分	115×35	3	1775	* 「福渡駅場」の押掛印あり。 作州浜田藩札の宿駅札への流用 カ。現建部町。
<b>鉱山札</b>								
美谷山鉄山 大庭郡	山内通用札	作州美谷鉄山所	嘉永元中 8月改*	増札100文 預	175×43	1	1801	裏面墨書。* 12月限。大庭郡社 村にあり。天保9年幕領(津山 藩領地)で、現真庭郡湯原村。 裏面墨書。12月限り。
	同 上	同 上	同 上	増札30文預	160×40	2	1802	同 上
	同 上	同 上	同 上	増札10文預	133×35	1	1803	同 上
	同 上	同 上	同 上	増札5文預	111×28	1	1804	同 上
<b>私人札</b>								
小川 大庭郡カ	(銀札カ)	作州小川座胡屋		札1分	126×30	2	1821	作州に小川の地名特定できず。 釘貫小川村(現湯原町)カ。
勝南組 吉野・勝北 郡カ	勝南組融通 切手	引替所渡里新多久	已8月	銀札1匁預	165×36	3	1815	裏面に「組合年中諸入用取引証 札」とあり。常陸国土浦藩飛地 領村の組合カ。汚れ甚しい。
	同 上	同 上カ	同 上	銀札2分預	142×33	1	1816	
	同 上	引替所渡里新多久	同 上	銀札5厘預	110×30	1	1817	「取引口敷札並」
榎原下村 英田郡	銀札預札	引替所作州下村長 谷・嶋屋	已10月	銀札5分預	148×40	13	1813	寛政6年以降幕領(竜野藩領地)、 明治元年鶴田藩領で、現美作町。
榎原上村 英田郡	銀預札	引替所作州榎原上 村大前・油屋・今 岡屋	卯12月	銀1匁預 (茶)	170×40	2	1814	享保15年以降大坂城代土岐氏領 (のち上野国沼田領)。現美作町。
豊国 勝南郡カ	(銀札)	作州豊国栄屋		銀1匁預	168×40	1	1818	豊国の地名特定できず。現美作 町のうちカ。
吉村 勝南郡	(銀札)	引替所作州吉村延 年	卯8月	銀1匁	165×40	3	1819	元禄10年以降幕領、寛政6年竜 野藩領地。現美作町。
中村 久米北条郡カ	銀札預り札	引替所作州中村玉 屋	已3月	銀札1匁預	161×39	1	1820	『岡山の貨幣』は現久米郡久米 町とする。旧久米中村カ。
西川 久米北条郡	西川通用手 形	引替所馬谷カ*		1分預(青)	130×30	1	1805	* 裏面不鮮明で判読困難。相州 小田原藩の飛地領で、同陣屋が 置かれたという。現旭町。
桑村 久米北条郡	銀札預り札	作州桑村富沢屋*		銀札1分預 (薄茶)	104×30	22	1806	* 相州小田原飛地領の節発行し た宝暦5年の藩札の引替所とし てその名あり。現久米町。
	同 上	同 上		同上(白)	100×30	1	1807	
	同 上	同 上		銀札5厘預り	81×28	3	1808	



発行・地名	札名称	発行所・引替所	発行年次	額面（色）	サイズ	数量	番号	備考
	同 上 同 上 同 上	同 上 同 上 同 上 作州□村近田屋*		銀札3厘預り 銀札2厘預り 同上（薄茶） 津札5厘預	84×23 78×23 * 94×27	1 3 8 1	1809 1810 1811 1812	* 札面上下截断しあり、原寸不明。 * 従来桑村近田屋札として知られているが「森村」カ？。他に1枚、裏面のみあり。
山手公文南 村 久米北条郡	山手通用手 形 同 上	南村柳屋 南村比沙門柳屋		銀札1分預 り（茶）* 銀札1分預 り（黄）	129×28 114×27	9 7	1824 1825	文政8年から播州竜野藩領。明治元年鶴田藩領。現旭町。汚れ甚しく色は判別し難し。
大 戸 村 久米南条郡	大戸通用手 形 同 上	引替所問屋中 同 上		2分預（赤） 1分預	146×30 119×25	2 2	1822 1823	手すれにて印刷判読困難。幕領で寛政6年以降竜野藩預り地。現柵原町。

備 前 国

大 名 札								
岡 山 池田氏 31万5200石	備前岡山銀 札	久米屋・和田屋*	享保15庚 戌曆銀 （天明4）	10匁	170×55	3	1826	* 撫角の朱印押捺。丸竜札（裏面上部に丸竜の図柄）
	同 上	同 上	享保15庚 戌曆銀(?)	10匁	169×55	1	1827	表面額面上部に丸形朱印押捺あるも判読できず。丸竜札
	同 上	同 上	同 上 （安政2カ）	10匁	167×55	1	1828	耳切札。10匁札の上部を斜切りして1匁札に代用したという（『岡山の貨幣』）。
	同 上	同 上 *	享保15庚 戌曆銀 （安政4カ）	10匁（茶）	168×52	2	1829	* 分銅形朱印押捺。
	同 上	同 上	同 上	10匁 *	168×53	4	1830	* 「壹貫文」の押掛改造朱印あり。
	同 上	同 上 *	享保15庚 戌曆銀 （天明4）	1匁	170×43	3	1831	* 撫角朱印押捺
	同 上	同 上	享保15庚 戌曆銀(?)	1匁	209×46	2	1832	長札。
	同 上	同 上	（万延元カ）	1匁	166×42	1	1833	耳切札。旧1匁札の両耳を切り8分として通用（前掲書）。
	同 上	同 上 *	享保15庚 戌曆銀 （安政4カ）	1匁	165×42	5	1834	* 分銅形朱印押捺。
	同 上	同 上	同 上	1匁 *	168×41	1	1835	* 「百文」の押掛改造朱印あり。後人の付した帯封に「嘉永七甲寅改正札」とあり。
	同 上	同 上	同 上	1匁	166×41	2	1836	同上。「八厘大蔵省改」朱印押捺。
	同 上	同 上	同 上	1匁	167×41	3	1837	「八厘大蔵省改」朱印押捺「百文」の押掛印はなし。
	同 上	同 上	享保15庚 戌曆銀 （天明4）	5分	165×36	4	1838	
	同 上	同 上	同 上カ	4分	170×42	1	1839	
	同 上	同 上	同 上カ	3分	169×37	2	1840	

発行・地名	札名称	発行所・引替所	発行年次	額面(色)	サイズ	数量	番号	備考
	同上	同上	同上	2分	161×36	1	1841	
	同上	同上	享保15庚戌曆録(安政4ヵ)	2分	156×33	1	1842	
	同上	同上	同上	1分	165×35	4	1843	
<b>町村札</b>								
宇野津村(海津村)児島郡	役米切手	宇野津村, 浜	丁丑(文化14ヵ)	役米1升5合	163×42	1	2671	岡山藩領。天城陣屋の家老池田氏知行所で現倉敷市。墨書。
	同上	同上	同上	役米1升2合	162×42	1	2672	墨書。
	同上	同上	同上	役米8合	162×42	1	2673	墨書。
	同上	同上	同上	役米6合	161×41	1	2674	墨書。
	同上	海津村, 浜	同上	役米5合	163×42	1	2675	墨書。海津村は宇野津村の古称で、混用されていたという。
	同上	同上	同上	役米4合	163×42	1	2676	墨書。
<b>私人札</b>								
味野村児島郡	(銀札)	引替野崎		1分	158×34	1	1844	岡山藩領。天城陣屋の家老池田氏知行所で現倉敷市。野崎氏は文化年間以後の著名な塩田経営者。

## 備中国

<b>大名札</b>								
松山板倉氏5万石	(銀札)	大坂屋	(延享元ヵ)	(銀5分ヵ)	190×40	1	1935	両面とも印刷は殆ど消滅。「当永五文」の押掛改造印と、「銅山用」の押印あり。
	備中国松山銀札	同上	寛政9丁巳録	銀5匁	169×51	1	1936	
	備中国松山領分銅鉄為替金手形	為替会所		永銭10文預	163×40	2	1937	汚れ甚しい。裏面に「此手形百枚ヲ以金壹両引替可申候」と印刷。
	同上	同上		同上	163×39	2	1938	同上。「壹銭大蔵省改」の朱印押捺。
	同上	同上		永銭10文預(茶ヵ)	163×40	1	1862	裏面に「従松山南不許通用」と印刷。
	同上	同上		永銭5文預り	141×35	1	1939	「此手形式百枚ヲ以金壹両」
	(銀札)	備中松山為替会所		銀1分預り	101×28	1	1940	
	同上	同上		銀5厘預り	90×22	4	1941	
	同上	同上		銀4厘預り(黄)	90×21	1	1942	
	備中松山領八田部通用手形	引替用達		百目金1分	134×32	4	1943	八田部村は賀陽郡のうち。現総社市。
	同上	同上		百目金5厘(茶)	135×28	2	1944	
	同上	同上		同上	133×28	1	1945	額面の箇所に「備中松山立長」の押掛印あり。
	同上	同上		百目金3厘	110×25	2	1946	
鴨方池田氏(新田分)2万5000石	備中鴨方通用手形	嶋屋・奈良屋	(文政2)	銀1匁預(黄)	169×40	1	1845	備前岡山藩の支藩で、鴨方藩の藩名は明治元年以後。
	同上		同上	同上	167×40	2	1846	「八厘大蔵省改」の朱印押捺。
足守	備中足守銀	郡中請*	享保15庚	1文目	195×40	2	1847	*旧札(長札)に「郡中請」の

発行・地名	札名称	発行所・引替所	発行年次	額面(色)	サイズ	数量	番号	備考
木下氏 2万5000石	傍		戊					印押捺。
	同 上	鳥羽・伊丹・瀬原・杉本 *	同 上	同 上	195×41	1	1848	* 前出札の上に四名の引請人名印押掛。
	同 上	郡中請 *	同 上	1 文目	168×39	57	1849	* 「郡中請」は印刷。
	同 上	同 上	同 上	銀 5 分	146×37	3	1850	同 上
	同 上	同 上	同 上	銀 4 分(赤)	142×38	3	1851	同 上
	同 上	同 上	同 上	銀 3 分(青)	139×38	2	1852	同 上
	同 上	同 上	同 上	銀 2 分(茶)	125×34	3	1853	同 上
	同 上	大坂請平野屋・天王寺屋、御蔵元笠岡中嶋屋	同 上	銀 1 匁	165×42	1	1854	
	備中足守銀傍	堺具足屋	同 上	銀 5 匁(茶)	168×48	4	1855	
	備中足守銀傍	郡中請	同 上	1 文目	164×39	1	1856	郡中請札に「備中惣社美智屋」の押印あり。
	同 上	明石希屋集助・大阪白木屋条助	同 上	銀 1 匁(茶)	157×39	3	1857	
	同 上	同 上	同 上	銀 3 分(茶)	130×34	1	1858	
	備中足守銀札	大阪鴻池・銭屋	同 上	銀 1 匁	167×40	7	1859	うち 1 枚、額面の上に「五分」と墨書あり。
	備中足守銀傍	倉敷植田	同 上	銀 5 分(白)	154×40	4	1860	
	同 上	同 上	同 上	同上(灰)	151×39	1	1861	
	同 上	同 上	同 上	銀 4 分(青)	147×39	2	1863	
	同 上	同 上	同 上	銀 3 分	146×38	1	1864	
	同 上	大阪請広屋	同 上	1 匁	160×39	4	1865	裏面に「通用物引替備中東大西屋」の押掛印あり。
	同 上	引替玉嶋土佐屋	同 上	1 匁	162×38	2	1866	
	備中足守銀札	引替眞鍋伝右衛門	同 上	銀 3 分(茶)	139×36	1	1867	
	同 上	同 上	同 上	銀 2 分	127×32	1	1868	
	備中足守銀傍	産物会所松田又助	同 上	銀 1 匁	139×38	4	1869	
	同 上	同 上	同 上	銀 3 分	133×35	5	1870	
	同 上	同 上	同 上	銀 2 分	135×31	4	1871	
	同 上	備中玉嶋中嶋屋 *	(同上)	1 文目	168×39	1	1872	* [1849] の郡中請札へ押掛印。
	同 上	備中玉嶋中屋 *	同 上	1 文目	165×39	1	1873	* 同 上
	同 上	引請神戸俵屋・姫路生野屋、引替所足守銀会所	同 上	銀 1 匁(赤)	152×39	5	1874	「永銭拾文」の押掛印あり。汚れ甚しく印刷不鮮明。
	備中国足守領分産物為替金手形	大坂丹波屋・荒和布屋		永銭10文預り	167×40	6	1875	「此手形百枚ヲ以金壹両ニ引替」
	同 上	同 上		永銭 5 文預	155×36	3	1876	
	同 上	同 上		永銭10文預	166×40	2	1877	額面の上に「市頭釘貫」押掛印あり。
	備中足守市中通用札	引請用達、引替銀会所		札 1 分	118×28	1	1878	
	貸附手形	引替足守御内用方		2 匁	156×38	2	1879	「備中松山本町立長」の押掛印あり。
	同 上	同 上		5 分	146×38	2	1880	
	酒 手 形	引替所足守高田屋		札 1 分(赤)	140×30	4	1881	一見、私人札のように見受けられる。?
	備中足守領長良通用手形	引替所前田		札 1 分(赤)	135×28	5	1882	長良は賀陽郡のうち(現総社市)。寛政11年幕領、天保2年から足守藩領。
	同 上	同 上		札 5 厘	93×21	1	1883	
	山内通用手形	木下		賃札 1 匁(茶)	157×45	1	1884	木版刷
	同 上	同 上		増札 1 匁(茶)	154×39	1	1885	墨書
	備中足守銀札				210×40	1	1886	未完成札(裏面のみ印刷)
	同 上				144×40	1	1887	同 上(表面のみ印刷)

発行・地名	札名称	発行所・引替所	発行年次	額面(色)	サイズ	数量	番号	備考
	(備中足守 銀札用紙)				160×40 140×42 135×40	2 1 1	1888	表裏面とも印刷なし。
庭瀬 板倉氏 2万石	備中庭瀬銀 札	大和田屋・橋本屋	元禄14辛 巳曆	銀1匁	170×40	6	1910	矢掛村は小田郡のうち(現矢掛町)で山陽道の宿場町。  「此手形式拾五枚ヲ以金壹分引替」  「此手形式拾五枚ヲ以金貳朱引替」
	同 上	大根屋	同 上	銀1匁	169×40 156×38	6	1911	
	同 上	引替矢掛札場	同 上	銀1匁(青)	150×41	1	1912	
	同 上	同 上	同 上	銀3分(赤)	150×40	1	1913	
	同 上	同 上	同 上	銀2分(赤)	156×43	1	1914	
	備中矢掛通 用切手	引替札場	慶応元乙 丑	銀1分	123×34 118×30	31	1915	
	同 上	同 上	同 上	銀5厘	107×30	1	1916	
	備中国庭瀬 領分産物為 替金手形	大阪大根屋		永銭10文預 り	160×38	6	1917	
	同 上	同 上		永銭5文預 り	145×36	3	1918	
新見 関氏 1万8000石	備中新見銀札	倉敷引替中嶋屋	享保15戊 戌	銀1匁	169×41	3	1889	* 額面は銭表示であるが、札銘目は「新見銀札」とあり。  うち1枚、「百目金」の朱印押捺。  表面に「百目金」  大江連嶋村は明治8年大江村と連嶋村が合併して成立。浅口郡のうち、現倉敷市。
	同 上	同 上	同 上	銀5分	159×40	1	1890	
	同 上	同 上	同 上	銀1分	125×32	2	1891	
	備中国新見 銀札	大阪塩屋	享保15庚 戌	銀5匁	167×51	2	1892	
	同 上	大阪伊丹屋・西村 屋	同 上	銀5匁	183×48	3	1893	
	同 上	同 上	同 上	銀1匁	167×43	5	1894	
	同 上	同 上	同 上	銀2分	142×38	1	1895	
	同 上	同 上	同 上	銀1分	139×32	2	1896	
	同 上*	同 上	同 上	銭5文	98×23	1	1897	
	備中国新見 領分銅鉄為 替銀手形	大阪引請徹桑会所	同 上	銀1匁	162×38	1	1898	
	同 上	同 上	同 上	銀2分	155×35	2	1899	
	同 上	同 上	同 上	銀1分	144×32	2	1900	
	備中国新見 領分銅鉄為 替金手形	引替会所	同 上	永銭10文預 り	166×40	2	1902	
	同 上	同 上	同 上	永銭3文預 り(薄茶)	143×36	3	1903	
	同 上	同 上	同 上	永銭2文預 り(薄茶)	128×31	1	1904	
	同 上	同 上	同 上	永銭1文預 り(青)	125×29	1	1905	
	備中新見御 領分鉄山為 替取組手形	大阪紙屋、引替出 張所新見本町	嘉永5壬 子5月	銀1分預り (青)	134×35	9	1906	
	備中新見領 分大江連嶋 村綿為替手 形	引替所		銀1匁	175×45	11	1907	
	同 上	同 上		銀3分	148×33	1	1908	
	同 上	同 上		銀1分	129×31	1	1909	
岡 田	備中岡田銀	質屋・児嶋屋	享保17壬	銀1匁	195×46	12	1919	陣屋所在地岡田は下道郡のうち、

[illegible]

発行・地名	札 名 称	発行所・引替所	発行年次	額面 (色)	サイズ	数量	番号	備 考	
府 県 札									
倉 敷 県	銭 札	倉敷県出納局	明治2己巳年	銭50文	104×32	7	2639		
旗 本 札									
高 松 花房氏 6220石	備中高松通用手形	元請嶋屋、引替会所		銀3分	146×35	1	2005	陣屋村高松は賀陽郡のうち。現岡山市。「永銭三文」の押掛印あり。汚れ甚し。 「永銭貳文」の押掛印あり。汚れ甚し。	
	同 上	同 上		銀2分	140×32	2	2006		
成 羽 山崎氏* 5000石	備中成羽銀札	浜屋	享保15庚戌8月	銀札1匁	188×42 180×38	}	2	1951	* 陣屋村 <sup>ナリツ</sup> 成羽は川上郡のうち。明治元年高直しにより1万2746石となり立藩。 * 「連嶋西浦引替」の押掛朱印あり。
	同 上	正屋・福岡屋*	同 上	1匁	182×40		1	1952	
	備中国成羽領分産物為替金手形 備中成羽領分為替金手形	引替会所			永銭100文預り	188×45	1	1953	「三厘大蔵省改」朱印押捺。  小額紙幣の故か引替会所の印刷なし。
		同 上	同 上		永銭3文預	120×30	1	1954	
		同 上	同 上		永銭2文預	110×27	2	1955	
		同 上	同 上		永銭1文預	94×24	2	1956	
		同 上	同 上		5厘預	78×21	1	1957	
ナツ撫川 戸川氏 5000石	備中撫川銀札	山本屋・新屋	寛保4甲子	銀1匁	164×42	1	1958	陣屋村撫川は都宇郡のうち。現岡山市。表面頭判は「大黒天」。表面頭判は「茶枳尼天」の図。  表面印刷殆んど消滅。  汚れ甚しく、印刷不鮮明。表面の年紀は「寛保4甲子歳」。  同 上 手すれと汚れのため、殆ど判読できず。  裏面に「此手形式拾五枚ヲ以金壹歩引替」とあり。  裏面引替文言の上に「時通用」の墨書あり。	
	同 上	同 上	同 上	1文目	177×42	2	1959		
	同 上	同 上	同 上	3分	159×36	1	1960		
	同 上	同 上	同 上	2分	165×36	1	1961		
	同 上	伊達才治・岡田屋	(同上カ)	1匁(灰)	167×40	1	1962		
	同 上	肥後屋	同 上	銀1匁	166×43	2	1963		
	同 上	同 上	同 上	銀5分(茶)	161×42	2	1964		
	同 上	同 上	同 上	銀4分(灰)	162×42	1	1965		
	同 上	郡 中	同 上	銀5分(茶)	168×40	1	1966		
	同 上	同 上	同 上	銀2分(青)	148×34	1	1967		
	同 上	引替黒崎太家屋	安政6己未*	銀5分(青)	155×38	6	1968		
	同 上	引替銀会所	元治元甲子	銀1匁(茶)	162×42	1	1969		
	同 上	備中撫川用達		銀1分	125×32	4	1970		
	(産物会所札)	大坂引請肥後屋、引替撫川産物会所		銀1分(茶)	120×30	4	1971		
	同 上	同 上		銀5厘(赤)	90×23	4	1972		
備中国撫川領分産物為替金手形	為替会所			永銭10文預り	166×40	3	1973		
	倉敷銭屋			永銭10文預り	167×40	2	1901		
	同 上								
帯 江 戸川氏 3000石	備中帯江銀預り永世通用切手	大坂炭屋・平野屋・丹波屋*		銀1匁(茶)	166×41	24	1979	陣屋村帯江は江戸期は窪屋郡羽島村で現倉敷市。* 「児島屋」の押掛印あり。 * 「二子西屋」の押掛印あり。二子村は都宇郡のうちで戸川氏領。現倉敷市。	
	同 上	同 上*		銀1匁(茶)	162×41	1	1980		

発行・地名	札名称	発行所・引替所	発行年次	額面(色)	サイズ	数量	番号	備考
早島 戸川氏 3000石	備中早島疊 表売買通用 手形	大坂近江屋、銀預 会所・間屋組頭	宝暦壬午 (12)秋	銀1匁	144×46	12	1981	陣屋村早島は都宇郡のうち(現 早島町)で蘭草の栽培が盛んで 早島表の名は全国的に著名。
	同上	同上	同上	銀5分	163×40	12	1982	* 表面「大坂近江屋」の上に 「岡山釘貫」の押掛朱印あり。
	同上	同上*	同上	銀5分	163×40	1	1983	
	同上	引替会所	同上	銀1匁(黄)	166×42	1	1984	
妹尾 戸川氏 1500石	備中妹尾銀 預り手形	中郡屋・花屋・中 本屋・内屋・今尾 屋		銀1匁	167×44	1	1974	陣屋村妹尾は都宇郡のうち。現 岡山市。
	同上	同上		銀1匁	165×43	1	1975	額面の箇所「備中松山本町立 長」押掛印あり。 汚れ甚しい。
	備中妹尾通 用手形	引替郷会所		銀5分	160×40	1	1976	
	同上	同上		銀4分	160×38	2	1977	
	備中妹尾通 用預手形	両替所		銀1匁(赤)	160×40	1	1978	
小坂部 水谷氏 2200石	備中国小坂 部産物代銀 手形	播磨屋鉄見勢松田 屋		銀1匁	170×43	1	2007	陣屋村小坂部は賀陽郡のうち。 現大佐町。
	備中国小坂 部知行所鉄 銃為替金手形	為替会所		永銭10文預 り(青)	160×40	4	2008	「此手形百枚ヲ以金壹両ニ引替」  富寿鉄山カ。裏面に「鉄山所取 引極」とあり。 額面墨書。裏面に「日々職口増 価預置中候、追而賃銭此手形ニ 引替相渡し可申候」とあり。
	同上	同上		永銭5文預り	146×37	2	2009	
	鉄山所増価 預手形	備中国小坂部松本 屋	天保12丑 12月	5分預(茶)	157×44	1	2010	
	職場為取引 増価手形	同上	天保15甲 辰11月改	増価50文	147×38	3	2011	
津寺 榊原氏 2000石	備中津寺通 用手形	引請大阪米屋、引 替会所		銀1匁	165×43	6	1985	陣屋村津寺は都賀郡のうち。現 岡山市。
	同上	同上		銀5分(黄)	154×42	9	1986	札面上部両角斜目切断。*「備 中惣社加吉口」の押掛印あり。
	同上	同上		銀4分	159×42	4	1987	
	同上	同上		銀3分(灰)	155×42	4	1988	
	同上	同上*		同上	154×42	1	1989	
	同上	同上		銀2分	138×39	3	1990	* 札面枠外切断しあり。**「備 中惣社㊤中村屋」の押掛印あり。 うち1枚、額面の箇所に「瀬良」 の小型朱印あり。
	同上	同上**		同上	130×30*	1	1991	
	同上	引替会所		1分*	130×30	2	1992	
	同上	同上		同上*	130×30	4	1993	*「百目金」の押印あり。 各種押印なし。未使用札カ。 *「百目金」の押印あり。 笠岡は小田郡のうち。幕領。
	同上	同上		同上	130×30	2	1994	
	同上	同上		5厘*	110×26	1	1995	
	備中津寺手 形	引替笠岡平野屋		銀1匁	160×42	1	1996	
	同上	引替笠岡沢屋*		銀3分	136×36	1	1997	* 押掛印あるも判読できず。 裏面に「九拾目金」の押印あり。
	備中津寺通 用手形	引替笠岡沢屋		2分	127×31	1	1998	
	(代用札カ) *	(笠岡いくながカ)		(額面表示 なし)	145×29	3	1999	
井原 池田氏	備中井原市 場交易通用	引替会所、元請大 坂泉屋		1匁預	160×41	1	2000	陣屋村井原は後月郡のうち。現 井原市。

発行・地名	札 名 称	発行所・引替所	発行年次	額面（色）	サイズ	数量	番号	備 考
900石	手形	同 上 *  同 上 * 引替会所 同 上	**	同 上	162×41	5	2001	* 「本大津町」の押掛印, ** 「慶応改」印あり。 * 「大屋」の押掛印あり。
	同 上			同 上	164×40	1	2002	
	同 上			3 分預	140×35	1	2003	
	同 上			2 分預	133×30	1	2004	
大 内 長谷川氏	→ 摂津国旗本札							
長 沢 松平氏	→ 三河国旗本札							
井 手 蒔田氏	→ 備中国大名札（浅尾藩）							
寺 社 札								
谷 御 殿 靈鑑寺	→ 山城国寺社札							
六 條 御 殿 西本願寺	→ 山城国寺社札							
野山貸附所 高野山	→ 紀伊国寺社札							
町 村 札								
福 井 村 窪屋郡	(木綿手形ヵ)	(新港融通方ヵ)		(不明)	145×36	1	2012	鴨方藩領で現倉敷市。表裏とも判読不能。先人整理の台紙と「古紙幣一覧」に拠る。
眞 鍋 島 小田郡	煎海單買入 手形	真鍋庄屋 *		銭 4 分預り	138×36	1	2013	元禄11年以降幕領で、現笠岡市。 * 墨書。 * 墨書。 * 墨書。
	同 上	同 上 *		銭 2 分預り	129×34	1	2014	
	同 上	同 上 *		銭 1 分預り	125×29	3	2013	
浜 中 村 浅口郡	足役切手	浜中		銀 1 匁	150×41	1	2024	墨書。摂州麻田藩領で、現里庄町。
乙 島 村 浅口郡	泥土手形	乙島村会議所	甲戌 5 月 (明治 7)	泥土 1 艘	154×70	1	2025	墨書。江戸期は幕領、現倉敷市。
	同 上	乙島村事務取扱所	乙亥 7 月 (明治 8)	泥土 1 艘	168×73	1	2026	墨書。
宮 内 村 賀陽郡	預り札	引替宮内町会所, 御銀預り大坂吹田 屋□兵衛	嘉永 7 甲 寅	札 1 分手形 (赤)	96×39	1	2022	庭瀬藩と吉備津宮社との相給村で、現岡山市。
上 市 組 哲多郡	預り札	引替上市組		5 厘預り	102×21	1	2710	上市組は井村（現新見市）のうちヵ。正徳元年以降幕領。
鉾 山 札								
金 本 山	増 札	備中河内鍛冶屋		増札 5 分	145×37	5	2027	墨書。備中国において河内の地名特定できず。従来は浅口郡に擬せられているが（『お札』）,『岡山の貨幣』は不詳とあり。
吹屋銅山	預り札	吹谷長尾屋		1 分預(茶)	119×33	4	2028	吹矢村は幕領で現成羽町。



発行・地名	札 名 称	発行所・引替所	発行年次	額面（色）	サイズ	数量	番号	備 考
川上郡	同 上	吹屋福岡屋弥吉		1 分預（赤）	118×33	1	2029	
備 中 鉄 山	鉄山請払当分手形	鑄長山 * →大西吉之助殿		貫目 1 枚 *	157×40	1	2030	* 「鉄山請払当分手形」 額面「銭拾文」の印刷切手の上に墨書。裏面も「表書之通此手形ヲ以新見大西より御受取可被成候」の印刷の上に「表書之賃銭御渡可被下候、大西吉之助殿」と墨書しあり。
	同 上	大成山→大西吉之助殿		貫目 1 枚	157×41	2	2031	同 上
	同 上	久富山→大西吉之助殿		1 貫目 1 枚	157×40	6	2032	同 上
	山内通用賃銀手形	備中鉄山松田屋		札 1 匁預り *	148×38	1	2033	* 表面額面の上に「一貫目 1 □（枚ヵ）」と墨書。裏面も「表書之通引替相渡可申候」の印刷の上に「表書之賃銭御渡可被下候、大西吉之助殿」と墨書しあり。
	同 上	同上（蒔尾山） * →（大西吉之助殿）		札 1 匁預 **	□ × 40	1	2034	* 同上「松田屋」の印刷札の上に墨書。 ** 印刷額面の上に「一貫目壹枚」、裏面の墨書も同上。
	同 上	同上（久谷山ヵ） →（大西久之助殿）		札 1 匁預 *	155×40	4	2035	* うち 2 枚は額面「一貫目壹枚」他 2 枚は「巻壹枚ヵ」墨書。裏面の墨書は同上。
	（山内通用手形）	久栄山（「鉄山金銀不用、大松屋」の朱印）		1 枚	150×36	1	2036	墨書。裏面に「山外不用十月卅日勘定ニ引入候ヌ」の印判押捺。
私 人 札								
倉 敷 窪田郡	（生魚手形ヵ）	倉敷浜田屋	（慶応 3 ヵ）	銀 1 分預り	112×26	1	2037	享保 6 年以降幕領。裏面の印刷は消滅。
安 江 村 窪田郡	通 り 札	備中安江新田屋・引請勢竜芳太郎		花（朱）	155×38	3	2038	享保 6 年以降幕領。現倉敷市。『岡山の貨幣』には「通り札（角力）」とあり。入場券ヵ。
笠 岡 小田郡	諸賃銭日用手形	近江屋清次郎 *		銭 1 匁（茶）	168×45	1	2039	* 墨書。元禄 11 年以降幕領。
	表切手	笠岡しんや		2 分（灰）	126×31	2	2040	
上 郷 阿賀郡	酒預り手形	備中皆部酒屋		価 1 匁	161×42	3	2041	江戸期、上皆部村は新見藩領、下皆部村は幕領で、現北房町。
	預り切手	備中皆部中屋	嘉永元改	銭 5 厘預り	105×31	1	2042	「此手形以四枚式分札ニ引替可申候」とあり。
今 市 後月郡	賃銀之用切手	今市仁五水車場		1 分預り（薄茶）	135×26	1	2043	今市は一橋家領の陣屋村西江原村のうち。現井原市。
上 郷 村 後月郡	銭 札	備中上郷		銭 1 分	110×28	1	2044	「黒島（鳥ヵ）綿屋請」の添印あり。旗本水谷氏領で現芳井町。
敷 名 村 後月郡	（刻煙草切手ヵ）	備中敷名利久屋	明治 2 己巳 10 月	3 分切手	141×35	6	2045	裏面に「諸国名葉刻煙草引替」と印刷。幕領で現井原市。
小 原 浅口郡	釣 切 手	胡屋（えびすや）	明治 2 己巳 1 月	3 分釣切手（黄・白）	142×35	27	2046	小原は黒崎村のうち。幕領で現倉敷市。
	餌 切 手	富士屋		1 分餌切手（灰）	135×32	4	2047	

発行・地名	札 名 称	発行所・引替所	発行年次	額面（色）	サイズ	数量	番号	備 考
黒 埼 村 浅口郡	魚 切 手	黒崎柳八（柳屋）		1 分魚切手 （灰）	131×32	3	2048	元禄 6 年より幕領。現倉敷市。
	鯉 切 手	黒崎太家屋		1 分鯉切手 （青）	137×32	1	2049	
	同 上	同 上		5 厘鯉切手	106×25	1	2050	
沙 美 浅口郡	釣 切 手	沙美いづみや		1 分釣切手	135×33	2	2051	沙美は砂美・佐見とも書く。黒崎村のうちカ。
	釣 切 手	沙美はまや		1 分釣切手 （青）	136×32	1	2052	
又 串 浅口郡	煙草釣手形	又串津保井		1 分	135×32	1	2053	印刷不鮮明で判読困難。又串は水江村のうち。丹波亀山藩領で現船穂町。
佐 方 村 浅口郡	仲背切手	引替佐方向殿		3 分仲背切手 （灰）	140×33	2	2054	うち 1 枚は額面判読できず。旗本蒔田氏領で、現金光市。 汚れ甚し。
	同 上	同 上		2 分カ	133×32	1	2055	
玉 島 浅口郡	刻 切 手	（小野屋出店カ）		1 分刻切手 （灰）	129×30	1	2056	額面以外は判読不能。「古紙幣一覽」に拠る。玉嶋村は丹波亀山藩と松山藩の相給で現倉敷市。印刷極めて不鮮明。 * 手すれのため判読困難。
	（鯉切手カ）	玉島湊口船宮油屋		1 分鯉切手 （灰）	133×30	1	2057	
	鯉 切 手	船宮うゑもとカ*		1 分鯉切手	134×32	1	2706	
フナジマ 連 島 村 浅口郡	生魚切手	富嶋屋	弘化 4 丁 未11月 同 上 同 上	1 匁	167×41	4	2058	新見藩領で、現倉敷市。裏面に「西浦三宅性」の印刻あり。
	同 上	同 上		1 分（茶）	122×34	2	2059	
	同 上	同 上		5 厘	103×25	1	2060	
寄 嶋 浅口郡	預 切 手	寄嶋新湊板屋		2 分預切手 （黄）	136×31	2	2061	寄島は東大島村のうち。鴨方藩領で、現寄島町。
大 谷 新 田 浅口郡	通 札	備中大谷新田東屋		通札 *	167×40	1	2062	* 額面なし。入場券・通行券の類カ（『岡山の貨幣』）。墨書。もと佐方村の枝村で現金光町。旗本蒔田氏領。文久 3 年から浅尾藩領。
宮 内 村 賀陽郡	木綿古手売 買預り札	備中宮内引替藤井、 大阪元引請丹波屋	弘化 3 丙 午	札 5 分（茶）	161×40	1	2016	宮内は備中一宮の吉備津神社の 門前町。庭瀬藩と吉備津社領との 相給で、現岡山市。 額面の上に「備中松山本町立長」 の押掛印あり。 「清田屋」の押印あり。清田屋 は藤井の屋号の由（前掲書）。 「藤田屋」の押印と「永銭五文」 の押掛印あり。 「清田屋」の押印あり。 * 「惣社木綿会所」の添印あり。 「惣社佐藤請」の添印あり。町 村札か私人札か不明により重出。
	同 上	同 上	同 上	同 上	156×39	1	2017	
	同 上	同 上	同 上	同 上	163×40	3	2018	
	同 上	同 上	同 上	同 上	162×39	1	2019	
	同 上	同 上	同 上	札 4 分 札 5 分	163×40 149×36	2 3	2020 2021	
	備中宮内通 用手形	同 上 引替藤井	同 上	札 4 分 札 5 分	163×40 149×36	2 3	2020 2021	
	預 切 手	備中宮内札会所、 引替大阪引請布屋・ 備前屋・大津屋*	弘化 4 丁 未 5 月	銀 1 匁預り （青）	159×37	6	2023	
	同 上	引替宮内町会所、 御銀預り大阪吹田 屋□兵衛	嘉永 7 甲 寅	札 1 分手形 （茶）	96×39	1	2022	

発行・地名	札 名 称	発行所・引替所	発行年次	額面 (色)	サイズ	数量	番号	備 考
山 田 村 下道郡	日雇切手	山田美和屋	天保 4	日雇 1 人 (赤) *	138×36	1	2063	* 「価□□□何時ニ而も引替可 巾」とあるが判読できず。松山 藩領で現総社市。
松 山 上房郡	煙草店通用 切手	芳屋③	安政 5 戊 午正月	銀 1 匁預り (黄)	164×40	5	2064	松山藩の城下町で現高梁市。
	同 上	同 上	同 上	銀 6 分預り (黄)	164×39	3	2065	
	煙草元切手	備中松山吉佐	明治 4 未 9 月	1 枚預り(黄)	164×39	1	2066	墨書。
	葉巻切手	同 上	同 上	1 枚預り(黄)	161×40	1	2067	墨書。
	預り切手	松山芳綱	明治 5 壬 申10月	銀 1 匁預り	153×31	3	2068	墨書。
	元 切 手	白木屋		(額面なし)	158×36	1	2069	裏面に「此切手追テ本札ニ引替 可申候」とあり。
	巻 切 手	吉井屋	明治 5 壬 申10月	(額面なし)	161×35	3	2070	同 上
	元 切 手	同 上		(額面なし)	162×36	1	2071	同 上
	巻 切 手	備中松山永富屋		巻 1 枚	166×43	4	2072	墨書。
	同 上	同 上		巻切手 1 分	165×42	2	2073	墨書。裏面に「松山下町永庄」 の黒印押捺。
	同 上	同 上		巻 7 分	140×36	2	2074	墨書。裏面は「六分切手」の墨 書, 「松山下町永庄」の黒印あ り。
	(同 上ヵ) 元 切 手	同 上		4 分 *	138×37	3	2075	墨書。* 裏面は「1 枚」
	油巻手形	同 上		元 1 枚 (額面なし)	165×42	4	2076	墨書。
		元児島屋			162×41	1	2077	以上の松山私人札は煙草の手間 賃切手とされる (『岡山の貨 幣』)。
二 ケ 村 川上郡	諸払差引辨 用札	二ヶ村佐古		銭 1 分預り	113×25	3	2078	旗本戸川氏領で, 明治 9 年以後 仁賀村, 現川上町。
八 日 市 川上郡	預り切手	八日市長門屋		1 分預り	112×27	8	2079	八日市は成羽藩領で上黒忠村 (現美星村) のうちヵ。
	(時々通用札)	八日市三山屋		札 1 分	119×25	3	2080	

備 後 国

大 名 札								
福 山 阿部氏 10万石 *	銀 札	備後国福山浜口屋	享保15庚戌	銀 1 匁	194×47	6	2081	* 明治元年 1 万石加封, 11万石。
	同 上	同 上	同 上	銀 5 分(茶)	190×46	1	2082	
	同 上	同 上	同 上	銀 4 分(茶)	186×45	1	2083	
	同 上	同 上	同 上	銀 3 分(茶)	186×45	1	2084	
	同 上	浜口屋源左衛門	宝暦 2 壬 申改	銀 1 匁	199×49	5	2085	
	同 上	同 上	同 上	銀 5 分(茶)	195×49	1	2086	
	備後国福山 銀札	油屋吉兵衛・泉屋 佐七・助松屋与兵 衛, 米屋惣兵衛・ 明石屋庄右衛門	明和 7 庚 寅改	銀 2 分	180×46	1	2087	
	同 上	同 上	天明 2 壬 寅改	銀 5 匁	188×45	5	2088	
	同 上	同 上	同 上	銀 1 匁	182×46	4	2089	
	同 上	同 上	同 上	銀 3 分	183×46	3	2090	
	同 上	同 上	同 上	銀 2 分	185×46	3	2091	
	備後商館通 用札	加嶋屋喜兵衛	明治 2 己 巳 *	金 1 歩預 (青)	142×43	1	2092	
								* 「発行十ヶ年限」

発行・地名	札 名 称	発行所・引替所	発行年次	額面 (色)	サイズ	数量	番号	備 考
	同 上	同 上	同 上	金2朱預(黄)	140×41	1	2093	表・裏面とも墨で文字面塗消しあり。「発行十ヶ年限」 「発行十ヶ年限」
	同 上	同 上	同 上	金1朱預(赤)	104×41	2	2094	
(芸州広島) 浅野氏	→ 安芸国大名札 (芸備通用札)							
準 藩 札								
三 原 浅野氏 3万石	米 預 札	三原御勘定所	戊寅正月 (文化15ヵ)*	米2舂預(赤)	186×55	4	2095	広島藩領で家老浅野氏の城地。 御調郡のうち。*「来卯九月限」
東 城 浅野氏 1万石	米 預 札	東城蔵役所	申春改 (文政7ヵ)	米1斗預(黄)	192×53	3	2096	墨書。広島藩領で家老堀田浅野氏の給地。奴可郡のうち。
	同 上	同 上	同 上	米2升預(黄)	189×50	4	2097	墨書。
	同 上	同 上	同 上	米1升預(黄)	188×50	2	2098	墨書。
	同 上	同 上	同 上	米4合預 (黄ヵ)	185×50	3	2099	墨書。
	同 上	同 上	同 上	米3合預 (黄ヵ)	190×52	6	2100	墨書。
	同 上	大坂屋九右衛門、 東城御蔵所	戊9月 (文政9ヵ)*	米1斗(黄)	177×50	8	2101	墨書。*「天保五年十一月改」 の押印あり。
	同 上	同 上	同 上	米2升(黄)	175×49	5	2102	同 上
	同 上	同 上	同 上	米1升(黄)	170×46	4	2103	同 上
	同 上	丸山屋茂四郎、東 城御蔵所	戊8月	米2升(黄)	175×45	2	2104	墨書。うち1枚「庚戌五月改」 (嘉永3ヵ)の押印あり。
	同 上	木綿屋権兵衛、東 城御蔵所	戊8月	米2升(黄)	179×48	1	2105	墨書。
町 村 札								
尾 道 御調郡	通用銀札	大阪屋請	庚戌5月 (嘉永3ヵ)	1分預*	153×35	6	2106	墨書。*「七拾目金」の朱印押 捺。広島藩領。準藩札か町村札 か不明。 墨書。*「七拾目金」。
	同 上	同 上	同 上	5厘預*	107×33	59	2107	
鉾 山 札								
上 原 山 奴可郡	増 札	始終村上原山	嘉永4亥 4月改	増札5分預 り	118×31	2	2108	墨書。広島藩領 (家老上田氏給 地) で現東城町。
	山内通用増 賃預り札	始終村新屋	嘉永5	1匁預り	149×39	1	2109	
	山内稼方賃 銭手形	始終村上原山	嘉永7甲 寅3月	増賃1匁預 り	154×41	38	2110	
福 備 山 神石郡	山内通用札	小野福備山	文久2壬 戌	1匁預り	157×40	2	2111	元禄11年幕領。嘉永6年福山藩 領に復す。現油木町。
私 人 札								
鞆 津 沼隈郡	操綿預切手	鞆津綿問屋大坂屋 宗三郎	丙辰 (安 政3ヵ)	操綿1俵預	165×89	2	2114	裏面に墨書で番附あり。福山藩 領で現福山市。
松 永 村 沼隈郡	過 札	吉井	申ヵ	過札5分預	147×42	2	2115	福山藩領。松永塩として著名な 塩田村。現福山市。
	同 上	同 上	同 上	過札3分預	145×41	2	2116	額面と番附は墨書。 同 上 同 上
	同 上	同 上	同 上	過札2分預	147×42	2	2117	
	同 上	松永吉井	同 上	過札5分預	142×38	2	2118	
	同 上	同 上	同 上	過札3分預	106×32	2	2119	
	同 上	同 上	同 上	過札2分預	105×34	1	2120	
	上燈油預札	松永吉井店	酉ヵ	価5分	165×47	2	2121	

発行・地名	札名称	発行所・引替所	発行年次	額面(色)	サイズ	数量	番号	備考
有木村 神石郡	役目賃米価 預手形	甲屋	嘉永4亥	札5分(青)	155×38	1	2112	有木村は元禄12年検地によって東西に分村。はじめ幕領、嘉永6年から福山藩領。現豊松村。裏面の印刷は完全に消滅。
小埜村 神石郡	酒代預切手	神石小埜舩屋	午9月	1分預り	155×43	1	2113	墨書。元禄11年幕領、嘉永6年福山藩領に復す。現油木町。

安芸国

大名札								
広島 浅野氏 39万6000石	芸州広島銀 札	三原屋清三郎・三 原屋小十郎・伊豫 屋吉左衛門	明和元甲 申	5分	185×47	41	2122	* 明和札の頭判の上に「弘化未 定」の朱印押捺。弘化改印札。 同 上 同 上 同 上 同 上 裏面に「山内通用」とあり。三 次鉄山札。 * 弘化改印札に「壹銭八厘大蔵 省改」朱印押捺。 * 弘化改印札に「四厘大蔵省改」 朱印押捺。 墨書。 墨書。
	同 上	同 上	同 上	5分	186×50	3	2123	
	同 上	同 上	同 上	3分	188×49	6	2124	
	同 上	同 上	同 上	2分	182×48	5	2125	
	同 上	同 上	(弘化4)*	5匁	191×55	2	2126	
	同 上	同 上	同 上	1匁	187×56	1	2127	
	同 上	同 上	同 上	5分	186×55	2	2128	
	同 上	同 上	同 上	3分	189×57	2	2129	
	同 上	同 上	同 上	2分	186×55	3	2130	
	御鉄山座札		安政4丁 巳	3厘	161×43	1	2131	
	芸州広島銀 札	(三原屋清三郎他 2名)	(弘化4)	5匁*	187×55	2	2132	
	同 上	同 上	同 上	1匁*	185×54	1	2133	
	綿座預札	綿座御役所	丑9月(天 保12)	札銀100目 預	186×53	2	2134	
	同 上	同 上	同 上	札銀50目預	184×53	1	2135	
	芸備通用米 札	御米蔵	慶応3丁 卯5月	米1斗	168×41	1	2136	

周防国

大名札								
岩国 吉川氏 6万石	嚴国通用現 銭預札	蔵元	寛政5改*	5匁	182×48	2	2137	* 嘉永4年の改印らしき朱印が 認められるが判読困難。大型札。 大型札。 小型札。 小型札。 汚れのため印刷不鮮明。 「六厘大蔵省改」朱印押捺。
	同 上	同 上	同 上	1匁	180×46	1	2138	
	同 上	同 上	同 上	10匁	176×45	2	2139	
	同 上	同 上	同 上	1匁	154×40	2	2140	
	同 上	同 上	同 上	3分	135×35	1	2141	
	同 上	同 上	同 上	1匁	152×40	1	2165	
徳山 毛利氏 4万石	(徳山通用 銀札)		(享保16㊦)	10匁	150×37	2	2142	萩藩の延宝札表面下部に「徳」 の丸形黒印を押捺して流用とさ れる。
	同 上		同 上	1匁	150×36	1	2143	
	防劔徳山通 用現銭預札	宮瀬屋幸吉・土井 屋新蔵	文政2己 卯	400文(5匁)	156×46	3	2144	
	同 上	同 上	同 上	320文(4匁)	151×45	1	2145	
	同 上	同 上	同 上	80文(1匁)	154×47	4	2146	
	同 上	同 上	同 上	24文(3分)	155×45	4	2147	
	同 上	同 上	同 上	16文(2分)	149×44	1	2148	

長 門 国

発行・地名	札 名 称	発行所・引替所	発行年次	額面（色）	サイズ	数量	番号	備 考
大 名 札 萩 毛利氏 36万9000石	(防長通用 銀札) 防長通鈔		(延宝5ヵ)	1 匁	150×36	2	2149	裏面に椿鈔銘の印刷なし。
			(宝暦3)	10匁	150×37	4	2150	裏面に「安永改」「天保改正」 の朱印押捺。
	同 上		同 上	5 匁	147×35	4	2151	同 上
	同 上		同 上	4 匁	145×36	2	2152	同 上
	同 上		同 上	3 匁	143×35	1	2153	同 上
	同 上		同 上	2 匁	150×35	2	2154	同 上
	同 上		同 上	1 匁	149×37	1	2155	同 上
	同 上		同 上	5 分	140×34	2	2156	同 上
	同 上		同 上	4 分	141×34	2	2157	同 上
	同 上		同 上	3 分	143×34	1	2158	同 上
	同 上		同 上	2 分	146×36	4	2159	同 上
	同 上		同 上	3 匁	140×33	1	2160	宝暦札に大蔵省改朱印あるも判 読できず。「三銭九厘」ヵ。
	同 上		同 上	5 分	147×35	2	2161	宝暦札に「安永改」「天保改正」 と「六厘大蔵省改」朱印あり。
	同 上		同 上	4 分	140×35	2	2162	「安永改」「天保改正」と「五 厘大蔵省改」朱印押捺。
	同 上		同 上	3 分	148×35	4	2163	同上。大蔵省改朱印は「四厘」
	同 上		同 上	2 分	150×36	1	2164	同上。大蔵省改朱印は「貳厘」
長 府* 毛利氏 4万7000石	豊浦通鈔	米預役所		定価500文 (米5升預)	149×41	6	2166	* 明治2年豊浦藩と改称。
	同 上	同 上		定価200文 (米2升預)	145×39	1	2167	
	同 上	同 上		定価100文 (米1升預)	146×40	3	2168	
	同 上	同 上	(安政元 ヵ)	定価30文 (米3合預) (茶)	146×40	3	2169	うち2枚「貳厘大蔵省改」朱印 押捺。「大」のすかし入
	同 上	同 上	同 上	定価20文 (米2合預) (茶)	140×40	3	2170	うち1枚「壹厘大蔵省改」朱印 あり。「大」のすかし入。

# 南海道

紀伊国

発行・地名	札名称	発行所・引替所	発行年次	額面(色)	サイズ	数量	番号	備考
和歌山 徳川氏 55万5000石	大名札 (紀州若山 通用銀札)	松坂羽書総中, 御 為替組長谷川次郎 兵衛・長井嘉左衛 門・小津清左衛門・ 坂田五郎兵衛・殿 村佐五平	癸未(文 政6)	銀1匁	165×30	3	2171	引替文言は「此札銀子と引替可 申候」。頭判若松・枕判鶴
	同 上	同 上	同 上	銀1匁	165×33	1	2172	引替文言同上。頭判田植・枕判 荷馬。
	同 上	同 上	同 上	銀1匁	163×33	6	2173	引替文言同上。頭判鳳凰・枕判 麒麟。
	同 上	同 上	同 上	銀1匁	165×30	3	2174	引替文言同上。頭判両替屋・枕 判宝物。
	同 上	同 上	同 上	銀1匁	164×33	5	2175	引替文言同上。頭判入船・枕判 掛鯛。
	同 上	同 上	同 上	銀2分(赤)	163×33	1	2176	引替文言同上。頭判両替屋・枕 判宝物。
	(勢州松坂 通用預札)	同 上	同 上	1匁預	161×29	1	2177	引替文言は「此羽書以六拾四匁 金壹両相渡可申候」。頭判入船・ 枕判掛鯛。
	(紀州若山 通用銀札)	松坂羽書総中, 三 井組三井八郎右衛 門・三井宗十郎・ 三井則右衛門	同 上	銀1匁	163×32	5	2178	引替文言は「此札銀子と引替可 申候」。頭判芦田鶴・枕判梅松 貝つくし。
	同 上	同 上	同 上	銀1匁	164×33	5	2179	引替文言同上。頭判和合神・枕 判宝つくし。
	同 上	同 上	同 上	銀1匁	162×32	3	2180	引替文言同上。頭判高砂・枕判 住吉大社。
	同 上	同 上	同 上	銀1匁	162×32	1	2181	引替文言同上。頭判楽太鼓・枕 判胡蜚舞 <sup>カ</sup> 。
	同 上	同 上	同 上	銀1匁	165×33	4	2182	引替文言同上。頭判牡丹・枕判 唐獅子。
	同 上	同 上	同 上	銀1匁	162×32	1	2183	引替文言同上。頭判芦田鶴・枕 判梅松貝つくし。「三厘大蔵省 改」朱印押捺。
	同 上	同 上	同 上	銀1匁	164×32	1	2184	引替文言同上。頭判高砂・枕判 住吉大社。「三厘大蔵省改」朱 印押捺。
	同 上	同 上	同 上	銀1匁	165×33	1	2185	引替文言同上。頭判牡丹・枕判 唐獅子。「三厘大蔵省改」朱印 押捺。
	同 上	同 上	同 上	銀3分(青)	165×33	1	2186	引替文言同上。頭判和合神・枕 判宝つくし。
	同 上	同 上	同 上	銀2分(赤)	165×33	1	2187	引替文言同上。頭判楽太鼓・枕 判胡蜚舞。
	同 上	同 上	同 上	銀2分(赤)	165×33	1	2188	引替文言同上。頭判和合神・枕 判宝つくし。
	同 上	同 上	同 上	銀2分(赤)	159×31	1	2189	引替文言同上。頭判高砂・枕判 住吉大社。
	同 上	銀札会所(松坂御 為替組添印)	(天保3 カ)*	銀1匁	166×33	1	2190	引替文言同上。頭判両替屋・枕 判宝物。* 印刷は癸未(文政6)
	同 上	同 上	同 上	銀1匁	162×29	1	2191	引替文言同上。頭判入船・枕判 掛鯛。
	同 上	銀札会所(松坂三	同 上	銀1匁	165×33	2	2192	引替文言同上。頭判芦田鶴・枕

発行・地名	札名称	発行所・引替所	発行年次	額面(色)	サイズ	数量	番号	備考
	同上	井組添印) 同上	同上	銀1匁	165×30	2	2193	判梅松貝つくし。 引替文言同上。頭判高砂・枕判住吉大社。
	同上	同上	同上	銀1匁	162×32	1	2194	引替文言同上。頭判楽太鼓・枕判胡蛸舞。
	同上	同上	同上	銀1匁	162×32	1	2195	引替文言同上。頭判楽太鼓・枕判鶏。頭違銀札(エラー札カ) 『紀州紙幣史の研究』参照)
	同上	同上	同上	銀3分(青)	166×30	1	2196	引替文言同上。頭判楽太鼓・枕判胡蛸舞。
	同上	同上	同上	銀3分(青)	160×32	1	2197	引替文言同上。頭判芦田鶴・枕判梅松貝つくし。
(勢州松坂 通用預札)	銀札会所(松坂御 為替組添印)	同上	同上	1匁預	164×30	2	2198	「此羽書以六拾四匁金壹兩相渡 可申候」。頭判若松・枕判鶏。 うち1枚、大蔵省改朱印押捺。
	同上	同上	同上	1匁預	162×29	2	2199	引替文言同上。頭判田植・枕判荷馬。
	同上	同上	同上	1匁預	164×30	1	2200	引替文言同上。頭判鳳凰・枕判麒麟。
	同上	同上	同上	1匁預	166×30	2	2201	引替文言同上。頭判両替屋・枕判宝物。
	同上	同上	同上	1匁預	163×28	1	2202	引替文言同上。頭判入船・枕判掛鯛。
	同上	同上	同上	5分預(青)	160×30	1	2203	引替文言同上。頭判両替屋・枕判宝物。
	同上	銀札会所(松坂三 井組添印)	同上	1匁預	165×30	1	2204	引替文言同上。頭判芦田鶴・枕判梅松貝つくし。
	同上	同上	同上	1匁預	162×29	1	2205	引替文言同上。頭判和合神・枕判宝つくし。
	同上	同上	同上	1匁預	165×30	1	2206	引替文言同上。頭判楽太鼓・枕判胡蛸舞。
	同上	同上	同上	1匁預	159×29	1	2207	引替文言同上。頭判若松・枕判住吉大社(頭違銀札。エラー札カ)。
	同上	銀札会所(松坂御 為替組添印)	同上	1匁預	162×30	1	2208	引替文言同上。頭判田植・枕判荷馬。「老銭五厘大蔵省改」朱印押捺
	同上	同上	同上	1匁預	165×30	1	2209	引替文言同上。頭判両替屋・枕判宝物。「老銭五厘大蔵省改」朱印押捺。
	同上	銀札会所(松坂三 井組添印)	同上	1匁預	165×30	1	2210	引替文言同上。頭判和合神・枕判宝つくし。「老銭五厘大蔵省改」朱印押捺。
	同上	同上	同上	1匁預	162×30	1	2211	引替文言同上。頭判高砂・枕判唐獅子(頭違銀札)。大蔵省改朱印あり。
当分預り札	銀札方役所*	同上	壬子正月 (嘉永5)	銀札100目	162×65	8	2212	* 伊都郡橋本町御仕入方に設置
(和河泉撰 播州五ヶ国 通用銀札)	紀州銀札会所(大 坂引替取扱十人改 朱印添)*	同上	寅(慶応 2)	銀5匁(赤)	165×30	1	2213	* 大坂引請町人は三井八郎右衛門・鴻池善右衛門・加嶋屋作兵衛・米屋平右衛門・平野屋五兵衛・鴻池善五郎・辰巳屋久左衛門・加嶋屋作次郎・米屋兵衛・笹屋勘左衛門。頭判芦田鶴。
	同上	同上	同上	銀5匁(赤)	166×30	1	2214	頭判高砂
	同上	同上	同上	銀5匁(赤)	165×31	1	2215	頭判二見ヶ浦。
	同上	紀州銀札会所(引 替取扱十人改朱印 なし)	同上 (寅の印 なし)	銀5匁(赤)	165×31	1	2216	頭判二見ヶ浦。



発行・地名	札 名 称	発行所・引替所	発行年次	額面(色)	サイズ	数量	番号	備 考
	同 上	添) 紀州銀札会所 (大坂引替取扱十人改朱印添)	(慶応2ヵ)	銀5匁(赤)	164×31	2	2217	頭判神橋。
	同 上	紀州銀札会所	同 上	銀1匁	164×30	3	2218	頭判芦田鶴。
	同 上	同 上	同 上	銀1匁	166×30	2	2219	頭判高砂。
	同 上	同 上	同 上	銀1匁	165×30	4	2220	頭判二見ヶ浦。
	同 上	同 上	同 上	銀1匁	165×29	2	2221	頭判神橋。うち1枚は「引替取扱十人改」の朱印あり。
	同 上	同 上	(慶応3)	銀1匁, 此銀100文(黄)	164×31	5	2222	頭判芦田鶴。うち1枚は「大坂引替取扱十人改」の朱印あり。
	同 上	同 上	同 上	銀1匁, 此銀100文(黄)	166×31	2	2223	頭判高砂。
	同 上	同 上	同 上	銀1匁, 此銀100文(黄)	166×31	1	2224	頭判二見ヶ浦。
	同 上	紀州銀札会所 (大坂引替取扱十人改朱印添)	同 上	銀1匁, 此銀100文(黄)	167×30	1	2225	頭判神橋。
	当分預り札	銭預所	己巳正月(明治2)	銭10貫文	176×74	1	2226	札面, 紋様枠なし。
	預 銭 札	銭預所 (松坂御為替組朱印添)	(明治2)	銭100文預	165×30	2	2227	頭判芦田鶴。
同 上	同 上	同 上	銭100文預	166×30	1	2228	頭判高砂。	
同 上	銭預所 (添印なし)	同 上	銭100文預	165×30	1	2229	頭判二見ヶ浦。	
田 辺 安藤氏* 3万8000石	銀 札	羽書引替所・田辺銀方役所	丁卯8月(慶応3)	銀10匁預	159×45	1	2230	慶応4年正月徳川御三家の付家老五家は藩屏に列せられ、立藩。従って該札は準藩札カ。
		同 上	同 上	銀1匁預	150×38	1	2231	
寺 社 札								
鑑 蓮 社 江戸芝増上寺	江戸芝社山内御霊屋御寄附金御手形	紀州鑑蓮社御役所, 引替所和州山口屋万平・油屋弥右エ門・吉村ヤ儀右エ門・材木屋泰助	安政5戊午改	銀3匁	143×39	1	2232	裏面上部「御霊屋」の右脇に「紀伊殿」の朱印押捺。
	同 上	同 上	同 上	銀1匁	157×36	3	2233	同 上
	同 上	紀州鑑蓮社御役所, 引替所和州材木屋泰助・山口屋万平・油屋弥右エ門・吉村ヤ儀右エ門	同 上	銀1匁	152×37	1	2234	同 上
	同 上	紀州鑑蓮社御役所, 引替所和州山口屋万平	同 上	銀1匁	150×37	2	2235	裏面「紀伊殿」朱印の上に押掛黒印あるも判読できず。
	同 上	紀州鑑蓮社御役所, 引替所和州山口屋万平・油屋弥右エ門・米屋安兵衛	同 上	銀1匁	155×36	1	2236	
	同 上	鑑蓮社役所, 引替所南都御貸附所	元治元甲子改	銀1匁	155×37	53	2237	「南都改」の朱印押捺。
	同 上	同 上	同 上	銀5分	144×32	1	2238	「河古出張改」の朱印あり。古市村は幕領で現羽曳野市。
	同 上	鑑蓮社役所, 引替所河州市元役所	同 上	銀1匁	154×37	3	2239	
高 野 山 伊都郡	銀子貸附手形	野山貸附役所, 播州今市引替所	安政2乙卯11月	銀5匁(茶)	169×57	1	2240	播州今市は印南郡のうち (現高砂市)。延享4年以降一橋家領。
	同 上	同 上	同 上	銀1匁(赤)	159×42	3	2241	

発行・地名	札名称	発行所・引替所	発行年次	額面(色)	サイズ	数量	番号	備考
	同 上	野山貸附役所, 引替所摂州灘組*	同 上	同 上	150×42	1	2242	*「播州今市」を塗抹して押掛改造札。
	同 上	野山貸附役所, 摂州神戸組*	同 上	同 上	158×43	1	2243	*「北国屋眞三郎」の添印あり。
	同 上	改役稲宿喜多清右衛門, 高野山大徳院御貸附役所	庚申6月(万延元)	銀1匁	152×36	1	2244	「高田堀江」の添印あり。 <sup>イノイデ</sup> 稲宿村は和州葛上郡のうち(現御所市)で幕領。
	(同 上)	高野山大徳院御貸附役所	同 上	銀5分	117×40	1	2245	
	高野山大徳院貸附御手形	大阪日本橋式丁目近江屋吉兵衛*, 播州加東小替所カウタカ団屋伊八郎・タルミ間屋弥吉・同油屋九右衛門	文久3亥	銀1匁(青)	138×38	2	2246	*「ウエタ九良兵衛」の添印あり。河高村は一橋家領で現滝野町。垂水村は旗本浅野氏知行地で現東條町。
	同 上	同 上	同 上	同 上	140×38	2	2247	表面に「出張野村引替所」の添印あり。
	(銀子貸附手形)	出張引替請負改役高濃要人, 高野山大徳院御貸附役所	癸亥8月(文久3)	銀1匁	153×35	2	2248	和州通用札(『大和紙幣図史』)
	同 上	出張引替請負横谷佐兵衛, 高野山大徳院御貸附役所	同 上	銀1匁	150×35	1	2249	同上。 <sup>ヨコヤ</sup> 横谷氏は, 吉野郡上市村(現吉野町)庄屋(『同上書』)。
	同 上	同 上	同 上	銀3分	138×36	1	2701	
	同 上	和州御所町木綿屋治兵衛, 高野山大徳院貸附所	辛酉5月(文久元)	銀1匁	150×35	2	2250	御所町は葛上郡のうちで幕領。裏面下部の「万代不易」の印刷の上に押掛印あるも判読できず。
	同 上	出張引替請負辻政右衛門, 高野山大徳院御貸附役所	甲子10月(元治元)	銀1匁	146×35	27	2251	辻氏は和州十市郡浅古村(現桜井市)。
	同 上	同 上	同 上	銀3分(青)	140×34	2	2252	
	同 上	同 上	同 上	銀2分(赤)	138×35	1	2253	
	同 上	引替請負辻政右衛門, 高野山大徳院御貸附役所		銀3分	120×32	1	2254	
	同 上	同 上		銀1分	119×31	1	2255	
	同 上	引替請負和州浅古辻政右衛門, 高野山大徳院御貸附役所		銀1分	119×30	3	2256	[2255] 札とは別種。表裏面とも図柄なし。
	御貸附手形	大徳院役所, 引替請負御貸附用所	慶応2丙寅3月	銀1匁	150×35	4	2257	
	同 上	同 上	同 上	同 上	146×35	9	2258	「南都改」
	同 上	引替請負和州砂村北喜三郎, 大徳院御貸附用所	慶応2	銀1匁	148×35	1	2668	砂村は添下郡のうち。現奈良市。
町 村 札								
御 坊	麦 札	御坊莊屋元		麦1斗	146×39	1	2260	墨書。「東町幸吉母」とあり。
日高郡	同 上	同 上		麦6升	146×39	1	2261	墨書。「彦兵衛娘」とあり。
	同 上	庄屋許(紀川絲屋の黒印)		麦6升	160×40	1	2262	墨書。「左近5ヵ」?
	同 上	同 上		麦8升	160×42	1	2263	墨書。「あめ屋万吉」とあり。
	同 上	同 上		麦5升	146×38	1	2264	墨書。「浜や法師」とあり。
	同 上	同 上		麦4升	160×42	1	2265	墨書。「西川屋角兵衛母」とあり。

阿 波 国

発行・地名	札 名 称	発行所・引替所	発行年次	額面（色）	サイズ	数量	番号	備 考
<b>大 名 札</b>								
徳 島 蜂須賀氏 25万7000石	阿波淡路銀 札	魚屋・寺沢	（享保15 庚戌）元 文＊	1 匁	168×45	5	2266	＊「元文」は裏面に印刷。表面 上部に小判形「鶴」の字，中央 部に「亀」の字六角朱印押捺。 「八厘大蔵省改」朱印押捺。
	同 上	同 上	同 上	1 匁	170×43	2	2267	
	同 上	同 上	同 上	5 分	169×43	5	2268	
	同 上	同 上	同 上	3 分	172×44	3	2269	
	同 上	同 上	同 上	2 分	170×43	4	2270	
	（阿波淡路 通用銭札）	同 上	（明治2）＊	1 貫文（換 10匁）	170×45	4	2271	様式は元文札。＊年次は湯浅良 幸『阿波貨幣史』に拠る。 「四銭式厘大蔵省改」朱印押捺。
	同 上	同 上	同 上	500文（換 5 匁）	170×43	2	2272	

讃 岐 国

大 名 札								
高 松 松平氏 12万石	銀 札	銀札改，政栄	宝暦 7 丑	銀10匁	185×75	6	2273	墨書。うち 1 枚額面切抜き表面朱印の上に「卯12月11日末沢茂八郎」，裏面に「天保年間銀札直下ケニ□取交相候様被仰付候義候，其後新銀札ニ御引受ニ相成候，此札は不正候」と後筆書込みあり。
	同 上	同 上	宝暦 7 丁丑	銀 1 匁	184×84	3	2274	* 上下截断のあとあり。 隅切り札（札面上部左右耳切り） 墨書。表面・裏面後年貼合わせで原寸不明。
	同 上	同 上	同 上	銀 3 分	155×53*	1	2275	
	同 上	同 上	同 上	銀 3 分	184×52	1	2276	
	同 上	（同 上カ）	天保 3 辰	銀10匁	178×75	1	2277	
	同 上	銀札改，政栄極	天保 3 壬辰	銀 1 匁	182×57	3	2278	「壹錢三厘大蔵省改」朱印押捺隅切り札。 同 上 隅切り札（上下左右隅切り）。 同上。「三厘大蔵省改」朱印押捺
	同 上	同 上	同 上	銀 1 匁	175×52	1	2279	
	同 上	同 上	同 上	銀 3 分	182×56	4	2280	
	同 上	同 上	同 上	銀 3 分（茶）	174×54	3	2281	
	同 上	同 上	同 上	銀 2 分	184×56	1	2282	
	同 上	同 上	同 上	銀 2 分	183×56	3	2283	
丸 亀 京極氏 5 万1400石	銀 札	能登屋	享保15庚戌	1 匁	170×38*	3	2284	* 札面枠外切断。原寸不明。表面頭判は弁才天。
	同 上	同 上	同 上	3 分	167×36	4	2285	札面枠外切断。原寸不明。
	同 上	同 上	同 上	2 分	172×37	6	2286	同 上
	同 上	村井仲左衛門		銀札10匁	163×58	4	2287	墨書。
私 人 札								
泊 浦 塩飽島本島	通用手形	通用手形引替所， 中嶋屋善右エ門・ 表屋太郎衛門・助 田屋善吉・大井屋 伊助・山本屋清助	安政 3 辰 改	（2 分カ）*	158×40	1	2288	* 額面印刷なし。未完成札カ。 宝珠が二つ印刷しあり。現丸亀市。町村札が私人札か不明。

伊 豫 国

<b>大 名 札</b>								
松 山 松平（久松）氏 14万石	伊豫松山領 銀札	銀札場	享保15庚 戌	4 分	162×40	1	2347	
	同 上	同 上	同 上	1 分	156×40	1	2348	

発行・地名	札名称	発行所・引替所	発行年次	額面(色)	サイズ	数量	番号	備考
	同 上	同 上	宝暦12壬午	100目(茶)	187×71	2	2349	「貳錢五厘大蔵省改」朱印押捺。  「貳厘大蔵省改」朱印押捺。 「五厘大蔵省改」朱印押捺。誤押カ。
	同 上	同 上	同 上	10匁(茶)	160×43	3	2350	
	同 上	同 上	同 上	5匁(青)	161×43	1	2351	
	同 上	同 上	同 上	5匁(青)	165×43	2	2352	
	同 上	同 上	同 上	1匁	166×43	6	2353	
	同 上	同 上	同 上	5分	159×42	2	2354	
	同 上	同 上	同 上	同 上	156×42	3	2355	
	同 上	同 上	同 上	同 上	159×42	1	2356	
	同 上	同 上	同 上	3分	162×43	5	2357	
	同 上	同 上	同 上	2分	163×44	5	2358	
宇和島 伊達氏 10万石	宇和嶋銀札		元禄11戊寅9月*	銀5匁(青)	175×46	2	2289	* 元禄札をそのまま再発行と伝えられる享保15年札カ(「古紙幣一覧」)。  「壹錢三厘大蔵省改」黒印押捺
	同 上		宝暦10庚辰11月	銀5分	161×40	2	2290	
	同 上		同 上	銀3分	160×42	6	2291	
	同 上		同 上	銀2分	160×41	3	2292	
	同 上	豫州宇和島銀札役所	文政13寅改	銀10匁	165×48	4	2293	
	宇和嶋通宝	同 上	同 上	銀5匁(赤)	150×43	3	2294	
	同 上	同 上	同 上	銀3匁(青)	149×40	2	2295	
	同 上	同 上	同 上	銀1匁(茶)	153×37	2	2296	
	同 上	同 上	同 上	銀5分	134×33	3	2297	
	同 上	同 上	同 上	銀3分	128×32	2	2298	
	同 上	同 上	同 上	銀2分	125×33	1	2299	
	銀 札	豫州宇和島蠟方役所	慶応2寅	銀10匁	156×44	1	2300	
	同 上	同 上	同 上	銀5匁(茶)	159×36	1	2301	
吉 田 伊達氏 3万石	銀預り札	御銀方	卯2月朔日	銀1匁預	159×50	1	2302	墨書。裏面に「天長地久」の黒印押捺。
	同 上	吉田産物役所		銀5匁預(赤)	158×45	1	2303	
	同 上	同 上		銀3匁預(青)	154×45	1	2304	
	同 上	同 上		銀1匁預(茶)	151×45	1	2305	
大 洲 加藤氏 6万石	豫大洲銀札		延享3丙寅11月	3匁(青)	170×46	5	2315	表面下部「極出」角印、裏面は双竜図。額面墨書。 表面十二支、裏面双竜図。 同 上 額面墨書。表面中央丸形大朱印下部「極出」角印。裏面双竜図。 額面墨書。「極出」角印。 同 上 同 上 同 上 裏面上部図柄の下に「アヤニトフトシ」の神代文字入り。 表面下部に「富野川邑役印」の
	同 上		同 上	1匁(黄)	170×46	10	2316	
	同 上		同 上	5分	170×47	6	2317	
	同 上		同 上	3分	170×47	8	2318	
	同 上		同 上	2分	172×46	9	2319	
	同 上		同 上	1分	167×45	1	2320	
	銀 札		同 上	銀20目(青)	165×45	1	2321	
	豫大洲銀札			銀10匁(青)	169×45	4	2322	
	同 上			銀5匁(茶)	170×45	2	2323	
	銀 札			銀300目	147×46	1	2324	
	同 上		(三月限)	銀5分	162×45	4	2325	
	同 上		同 上	銀3分	160×45	1	2326	
	同 上		同 上	銀2分	164×45	3	2327	
	同 上		同 上	銀1分	168×46	2	2328	
	諸産物代銀預札	修成館	(慶応4カ)	銀100目	160×43	5	2329	
	同 上	同 上	慶応4戊辰	銀10匁(青)	161×43	2	2330	
	同 上	同 上	同 上	銀10匁(青)	160×42	6	2331	

発行・地名	札名称	発行所・引替所	発行年次	額面(色)	サイズ	数量	番号	備考
	同 上	同 上	同 上	銀5匁(赤)	165×43	4	2332	角形朱印押捺。富野川村は宇和郡のうち(現野村町)で宇和島藩領。
	同 上	同 上	同 上	銀1匁(黄)	161×43	1	2333	表面額面の下部に「アナメタ」の神代文字入り。
	同 上	同 上	同 上	銀1匁(黄)	164×43	5	2334	表面に「富野川邑役印」の角形朱印あり。
新 谷 加藤氏 1万石	伊豫新谷銀札			銀10匁	164×44	1	2335	額面墨書。大洲藩裏面双竜図札の表面に「伊豫新谷」黒印を押捺。
	銀 札	帗 方		銀札20匁(青)	180×45	2	2336	表面額面の下に「伊豫国喜多郡」の黒印押捺。墨書。
	同 上	紙 方		銀札1匁	156×45	3	2337	同 上
	同 上	同 上		銀札5分	155×44	1	2338	同 上
	同 上	同 上		銀札3分(黄)	165×45	3	2340	同 上
	同 上	同 上		銀札2分(茶)	157×45	1	2342	同 上
	同 上	同 上		銀5分	165×47	1	2339	同 上
	同 上	同 上		銀3分	155×40	3	2341	同 上
	紙代預銀札	二宮・河内→澁屋御中	(4月限)	銭5貫文(青)	118×37	1	2343	墨書。紙専売制の下で藩札とする見解もあるが私人札とすべきか。
	同 上	同 上	同 上	銭2貫文(青)	118×37	1	2344	同 上
今 治 松平(久松)氏 3万5000石	銭 預 札	黒部武右衛門・砂田文治*		銭1匁預	160×42	1	2306	* 裏面墨書。
	同 上	黒部武右衛門・砂田文治, 引替所		銭10匁預	153×44	3	2307	表面に「豫州今治領内契書」, 裏面上部に「改正」の印刷あり。
	同 上	同 上		銭5分(青)	150×40	1	2308	同上。手すれで印刷不鮮明。
	同 上	同 上		3分* (茶)	147×38	1	2309	* 茶色札か汚れか不明。印刷殆んど判読不能。
	同 上	同 上		銭2分	150×40	1	2310	
	同 上	同 上		銭1分	156×40	1	2311	改正札, 汚れ甚しい。
	同 上	豫州今治引替所, 黒部武右衛門, 砂田文治		銭2分	122×33	3	2312	改正札(小型札)
	同 上	同 上		銭5厘(茶)	84×21	2	2313	同 上
	銭 札	国産会所, 引替所		1文目	157×38	1	2314	改正札。「豫州今治領内契書」の印刷あり。
西 条 松平氏 3万石	銭預り札	志智屋小左衛門・中屋喜蔵・近江屋丹次・酒屋和忠次・天満屋弥一右衛門・山口屋善右衛門		銭10匁	172×47	2	2359	
	同 上	志智屋小左衛門・中屋喜蔵・近江屋丹次		銭5匁カ*(青)	165×44	1	2360	* 手すれのため判読できず。
	同 上	同 上		銭5匁(白)	154×38	1	2361	「弍銭九厘大蔵省改」朱印押捺。
	同 上	同 上		同 上カ*	153×40	1	2362	* 額面判読できず。
	同 上	同 上		銭5分	135×31	1	2363	
	同 上	近江屋丹次・志智屋小左衛門・中屋喜蔵		銭3分	144×41	1	2364	表面額面のみ, 図柄なし。
	同 上	志智屋小左衛門・		銭2分(赤)	138×33	1	2365	

発行・地名	札 名 称	発行所・引替所	発行年次	額面 (色)	サイズ	数量	番号	備 考
	同 上 同 上	中屋喜蔵・近江屋 丹次 同 上カ 同 上		銭2分(赤)カ 銭2分(赤)カ	138×36 130×30	1 1	2366 2367	「沓厘大蔵省改」朱印押捺。 印刷は殆んど消滅。帯封に「新 二分」と記しあり。
小 松 一柳氏 1万石	豫州小松銭 札	銭札場預, 日野・ 佐伯	慶応元丑 改正	銭100目(黄)	190×75	2	2368	
<b>町 村 札</b>								
川 之 江 村 宇摩郡	御預所預り 札	川之江会所	(明治元 カ)	丁銭5文目	162×42	1	2369	川之江村は享保6年以降幕領, 松山藩預り地で陣屋が置かれて いた。慶応4年高知藩管下に入 り、該札は高知藩の「川之江札」 として取扱われている(『大日 本貨幣史』藩札之部)。
中 村 (宇摩郡カ)	御預所札	御預所引替所, 豫 州道前中村会所		丁銭5分	160×36	1	2370	中村の地名特定できないが, 川 之江札と同様, 御預所とあり松 山藩預地で慶応4年高知藩管下 となった宇摩郡中村(現土居町) か。
吉 野 村 宇和郡	米 預 証	吉野邑中用	癸酉(明 治6カ)	米3升 (価100目)	156×50	1	2388	現松野町。
<b>私 人 札</b>								
上 分 村 宇摩郡	銭預り札  同 上 同 上 同 上 同 上	東豫上分, 引替石 川李治・薦田儼助・ 石川辰蔵 同 上 同 上 同 上 同 上		丁銭10匁  丁銭5匁 丁銭1匁 丁銭3分 丁銭2分	175×46  161×44 153×40 143×35 138×34	1  2 1 1 1	2371  2372 2373 2374 2375	カミフツ 上分村は宝永元年以降西条藩領。 現川之江市。札元3名は村内の 大地主の由(『川之江市誌』)
岩 松 村 宇和郡	預り札	岩松保本→阿波儀 様	辰12月	1匁預	158×45	1	2376	墨書。岩松村は宇和島藩領で, 現津島町。
(某 地)	銀預り札	銀預刀屋・新屋・ 油屋・荒井可行	子2月	銀5分	152×43	1	2392	表面額面の数字, 引替文言及び 裏面の発行月, 「荒井」の人名 墨書。

## 土 佐 国

<b>大 名 札</b>								
高 知 山内氏 24万石	土佐国銀札 同 上 同 上 金 札  同 上 同 上 同 上	播磨屋・櫃屋 同 上 同 上 御銀方  同 上 同 上 同 上	元禄16癸未 同 上 同 上 慶応2丙 寅10月* 同 上 同 上 慶応3丁 卯3月 丁卯5月 (慶応3)	5分(薄茶) 4分(薄茶) 3分(薄茶) 金1両(赤)  金2分(赤) 金1分(赤) 金2朱(赤)  銀40匁	157×42 159×42 158×41 164×50  164×48 165×49 165×46  159×49	3 2 3 1  2 2 5  2	2393 2394 2395 2396  2397 2398 2399  2400	*「通用限戊辰」とあり。     同 上 同 上 同 上

発行・地名	札 名 称	発行所・引替所	発行年次	額面 (色)	サイズ	数量	番号	備 考
	同 上	同 上	同 上	銀25匁	164×59	2	2401	
	同 上	第二勸業局、銀券 所引替	同 上	銀20匁	163×48	1	2402	
	同 上	同 上	同 上	銀10匁	165×49	4	2403	
	同 上	第三勸業局、銀券 所引替	同 上	銀20匁	166×50	1	2404	
	同 上	同 上	同 上	銀15匁	165×49	2	2405	
	土州銀券	土州銀券所	(慶応4ヵ)	銀10匁	153×30	11	2406	
	同 上	同 上	同 上	銀9匁	152×31	3	2407	
	同 上	同 上	同 上	銀8匁	152×30	4	2408	
	同 上	同 上	同 上	銀7匁	154×30	3	2409	
	同 上	同 上	同 上	銀6匁	154×32	2	2410	
	同 上	同 上	同 上	銀5匁	153×31	3	2411	
	同 上	同 上	同 上	銀4匁	144×29	2	2412	
	同 上	同 上	同 上	銀3匁	154×30	2	2413	
	同 上	同 上	同 上	銀2匁	155×30	1	2414	
	同 上	同 上	同 上	銀1匁	154×30	3	2415	
	同 上	同 上	(明治元ヵ)	銀100匁	172×51	8	2416	
	同 上	同 上	同 上	銀50匁	163×42	3	2417	
	同 上	同 上	同 上	銀30匁	158×36	4	2418	
	同 上	同 上	同 上	銀1貫目	157×43	11	2419	
	(錢 札)	高知藩会計司		200文	113×34	1	2420	俗に「鯉札」
	同 上	同 上		200文	119×39	3	2421	同上。「五厘大蔵省改」朱印押 捺。
	同 上	同 上		100文	113×34	2	2423	「鯉札」
	同 上	同 上		100文	117×35	4	2422	同上。「三厘大蔵省改」朱印押 捺。
	同 上	同 上		50文	116×31	3	2424	「鯉札」
	同 上	同 上		50文	117×32	2	2425	同上。「壹厘大蔵省改」朱印押 捺。
	同 上	同 上		12文	103×29	8	2426	「鯉札」
	(金 札)	同 上		金1分	128×42	3	2427	俗に「鯨札」
	同 上	同 上		金1朱	112×35	1	2428	同 上
	同 上	同 上		金1朱	115×35	3	2429	同上。「貳銭壹厘大蔵省改」朱 印押印。
	(預り手形)	播磨屋万兵衛→土 州御役所様	辰7月	金1分	163×109	1	2430	引替文言は「右此手形以相渡し 可申候」とあり、「但し小札御 座無之節は正銭ヲ以相渡し可申 候」の添文言あり。差出書・宛 書・月付は墨書。準藩札ヵ。
	同 上	播磨屋万兵衛→田 村栄殿	辰7月	金1歩	165×111	1	2431	同 上
	(御預所預 り札)	川之江会所 (伊豫 国宇摩郡)	(明治元ヵ)	丁銭5文目	162×42	1	2369	慶応4年高知藩預地となった川 之江村の銭札は町村札か藩札か 検討を要する。但し『大日本貨 幣史』には高知藩札とする。
<b>準 藩 札</b>								
佐 川*	預り札	佐川御産物方	文政2卯 改	八銭1匁 (赤)	141×50	5	2432	* 佐川は高知藩の重臣深尾氏の 所領で高岡郡のうち (現佐川町)。 裏面番附は墨書。
深尾氏 1万石	昏買入手形	左川紙買方、引替 所御山方	嘉永3戌 改	八銭5匁	149×48	1	2433	
<b>町 村 札</b>								
森 山 村	預り札	引替森山村役方	戊辰7月 (慶応4ヵ)	銀60匁	170×60	1	2436	高知藩領。現春野町ヵ。墨書。
吾川郡	同 上	引替森山村役人	同 上	銀20匁	150×45	1	2437	墨書。

発行・地名	札名称	発行所・引替所	発行年次	額面(色)	サイズ	数量	番号	備考
入出組* 郡名未詳	(銭札)	入出組		12文	79×29	1	2438	* 土佐国とする根拠はないが、 先人の整理に従う。
<b>鉾 山 札</b>								
中箇市鉾山 幡多郡カ*	人夫札	金穀係(「中箇市 鉾山本場之章」朱 印)	明治10年 7月	夫5歩役	125×36	3	2439	* 現西土佐村の大字藤ノ川の小 字に「中ケ市」の地名あり。旧 高知藩領。アンチモニーの産鉾 の由(昭和8年『高知県誌』)。
中 鉾 土佐郡カ*	人夫札	中鉾(「鉾山家證」 朱印)	明治10年 5月	夫1歩役	103×37	1	2440	* 場所特定できず。『お札』に は「本川」とあり。
水 溪 郡名未詳	人夫札	水溪(「鉾山券證」 朱印)	明治9年カ	夫1人役	128×35	1	2702	場所特定できず。裏面の朱印に かすかに「土州間云々」の朱印 あり。香美郡間村(現在土佐山 田町)カ。
<b>私 人 札</b>								
高 知 吾川郡	(振出手形)	水通三丁加田屋源 蔵→加田屋鉄弥殿	午11月	八錢2匁	152×60	1	2441	「右之通御渡可有之候」とあり 裏面は墨書の番附と「散失不知」 の黒印あり。
赤 野 浦 安芸郡	預り札	長木屋藤左衛門	文化14丑 8月改	八錢10匁	142×45	1	2442	墨書。裏面に「散失不知」とあ り。高知藩領。現安芸市。
クナ 立 田 町 香美郡	預り札	田村屋周蔵→永徳 屋芳平殿	天保11子 正月	八錢2匁 (赤)	158×49	4	2443	裏面に「散失不知」の朱印あり。 高知藩領で現南国市。
	同 上	同 上	同 上	八錢10文目	163×50	1	2444	
ハ 半 山 郷 高岡郡	手形	台蔵→黒金屋帛蔵 殿		八錢1匁 (茶)	150×54	1	2445	表面に「黒酒店」の黒印、裏面 に「半山郷黒金屋酒肆」の印刷 あり。現葉山村。



# 西 海 道

## 筑 前 国

発行・地名	札 名 称	発行所・引替所	発行年次	額面 (色)	サイズ	数量	番号	備 考
大 名 札								
福岡 黒田氏 52万3100石	預 銀 札	福岡銀会所	嘉永庚戌 (3)	預銀10匁 (赤紫)	169×50	3	2447	「式厘大蔵省改」朱印押捺。  「右之金子可被相渡事」とあり、裏面に「本両替」の押印あり。額面と年月は墨書
	同 上	同 上	同 上	預銀10匁(茶)	162×49	3	2448	
	同 上	同 上	同 上	預銀3匁(茶)	147×44	1	2449	
	同 上	同 上	同 上	預銀3分	130×37	1	2450	
	同 上	同 上	同 上	預銀2分(茶)	130×31	1	2451	
	為替手形	筑前郡方役所→大坂今橋筋鴻池重太郎殿	嘉永7寅 5月	金3両	195×78	2	2452	
	同 上	生蠟会所、引替所博多生蠟会所蔵元勘定場・大坂野田屋宇右衛門		丁錢300文 (青)	142×42	1	2453	
	同 上	同 上		丁錢150文(茶)	140×40	3	2454	
	同 上	同 上		錢60文(桃)	130×39	4	2455	
	同 上	同 上		錢30文	120×37	6	2456	
秋月 黒田氏 5万石	預 銀 札	秋月改所	天保6	銀2匁 (薄茶)	151×41	2	2457	
	同 上	同 上	同 上	銀1匁(茶)	150×40	2	2458	
私 人 札								
上 境 鞍手郡	預 り 札	筑前上境井幸	安政6未 12月	丁錢15文 (茶)	129×35	1	2459	福岡藩領で、現直方市。

## 筑 後 国

<b>大 名 札</b>								
久留米 有馬氏 21万石	米 札	御蔵所、筑後北木屋 <sup>(本)</sup> 次 (裏印)*	午正月 (天明6カ)	米1斗	187×80	1	2460	* 裏面上部に「萬」の字朱印押捺。これは裏書人の符号で、久留米領内の上妻・下妻郡地域を示していると思われ、裏印の北木屋は上妻郡黒木町の人とされる (『図説筑後の藩札』)。
	同 上	同 上	同 上	米5升	176×77	1	2461	裏面朱印は「萬」の字
	同 上	同 上	同 上	米2升	165×70	2	2462	同 上
	同 上	同 上	同 上	米1升	163×70	3	2463	同 上
	同 上	同 上	同 上	米5合	160×65	3	2464	同 上
	銀 札	久留米出納官、久留米札之辻銀会所、大坂中之島蔵屋舗	文政11カ *	銀5匁(青)	172×50	1	2465	* 『前掲書』に拠る。『福岡県史』は文政10年。
	同 上	同 上	同 上	銀3匁(薄茶)	165×45	2	2466	同 上
	同 上	同 上	同 上	銀1匁	145×41	2	2467	同 上
	同 上	同 上	同 上	銀5分(青)	151×39	2	2468	同 上
	同 上	同 上	同 上	銀1分	148×35	5	2469	同 上
柳 河 立花氏 10万9600石	米 札	御米役所、外町九右衛門	寛政4子 3月18日、 同22日	米5升	148×55	2	2470	墨書。年号のみ印刷。「御物成之内可相渡候」とあり。
	預り錢札	両替所*	文化4卯 5月	六四錢10匁 (薄茶)	154×49	8	2471	* 裏書人は江口甚右衛門・浅山平五郎・西嶋利平次・田中藤三郎・志岐兵左衛門など。

発行・地名	札名称	発行所・引替所	発行年次	額面(色)	サイズ	数量	番号	備 考
	同 上	同 上 *	同 上	六四銭5匁 (薄茶)	151×45	6	2472	* 裏書人は吉原正右衛門・永江九左衛門・原田伊兵衛・田嶋利左衛門・四ヶ村勝右衛門。
	同 上	同 上 *	同 上	六四銭1匁 (薄茶)	144×40	3	2473	* うち1枚裏書人は「両替所沖端矢野藤太」, 他2枚は「已改別段」の朱印押捺。
	同 上	同 上	同 上 *	六四銭5分 (薄茶)	141×36	2	2474	* うち1枚「已改別段」の黒印押捺。
	米 札	御物成役所	文化7	米5升 (薄茶)	151×45	1	2475	「上納米之内可相渡候」とあり裏面は「五月廿三日」「両替所下庄本田又兵衛」の印刷あり。
	同 上	筑後柳河米会所	文政13庚寅5月	米5合(赤)	150×40	2	2476	
	米代預り切手 *	札役所	天保3壬辰改正	米1斗代銀5匁 (薄茶)	185×52	1	2477	表面額面の上部に菩薩の眞言を梵字で印刷。裏面中段に「生蠟」の押印, 下部に「大坂改印」の印刷あり。生蠟代銀切手カ。
	同 上	同 上	同 上	米2升代銀1匁(赤)	162×42	1	2478	同 上
	(為替手形)	柳河役所→大坂鴻池庄兵衛殿, 柳河両替所細工町田中惣右衛門・瀬高町富安長左衛門*	天保5午正月	銀3分	163×50	2	2479	* 裏面に「此手形鴻庄ニて引替之節ハ大坂蔵屋舗ニおいて一応改ヲ請可申候」と印刷しあり。
	預 銀 札	柳河銀会所	(安政4カ) *	銀5匁(茶)	168×40	2	2480	* 『福岡県史』第3巻に拠る。なお「古紙幣一覽」は万延元年『大日本貨幣史』は嘉永元年とする。
	同 上	同 上	同 上	銀3匁(青)	159×43	1	2481	同 上
	同 上	同 上	同 上	銀1匁(赤)	155×40	1	2482	同 上。「老銭式厘大蔵省改」朱印押捺。
	同 上	同 上	同 上	銀1分(赤)	135×31	1	2483	

## 豊 前 国

大 名 札								
小 倉 *	銀 札	豊前小倉札所	享保15庚戌改	5匁(黄)	157×37	2	2484	* 慶応2年 <sup>カヅラ</sup> 春藩, 明治2年豊津藩と改称。
小笠原氏 15万石	同 上	同 上	同 上	3分カ*	148×35	1	2485	* 額面・裏面の印刷殆んど消滅
小 倉 新 田	米価預札	篠崎本方, 小倉新田書替役所, 引替所	安政5戊午10月	米5升預定価500文 (薄茶)	150×40	2	2486	「上納両替可為勝手」の印刷あり。
小笠原氏 1万石								
中 津	銀 札	銀札所	**	銀札1貫匁 (黄)	168×89*	2	2487	* 屏風札で見開きのサイズ。
奥平氏 10万石	同 上	豊前國中津	宝暦壬申(2)	10匁カ(赤)*	152×38	1	2488	** 裏面に「午冬」の朱印押捺。 * 額面手すれで判読できないが, 表面縦2行に宝珠10箇印刷しあり。
寺 社 札								
宇 佐 神 宮	預 切 手	豊前国宇佐宮銀会所, 地松浦	天保14癸卯改	七銭1匁 (赤)	146×44	1	2489	豊前国の一の宮, 全国八幡宮の総本宮で神領は南宇佐村。現宇佐市南宇佐亀山。地松浦は豊後国海部郡のうち(現鶴見町)で佐伯藩領。
宇佐郡 1000石								
	同 上	豊前宇佐神領役所,	嘉永4亥	八銭10匁	147×40	1	2490	

発行・地名	札 名 称	発行所・引替所	発行年次	額面 (色)	サイズ	数量	番号	備 考
		両替会所 (豊後銀元)	3 月					
	同 上	引替所*	嘉永6癸丑	六四銭10匁	157×40	1	2491	* 押掛印あるも判読できず。  以上の嘉永6年札は何れも「宝札以百拾式□(匁カ)換金子壹両」とあり。  表・裏面貼り合わせ。
	同 上	同 上	同 上	六四銭5匁(青)	157×40	2	2492	
	同 上	同 上	同 上	六四銭1匁(茶)	151×40	2	2493	
	同 上	同 上	同 上	六四銭3分(赤)	155×36	1	2494	
	同 上	豊前宇佐神領役所, 神領引替役所	(慶応通用)	七銭10匁	155×42	1	2495	
	同 上	引替銀元勘定所	明治2己巳8月	七銭10匁	134×42	1	2496	
谷 御 殿 靈鑑寺	→ 山城国寺社札							
私 人 札								
宇 佐 村 宇佐郡	預切手	豊前宇佐政屋久兵衛	文化元子	七銭1匁 預り*	155×38	3	2497	* 額面の両脇に「金銀札時相場」の押印あり。宇佐村 (現宇佐市) は安永4年以降肥前島原松平氏と宇佐宮の相給地。印刷殆んど判読できず。
	同 上	同 上	同 上	七銭5分カ (赤)	145×36	2	2498	
宇 嶋 上毛郡	預切手(上毛郡限通用札)	宇嶋万屋	天保丙申 (7)	八銭2分 5厘	153×37	8	2499	赤穂村 (現豊前市) のうちで、小倉藩領。 「宝珠」の透かし入り。
	上毛郡限通用札	宇嶋引替所	同 上	1匁(薄茶)	152×38	9	2500	
行 事 村 京都郡	預切手 (京都郡限通用札)	京都郡行事住館屋	天保6乙未	札10匁	173×30	3	2501	行事村 (現行橋市) は小倉藩領で館屋は本姓玉江氏。藩より私札の発行を許可されたという。うち2枚は表面墨で棒引、裏面朱印押捺なし。反故札カ。 裏面印刷なし、「極月廿七日」と墨書。エラー札カ。 うち1枚裏面印刷なし。
	(同 上カ)	同 上		札5匁	170×30	1	2502	
	同 上	同 上	同 上	札1匁	170×30	6	2503	
	同 上	同 上	同 上	札5分	168×30	2	2504	

豊 後 国

大 名 札								
岡 中川氏 7万石	豊後岡銀札 同 上 預り銀札 同 上 同 上	銀会所 同 上 岡銀札会所 同 上 銀札会所	明和8辛卯11月* 同 上 庚申(寛政12カ) 乙酉(文政8カ)	銀5匁(赤) 銀1匁 銀札2分 銀札2分 七銭1分預	158×48 163×46 156×45 156×45 143×40	8 3 1 2 2	2505 2506 2507 2508 2509	* 「古紙幣一覽」は明和9年8月とするが、札面印刷に従う。     裏面印刷なし。
臼 杵 稲葉氏 5万石	豊後国臼杵銀札 預り銀札 同 上	産物方銀座預 度支官	(宝暦通宝) (天保6カ)* 明治元*	2分(青) 銭2分預 (青) 銭20匁預り (桃)	147×50 124×35 179×51	3 1 2	2510 2511 2512	俗に「十二支札」と呼称。該札に表面下部の図柄は戌と亥。 * 「古紙幣一覽」による。 * 同上。「度支官花押札」

発行・地名	札 名 称	発行所・引替所	発行年次	額面 (色)	サイズ	数量	番号	備 考	
杵 築 松平氏 3万2000石	豊後杵築銀札	豊後杵築御分知御銀方	寛延通宝 (安永8ヵ)	銀10匁	133×45	1	2513	* 額面判読できず。	
	御知行所交易切手		文化13丙子9月	銀10匁預	140×43	1	2514		
	同 上		同 上	銀5匁預(青)	136×40	4	2515		
	同 上		同 上	銀1匁預ヵ (茶)*	140×41	1	2516		
	同 上		同 上	銀3分預(赤)	139×40	1	2517		
佐 伯 毛利氏 2万石	銀 札	会 所	(文化2ヵ)	銀1匁(茶)	138×44	1	2683	裏面「宝」の字押印あるのみ。 印刷消滅ヵ。 銀3分札の表面試し刷ヵ。	
	(同 上)	同 上	同 上	銀3分	149×63	1	2684		
森 久留島氏 1万2500石	豊後森領預切手	米会所*	文政13庚寅改正	米代七錢1匁(茶)	153×43	1	2685	裏面上部に「頭成米会所」の押印あり。頭成町は速見郡のうち(現日出町)。森藩領辻間村の枝郷で港町として市街化。	
延 岡 内藤氏	—————→ 日向国大名札								
旗 本 札									
立 石 木下氏 5000石	預切手	豊後立石勘定所	文政7甲申9月14日	七錢1匁(黄)	137×39	4	2520	豊後国日出木下氏の分封で、立石は速見郡のうち(現山香町)。裏面の「高田岩丸」は墨書。	
	同 上	豊後立石勘定所、 両替引請高田岩丸*	弘化4未8月	七錢10匁	152×43	2	2519		
	同 上	豊後立石勘定所	同 上	七錢5匁(赤)	152×43	2	2521		表面印刷のみ。未完成札か。
	同 上	豊後立石御掛屋	嘉永4辛亥夏5月	米代錢10匁	143×43	1	2522		
私 人 札									
国 東*	預手形	豊後国東江藤氏、 両替所生田屋伊兵衛	明治3庚午5月	10匁	159×40	4	2524	* 「豊後国東」とあるのみで発行地特定できず。	
	同 上	同 上	同 上	5匁(赤紫)	160×40	2	2525		
臼 野 村 国東郡	開地切手	臼中安弥*		1匁	131×35	1	2526	裏面不鮮明。* 「臼中安弥」は「臼野中村安永弥兵衛」の由(「古紙幣一覽」)。日向延岡藩領で現眞玉町。	
別 府 附 速見郡	預切手(四郡通用)	別府両替所*	明治2己巳5月	五錢10匁	160×45	1	2527	* 別府生産会所の発行とされる(昭和8年『別府市誌』)。	
	同 上	同 上	同 上	五錢5匁(青)	155×43	2	2528		
	同 上	同 上	同 上	五錢1匁(赤)	145×41	4	2529		
日 田ヵ 日田郡	預切手(日田・玖珠・下毛三郡通用)	*		拾九文錢10匁(赤)	152×40	1	2523	* 発行所の印刷なし。日田生産会所札ヵ。通用三郡のうち下毛郡は豊前国。なお押印一切なく未使用札ヵ。	

## 肥 前 国

大 名 札								
佐 賀 鍋島氏 35万7000石	肥前佐嘉預銀札	会 所	安政3丙辰	預銀10匁	176×50	1	2530	
	同 上	同 上	同 上	預銀3匁(茶)	163×45	1	2531	

発行・地名	札 名 称	発行所・引替所	発行年次	額面(色)	サイズ	数量	番号	備 考
	同 上	同 上	同 上	預銀 2 匁 (薄茶)	163×44	1	2532	「貳銭七厘大蔵省改」朱印押捺
	同 上	同 上	同 上	預銀 5 分(茶)	154×39	1	2533	「四厘大蔵省改」朱印押捺。 「当丑秋御物成之内可相渡候」 とあり。＊裏書人名判読できず。
	同 上	同 上	同 上	預銀 3 分(灰)	135×36	1	2534	
	米 札	米会所＊	丑11月 (寅10月 29日限)	米 5 升(桃)	153×49	1	2535	
	同 上	同 上	同 上	米 1 升(桃)	155×49	1	2703	
	同 上	同 上	西11月 (戌10月 29日限)	米 5 升	151×58	4	2536	「当酉秋御物成之内可相渡候」 とあり。裏書人は「白山平田勘 兵衛」,「柳町大串□□」,「材 木町嘉村□右衛門」ほか(判読 できず)。裏面印刷なし。
	預 金 札	銀会所	巳 6 月 (明治 2 年)	預金 2 分	140×49	1	2537	
嶋 原 松平氏 7 万石	肥前嶋原銀 札		安政 5 丙 巾	銀 5 匁	133×46	2	2538	うち 1 枚「六拾文」の押掛朱印 あり。 うち 1 枚「拾八文」の押掛朱印 あり。 うち 2 枚「拾貳文」の押掛朱印 あり。
	同 上		同 上	銀 1 匁	133×46	3	2539	
	同 上		同 上	銀 3 分	136×50	4	2540	
	同 上		同 上	銀 2 分	135×47	5	2541	
平 戸 松浦氏 6 万1500石	銀 札	平戸江口	延宝 5 丁 巳 2 月	5 分	138×45	1	2542	額面墨書。
	同 上	同 上	元治甲子 (元) 5 月	1 分	139×45	3	2543	裏面に発行年次の印刷なし。
	同 上	平戸会所		銀 4 分 ㇿ (桃)	145×47	1	2544	
	銭 札	平戸産物方	明治元辰 10月	銭300文(赤)	160×40	1	2545	裏面に「領内通用」と印刷。 「貳銭五厘大蔵省改」黒印押捺。
	同 上	同 上	同 上	銭200文(青)	154×38	1	2546	「壹銭七厘大蔵省改」朱印押捺。 同 上 「八厘大蔵省改」朱印押捺。
	同 上	平戸会所	同 上	銭200文(青)	148×38	3	2704	
	同 上	同 上	同 上	銭100文(茶)	142×38	2	2547	
対 馬 宗 氏	→ 対馬国大名札							
長 崎 札								
唐 館 役 所	唐館役所札	長崎唐館役所		銭 5 文 ＊	151×33	1	2548	＊表面に「唐館通宝」なる銭貨 を模したものを 5 箇印刻。銭 5 文を表示したと思われる。 裏面(「長崎唐館役所」)のみ。 未完成札 ㇿ。
	同 上	同 上						
製 鉄 場	金 札	製鉄局, 引替所島 原町松葉屋三造		金 1 両	163×57	1	2550	墨書。製鉄場は徳川幕府の長崎 造船所の前身。明治元年新政府 が官収したという。
府 県 札								
長 崎	銭 札	長崎県	明治 2 己 巳	銭200文	90×32	1	2551	「以二十五枚換金貳歩」

肥 後 国

発行・地名	札 名 称	発行所・引替所	発行年次	額面（色）	サイズ	数量	番号	備 考
大 名 札 熊 本 細川氏 54万石	熊本領通用札	札 所		4 匁(茶)*	158×44	2	2552	俗称清正公札。* 白札に柿渋塗布カ。
	同 上	同 上		5 分(白)	160×45	1	2553	俗称清正公札。
	同 上	同 上		4 分(白)	160×45	1	2554	同 上
	預 銭 札	御銀所	寛政 4 子 10月	銭 2 匁 5 分	170×100	1	2555	表面に「中嶋」の署名あり。 裏面は「堤・高橋、御横目二宮」の署名と多数の小形押印あり。
	同 上	御銀所、松永・生駒・黒川*	享和元辛酉 3 月	銭100目 (茶)	190×128	1	2556	墨書。* 以下 3 人の署名は札により異なるが捺印は何れも同じ。御銀所の役人カ。
	同 上	御銀所、松永・林・中溝	同 上	銭100目 (茶)	189×123	1	2557	墨書。
	同 上	御銀所、原・武藤・白石	同 上	銭10匁(茶)	184×105	1	2558	墨書。
	同 上	御銀所	文化 6 巳 3 月	銭10匁(茶)	182×105	3	2559	
	同 上	同 上	同 上	銭 5 匁(茶)	174×95	4	2560	裏面に「松永・西沢・宮田」の署名あり。
	同 上	同 上	同 上	銭 2 匁 5 分 (茶)	172×74	5	2561	裏面の署名は「松永・生駒・馬場」、「元永・志垣・春日」、「右田・志垣・春日」ほか。
	同 上	同 上	同 上	銭 1 匁(赤)	177×62	2	2562	裏面に「久住」の押印あり。
	同 上	同 上	同 上	銭 5 分(青)	177×53	3	2563	同 上
	同 上	同 上	同 上	銭 2 分	175×52	5	2564	同 上
	同 上	小物成（朱印）	同 上	銭預 5 匁	170×68	5	2565	墨書。「宝珠」透かし入り。
	同 上	小物成方	同 上	銭預 1 匁	159×49	3	2566	うち 1 枚「五厘大蔵省改」朱印押捺。
	同 上	御銀所	天保15辰 6 月	銭 1 匁(赤)	145×83	1	2567	「モト」の文字透かし入り。
	同 上	同 上	同 上	銭 5 分(青)	127×67	1	2568	
	同 上	同 上	同 上	銭 2 分(茶)	124×62	7	2569	
	同 上	同 上	嘉永元戊申 3 月	銭10匁(茶)	176×105	2	2570	
人 吉 相良氏 2 万2100石	預 銀 札	引替所人吉芋方		預銀50目	140×40	2	2571	裏面印刷なし。

日 向 国

大 名 札 延 岡 内藤氏 7 万石	銀 札	会所預		銀 5 分(茶)	140×37	3	2574	表面に「以此手形銀銭引替領内通用可致者也」、裏面に「山阪運送難渋之所柄就歟出之者也」と印刷しあり。うち 1 枚「武厘大蔵省改」朱印押捺。
	同 上	同 上		銀 3 分	130×35	1	2575	表・裏面印刷文言同上。
	銭 札	宮崎会所		銭500文(茶)	170×55	1	2576	「銀銭引替云々」の文言のみ。
	同 上	同 上		銭100文(茶)	157×44	2	2577	同 上
	同 上	同 上		銭100文(赤)	150×42	2	2578	同 上
	同 上	紙会所・大阪加嶋		銭500文(桃)	140×38	3	2579	裏面中央空欄。未発行札カ。
	同 上	屋定七預		銭50文(茶)	135×37	4	2580	同 上
	(豊後延岡)	同 上		銀10匁(茶)	145×40	5	2581	* 千歳役所は豊後大分郡のうち
		千歳役所預*	文政 6 癸					

発行・地名	札名称	発行所・引替所	発行年次	額面（色）	サイズ	数量	番号	備 考
	領通用銀札)		未					(現大分市)。豊後延岡領は大分・速見・国東3郡のうち83ヶ村2万600石余。
	同 上 高千穂産物 豊後青蓮引 替手形	同 上 引替所千歳役所	同 上 天保12辛 丑	銀5匁(青) 銀10匁預 (青)	137×39 150×43	2 1	2582 2583	
	同 上	同 上	同 上	銀5匁預(茶)	150×42	3	2584	
	同 上	同 上	同 上	銀1匁預	150×40	1	2585	
	同 上	同 上	同 上	銀5分預(灰)	150×41	3	2586	
	同 上	同 上	同 上	銀3分預	148×40	2	2587	
	(豊後延岡領 通用銀札)	同 上	*	銀1分	116×29	1	2588	* 少額紙幣の故か年次その他の印刷なし。文政6年札カ。
飫 肥 伊東氏 5万1000石	飫肥領清武 通用札	中野役所		銭100文預 (茶)	148×45	1	2572	<small>キヨタケ</small> 清武郷は飫肥藩の地方支配のための郷名で、宮崎郡・那珂郡のうち。清武郷の地頭所は宮崎郡加納村（現清武町）の中野に置かれた。
	同 上	同 上		銭100文預	150×45	1	2573	「八厘大蔵省改」朱印押捺。
佐 土 原 島津氏 2万7000石	銭 札	佐土原御勝手座		銭500文預 (茶)	174×60	2	2589	
	同 上	同 上		銭100文預 (赤)	155×45	2	2590	
	預銭札 *	佐土原産物方、引 換取扱大坂菱屋八 十平・鹿児島島住 源蔵		銭1貫文預	190×66	5	2591	* 「封内之民日用通宝」の印刷あり。
	同 上	同 上		銭500文預 (赤)	183×60	3	2592	
	同 上	同 上		銭100文預 (青)	160×45	3	2593	
私 人 札								
宮 崎 宮崎郡	融通切手	宮崎中町全栄屋		銭50文	93×35	1	2594	墨書。表面に「戊」の丸形朱印裏面に「所融通□十月限」とあり。
	同 上	同 上		銭24文	75×33	1	2595	墨書。表面は同上。「亥正月限」
	同 上	同 上		銭24文	74×34	2	2596	墨書。裏面は「所用弁」とあり。

薩 摩 国

大 名 札								
鹿 児 島 島津氏 72万8000石	三国通用銀 札 *	銀札役所		銀1匁	90×28	1	2598	* 鹿児島藩領は薩摩・大隅国と日向国諸方郡の一部。
	三国通用銭 札	国鈔会所		銭500文(赤)	138×43	2	2599	
	同 上	銭札役所		銭100文(赤)	123×31	3	2600	
	薩州鹿児島府封 内通用銭札	阜財署	元治甲子 (元)	銭100文(茶)	153×45	2	2601	額面墨書。「以此緒幣與金銀銭交換」
	同 上	同 上	同 上	銭32文 (薄茶) *	115×33	1	2602	同上。* 汚れか着色か判別できず。
	薩州産物手 形	薩州会所、引替掛 屋	(慶応4カ)	銀5匁	159×43	1	2597	鹿児島藩は幕末から明治初年にかけて大和国葛下郡高田村（幕領で現大和高田市）に国産会所を開設したが営業成績があがら

発行・地名	札 名 称	発行所・引替所	発行年次	額面（色）	サイズ	数量	番号	備 考
								ず廃藩置県で閉鎖したという（『大和紙幣図史』）。

対 馬 国

大 名 札								
府 中 * 宗氏 10万2800石	府中領肥前 田代銀札	肥前田代銀会所	文政11戊 子中春	銀 2 匁 預 (茶)	153×38	1	2603	* 別称対馬藩。明治 2 年嚴原藩と改称。肥前国飛地領は基肄郡・養父郡の内 1 万 1000 石余。代官所が置かれた田代は基肄郡のうち（現鳥栖市）。
	同 上	肥前田代産物会所		銀 2 匁 預 (赤)	154×42	8	2604	裏面に「御役所改」印押捺。
	同 上	同 上		銀 1 匁 預 (黄)	157×38	7	2605	同 上
	同 上	同 上		銀 5 分 預	148×37	3	2606	同 上
	同 上	同 上		銀 1 分 5 厘 預 (灰)	125×30	1	2607	同 上
	金 札	銀会所		金 1 歩 (桃)	110×45	2	2608	額面の下部に「元札引換」と印刷しあり。
	同 上	同 上		金 1 朱 (黄)	98×38	1	2609	

北 海 道

大 名 札								
福 山 松前氏 3 万石	金 札	松前会計局	明治 2 己 巳 (通用来 午年限)	金 2 分	145×49	2	2610	通称松前藩。明治 2 年 6 月版籍を奉還して館藩と改称。該札は改称以前か以後のものか不明。



史料館所蔵史料目録 第五十七集  
日本実業史博物館旧蔵古紙幣目録

---

平成4年3月31日印刷発行

編集者 国文学研究資料館  
発行者 史料館

〒142 東京都品川区豊町1-16-10  
電話 03-3785-7131 (代)

印刷所 睦美マイクロ株式会社  
〒135 東京都江東区木場6-12-5

---

# 日本実業史博物館旧蔵古紙幣目録解題

## 日本実業史博物館の設立計画とその推移

日本実業史博物館の設立計画と、その蒐集資料の概要については『史料館所蔵史料目録第11集』（「日本実業史博物館旧蔵資料目録」1965年3月刊）および『史料館叢書別巻1』（「明治開化期の錦絵」1989年3月刊）の解題において既述されているところである。

ここで重複の煩を厭わず略述すれば、日本実業史博物館の設立計画は、明治・大正・昭和の三代にわたって日本近代の指導的実業家であった青瀨洪沢栄一（1840～1931＝天保11～昭和6）の没後、その遺徳顕彰記念事業の一として企画された。

当初これを企画したのは、栄一との所縁の深い企業人の集団である財団法人竜門社<sup>(1)</sup>であったが、栄一の没後、栄一の伝記編纂のために組織された洪沢青瀨翁記念会（理事長郷誠之助）がこれに協力する形で発足したという。すなわち青瀨翁生誕百年記念事業として、栄一の晩年の住居であり、没後栄一の遺志によって竜門社に寄贈された東京王子飛鳥山の暖依村荘<sup>(2)</sup>の敷地内に博物館建設を予定し、その地鎮祭は1939年（昭和14）5月3日、当時の政財界の著名人を招いて挙行されたというから、その完成は翌年の生誕100年を目指していたと思われる。折しも満洲事変に始まった日中戦争のさ中という戦時経済態勢下、同年秋の建築資材の統制によって建設の着工は中止の止むなきに至った。さらに戦火の拡大は第二次世界大戦へと進行し、そして敗戦に至ったわけであるが、加えるに他の財閥同様、洪沢同族株式会社も持株会社に指定されたことによって、博物館の設立は断念せざるを得ない事態となったのであった。

ところで博物館設立のための準備作業として展示資料の蒐集は1932年（昭和7）以降、栄一の嫡孫で後継者であった洪沢敬三（1896～1963＝明治29～昭和38年）を中心として、土屋喬雄・樋畑雪湖がこれに加わって着手され、建設中止後も開館へ向けての努力は敗戦まで続行された。

当初、千代田区丸内の第一銀行本店内に設立準備室<sup>(3)</sup>を設け、蒐集資料もここに保管された。1942年（昭和17）洪沢敬三が第一銀行副頭取より日銀副総裁に転出し、翌43年第一銀行と三井銀行の合併による帝国銀行の創立によって蒐集資料の移転問題が起こり、小石川原町の阪谷芳郎邸<sup>(4)</sup>を洪沢敬三が購入して竜門社に寄贈、その管理運営を委ねるとともに、ここを実業史博物館の別館とし、蒐集資料の保管及び設立準備室としたのであった。

敗戦後、旧阪谷邸の博物館別館は幸いにも戦禍を免れ、蒐集資料は無事であったものの、財閥解体・竜門社資産の凍結・旧阪谷邸の占領軍による接収という事態に至って、博物館の設立はおろか、資料の保存も困難となったため、洪沢青瀨記念会と合併して改称した洪沢青瀨記念財団竜門社は1951年（昭和26）に、当時正式発足した文部省史料館<sup>(5)</sup>に蒐集資料の寄託を決定。同年中に旧阪谷邸からの資料の移管を完了。洪沢敬三が没する前年の62年（昭和37）9月、改めて寄贈の手続きがとられ、当館の所蔵に帰したものである。

## 実業史博物館の設立構想と蒐集資料

15年戦争のあおりを受けて遂に実現するに至らなかったが、その命名するところの「実業史博物館」が、どのような構想を持っていたかは明確には伝わらない。

若干のヒントとなると思われるのは、遡って1900年（明治33）栄一の還暦に際して、竜門社が編纂した『青洲先生六十年史』には「一名近世実業発達史」なる副題が付されていることに注目したい。栄一が生涯に関係した企業は500社以上に及んだというから、栄一の生涯そのものが近代の実業発達の歴史であると、栄一をとり巻く人々によって認識されていた証左とみられ、実業史博物館は、その延長線上での命名であったと推測される。

因みに「実業」なる語は、先進諸外国に伍していくために、後進国日本が殖産興業を合い言葉として、近代産業の発達に努力しつつあった<sup>(6)</sup>状態の明治に入ってからの新語の一種とみられ、まさにその中に身を置いた渋沢栄一の投影として、日本近代化の歩みの再現を意図したものではなかったか。

そのことは蒐集資料の年代範囲を栄一の生誕から没年までを目途とされたということからも窺えるのではないと思われる。

従って蒐集資料の大半は幕末から明治期のものが多いのが特色であるが、結果的には延宝期から昭和10年代にいたる資料が集積されたとされる（それは本目録に収録した古紙幣を含んだ故と思われる）。

その蒐集資料の内容を窺う材料として、当時の設立準備室が採用していた資料の保管のための分類項目を示すと下記の通りである。<sup>(7)</sup>

I 書籍 (1)風俗, (2)産業, (3)経済, (4)雑

II 図葉 (1)絵画, (2)地図, (3)統計, (4)雑

III 民具 (1)農業, (2)砵工業, (3)商業, (4)交通, (5)金融, (6)度量衡, (7)写真, (8)服飾, (9)雑

すなわち、大別して書籍・図葉・民具の3部門に分ち、各部門をさらに細分化したものである。なお、その一部を目録化した『史料館所蔵史料目録第11集』においては、(1)絵画の部、(2)地図の部、(3)番附の部、(4)竹森文庫、(5)商業器具、(6)文書の部、(7)書籍の部、(8)広告の部、(9)写真の部の9部門に編成替えをし、(1)～(4)までを収録している。

## 古紙幣コレクションの伝来について

実業史博物館の蒐集史料のうち、本目録に収録した藩札をはじめとする古紙幣コレクションの入手経緯については詳らかでない。

そもそも設立準備室は栄一が没した翌年から史料の収集に着手したとされているが、実質的には1937年（昭和12）以降ではなかったかと思われる。何故ならば当初実務を担当したとされる樋畑武夫氏（樋畑雪湖の末子）が1939年（昭和14）に後任の遠藤武氏に引継いだ購入品の明細書類は1937～39年の間のものであり、のちに遠藤武氏によって作成されたとみられる「購入品原簿巻」も1937年6月から始まっている。

準備室での資料の蒐集経過を示すこの「購入品原簿」によってみると、兎屋書房・甲州文庫（功力亀内）からの購入が群を抜いて多かったことが判る。このほか粹古堂・木内書店・一誠堂・十字屋書店・巖松堂などからの購入のことがみえ、資料の一点ごとの購入先と購入価格を知ることができる。にも拘わらず、遠藤氏着任以前に入手されたとされる古紙幣のコレクションに関しては皆目手掛りが得られない。しかも遠藤氏によって購入品の在庫調査が何回も行なわれた形跡が認められるにも拘わらず、故意か否か不明ながら古紙幣に関しては点検の対象の外に放置された観がある。<sup>(9)</sup>このことは通常の古書店からの購入とは入手経路を異にするものと推測するほかはないように思われる。

ところで、遠藤氏に引継がれて以来、今回整理に着手するまで、梱包されたまま手を加えられた形跡のない古紙幣のコレクションは凡そ2ブロックから成る。（一）は厚手のクラフト紙に包装された21箇分で、包みはほぼ地域別に仕分けされ、包紙の一隅に「美濃・信濃」「作州」「四国」など、紙札の枚数の多寡によって一國分或いは数カ国分が一括りにされて、中味が判明するよう墨書されている。その中には「敬泉堂集」の雅号が欄外に印刷された台紙（厚手のボール紙：タテ26.5センチ，ヨコ38.6センチで藩名・国名・領主名・領知高を記入する欄が印刷されてある）に同種のものが纏めて載せられ、台紙の下部にインデックスを貼付しており、いわばコレクターの整理の途上の形で入手されたもの。（二）は薄手のハترون紙（筋入）と新聞紙とで二重に包装された数個分で、中味は規画不同のあり合わせの厚紙を台紙とし、畿内大和から始まって対馬まで1～1091番まで番号付けをして絹糸で固定したものである。

したがって（一）は直接・間接かは定かでないが、元来は「敬泉堂」の雅号をもつコレクターの蒐集品であったことは略間違いないと思われる。なおこの「敬泉堂」に関しては、1895年（明治28）4月『東京古泉会集評泉譜第3集』に「敬泉堂隆村昌治」とみえるのが管見の限りでは唯一の所見であるが、同一人であるとの確証はない。<sup>(10)</sup>

（二）の入手に関しては憶測の域をでないが、岡山市のコレクター（乃至は古書店）からの購入かと推測され、入手に当たった樋畑武夫氏が整理された可能性が少なくないと思われる。<sup>(11)</sup>

以上、本目録に収録した古紙幣コレクションは2ブロックから成るコレクションを大宗とし、その後信文堂などの古書店から補充の意味で少量づつ追加購入されたものを含んでいる。

## 中世末から近世前期の通貨事情

幕藩制社会における中央政権徳川氏の権力基盤の経済的支柱の一として、全国貨幣の発行権の独占があったことは夙に指摘されている。そしてその最初の着手が1601年（慶長6）の金銀貨の発行であったことも周知の事実である。もっとも徳川政権が慶長金銀の発行を始めたことによって、全国通貨の統一が直ちに実現したわけではないことは勿論のことであって、幕藩制の前期においては地方的通貨としての領国貨幣が意外なほど広汎に通用されていたことは既に報告されている。

すなわち中世末から近世初頭にかけての通貨事情についてみれば、12世紀ごろから始まった渡唐銭と呼ばれる中国銭の流入が次第に増加し、13世紀の後半期にはこの銅貨の使用は全国的規模に及んだ

という。この銅貨は中国歴朝のものを含むが、北宋銭が最も多く、明銭がこれに次いだというが、種類も多く、これに国内の私鑄銭も加わって、室町期以後撰銭現象が生じたことは知られる通りである。

このような銭貨のほか、16世紀中頃から戦国大名らの金銀鉱山の開発による金銀の増産によって金銀塊の使用が広汎に始まっていた。それらの金銀は戦国大名にとって、主として軍用金・褒賞贈答用に使用され、荘園領主にとっては消費財購入の支払に用いられた。従って16世紀後半になると中央都市や道中の主要な宿駅・城下町などには、いわゆる金屋・銀屋と称する両替業者を生み出していった。彼らは領主から金銀両替の営業を特許されたものであって、その営業は金銀両替のみではなく、金銀の吹替・秤量・封包から判銀・極印銀の鑄造をも行なった、いわゆる銀匠としてあったという。<sup>12)</sup>

因みに領国貨幣と呼ばれる、そのような近世前期の地方的貨幣（主として銀貨）の存在は、慶長金銀の発行から約80年を経た1668年（寛文8）の段階で、京都銀座の座人狩野七郎右衛門の書上によれば、「灰吹遣之国々」として、津軽・会津・福島・米沢・秋田・新潟・村上・高田・佐渡・加能越・信濃・飛騨・但馬・石見・豊後・日向・対馬の国々が挙げられており、それらは戦国大名の系譜をひく外様大名が多かったこと、そしてその領国貨幣の消滅は、1669年（寛文9）の加賀藩の朱封銀の通用停止令にみられるように、寛文から元禄の間に行なわれたとされている。<sup>13)</sup>

以上みてきたように、慶長6年に始まった徳川政権による幣制の統一は一朝一夕で実現したわけではなく、庶民の日常通貨であった銭貨の普及も、1606年（慶長11）慶長通宝の発行・08年（慶長13）の永楽銭通用停止令、さらに元和通宝（元和3）の発行も行なわれたが、なお在来の永楽銭・洪武銭および各種の「新悪銭」の混用は続いており、銭貨統一の本格的な着手は1636年（寛永13）に始まった寛永通宝の発行であり、さらに寛文期の大増鑄によって、ほぼ完成したとされている。

## 前期の私札について

如上の中世末から近世前期の通貨事情にあって、紙幣としての紙札の発行がみられたのであった。

日本における紙札の始源は伊勢の山田羽書とされていることは、ほぼ定説のようである。その始まりは室町期まで遡るという伝承もあるが、現存の確実に年代の判明するのは元和以降とされる。すなわち江戸期に伊勢商人として多くの豪商を輩出した伊勢国は、中世から商業が発達し、伊勢参宮の盛行もあって、伊勢両宮の祈祷師であった御師の発行した山田羽書のほか、松坂羽書・射和羽書・鳥羽羽書などが、早い時期から取引に用いられたとされている。その発生は鏝銭に代表される善銭の不足と、鑄造技術の上から微小な極印銀が製作不能であった当時の通貨事情に負うものとされている。つまり取引に際して端銭処理のため、微小な銀目を紙券に書付けた預り証であって、正貨との引換えの要求があれば何時でも引替えることを約束した引替証でもあったのが、紙幣としての羽書に進化したとされる。<sup>14)</sup>

このような紙札は畿内でも発行され、その代表的な例としては、1617年（元和3）大坂の江戸堀川の開鑿に際して、大坂町人桔梗屋伍郎右衛門・紀伊国屋庄右衛門が発行した江戸堀河銀札と、1622～24年（元和8～9）の3カ年にわたって発行されたと推定される堺の木地屋庄右衛門発行の夕雲開銀

札がよく知られている。この夕雲開銀札は銀札発行人である木地屋と懇意な関係にあった幕府代官高西夕雲が行なった開発事業に際して発行したもので、江戸堀河銀札と同様、人足賃の支払いに用いられたと推測されており、短期間の発行に終わっている<sup>(15)</sup>。

このほか大和の寺内町として有名な今井町（現橿原市）の1634年（寛永11）の銀札発行が畿内に於ける早い事例として紹介されているが、ここでは摂津の平野郷町についてみてみよう。<sup>(16)</sup>

中世末に堺と共に自治制を有し、畿内綿業の中心地となった平野郷における銀札の発行は、作道洋太郎氏によって、寛永元年5月の「平野権現御造営奉加帳」に「平野札」の記載がみえることから、同地でそれ以前に紙札が創出されていたことを指摘されている<sup>(17)</sup>。このことは、後年札遣い停止の全国法令が出された1707年（宝永4）の10月9日付の平野郷の書上によって裏付けられる<sup>(18)</sup>。従来紹介されていない史料なので、以下に引用しておこう。

一平野郷町銀札之儀、百卅三年以前天正三亥年始り申、大坂御陣之時中絶仕、八十七年以前元和七西年中興仕候处、猥敷罷成候故、五十七年以前慶安四卯年平野御代官末吉孫左衛門様、地下年寄共<sup>5</sup>御断申上候て、札高百拾七貫目、但三貫匁<sup>5</sup>老貫五百目之札株ニ致、人数四拾四人札元を極、右銀札之質物ニ田畑屋舗地下年寄共へ取置、若札元滞義御座候得は質物地下年寄共へ引請相捌申答ニ相定、当地ハ不及申上、他領迄通用仕来候御事

一右銀札高百拾七貫匁、式割引ニ仕、正銀九拾三貫六百目ニて御座候故、老匁之銀札ハ正銀八分ニ通用致候御事

一右銀札之儀、先年大坂町御奉行石丸石見守様、平野御代官末吉勘兵衛様へ御尋被成候ニ付、地下年寄共へ大坂御奉行所え被召出、様子委細申上候上、石見守様江戸え御持参可被成由ニて銀札三枚被召上候、尤御地頭様、御代官様御替之節ハ毎度此銀札之御断申上候御事

として、当時の平野郷町の領主であった上野国高崎城主松平氏の陣屋があったと思われる六万寺村（河内郡）役所へ町年寄四名の連印で書上げている。

すなわち平野郷では銀札の創始を1575年（天正3）としているが確証はない。但し中絶後の再開を1621年（元和7）とすることは作道氏の検証からみて、ほぼ間違いのないと思われる。その後1651年（慶安4）の改正を経て、発行規模は総額で117貫目、札元は44人を定数としたというから、平均一人当たり2貫660目程の発行であったこと、札価は正銀の8割としたこと、田畑屋敷を抵当として町役元が預り銀札の信用維持に当たったことが知られ、その仕法は山田羽書に類似していたことが判明する。そして天領時の平野代官末吉勘兵衛の時（寛文－延宝期）、大坂町奉行石丸定次に町役人が呼出されて銀札について糺され、見本として差出した銀札が江戸表まで披露されたこと、領主・代官の交替の都度銀札遣いのことを届出していたというから、一応領主の追認を得ていたことが判る。なおこの平野郷銀札が他領にまで通用していたことに言及しているが、同時に近在の銀札発行状況についても、その創始は明らかでないとしながらも、久宝寺村・八尾村（共に現八尾市）の銀札は平野郷へも通用のこと、河州小山村（現藤井寺市）・河州友井村（現東大阪市）・摂津喜連村（現大阪市）の銀札は3年乃至7～8年以前から始まったが、平野郷内では通用しなかったと答申している。

このようにみても、近世前期の畿内の在郷町においては銀札の発行は可なり広汎にみられ、商業的農業の展開に重要な役割を果していたであろうことが窺われると共に、このような私札が公権力によって容認されていたことを知ることができる。

## 前期の藩札

江戸期における藩札の発行の嚆矢は福井藩の1661年（寛文元）とされている。前にみた通り幕府の全国貨幣統一の意図は慶長に始まり、地方貨幣であった領国貨幣の停廃乃至消滅はほぼ寛文から元禄の間にみられ、また寛文期の寛永通宝の増鑄によって一応の成果が挙げられたと推測されるのであるが、寛文元年の福井藩に始まる諸藩の藩札の発行は、宝永4年の札遣い停止令までに、知られる限りでは53藩に及んでいる（第1表参照）。中国地方の山陽・山陰が24藩と突出し、九州が7、畿内と南海道（紀州と四国）が各6、北陸が5、中部の東海・東山が各2とあって、関東以北は僅か会津と仙台の2藩のみというのが特色である。

ところで、このような諸藩の藩札の発行に対して当時の幕府が如何なる認識を持っていたかは意外に伝わらない。全国法令としての宝永4年の札遣い停止令は「金銀錢札遣之所々も有之候て、札遣無之处通用之ため不亘候条、向後札遣停止之事候間」とあって、布達から50日を限って停止を命じている。そしてそれは藩札に止まらず、私札（町村札）にも及ぼされたのである。この停止令は一般には元禄の悪鑄と云われる元禄―宝永の改鑄——それは特に銀貨の増鑄であった——に關聯づけて理解されている（当時の藩札の殆んどは銀札）。

ところで停止令から23年後の1730年（享保15）6月の解禁令では

前々より仕来候所ニて金銀錢札遣之儀、貳拾万石以上は廿五年、貳拾万石以下ハ拾五年之間たるへく候、年数満候ても猶又札遣仕度儀も候ハ、其節ニ至り御勘定奉行え可承合旨、可被致挨拶事とされている。これによってみると、宝永4年以前札遣いの所々に限って年限を設けてその通用を認め、年期明けの際継続については勘定所へ届出ることを義務づけているように理解される。

それでは宝永4年以前に発行された藩札は幕府の許可が必要であったかということは判然しない。福井藩の場合、諸書に幕府の許可を得て発行したとあるが<sup>(20)</sup> 挙証に乏しい。

福井藩に続いて1666年（寛文6）に藩札（判書）を発行した尾張藩の場合は所三男氏の研究によると、幕府への届出のことはなく、寛文8年藩札の発行が失敗に終って藩札の回収が行われた際、「発行に当たって幕府の許可を仰がなかった事情等に依り、判書決済資金としては借款が申込みなかった<sup>(21)</sup>」とされているが、「巖有院殿御実紀」の寛文8年正月11日の条には「尾張中納言光友卿家計窮困のよし聞えあげらるゝにより金十両恩貸せらる」と見え、この幕府からの恩貸金の一部が判書回収資金に充てられたであろうことが推測される。

上記2藩の事例を以って（特に親藩ということも考慮される）断定することは憚られるが、宝永4年の停止令以前にあっては、藩札の発行は幕閣の経何事項に含まれていなかったのではないかと想像される。<sup>(22)</sup>

第1表 1707年（宝永4）禁令以前の藩札発行状況

藩 名	初 発 年 次		藩 名	初 発 年 次	
(越前) 福 井	寛文元 (1661)		(大和) 柳 生	元禄10 (1697)	△
(美濃) 大 垣	3 (1663)	△	(伊予) 宇和島	11 (1698)	
(尾張) 名古屋	6 (1666)		(丹波) 柏 原	〃	
(播磨) 姫 路	10 (1670)	△	(美作) 津 山	13 (1700)	△
(但馬) 出 石	延宝2 (1674)	△	(摂津) 三 田	〃	
(和泉) 岸和田	4 (1676)	△	(備後) 福 山	14 (1701)	
(因幡) 鳥 取	〃		(加賀) 大聖寺	〃	△
(美作) 津 山	〃	△	(越中) 富 山	〃	
(肥前) 平 戸	5 (1677)		(岩代) 会 津	〃	
(摂津) 麻 田	〃		(播磨) 龍 野	〃	△
(長門) 萩	〃		(備中) 庭 瀬	〃	△
(周防) 岩 国	6 (1678)		(備中) 岡 田	15 (1702)	
(周防) 徳 山	〃	△	(土佐) 高 知	16 (1703)	
(備前) 岡 山	7 (1679)		(筑前) 福 岡	〃	△
(播磨) 赤 穂	8 (1680)		(備中) 松 山	〃	
(阿波) 徳 島	〃		(丹波) 笹 山	〃	△
(備後) 福 山	延宝年間 (1673～81)		(常陸) 水 戸	17 (1704)	
(但馬) 豊 岡	〃		(越前) 勝 山	元禄年間 (1688～1704)	
(出雲) 松 江	〃		(越前) 丸 岡	〃	△
(摂津) 尼 崎	〃		(但馬) 出 石	〃	
(豊前) 小 倉	〃	△	(筑前) 秋 月	〃	△
(紀伊) 和歌山	〃		(安芸) 広 島	宝永元 (1704)	
(筑後) 久留米	天和元 (1681)	△	(伊予) 松 山	〃	
(陸前) 仙 台	貞享3 (1686)		(肥後) 熊 本	〃	
(大和) 郡 山	元禄5 (1692)		(筑後) 柳 河	〃	△
(丹後) 田 辺	7 (1694)		(讃岐) 丸 亀	2 (1705)	
(石見) 浜 田	元禄7 (1694)				

日本銀行調査局編『図録日本の貨幣2』(P.245)より。

注 年次のあとに付した△印は、従来文献などに発行のことがみえるが、編者が「未見」としたものの。

## 後期の藩札

宝永4年の札遣い禁令が元禄―宝永の改鋳、特に宝永銀の大増鋳のさ中に行なわれたのを先にみた。この禁令が銀札遣いの諸藩にどのような影響なり後遺症を与えたかを検討する余裕はないが、享保15年の解禁令はどのよう意図を以ってなされたのであろうか。一片の幕府法令からは窺い知ることができないが、堂島の景況を観察しつつづけていた大坂の両替商草間直方は「諸侯方米価下直により取入銀も薄故、又金銀の作廻に差支難渋せらる。依之先年より金銀札遣ひ停止有之国々も今年より金銀融通のため札遣ひ免許せらる」との見解をとっている。

すなわち元禄―宝永の改鋳は品位の低い貨幣の増鋳であったから、著しい物価騰貴を惹き起こした



ことは知られている。次いで行なわれた正徳一享保の改鑄は前代の否定として現われ、品位を慶長の古制に復した収縮政策であったため、金融梗塞と米価の低落に結果し、領主階級の窮乏を増幅させた。<sup>23</sup>つまり解禁令は領主階級に対する救済策と観測されているのであった。

ともあれ、解禁後諸藩で発行された金銀銭札は、初発年次不明分を含めると200藩を超えたとされる。第2表は田谷博吉氏の整理によるもので、時期区分は初期を藩札の初発とされる福井藩の1661年（寛文元）から元禄改鑄の前年まで、中期は改鑄の始まった1695年（元禄8）から、幕府が新規の金銀銭札の発行を禁止した年の前年に当たる1758年（宝暦8）を目途として算出されている。

第2表 藩 札 発 行 状 況

	奥 羽	関 東	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	合 計
近 世 初 期 (寛文1～元禄7)	1		3	6	8	2	2	22
近 世 中 期 (元禄8～宝暦8)	3	3	5	17	8	7	8	51
近 世 後 末 期 (宝暦9～慶応3)	5	4	8	16	10	1	7	51
小 計	9	7	16	39	26	10	17	124
明 治 維 新 期	6	11	3	3			1	24
合 計	15	18	19	42	26	10	18	148
初 発 不 明 札	4	17	32	14	5	3	10	85

田谷博吉「近世日本の紙幣」（『阪南論集社会科学編』第25巻1～3号）より

すなわち1758年幕府は大目付への達として次のように觸出しを指令している。

金銀銭札遣之儀、宝永年中相止候以前に札遣致来候所々は勝手次第可仕旨、享保十五年相達候、其後新規之場所にも銀札遣願相済候も有之候得共、新規之分も段々相済候ては類例も多相成、後々差支之儀も可有之候間、前々より札遣致来候場所、并享保十五年以後新規に相願済候分は格別、右之外向後新規之場所札遣之儀は難成候間、可被得其意候

一金銭札遣之儀は、前々通用致来候分も向後願難成候事

但当時通用致来候分も向後願難成候事

右之通可被相觸候<sup>24</sup>

つまり藩札の濫発を厭って新規の札遣いの出願は許可しないことを宣告したわけであるが、それと同時に注目されるのは、従前許可した札遣いでも、金札、銭札は年期限内に限り、以後の通用を認めないとしたことである。

諸藩の紙札を銀札に限定しようとした幕府の意図は、これより4年以前の宝暦5年4月の勘定奉行への指令に表れている。すなわち同年の加賀藩の金銀札遣いの願に対し銀札のみに許可を与え、豊前中津藩に対しては前年許可した金銀札通用に関して年期限内の通用を認め、年期明け後の金札の通用は

認めないとしているのである。<sup>25</sup>

この金・銭札の通用を停止しようとした幕府の意図は、田沼期に特徴的にみられた幣制の変革にあったと、中井信彦氏は指摘されている。即ち宝暦5年・同9年の上記の指令から数年後の1765年（明和2）に発行された五匁銀、つづく1772年（安永元）の南鐐式朱銀の発行は金銀両貨幣間に存する相場の否定、金による貨幣の一元化が意図されたという。つまり従来秤量貨幣であった銀貨を五匁銀という小額定量貨幣の発行により、12枚を1両替、即ち銀60目金1両の公定比価への実現を目指したものであり、南鐐式朱銀は銀を材料とした実質は金貨であったという見解を打ち出されたのである。<sup>26</sup>

ともあれ、この時期の幕府の意図が貫徹しなかったであろうことは、田谷氏が表示された後期の藩札発行状況に具現されているように思われる。1774年（安永3）9月、銀札であっても中絶分については再発行を認めずとし、更に1798年（寛政10）には米札名儀の札遣いを制限しているが、実効性に乏しかったことは1836年（天保7）の次の觸書に要約されている。

銀札遣之儀、前々より札遣いたし来候場所并享保十五年以後、新規相願済候分は格別、右之外向後新規之場所札遣之儀難成、金銭札遣之儀は前々通用いたし来候分も向後願難成旨宝暦九年相觸、猶又前々銀札遣いたし候場所にても中絶之分は銀札遣難相成旨、安永三年相觸、米札遣之儀も前々仕来にて伺有之、引続年季等を以相済居候分は格別、譬古来右之例有之候共中絶之分札遣之儀難相成旨、寛政十年相觸候処、近年猥に相成願済之外領主地頭限り銀銭札等差出、又は米札酒札杯紛敷名目を以札遣いたし候場所も有之趣相聞、如何之事ニ候、前々相觸候通金銭札遣難成儀は勿論、銀札米札共願済之分は格別、其余札遣之儀は難相成事に付、心得違無之様可致候、若此上不束之儀相聞候は、<sup>27</sup>急度御沙汰可有之条、兼て其旨可存候

幕末に至って幕府の諸大名に対する紙札の取締りは有名無実の様相を呈しているように思われる。しかも幕府自身、倒壊寸前の1867年（慶応3）、関東において江戸横浜通用金札と江戸及関八州通用金札を、関西においては兵庫開港札を発行する羽目に陥ったのである。

因みに幕府が兵庫開港に際して、商社の取建と金札の発行を大坂の豪商20名に委ねることを建議した勘定奉行らは、諸藩における藩札発行の実情を評し「御国諸侯の楮幣は現在の実貨なくして貧困より起り、猥りに楮幣を行候間、引替之節差支候に付、上下是を信用致し不申、遂に同種同価之物といへ共、楮幣と実貨との相場格外懸隔に至り候儀に御座候」<sup>28</sup>と、引換準備金を伴わない藩札が領民に忌避され、札価の低落を招致していることを指摘しており、藩札発行の成功例が少なかったであろうことを示唆している。

ところで諸藩における藩札発行の契機は一樣ではないが、第一義的には領内所在の外貨である正貨を領主の手許に吸収する手段として発行されたのであり、その背景は勿論領主の財用不足の解決策であった。その意味では近世初頭から伊勢国や畿内で流通した私札とは明らかに次元を異にする。さらに発行の動機として、財用不足が根本原因ではあるが、藩士および領民の困窮救済を名目とするもの、国産専売の実施に際して買入れの手段として発行されたものが挙げられているが、田谷博吉氏によって力説されているのが、私札的藩札の存在である。該札は当初同氏によって「貸附利子取得型」と名

付けられていたように、藩当局が藩領の内外からの豪商と結んで、主として領民に貸付け、利子の取得を目的として発行されたもので、1823年（文政6）紀州和歌山藩が幕府に願って特許された松坂領の銀札がその代表的な事例とされる。<sup>29</sup>なおいわゆる飛地札と呼ばれる本領から遠く隔った地域での藩札の発行には、この種のものが多かったのではないかと推測される。

## 旗本札について

上引の天保7年の幕府法令の中で、藩札のほか旗本による銀錢札や米札などの発行に觸れられているが、その実態に関しては明らかではない。「紙幣整理始末」によれば「紙幣発行ノ藩ハ二百四十四、県（旧徳川氏直領）ハ拾四、旗下領ハ九ニシテ云々」とあるが、この数字は新政府に届出た分についての数字と思われ、脱漏が多いとみられ、本目録に収録した旗本札だけでも、近畿の37を初め、中国18、中部4、九州1で合計60家を数えている（後掲第3表参照）。これら旗本札の発行が幕府の公認を得たものであったか否かは不明であるが、概して大名家分知によって成立した旗本家が多いという印象が濃い。発行は知行所内の富農若しくは大庄屋などが当り、惣百姓請負の形式のものが大半を占めている。

いずれにしても大名領に比し、狭い領域での通用であり、正貨との混合通用が多かったとみられ、実質的に正貨との併用を認めなかった藩札に比し領民の拒否反応は薄かったのではないかと推測される。

なお、旗本札のうち、特異な事例として注目される三河の長沢松平氏の紙札について若干觸れておきたい。

三河国長沢（現音羽町）を居所とする松平氏は幕末に山城・大和・河内・和泉・摂津・志摩・近江・備中の9カ国に於て「享保十五庚戌穰初鎌」年紀の「長沢産物手形」「享保年中拝領銀子貸附手形」などの銀札を発行したことで知られており、三河国松平領と近畿諸地方における全国の商品流通の展開を背景とした銀札発行と評価される。この長沢松平氏に関しては、従来4,043名の交代寄合で、徳川一門という名門であったにも拘わらず、その所領が少なかったため、各地で手形を発行する特権が幕府から与えられていたと説明されている。ところが近時発表された小川恭一氏の「名族長沢松平家小史」<sup>33</sup>によると、この長沢松平家は徳川氏宗家の広忠より五代遯った信光の子とも弟ともされる親則を家祖とし（十八松平の一）宝飯郡長沢城に拠ったが、1590年（天正18）関東入国の際、九代康直は武蔵国深谷城を賜い1万石を領したが、1593年（文禄2）25才で没した。家康は慶長の初、五男忠輝に長沢松平の家名を襲がせ、のち越後高田60万石に封じたが、1616年（元和2）忠輝は伊勢国朝熊へ遠流となって無嗣絶家となったという。もっとも嫡流は途絶えたが、「寛政重修諸家譜」によると、九代康直が早逝したのち、康直の父康忠の養子直信が名跡を嗣いだことになっており、同人は病身の故を以って三河国御馬村に籠居していたが、その子昌興は任官を宿願し、幕府に家の譜牒を捧げて愁訴したが届かず、その子親孝が東照宮の御判物を三方にのせて西丸の大手前に捨てるという非常手段をとることによって、1722年（享保7）正月17日漸く筋目を認められ、三河國中根村御林のうち11町余

の芝地と造宅料として銀百枚を下賜されたという。翌年10月中根村の芝地住し難く、また先祖の住地をこうに任せて宝飯郡長沢村を賜り代々其地に住すとある。<sup>34)</sup>

小川氏によれば、享保7年長沢松平家の本家筋と認知され、親孝以降は定例参府・将軍代替の参府には献上物を呈し、帝鑑間において御目見の記事が家譜に列記されているが、「武鑑」にその名が見えるのは1856年（安政5）以降であったとされる。すなわち交代寄合に準ずる岩松満次郎の前に掲載されている。このことは昌興から五代後の忠敏が安政3年講武所の剣術教授に登用されたことに拠ると思われる。<sup>35)</sup>家譜によれば、此れより先「天保5年10月29日長沢村芝地開発不能無祿同様、難渋を訴え十人扶持の手当をくださる」とあり、「安政6年9月1日由緒につき家祿300俵下され小普請入」とあるから、講武所出仕によって漸く切米取となったのであり、慶応2年6月3日家筋により切米300俵を地方に直さる」とあって300石の知行取となった（『旧高旧領取調帳』には三河国宝飯郡長沢村の内、197石余が松平上総介知行と記載されている）。

以上によってみると、産物手形の享保15年初鑄は全く根拠がなく、また「享保年中拝領銀子貸附手形」は上述の享保7年の故事に因んだものと思われ、各地で発行された長沢札は松平家にとっては恐らく名儀料取得を目的とした「貸附利子取得型」の私札であったと推測される。「藤岡屋日記」には講武所に登用された松平源七郎伴松平主税助について、上述の由緒を掲げ「右源七郎伴主税助事、元松平帯刀、弘化二巳年頃江戸出府致し居候て長沢松平之家元故ニ、当時長沢松平ハ高壺割を取立候得ば二万三千石之大名ニ相成候間、右之目論見致し候との大評判ニて諸職人商人等御出入を願候者も有之、刀屋三好屋藤兵衛と云者、小柄筭目貫小柄筭二通り金之三ツ葵御紋、石黒政近に彫らせ、金四両二分懸り候を進物ニ差上候処、大名ニも小名ニもならず損毛致し候由、右之類外ニも有之候由」<sup>36)</sup>と世上の評判をとりあげ、欲に眼のくらんだ商人たちの思惑が画餅に帰したことを紹介している。上方以西の長沢札の発行を考える上で頗る示唆的であると思われる。

次に本目録で旗本ではないが知行所内での発行ということで、大和国の旗本札の最後に便宜配しておいた御能役者金春家について觸れておきたい。

徳川幕府の御抱能楽師の一であった金春家は家祖禅竹から6代目安照の時、1595年（文禄4）豊臣秀吉から大和国添上郡中川村（現奈良市）に300石、翌年7月高市郡坊城村（現橿原市）に200石、計500石の所領を与えられた。のち安照は次男で分家した金春八左衛門家に150石（坊城村の内）、三男で別家した大蔵庄左衛門家に50石（中川村の内）を分与した。この三家分の所領は徳川氏によって安堵されたが、江戸期の金春家は次第に流勢が傾き、江戸期最後の当主となった広成が分家から入って本家を嗣いだ翌年の1845年（弘化2）当時、本家と分家は事実上一体化していたが、両家分を合して借財が3000両を超し、その借財の一時凍結を奈良奉行所に願出たという。以後知行所からの収納は総て債権者の管理する金春勘定所に収められ、両家は生活費を勘定所から受取り、残りは借金の返済に当てるという財産管理の状態が幕末まで続いたという。幕末に発行された「金春札」はこのような困窮時代の窮余の方策であったであろうとされている。<sup>37)</sup>

## その他の紙札と目録編成

如上の藩札（大名札）・旗本札のほか、江戸時代に行なわれた紙札は、その発行主体から従来(1)寺社札、(2)宮家札、(3)町村札、(4)宿駅札、(5)鉾山札、(6)私人札に類別されており、本目録も概ねこれに準拠している。

ところで前期に伊勢国や畿内農村にみられた私札は、神領の故を以って特許された山田羽書を例外として、中期以後その殆んどが消滅したとされている。その検証は必ずしも充分ではないと思われるものの、現存する私札類は概ね化政期以降、特に幕末の発行にかかるものが大半を占めており、このような幣制の混乱は幕藩体制の崩壊を象徴しているように思われる。

(1)寺社札はその発行が京都・奈良など畿内の有名寺院に集中し、門跡寺院を含んでおり、(2)の宮家札との区別は曖昧であるが、概ね堂塔の再建・修復の財源を賄う名目で発行されたものが多い。その実態は明らかではないが、恐らく祠堂金（名目銀）類似の仕法が採られたのではなかろうかと推測される。因みに江戸増上寺の別当寺鑑蓮社は將軍綱吉の息女で紀州徳川綱教へ嫁した鶴姫の菩提寺で、本来武蔵国寺社札として配すべきであるが、鑑蓮寺札が紀州家よりの寄附金の御貸附銀手形の体裁をとっているため、便宜紀伊国寺社札に配してある。

(2)の宮家札は概ね所領産物を引当に発行されたと説明され、例えば閑院宮家の融通切手は同家の美作国の家領の領米等産物を担保とし、作州海内産物方を発行所、大坂蔵屋敷を引替所として発行されたとするが、<sup>38</sup>その実態は不明である。

(3)町村札は町村の役元・庄屋の発行にかかると明記されたものを目安に類別したが、城下・陣屋町における発行には、旗本札にみられるように領民の引請による藩札との区別が定かでないものを含み、又開発や土木工事等に際して数カ村が組合って発行した人足札や賃銭札なども発行主体が村レベルか個人レベルかの判別不明のものも少なくない。このことは(5)の鉾山札に関しても同様であって、一口に藩営鉾山といっても、鉾山内限り通用の賃銭札の発行に藩当局がどの程度関わっていたかなど、未解明な部分が多く残されている。

主として東海道の各宿駅で通用した(5)宿駅札は人足たちの通貨携帯の便宜と、旅人と人足間のトラブル回避のために発行されたとされ、紙札の中では識別し易いものではあるが、中には当初藩札として発行されたものが、後年宿駅札に転用されたとと思われるものを含む。

なお本目録には実業史博物館のコレクション以外に、当館所蔵の遠州榛原郡嶋村（現金谷町）山田家（庄屋）文書中に残された金谷宿と日坂宿の宿駅札を参考として収録した。該札は古泉家のコレクションとは異なり、当時の宿駅近在の農村にまで通用した証左として、相当量を束ねて銭額を記した付札が施されており、正貨との交換比率を知ることができる。



遠州金谷宿御伝馬所米・銭札  
(遠州榛原郡嶋村山田家文書より)

以上に類別した以外の個人レベルの紙札は私人札として町村別に配列した。中期以降の大坂において本両替を核として発達した信用制度の下で、為替手形・預り手形・振手形・振出手形など、現今の銀行類似の手形が盛行したことが知られるが、大坂以外の主として播磨・但馬・備中・丹波などに多くみられた私札の発行の実態は詳かでないが、権力を以って強制通用させられた藩札に比し、発行人の信用を背景に特定範囲内で抵抗なく流通したとされている。

なお富商・富農の発行した私札の中には富山藩や盛岡藩などのように、藩当局が金融梗塞の打開策或いは財政補填策として、上納銀相当額の私札の発行を公認・黙認したものもあり、これらは準藩札として藩札の後尾に配列した。

最後に従来慣用されている「藩札」という用語は明治以後の呼称であるという観点から、本目録の配列には「大名札」としたが、明治初年に発行された藩札については、別項を設ける煩を避け、大名札に含めて配列した。従って明治以後の藩札を本目録に収録した関係上、同時期の府県札も収録してある。

なお、最後に本目録に収録した古紙幣のうち、類別に未確定部分を含む町村札と、集計が困難な私人札のほか、府県札を除いた件数の内訳を第3表に示しておいた。

第3表 実業史博物館旧蔵古紙幣内訳（件数）

	奥 羽	関 東	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	合 計
大 名	9	21	32	40	33	12	20	167
旗 本			4	37	18		1	60
寺社・宮家			1	50	8		1	60
宿 駅		2	15	4	8			29
鉾 山	1			2	12	3		18
計	10	23	52	133	79	15	22	334

但し、町村札・私人札・府県札を除く。なお、関東の大名札の殆どは上方以西における飛地札である。

- 注(1) 竜門社の創設は明治9年4月で、当初は栄一の門下生の修養団体として発足したが、のち栄一の薫陶を受け銀行・会社・その他諸事業に関係従事するものの入社を認め、明治33年には社員の総数500人を超えるとある（『青淵先生六十年史』）。
- 注(2) 明治12年に建てられた栄一の別邸。
- 注(3) 渋沢栄一は第一銀行の創業者。渋沢敬三は当時同行副頭取。
- 注(4) 阪谷芳郎は栄一の女婿。
- 注(5) 文部省史料館の設立には渋沢敬三の力が非常に大きかったと云われ（神奈川大学日本常民文化研究所論集1『歴史と民俗1』337ページ）、設立後の1952～1963年の間、文部省史料館評議員を勤められた。
- 注(6) 東京堂出版『明治のこぼれ辞典』には「江戸時代まではジツゴウと読みく善悪の行為を意味する仏教語であった。明治時代にはジツギョウと読み、事業の意となる」とあり、内田魯庵の「実業といふ言葉は幾んど株式とシノニムになったから困ったものだよ」（『社会百面相』）なる文章を引用している。
- 注(7) 遠藤武氏が作成した昭和18年7月13日付の「博物館列品中不明品表」による。
- 注(8) 遠藤氏の記憶によれば、同氏は藩札類の購入にはタッチしていないとのことである。
- 注(9) 注(7)の「不明品表」中に、Ⅱ図葉(4)雑に藩札が挙げられているが、赤鉛筆で抹消した上、「藩札トシテ別ニアルモノラシ」と注記がしてある。
- 注(10) 原島陽一氏のご教示による。ただし、隆村昌治の名前だけで住所の表示がないことから同人が東京在住の可能性があるとのこと。なお憶測の域を出ないが、この「敬泉堂」のコレクションの入手に関しては、当時品川の戸越に在った銭幣館の旧職員で東洋貨幣協会会員の文久童山本右衛門が何らかの形で関与していたのではなかったかと思われるふしがある。すなわち準備室では昭和13年4月2日に山本右衛門から錠・鍵201箇を1,630円で購入しており、また昭和15年7月6日山本の蔵書だったと思われる雑誌『貨幣』創刊号より261号を兎屋書房から購入している。さらに溯って昭和13年6月11日、この山本の還暦祝賀会の参会者中に甲州文庫の功力亀内・兎屋書房の名前が見出される（『貨幣第232号』）ことなどから、山本右衛門と準備室とは当時浅からぬ接点が存したことが窺えるからである。
- 注(11) 「購入品原簿」の昭和13年12月28日の項に「岡山県<sup>5</sup>購入品、4,000円」とあり、うち樋畑武夫の出張旅費102円のほか「図4、9（括カ）、2891円20銭」とあるのが見出される。前にみたように藩札は図葉の雑(4)に分類されており、藩札類の購入とみて、ほぼ間違いないと思われる。また入手後、樋畑武夫がその整理に当たったと推測するのは、(二)のコレクションの包紙に用いられた新聞が昭和13年7月19日付の東京朝日新聞であること、更に購入品原簿の昭和15年5月8日の項に白木屋古書展で『日本古紙幣類纂』8冊を購入しているが、「土屋（喬雄カー引用者）氏ヨリ借用ノ本ヲ樋畑氏使ヒ古セシタメ取替ヘ土屋氏ヘ返却、樋畑氏ノ希望ニヨル」と注記されていることに拠る。
- 注(12) 以上の通貨事情は主として小葉田淳「中世から近世への貨幣」（『日本経済史の研究』）による。
- 注(13) 榎本宗次『近世領国貨幣研究序説』、中井信彦『幕藩社会と商品流通』
- 注(14) 田谷博吉「近世日本の紙幣」（阪南大学『阪南論集、社会科学編』第25巻第1～3号）
- 注(15) 朝尾直弘「木地屋銀札について」（『日本史研究』72号）
- 注(16) 大鎌淳正『大和紙幣図史』
- 注(17) 作道洋太郎「畿内における銀札流通の展開」（『三井金属修史論叢』第10号）
- 注(18) 享保15年平野郷町惣会所「覚帳」（杭全神社保管）
- 注(19) 宝永4年の札遣い停止令によって、平野郷の銀札も停禁となり、享保15年解禁令によって翌16年から銀札の発行使が再開されているが、大和国今井町の場合、宝永の札遣いの禁止が同町を衰退させた一因とされている（『大和紙幣図史』）
- 注(20) 荒木豊三郎氏は寛文元年の藩札発行に際し、幕府から給与された2万両を以って原資とし、4万両の銀札発行を計画した（「松平家藏越前福井藩札貼込屏風」『貨幣』第1号、昭和32年2月復刊号）と記述しているが、その典拠は明らかでない。幕府から恩貸金の事実があれば、「徳川実紀」にそのことが見えないのは不審である。なお「紙幣整理始末」には「抑モ此藩札ハ寛文年中越前福井藩主松平忠昌カ国用ノ不足ニ苦ミ、嘗テ旧幕府カ越前家ニ約シタル増封ヲ履行セサルヲ口実トシ、其許可ヲ得テ藩内ニ発行セルヲ嚆矢トス」（『明治前期財政経済史料集成』第11巻の一、P.186）としている。
- 注(21) 所三男「尾張藩の財政と藩札（一）」（『社会経済史学』5の四）

注(22) このことは筆者の印象的な所見に過ぎないが、享保15年の解禁令後に発行された藩札に、享保15年の年次を印刻する藩が少なくなかった事実は、この解禁令が宝永4年以前に遣いの藩を対象とするものとしての諸藩の対応であったと思われ、それは宝永4年以前の諸藩における藩札発行の実態を幕府が掌握していなかった証左ではないかと思われる。

注(23) 田谷博吉「前掲論文」。なお中井信彦氏は幕府の享保期の緊縮政策の一環として、大名領内の土木工事に關する幕府の負担軽減のために、一国一円又は20万石以上の大名領に対する幕府支出の打切り（『御觸書寛保集成』1356）に注目し、「それはこの時点で幕府の立場でみた、藩アウタルキーの成立し得る条件を示したものと解することができ、そのような条件をもつ領国所有者としての大名を、幕府の経済的保護のらち外に置くことによって、幕府自身の財政を守ろうとする意図をあらわにしていると解される（『宝暦一天明期の歴史的位置』『歴史学研究』299号）とされており、米価低落による領主層への救済策としての札遣い解禁と表裏の関係をみることができる。

注(24) 『日本財政経済史料』巻二、P.847

注(25) 同上。

注(26) 中井信彦『転換期幕藩制の研究』。なおこの五匁銀六十目通用を立案した勘定吟味役川井次郎兵衛は発令以前に諮問に応じた両替屋が、そのような五匁銀は流通性に乏しいとの理由で難色を示したのに対し「国ニより、紙ニ判を押、はかきと申、専通用之所も有之候、此儀ハ正銀ヲ以致候事故、猶以通用宜、格別之事ニ候」と反駁したという（中井信彦「五匁銀六十目通用令について」『史学』第36巻2・3号）幕府の経済官僚の紙札に対する認識の一端を窺わせるものとして興味深い。

注(27) 『御觸書天保集成』〔6018〕

注(28) 「開幣起源下」（『海舟全集下』P.601）

注(29) 田谷博吉「前掲稿」。なおこの和歌山藩の銀札に関しては、高野山寺領の伊都郡慈尊院村中橋家文書（史料館所蔵）中に中橋家が天保年中の飢饉の際、寺領窮民救済のため、高野山の用命で米の買付資金として和歌山に出向いて銀札を拝借し、高野寺領で通用させた事実がある。

注(30) 「紙幣整理始末」の数字と実際に発行旗本家数の落差は何を物語るのであろうか。明治に至って高直しによって立藩した旗本数というよりも、むしろ幕府の瓦解によって、新政府へ届出の能力を喪失していたと考えるべきか。

注(31) 作道洋太郎『日本貨幣金融史の研究』

注(32) 水原韻泉「長沢札に関する文書」（『貨幣』第118号）

注(33) 日本家系図学会『姓氏と家紋』第60号

注(34) 「有徳院殿御実紀」享保7年正月12日の條

注(35) 『近世庶民生活史料藤岡屋日記』第7巻（P.176）の「安政三丙辰年四月講武所規則覚書并出役名前」の中に「心形刀流、伊庭軍兵衛門人、三州住、源七郎伴松平祝之助」の名がみえる。

注(36) 同上、P.178～179

注(37) 金春家の記述は表章『能楽と奈良』。小山弘志先生のご教示による。なお大倉繁次郎談「伏見役当時の金春家」（池内信嘉『能楽盛衰記』下巻）によると、伏見戦争の折、敗走の幕府軍が入り込んだ奈良市中は大騒ぎとなり、金春会所は銀札の取付けにあって、狼藉の限りを盡され、銀札の回収に大変な苦勞をしたことが語られている。

注(38) 日本銀行調査局編『図録日本の貨幣』6、P.134～135。もっとも閑院宮家の所領は摂津国西成・島下両郡のうち凡そ1000石であり、『旧高旧領取調帳』に拠っても美作国内に同宮家領は見出せない。後考に俟ちたい。

## 付 記

本目録の作成は鶴岡実枝子が担当した。古紙幣の整理に当って紙札に印刷してある篆書体文字の解読は全面的に原島陽一氏のご援助の賜物である。また郡司勇夫氏（日本銀行金融研究所）にはご懇切なご指導を頂いたし、松村光希子氏（国立国会図書館）にはご多忙の中、種々情報のご提供を頂き、お手を煩わせた。さらに「透かし入り」の紙札の軟X線撮影に関しては増田勝彦氏（東京国立文化財研究所）のご高配を頂いた。付記して深謝の意を表したい。